

カワターカワナ

變に奔走して藩主を危殆に救ふ。擧げられて大學博士となる。後貴族院議員・文學博士・學士會員等に列し、明治二十九年宮中顧問官從三位に叙せられて歿した。

カワタレドキ(彼者誰時) 【國】曉のま

だ人の顔の判然しない時をいふ。

カワチ(河内) 【地】畿内の一國、畿内中部の内地に位する狭長の地域で、東は大和、南は紀伊、西は和泉、攝津、北は山城の間に介在する。東西四里十七町、南北十六里三十町、面積四三万七千七百餘坪。行政上大阪府の管轄に屬する。東は山岳起伏するが、西北は平坦で肥沃、産物として綿布・茶・麥・麥稈・眞田・金剛砂等産す。(オウサカフ参照)

カワチモメン(河内木綿) 【織】大阪府(河内)産の白木綿で地厚く堅牢なもので名高い。足袋表・腰袋等に用ひる。カワド(草紙) 獸草の粗いと精いのとを細長く腹合にした紙。又はそれを板に張附けたものもある。西洋剃刀・醫療器械等の様に防銹の目的で「ニッケル」を鍍した及物を砥ぐ時に用ひる。初め粗面にて磨ぎ、次に精面にかけるのである。

カワナカジマ(河中島) 【地】長野縣(信濃)に在る。戦時中、軍用飛行機に墜した。カワナカ(河内) 【地】長野縣(信濃)に在る。戦時中、軍用飛行機に墜した。

カワナカワナ

兩川の相會する處。武田信玄と土杉謙信の合戦地である。この戦は信濃の人、村上義清が信玄に攻められ、謙信に投じて報復を請ふに起つたものである。謙信乃ち天文一六年信濃に入りて信玄と戦ひ、その後連年交戦三回に及んだが勝敗決せなかつた。

カワナベキヨウサイ(河鍋曉齋) 【畫】明治の畫家。通稱は周三郎。初めは狸々狂齋と號した。下總古河の人である。七歳の時、歌川國芳の門に入り、後狩野派を學んだが更に鳥羽僧正の筆意に倣ひて狂畫を描いた。明治三年書畫會の席上、當世を諷するの畫を作り、投獄せられ居ること四月にして宥され改めて曉齋とした。明治二十二年歿。年五十九。

カワネバ(川粘) 川底に沈澱する粘土質、東京等にて荒壁の土にす。黒色なのは腐植質を含むに因る。これを知らぬは川村瑞軒の傳なりといふ。

カワノエマチ(川の江町) 【地】愛媛縣(伊豫)宇摩郡の町。近年東洋紡績會社工場設けられ、綿製品を出す。字城山に川の江城址がある。興國年間、尾義助の將士肥後、これに據り、細川頼春の兵を肥後、寛永十三年、一柳直隆、西條に對する。戦時中、軍用飛行機に墜した。

カワメバル 【動】ムツ科に屬する魚。體橢圓形にして稍長く、眼口共に大きく、體には櫛狀の鱗を被り、鱗は鋭く、易い、體は灰白色、腹部は銀白色を帯ぶ。我國各地の近海に産する。

カワモリマチ(河守町) 【地】京都府(丹波)加佐郡にある町。宮津町の南方。由良川畔に位し、豊岡街道の要驛。附近に豊受神祠・皇太神祠があつて元伊勢神宮といふ。人口二、一八五。

カワヤ(剛・團) 尿尿の排泄所。河屋の義にして河上に突出してこれを設けたのでこの名があるといふ。又かはやは家の中に設くべきものでなく屋外に作るべきものとして側家の義ともいふ。東方にあるを東司といひ、西方にあるを西淨といひ、南方に在るを登司、北方にあるを雪隠といふ。

カワヤナギ(水楊、河柳) 【植】楊柳科の水邊自生の落葉灌木。高さ一丈に達し、葉披針形鋸齒で互生する。春日、穗狀花序に花を著く、雌雄異株。

カワメカワヤ

カワメカワヤ

カワメカワヤ

カワメカワヤ

カワメカワヤ

カワメカワヤ

カワメカワヤ

カワメカワヤ

カワハカワ

にわた。字大門には菅公大宰府へ左遷の時上陸して松を植ゑたといふ舊蹟がある。人口六、四七三。

カワバオリ(革羽織) 革にて作つた羽織、今は出入職人等に着せるものなれ共、昔は美服として賞用された。

カワバタキヨクシヨウ(川端玉章) 【畫】圓山派の畫家。京都の人佐兵衛の長男。幼にして畫を中島來章に學び、圓山派に一機軸を加へて自ら一家をなし、最も山水・花鳥畫に巧であつた。明治六年宮内省御用繪掛を命ぜられ、二十一年皇居御杉戸の繪を畫いた。二十三年以來東京美術學校教授であつた。

カワハバ(河幅) 河の兩岸の水際より水面に沿うて河身に直角に測れる平水距離。單に河の兩岸間の水平距離はこれを河床幅といふ。

カワビラキ(川開) 【國】夏時東京隅田川兩國橋の上下流で花火を打揚ぐること。もと遊船客のため花火船を流したが、享保十八年始めて大花火、仕掛花火を揚げ、享保以後文化文政頃最隆盛を極め、今日に及んだ。舊曆五月二十八日を例としたが今は一定しないが大體新曆七月の下旬である。

カワラ(瓦) 【建】筒瓦を葺く耐火材料。粘着力の強い粘土を用ひ、先づ素地を作つて陰乾になし、窯中に積入れ、焼く。吸水の少ないのを可とし、多いのは凍害を受ける。我國では用明帝の元年、百濟から、瓦博士四人を獻じ、大化後土工司を置いて製瓦を掌らした。この語の起原については諸説があるが、印度語の「キヤハラ」から轉じたものであるといふ。現時京都及び三河産が有名である。數瓦、堅瓦、蠟羽瓦等の種類がある。

カワラケ(土器) 土器の一種。粘土に多少の砂を混じり、器物の形を作つて焼いたもので、釉薬を施さない。素焼と異るは原料の陶土より粗悪である。焙烙・神前に用ふる土器の類である。

カワラケツメイ(山扁豆) 【植】豆科の草本。田畔等に自生し、オムチャ又はコウボウチャともいふ。合歡木に似てクサネムより莖少しく剛し、夏期黄色五瓣の花を開く。莖葉を混じて茶の代用とすれば、消化不良を治し、胃弱に効がある。

カワラケナ(土器菜) 【植】紫草科の山野自生の雜草。高さ七八寸、葉倒卵形葉柄を有し互生し、莖葉共に細毛を密生する。春日、青色小形の五瓣花を

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワヘカワマ

川幕府の職役。通船の印を檢し、船税を收めた。番所を江戸本所の猿江・淺草橋場等に置いた。もと川船支配と稱へ、延享三年川船改役と改め、又川船奉行とも稱へた。

カワベガワ(川邊川) 岡山縣三大河の一。上流を松山川といひ、一名高梁川といふ。源は備中國阿哲郡の北境に發し、下流は二派に分れて海に入る。流程二十九里。

カワホネ(萍蓬草) 【植】睡蓮科の多年生草本。池沼・河流の淺水に自生する根莖

太く、葉は大きくして水面に浮び又水上に直立して水上に抽出す。花梗は太く黄色圓形の花を著く。

カワホリ(蝙蝠) 【動】翼翅類の動物。我國に産するものの中アブラムシは小形黒色。ヤマカバホリは前種に似て稍大形。ウサギガハホリは耳長大。キクガシナカハホリは鼻葉複雑。オホカハホリは大形赤褐色で、翼を張るときは四尺に達するものもある。

カワマキ(川俣) 【地】福島縣(常陸)に在る。戦時中、軍用飛行機に墜した。



萍蓬草

カワラコジキ(河原乞食) 【演】昔、俳優を賤めて呼びし稱。又河原者ともいふ、往時四條河原に劇場ありたる故にこの名がある。

カワラゴマ 【植】石竹科の山地に自生する宿根草。一名サツマニンジン。フシグロともいふ。莖の高さ二三尺、硬質で直立する。葉は披針形で對生、夏日、白色の花を稍輪生狀に出す。

カワラサイゴ(委陵菜) 【植】薔薇科の山野自生の雜草。葉大で羽狀複葉、小葉多數で羽狀に分裂する。夏の候黄色五瓣の花を開く。オヘビイチゴに類する。

カワラサギザ(河原崎座) 【演】江戸劇場の名。初代河原崎權之助が寛永八年江戸本橋町に興行したのが最初である。その後中絶して享保二十年に至り、森田座の代りとして、河原崎座を再興し、これを森田座の控座といつた。明治六年七代權之助更に江戸芝新堀に河原崎座を復興したが翌七年改名して市川團十郎となり、八世權之助に名義を襲ひ、次で新堀座と改稱した。

カワラサル(瓦猿) 土製の猿の像。名高いのは紀伊國熊野邊から産出するもの

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ

カワラ



カワラ

の紀州の瓦礫といふ。立像で桃の實を抱き持て居る。この猿を家内に安置すれば何事も替らざる」との意を

カワラジンヅヤ(高良神社)【地】福岡

カワラセシイ(瓦煎餅)【食】煎餅の一種。多く瓦状をなし又丸模様のなせるを以てこの名がある。小麦粉・白砂糖・鶏卵等を用ひて作る。

カワラタマチ(河原田町)【地】新潟縣(佐渡)佐渡郡の町。真野灣に臨む。相川町へ二里半。兩津町へ四里。慶長中徳川氏佐渡を直轄せるとき、一時金山奉行を置いた。人口二、〇七〇。

カワラナデシコ(河原撫子)【植】石竹科の山野自生の多年草。高さ一、二尺。葉は細長く尖り對生する。夏秋の候紅色五瓣の花を開く。縁邊絲狀に深裂する。又ナデシコともいふ。

カワラニンジン(青蒿・川原人参)【植】菊科の濕地に自生する草本。初め地につきて叢生し、その形ニンジンに似てゐる。梢上の葉は絲の如く、春日莖を抽くと三四尺、枝葉等に鮮黄色の油質を分泌する。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。



【とばらはん】

カワラ

カワラノイノ(河原院)【歴】京都六條坊門の南、萬里小路の東に在つた邸。左大臣源融の居城。その地加茂川に臨んで居る故河原院といふ。喜聞風流の粹を集め、毎月二十石宛の湖水を攝津難波の浦から汲入れて懸壺を設け、塵芥煙を見せたなどの豪奢を極めた。苑池の勝景は奥州松島の景色を模したもので、我國天然の名勝を造苑に模することはこの院を始めとする。

カワラバト(鴿)【動】鴿の一種。青原種ならんといふ。羽毛紫黑色で金屬光澤がある。腹は稍淡く、背の一部に白又は灰白の羽毛を交ふ。

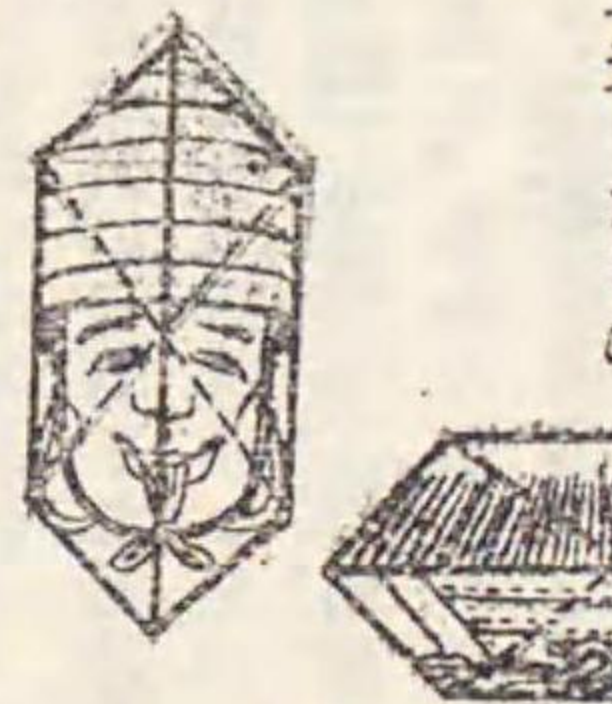
カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラ

も出来る故秘密の通知狀、燒跡方角附等の印刷に使用せられた。最も古いのは大阪落城の時の繪などある。カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。



【繪り替】

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カン

を見ない。即ち汀線下降して海水河谷を浸したのである。而して河灣は上流地方の貨物の吐口となりて、商港を發達するのが常である。その實例は、「エルベ」河の「ハンブルヒ」、「テムズ」河の「ロンドン」等である。

カン(寒)小寒・大寒を合せた前後三十日間の稱。陽曆一月五日頃に始まり、立春の日に終る。小寒の日を寒の入り、立春の日を終るを寒の明といふ。

カン(稈)【植】莖の一種。草本。莎草科の植物の如く、莖が中空であつて結節あるものをいふ。稈には柔かたで草本莖をなすものがある。稻・大小麥等の稈は草本莖である。又硬くして木質をなすものがある。即ち竹の稈はそれである。その他の禾本科植物の稈には、節部肥大で結節をなすものがある。この結節は葉鞘の基部肥厚したものでこれを鞘節といひ、稈の肥大して成れるを稈節といふ。

カン(漢)支那の朝。前漢は劉邦に始る。後漢は劉秀に始まる。西晉惠帝の時李特その弟と共に關中の流民を率ひて蜀に入り、子雄、太安二年自ら成都王と稱して遂に成皇帝と稱して自號の死するや李壽の子を擁して自立す。

カン(漢)支那の朝。前漢は劉邦に始る。後漢は劉秀に始まる。西晉惠帝の時李特その弟と共に關中の流民を率ひて蜀に入り、子雄、太安二年自ら成都王と稱して遂に成皇帝と稱して自號の死するや李壽の子を擁して自立す。

カン(漢)支那の朝。前漢は劉邦に始る。後漢は劉秀に始まる。西晉惠帝の時李特その弟と共に關中の流民を率ひて蜀に入り、子雄、太安二年自ら成都王と稱して遂に成皇帝と稱して自號の死するや李壽の子を擁して自立す。

カン(漢)支那の朝。前漢は劉邦に始る。後漢は劉秀に始まる。西晉惠帝の時李特その弟と共に關中の流民を率ひて蜀に入り、子雄、太安二年自ら成都王と稱して遂に成皇帝と稱して自號の死するや李壽の子を擁して自立す。

カン(漢)支那の朝。前漢は劉邦に始る。後漢は劉秀に始まる。西晉惠帝の時李特その弟と共に關中の流民を率ひて蜀に入り、子雄、太安二年自ら成都王と稱して遂に成皇帝と稱して自號の死するや李壽の子を擁して自立す。

カン(漢)支那の朝。前漢は劉邦に始る。後漢は劉秀に始まる。西晉惠帝の時李特その弟と共に關中の流民を率ひて蜀に入り、子雄、太安二年自ら成都王と稱して遂に成皇帝と稱して自號の死するや李壽の子を擁して自立す。

カン(漢)支那の朝。前漢は劉邦に始る。後漢は劉秀に始まる。西晉惠帝の時李特その弟と共に關中の流民を率ひて蜀に入り、子雄、太安二年自ら成都王と稱して遂に成皇帝と稱して自號の死するや李壽の子を擁して自立す。

カン(漢)支那の朝。前漢は劉邦に始る。後漢は劉秀に始まる。西晉惠帝の時李特その弟と共に關中の流民を率ひて蜀に入り、子雄、太安二年自ら成都王と稱して遂に成皇帝と稱して自號の死するや李壽の子を擁して自立す。

カン(漢)支那の朝。前漢は劉邦に始る。後漢は劉秀に始まる。西晉惠帝の時李特その弟と共に關中の流民を率ひて蜀に入り、子雄、太安二年自ら成都王と稱して遂に成皇帝と稱して自號の死するや李壽の子を擁して自立す。

カン

の紀州の瓦礫といふ。立像で桃の實を抱き持て居る。この猿を家内に安置すれば何事も替らざる」との意を

カワラジンヅヤ(高良神社)【地】福岡

カワラセシイ(瓦煎餅)【食】煎餅の一種。多く瓦状をなし又丸模様のなせるを以てこの名がある。小麦粉・白砂糖・鶏卵等を用ひて作る。

カワラタマチ(河原田町)【地】新潟縣(佐渡)佐渡郡の町。真野灣に臨む。相川町へ二里半。兩津町へ四里。慶長中徳川氏佐渡を直轄せるとき、一時金山奉行を置いた。人口二、〇七〇。

カワラナデシコ(河原撫子)【植】石竹科の山野自生の多年草。高さ一、二尺。葉は細長く尖り對生する。夏秋の候紅色五瓣の花を開く。縁邊絲狀に深裂する。又ナデシコともいふ。

カワラニンジン(青蒿・川原人参)【植】菊科の濕地に自生する草本。初め地につきて叢生し、その形ニンジンに似てゐる。梢上の葉は絲の如く、春日莖を抽くと三四尺、枝葉等に鮮黄色の油質を分泌する。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カン

カワラノイノ(河原院)【歴】京都六條坊門の南、萬里小路の東に在つた邸。左大臣源融の居城。その地加茂川に臨んで居る故河原院といふ。喜聞風流の粹を集め、毎月二十石宛の湖水を攝津難波の浦から汲入れて懸壺を設け、塵芥煙を見せたなどの豪奢を極めた。苑池の勝景は奥州松島の景色を模したもので、我國天然の名勝を造苑に模することはこの院を始めとする。

カワラバト(鴿)【動】鴿の一種。青原種ならんといふ。羽毛紫黑色で金屬光澤がある。腹は稍淡く、背の一部に白又は灰白の羽毛を交ふ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カワラハハコ(萩・川原母子)【植】菊科の河邊自生の多年生草本。又アラレヤシともいふ。莖高さ一尺許、白色を帯ぶ。葉は細長くして光り裏面に白毛を密生す。夏日、小形黄色の花を頭狀花序に結ぶ。

カン

も出来る故秘密の通知狀、燒跡方角附等の印刷に使用せられた。最も古いのは大阪落城の時の繪などある。カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。

カワラヒワ(河原鴉)【動】雀科に屬する小鳥。翼より稍大きく、頭と背とは鼠色で背に黒き斑がある。翼は青黒くして黄を交へ腹は白。多く水邊に群り飛び、鳴聲小なれど、朗かなれば人家にも飼はる。



カンエ

カンエイジ(寛永寺) 【地】東京上野公園内に在る天台宗の寺。東叡山と號し、元和元年僧天海の開創に係り、徳川將軍家の菩提所であつた。慶應四年兵燹に罹りて大伽藍悉く焼亡し、今假中堂を存するのみである。上野公園はその舊境内である。

カンエイノチ(寛永の治) 【歴】徳川三代將軍家光治世。寛永はその年號。家光、大いに幕府の權威を擴張し、又よ

く人を用ひ、名臣幕府に滿ちた。カンエツテンコ(簡閱點呼) 【軍】豫後備役の下士卒・歸休兵及び補充兵を參合せしめその一般狀態特に軍人精神・軍事教育保持の程度・軍事思想普及程度・健康狀態・服役上の義務履行の確否等を査閲するをいふ。師團長はその時期を聯隊區司令官に達し、部下將校に執行官を命ずる。聯隊區司令官は點呼區域及び點呼日割を定め、郡・市長及び執行官に通知する。又點呼令狀を作り、市・郡・町・村長を経て本人に交付す。本人は指定日時を點呼場に赴き執行官に届出でる。

カンエン(岩鹽) [Rock salt] 【礦】岩鹽は通常六面體の結晶で純粋なものは

を融解し、年代は四千年に及び、書籍に載せられてゐる。而して數々各時代に就て詩文の總集がある。文選古

文實寶、漢魏六朝百三名家歌集、唐詩選、唐宋文、等はその例である。その體裁は象形文字の配列に成り、措辭歐文のやうである。日本に於てはこれを逆讀し且訓讀する。その特質は實際的、形式的、主觀的、美術的、政治的、擬古的、誇張的、悲壯的、嚴肅的等、又異邦文學の影響を蒙らざること大なる一特色である。日本には上古既に輸入せられて非常なる勢力を有し、著しい發達を遂げると共に國文學を鼓舞したことも亦尠なくない。

カンガク(感覺) [Sensation, Empfindung] 【教】心意現象の最も簡單な要素で、外部の刺激を五官を通じて腦に感ずることによつて起る精神現象。聽覺・視覺・味覺・嗅覺・觸覺の如きは皆この中に含まれてゐる。

カンガク(漢學) 【漢】又支那文學ともいふ。上古は堯・舜時代から今に至る迄支那の本土に行はれた文學の稱。書經・詩經・易經を三大古典として經書・史傳・子類・論策・序記・辭賦詩歌・戲曲・小説・隨筆・語録及び辭典等

カンカク(感覺) 【生】カンカンに同じ。其條を見よ。

カンカクテキビヨウシヤ(感覺的描寫) 【文】感覺を主として描寫する手法。然し文學上の慣例としては殊に觸覺・嗅覺又は味覺などの方面を忠實に描寫する場合をいふ。

カンカク(感覺論) 【教】一切の智識は感覺から來る。思惟は感覺の變形であるとの認識論上の見解である。その代表者は、コンク、コンナイ

カンカク(感覺論) 【醫】痒疹の原因は恐らくは遺傳で、大抵四肢の伸側面背部及び腹部に出来る痒疹甚だしい慢性の皮膚病で、幼時に病つて壯年に至れば自然消失する事が多いのである。療法としては生石灰二十五瓦と硫酸五十瓦に蒸留水五百瓦を加へて煮沸して全量を三百瓦に作る。所謂「フレミング」氏溶液を加へた湯で全身浴を行ひ、浴後に皮膚を拭つた後で三%「ベタナフトール」溶液を塗擦するのであるが中々癒りにくい、光線療法も有効である。

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカ

カンカ

カンカ

カンカ

カンオ

て往々褐色・赤色・黄色・灰色などを呈する。潮解性があつて鹽化「マグネシウム」・鹽化「カルシウム」・鹽化「カリウム」などを混すること多く石膏や硬石膏を混することもある。獨逸「サクソニヤ」の「スタスフルト」の岩鹽は最も名高くこの他英・米・埃等にも産するが我國には未だ發見せられない。

カンオウコイル(感應) [Induction coil] 【物】ユウドウセンリンに同じ。その條を見よ。

カンオウデンリユウ(感應電流) [Induced current] 【物】コイル内に磁場の變化のある間「コイル」をある導線に動力を誘發して電流を生ずるをいふ。この場合感應動力の強さは磁場の變化が急である程又「コイル」の巻き數が多い程強い。又其方向は磁場の變化を防げる様の方向である。

カンオン(漢音) 【漢】漢字の音の一種。隋・唐以前の支那北方の音を傳へたもの。その南方から傳へたものを吳音といふ。行・京・平・和・外等の音をカウ・ケイ・ヘイ・クワ・グワイと呼ぶは漢音。ギャウ・キヤウ・ピヤウ・ワウと呼ぶは吳音である。佛經は吳音

カンオン(觀音) 【地】神奈川縣(相模)三浦郡浦賀町大字鴨居の東端浦賀海峽を隔て、上總の磯根岬と相對してゐる。この地には砲臺及び燈臺があつて東西から東京灣口を扼守してゐる。

カンカ(乾果) 凡て果皮の乾燥した果實。閉果と裂果との二種がある。前者は熟後裂開せずそのまゝ脱落するもの、後者は熟後裂開して種子を散布するもの。

カンカ(干戈) 【漢】楯と戈のこと。即ち兵器である。又戰をもいふ。

カンカ(眼窩) 顔面の上部にある稍下方錐形の腔洞。その底は方形で前方顔面に位し、尖端は圓形をなして、腔に對し、視神經孔を存してゐる。前頭・上顎・額・蝶・篩・涙及口蓋の七骨で腔内に視器を抱藏してゐる。

カンカイ(灌漑) 【農】耕地に水を送りて全面に配布すること。普通は湖沼・河流の水を引き入るゝを直しとし、井水又は山より湧き出る清水の如きは不可である。我國では主として稻田に灌漑し、畑には稀れである。

カンカイ(顔回) 孔門十哲の一。孔席四倍の一。字は子淵。無繻の子。魯の人。顔淵の事。顔淵は孔子の弟子。魯の

カンカク(感覺の強度) [Intensity] 【教】強度即ち分量は、刺激の大小に應じて異つてゐる。而して感覺と刺激との關係に「ウェーバー」の法則がよく説明してゐる。

カンカク(感覺の調子) [Tone] 【教】感覺に伴つて生ずる快・不快或は苦樂の感是であつて、心理學者はこれを感覺の主觀的要素、即ち情的要素といふ。

カンカク(感覺の内容) [Content] 【教】内容即ち性質は、刺激の特異な性質に應じて特異なる感覺神經が興奮するによつて起る。例へば色彩・光澤・温度・感觸・器聲・人聲及び天籟の様に、一々數へられぬほどある。併し外物自體の性質ではない。

カンカク(感覺論) 【教】一切の智識は感覺から來る。思惟は感覺の變形であるとの認識論上の見解である。その代表者は、コンク、コンナイ

カンカク(感覺論) 【醫】痒疹の原因は恐らくは遺傳で、大抵四肢の伸側面背部及び腹部に出来る痒疹甚だしい慢性の皮膚病で、幼時に病つて壯年に至れば自然消失する事が多いのである。療法としては生石灰二十五瓦と硫酸五十瓦に蒸留水五百瓦を加へて煮沸して全量を三百瓦に作る。所謂「フレミング」氏溶液を加へた湯で全身浴を行ひ、浴後に皮膚を拭つた後で三%「ベタナフトール」溶液を塗擦するのであるが中々癒りにくい、光線療法も有効である。

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンオ

カンオ(觀音) 【地】神奈川縣(相模)三浦郡浦賀町大字鴨居の東端浦賀海峽を隔て、上總の磯根岬と相對してゐる。この地には砲臺及び燈臺があつて東西から東京灣口を扼守してゐる。

カンカ(乾果) 凡て果皮の乾燥した果實。閉果と裂果との二種がある。前者は熟後裂開せずそのまゝ脱落するもの、後者は熟後裂開して種子を散布するもの。

カンカ(干戈) 【漢】楯と戈のこと。即ち兵器である。又戰をもいふ。

カンカ(眼窩) 顔面の上部にある稍下方錐形の腔洞。その底は方形で前方顔面に位し、尖端は圓形をなして、腔に對し、視神經孔を存してゐる。前頭・上顎・額・蝶・篩・涙及口蓋の七骨で腔内に視器を抱藏してゐる。

カンカイ(灌漑) 【農】耕地に水を送りて全面に配布すること。普通は湖沼・河流の水を引き入るゝを直しとし、井水又は山より湧き出る清水の如きは不可である。我國では主として稻田に灌漑し、畑には稀れである。

カンカイ(顔回) 孔門十哲の一。孔席四倍の一。字は子淵。無繻の子。魯の人。顔淵の事。顔淵は孔子の弟子。魯の

カンカク(感覺の強度) [Intensity] 【教】強度即ち分量は、刺激の大小に應じて異つてゐる。而して感覺と刺激との關係に「ウェーバー」の法則がよく説明してゐる。

カンカク(感覺の調子) [Tone] 【教】感覺に伴つて生ずる快・不快或は苦樂の感是であつて、心理學者はこれを感覺の主觀的要素、即ち情的要素といふ。

カンカク(感覺の内容) [Content] 【教】内容即ち性質は、刺激の特異な性質に應じて特異なる感覺神經が興奮するによつて起る。例へば色彩・光澤・温度・感觸・器聲・人聲及び天籟の様に、一々數へられぬほどある。併し外物自體の性質ではない。

カンカク(感覺論) 【教】一切の智識は感覺から來る。思惟は感覺の變形であるとの認識論上の見解である。その代表者は、コンク、コンナイ

カンカク(感覺論) 【醫】痒疹の原因は恐らくは遺傳で、大抵四肢の伸側面背部及び腹部に出来る痒疹甚だしい慢性の皮膚病で、幼時に病つて壯年に至れば自然消失する事が多いのである。療法としては生石灰二十五瓦と硫酸五十瓦に蒸留水五百瓦を加へて煮沸して全量を三百瓦に作る。所謂「フレミング」氏溶液を加へた湯で全身浴を行ひ、浴後に皮膚を拭つた後で三%「ベタナフトール」溶液を塗擦するのであるが中々癒りにくい、光線療法も有効である。

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカ

カンカク(感覺論) 【教】一切の智識は感覺から來る。思惟は感覺の變形であるとの認識論上の見解である。その代表者は、コンク、コンナイ

カンカク(感覺論) 【醫】痒疹の原因は恐らくは遺傳で、大抵四肢の伸側面背部及び腹部に出来る痒疹甚だしい慢性の皮膚病で、幼時に病つて壯年に至れば自然消失する事が多いのである。療法としては生石灰二十五瓦と硫酸五十瓦に蒸留水五百瓦を加へて煮沸して全量を三百瓦に作る。所謂「フレミング」氏溶液を加へた湯で全身浴を行ひ、浴後に皮膚を拭つた後で三%「ベタナフトール」溶液を塗擦するのであるが中々癒りにくい、光線療法も有効である。

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又

カンカク(感覺事業) 先天的又



カンカ

は慣習的に犯罪若くは不良行為に傾き易き者を教育或は懲治によりて匡正する事業。狭き意義にては特に不良少年を感化する事業をいふ。カンカホウ参照。

カンカセキ(頑火石) [Enaticite] 【礦】斜方輝石の一種。一化鐵の含量は百分の五以下であつて、その薄片は無色で多色性を現はさない。そして輝石に普通な柱の面に平行な劈開の外に軸面に平行でしかも多少明瞭な劈開がある。

カンカホウ(感化法) 【法】明治三十三年法律第七三號を以て發布せられたる法。感化法によると感化院には左記各號の一に該當するものを入院せしめる。一、満八歳以上十八歳未満のものにして、不良行為を爲し又は不良行為を爲すの虞あり、且適當に親権を行ふものなく、地方長官に於て入院を必要と認めたるもの。二、十八歳未満のものにして、親権者又は後見人より入院を出願し、地方長官に於てその必要を認めたる者。三、裁判所の許可を経て、懲戒場に入るべきもの。右第三類に該當するもの、外、入院者の在院期間は満二十歳を超へない。

カンカ

カンガルー 【動】哺乳動物の一種。體長四、五尺。容貌鼠に似て居る。



【一ルガシカ】

長大、尾も亦強く太い。前肢は短く移動は後肢と尾にて跳躍する。牝は腹部に皮囊を具へ、これに乳兒を入れて哺育する。オーストリア及びニュージーランドの原野に産する。

カンカン(看貫) 【商】生絲賣込商が外國商館に生絲を賣込んだ時その量目を稱するに用いふ。カンカン(宦官) 支那宮中に供奉する小吏。もと宮刑によりて去勢された國人國內に多かつたのを、後漢の初め用ひて宮中の使命に供し、群臣を監視せしめしに始り、後世その増加と共に内廷に一種の勢力を有し、終つて外廷に男兒を去勢して宦官を養成するに至る。

カンカン(感官) [Sense, Stim] 【生覺】官又は感覺機關ともいふ。刺戟を感受する器官。例へば目・耳・鼻・口及び皮膚等である。カンカン(官官) 支那宮中に供奉する小吏。もと宮刑によりて去勢された國人國內に多かつたのを、後漢の初め用ひて宮中の使命に供し、群臣を監視せしめしに始り、後世その増加と共に内廷に一種の勢力を有し、終つて外廷に男兒を去勢して宦官を養成するに至る。

カンカ-カンキ

害が起つた位であつた。小兒から養成したのは長じて鬚髯を生せず、聲色共に艶美で全く男子の資格を喪失するといふ。

カンガン(雁眼) 【人相】瞳黒くして漆の如く上下の波紋二様に長き眼、貴相にしてよき兄弟を有すといふ。

カンカンイシ(かんかん石) [Sankite] 【礦】漆黒色緻密なる安山岩。讃岐岩の別名がある。鐵槌で打てば朗かなる音を發する。

カンカンシキ(觀艦式) 天皇が海軍を親閱あらせらるゝ爲、軍艦・水雷艇等一處に集合する事。御召艦通過の時各艦禮砲を發し天皇禮式を行ふ。

カンカンバカリ(かんかん秤) 【物】ダイバカリと同じ。カンキ(官妓) 朝鮮の官廳に仕へる侍女のこと。一に「キイサン」といつてゐる。今は一般の宴席にも出るやうになつた。

カンキエイ(動) 軟骨類に屬する魚。體は菱形をなして扁く、吻端尖り背面の中央に二個左右の棘がある。背鰭は三、四棘を有し、尾鰭は一列の棘がある。



【ひえざんが】

カンキ

あり長さ三尺許、カスベともいふ。カンキグルマ(雁木車) 【機】積込荷物の上げ下げに使用する器械。木の横面を扶け抜き、中に車を嵌め込み、これに細引繩を通じ、高い所に吊り置き、荷物を上下するのである。

カンキユウジ(觀音光寺) 【地】時宗六條派の本山。古名は善導寺といふ。京都下京區新京極にある。正應四年僧聖戒開基、もと綴喜郡八幡莊に建立、後六條河原院の舊跡に移つて六條道場と稱へ、又紫台山觀音光寺と改稱した。元正中現地に移る。本尊は阿彌陀如来。

カンキタイフ(諫談大夫) 【歴】支那の官名。天子を諫諍するを職とした。秦始皇帝の時、論議を掌るものとして諫大夫を置かれたるに起原する。

カンキチク(寒忌竹) 【植】麥科の觀賞用多年生草本。莖は著しく異形で、節は明瞭の竹程状をなし、數回分枝して二三尺の高さに達する。又葉を有せず。莖の葉縁を以て同化作用を營む。形状は稍トクサに似てる。夏日節々に淡紅綠色の小花を簇生する。カンキツルイ(柑橘類) 【果】密柑・橙・柚の如き果樹。酸して温酸なる地方に産する。

低利である。その代りこれを積貯する際抽籤を以て割増金附與することにしてある。

カンキョウドウ(威鏡道) 【地】朝鮮の東北部の地方。今南北二道に分る。西は平安南北兩道、西南隅は黄海道、南は江原道に接し、東は日本海に臨み、北は滿洲、東北の一隅はシベリヤに連る。面積南道は二、〇七三平方里、北道は一、三一九平方里、人口南道は一、二三八千人、北道五三〇千人。地勢西部には狼林山脈南北に走り、妙香山脈の餘派西南から來り、本道を貫いて東北端に達し以て分水界をなす。北部には長白山脈に屬する白頭山屹立し朝鮮第一の高峯である。河川の主なものは北斜面にある。南道の水は鴨綠江となり、北道の水は豆満江となり、一は黄海に、一は日本海に注ぐ。海岸は南端に東朝鮮灣あり、更に永興の支灣をなし内に元山港がある。その他、城津・清津・雄基等の小港がある。氣候は冬季寒氣甚しく、夏季は酷暑を覺える。産物は少いが麥・粟・大豆・麻・煙草等を出し牛の飼養は到る處盛である。植林は豆満・鴨綠江等の水源地に落葉松・樺・朝鮮柏・白楊等の繁茂頗る盛である。礦物

に、山を負ひ南に面し排水可良なる隙土に柑橘園を設くるをよしとする。著殖は専ら接木により砧木として枳殼・柚・柑橙等を用ふ。接木後六七年目より結實を初める。冬季寒冷なる地では桑又は荑で寒傷を豫防することが必要である。カンキテン(歡喜天) 【佛】梵名に毘那耶迦。象鼻と譯する。もと常隨魔と稱し、絶えず人の虚を覗ふ惡鬼神であつたが、後佛の教化に逢ひ佛法守護の天神となる。その像種々あれど、凡て象頭人身。又大聖歡喜天・聖天等の像である。カンキホウ(換氣法) 室内空氣は皮膚及び水蒸氣、有毒なる有機質を含んだ塵埃・燈火・燃火より發する瓦斯等で汚濁するものなれば、時々窓戸を開放し、又は特別の裝置を設けて外氣と交換するを要する。カンキユウ(轉休) 支那唐の宰相。京兆長安の人である。賢良に擧げられ、禮部侍郎となり、尋いで相となつた。屢々帝を諫言した、後太子少師となりて歿した。カンキユウ(眼珠) 【生】ノの條を見よ。カンキユウ(岩球) 【地】「シエール」等

の岩石中に在つて多少圓形ある物質塊球ともいふ。泥灰質・酸化鐵質・黄鐵礦質等がある。時として中心に化石を含む。大小種々では扁平となり、或は相合して薄層狀をなすことがあふ。カンキユウシヤ(緩急車) 【鐵】車輛を仕切つて一部分に手用制動機或は貫通制動機を働かせる裝置を設けた車のこと。常に普通列車の兩端に連絡し、車掌は運轉上必要な器具を携帶してこれに乘務してゐる。カンキユウドウキ(眼珠運動器) 【生】眼珠の運動を司る筋肉の總稱。上眼瞼筋は上眼瞼を舉上し、上直筋は眼を上内轉し、外直筋は眼球を下内轉し、上斜筋は眼球を下外轉し、下斜筋はこれを上外轉する。カンキユウケツマク(眼珠結膜) 【生】眼瞼の裏面と眼珠の前周囲面とを包被した膜、眼瞼結膜及び眼球結膜の二に分つ。内眥部半月狀襞の内側に涙窩と稱する小窩がある。窩中の小隆起を涙阜、上下眼瞼内側の小孔を涙點といふ。カンキユウジユウトウ(干牛充棟) 【漢】藏書の多いことのとへである。柳宗元の文「陸文通之書、處則充棟、出

則許牛から出たものである。カンキョウ(艦橋) 【軍】軍艦内に指揮號令する一段高い所。普通二個ある。前艦橋・後艦橋と稱する。軍艦では陛下が常に此に在つて指揮せらるゝものと想定し、乗組員は此に登る毎に敬禮する例となつて居る。カンキョウ(環境) [Milieu] 外界又は周圍のことである。カンキョウキン(勸業銀行) 農工業者に資金を供給する銀行。農工業は概ね資本の回收を永遠に期するが故に、期限の短期を必要とする普通商業銀行より資金供給を仰ぐこと難く、隨つて農工業の發達十分でない虞れがある。これ長期の資金を供給する勸業銀行の必要な所以である。但長期の貸付は銀行のためには不利益であるが故に、この種の銀行は農工業獎勵の目的を以て政府これを保護し、或はこれに或る種の特典を與ふことが多い。カンキョウサイケン(勸業債券) 日本勸業銀行から發行する無記名利札附債券をいふ。これを發行して得た資金は長期の貸附資本に用ふるが故にその償却期限は三〇・四〇或は五〇年の長い間であるから利率も比較上

カンキ 五八一



カンケ

は甲山の銅の外著しいものがない。水産物には明大魚・鯨・鯨・海參等を産する。交通は南部北部に鐵道の開通あれど尚不便を免れない。主なる都會には南道に元山・咸興・北道に羅南・鏡城・會寧等がある。



桿

カンキン(桿菌)【植】細菌の一種。幅狭く長徑なる桿狀の細菌をいふ。細菌中最も廣く存在するもので、病原をなすものに「チブス」菌・赤痢菌・「デフテリヤ」菌等があり、病原をなさざるものは腸内に存在して消化を助け、水中・土壌中に存するものは腐敗の原因となつて肥料の分解をなし農業上必要なもの。

カンキン(感吟)【俳】俳諧點式の一。また秀逸ともいふ。巻中の秀なるものをいふ。

カンキン(眼筋)【生】眼球を動かす筋。内外上下の四直筋と下斜筋及び滑車筋の六筋からなつてゐる。

カンキンザイ(監禁罪)【法】人を或場所にて拘束して自由の行動の出来ない様にする事。懲戒的處分として法律の定むるものあれど不法の監禁は犯罪である。二月以上七年以下の懲役

眼瞼破裂といつて、その内層を内眥・外眥を外眥、上下の遊離縁に列生する硬毛を睫毛といふ。外皮・筋層・軟骨・腺及び結膜から構成されてゐる。カンゲンエン(還元燐)【Radning Flamine】【化】燐の外圍空氣に觸れた部分より少しく内に入りたる部分。この部は温度も相當に高いが周圍の空氣と十分に接觸しないから燃焼が未だ完全で無い。この部分に他の酸化物物質を入ると酸素を奪はれて還元される。それ故に還元燐と稱する。吹管分析等に用ひられる。

カンケンエン(眼瞼縁炎)【醫】多くは春機發動機後に腺病或は不潔から起る眼病。乾燥性のもとの濕潤性のもとのがある。前者は睫毛の根部に灰白色無数の小鱗屑を生じ、後者は又顔面の濕疹に伴つて起るもので、眼瞼縁が痂皮で被はれて上皮は欲けて居る。是を放置すれば睫毛は脱げ落ちる。療法は何れも先づ油を塗つてその鱗屑や痂皮を拭き去つた後で、乾性には硼酸・白降汞又は赤降汞等の軟膏を塗り、濕性には硝酸銀溶液を塗布する。

カンケンキ(乾癩器)【農】癩質を傷つけぬやう藁の水分を發散させるため

カンケ

カンケイカンケ

カンケイ(桓景) 漢代の仙士。費長房に従つて學び、長房、景に謂つて曰く、「九月九日汝が家まさに厄あるべし、高山に登り菊酒を飲まば免れん」と、其言の如く夕に還れば家畜皆暴死した。九月九日登高宴樂の習慣はこれから始まるといふ。

カンケイ(岩頭)【礦】火山の噴出口を充したる圓柱狀の火成岩で幾分岩株に似たる處があるが火山噴出物を伴ふて居る。その平面圖は圓形或は橢圓形で、直徑は數百米乃至數千米の大きに達することがある。そしてその岩石は粗鬆なることがあるけれども多くは緻密で堅き岩塊をなし、侵蝕作用に抵抗して聳えてゐることがある。

カンケイコ(案稽古) 音聲又は體力を練る爲に寒中早朝より又は夜間に長歌・淨瑠璃又は柔術・擊劍などを演ずることである。

カンゲンザイ(還元劑)【Retaining agent】【化】化合物を還元するに用ふる物質を稱する。種類も亦甚多い。冶金術では重金属の酸化物の還元には多く炭素(木炭・石炭・コークス)等を用ひ、「クロム」「マンガン」等の如き金属の酸化物の還元劑には「アルミニウム」「亜鉛」「鉄」等が還元劑として用ふる。亞鉛・鐵・「マグネシウム」等の金属と酸又は「アルカリ」とを併用して發生機の水素を作りて還元劑とすることは有機物製造上に用ひることが多い。その他遊離の水素・酸化炭素・硫化「アンモニウム」・硫化水素・沃化水素・硫酸第一鐵・亞硫酸アルデヒド」等皆還元劑である。

カンゲンテツ(還元鐵)【醫】酸化鐵又は硫酸鐵を鐵管中で灼熱し水素瓦斯を通じて還元した鐵。灰黑色微細な重き粉末で熱を加へると自ら紅燦して黒褐色に變する。服用鐵劑として

カンケ

カンケ

背推動物の一種。體形は一般に延長で、圓筒狀か扁平狀をして體幹は前後に連る數多の環節でなつてゐる。軟體動物と異つて體内の諸機官も皆環節的構造である。ゴカイ・イトメ・ウメケムシ・ミ、ズ・ヒルの類で、その體内に多量の節纖維をもつてその伸縮は甚だ顯著である。

カンゲチヤザイ(緩下茶劑)【藥】センナ葉・接骨木花・尚香・アニス・實・酒石酸及び酒石酸加里を等分に混ぜたもの。熱湯で浸出して用ひる緩和下劑である。

カンゲチヨウ(勸化帳) 宮寺の建立。その他破損・再興等の事由を記し、寄附金を募る帳簿。勸進帳に同じ。

カンケツ(乾血)【農】肥料の一種。動物の血液を乾固めて粉碎したもの。窒素一・五乃至一・二・九九を含み、速効性の窒素質肥料である。

カンケツセン(間歇泉)【Geysir】【地】略ぼ時を定めて熱湯と水蒸氣とを交互に或は一緒に噴出する温泉をいふ。即ち、火山活動力の一現象である。伊豆熱海はその例。外國では「アイスランド」及び北米の「エローストーン」大公園にあるものが著名である。

カンコ(看護) 【普通】に病者を護りて看ること、ミトルこと。陸海軍兵種中醫學に従事する者。海軍卒の部では六個月間看護學を修めて四等看護士とし、順次一等に至り、下士を看護士といひ、三等より一等になるのである。上等兵曹相當者を看護師、兵曹長相當者を看護長といふ。陸軍では衛生部の上等兵を看護士といひ、歩・騎砲・工・輜重兵の初年兵で六ヶ月間軍

カンケイカンコ

カンケ

「トラスモージェン」と稱する寄生菌が血液中に侵入して發する熱病。オカリともいふ。症候は惡寒・發熱に次いで發汗期に入る。一定時間發作的に來るもので、この病狀毎日起るもの、隔日に起るもの、又は四日目に來るもの等の別がある。療法は惡寒期に温布摩擦、飲料には湯茶の様な暖かなもの、發熱期には冷鬱法と清涼飲料を與へ、發汗期には主に「キニーネ」又は「オイヒニン」を服用する。

カンケン(管見) 【漢】管て天をのぞいて見る様にせまい見識の意味。謙遜して知ることの少ないのをいふ。

カンケン(還元)【Reduction】【化】化合物から酸素・鹽素その他所謂電氣陰性の元素を脱するか又は水素を増加することである。廣い意味の還元は元素の原子價を減少することを含まれる。

カンケン(乾船)【船】一名「フリーボールド」。船體中央部で水面から上甲板舷側迄の高。船の積載力の餘裕を示すもの、海洋航行のものは河・湖のものより大きい乾舷を要する。

カンコウ(漢口)【Hankow, Hankow】支那湖北省漢陽府に屬する開港場。長江の會流點に位し、武昌・漢陽二府と三市鼎立の形をなし、水陸共に四通八達、外國貿易の盛なこと上海に次ぎ、人口約八十萬。長江第一の港。

カンコウ(甘肅)【Gansu】【化】鹽化第一水銀に同じ、その條を見よ。

カンコ

事教育を受け、その上六ヶ月間看護學を修めたものを概ね補充とする。在營期間四ヶ月。



カンコーカンコ

カンコウ(箱口) 【漢】口をつぐんで物をいはぬこと。鉛口・絨口などに同じである。

カンコウシ(感光紙) 【化】青写真紙類。射紙「ビーカー」の様な寫眞の複寫に用ひる化學紙の總稱。

カンコウシヤ(觀光車) 【鐵】列車の一種。二種あつて一は鐵道線路視察用に供する。三面又は四面を硝子とし、視察しながら事務を執るやう用意されてあるもの。一つは米國の旅客列車のやうな大車輻で三面を硝子窓にし、常に列車の最後部に連結し長途の旅行中旅客が十分に沿道の景色を賞するに便利に出来てゐる。

カンコウジュス(觀光繻子) 【織】繻子の一種。經に緯に綿絲を以つて織る。南京・都・九重・織姫等ある。女帯地・半襟地・袖口等に用ひる。京都・桐生等に産し、近時これに「ミシン」又は手工で刺繻をほどこして用ひる様になつた。

カンコウゼイ(感光性) 【物】光線の作用を受けて變化する性質のことである。鹽化銀・臭化銀・沃化銀・或種の鐵鹽・「アザム」鹽等の如きは感光性ある物質である。寫眞術にはこれ等の性質を利用する。

その成分には溶解するときに温度の降下する物質と融解質の大きな物質を用ふる。寒劑の普通な物は食鹽・水三(最低温度零下二二度)・鹽化カルシウム・四・水三(最低温度零下五度)・硝酸「アンモニウム」・水一(最低温度零下二七五度)等である。

カンザイ(丸劑) 【藥】俗にいふ丸藥。水劑や散劑のやうな普通の製劑は氣味不快のため服み難い藥物を甘草末・白陶土・甘草糖漿等のやうな賦形藥を加へて水・糖漿・又は「グリセリン」等を入れて粘り合せて重量約〇・一瓦の小球子として濕氣や微を防ぐために甘草末・石松子・金・銀箔等を外衣として造るのである。

カンザイエンスイ(岩澤圓錐) 【礦】火山力により噴出する燒石。多孔質熔岩の碎片で構成された圓錐狀火山である。單獨火山にはこの種類少く、多くは寄生火山(側火山)火口丘等をなしてゐる。

カンザイニン(管財人) 【法】財産を管理する爲に法令により特に定められたる者。例へば破産の場合に破産者の財産を公平に所置する爲、裁判所より特に管財人を命じこれを破産管財人といふ如きその例。

カンサ

カンコ

カンコウダン(觀光團) 視察・調査など特別の目的を持たず、單にその地の風光を見物する爲に出かける團體。カンコウチリメン(觀光縮緬) 【織】經に絹絲・緯に綿絲で以て織つた縮緬。本縮緬に代用して用途が多い。桐生・足利地方に産する。

カンコウバ(勘工場) 【商】又勘業場。勘商場といふ。多數の商人一軒に集つて陳列販賣するもの。明治十年第一回内國博覽會閉鎖後、その殘品賣捌のため東京府廳管轄の下に龍の口舊評定所跡に起したのが始めてである。

カンコウラン(岩高蘭) 【植】石高蘭科。高山自生の常緑小灌木。莖直立せず。葉小形線形で密生する。雌雄異株で果實豌豆大の漿果。春日開花する。果實を食用に供する。



カンゴエ(寒肥) 【農】農業上の語。寒中に作物に肥料を與ふること。その利益とする點は養分の散失少く、春季作物の成長を初むるまでに養分上中よく分布すること。氣候寒冷なるやへ分解作用はせず土壌の吸收力

カンザイボウ(肝細胞) 【生】肝臓を充填する細胞形細胞のこと。膽汁を分泌する機能を持ち、其間隙である微絲膽道は漸次集合して間膽道となり、肝門を出て肝管を形成してゐる。

カンザキノリヤス(神崎則休) 【歴】赤穂四十七義士の一人。通稱與五郎。長短に仕へて横目であつた。俸金僅かに五兩。主家滅後復讐の盟に加り、十五年遂に復讐の舉を果し、翌十六年切腹を命ぜられた。年三十八。又文章をよくした。

カンザキマチ(神崎町) 【地】佐賀縣肥前(神埼郡)にある町。佐賀市の東北鐵道五・七哩、平野の中央に位し、農産物の取引行はれ、郡衙の所在地である。人口四、八五六。

カンサク(間作) 【農】一作物間に他作物を植ゑること。果樹の下に種々の作物を栽培する如きは果樹に害を與へずして、良好に土地を利用する利益がある。桑畑に陸稻又は馬鈴薯を栽培する如きも良き方法である。

カンサ

カンコ

カンゴク(監獄) ケイムシヨを見よ。カンゴクカン(函谷關) [Hanku-Kuan] 【地】支那河南省にある關。兩崖壁立し道路狭く所謂一夫萬夫を防ぐに足る要害。春秋戰國の時、秦關中に據り山東の諸國これを如何ともすることを得なかつた。孟嘗君鶏鳴によつてこの關を遁れたことは人のよく知る所である。

カンゴクベヤ(監獄部屋) 労働者を虐使用する惡飯場のこと。惡周旋屋・惡暴集人に甘言を以て誘拐され、北海道その他の鐵道工事・開墾事業・炭坑採掘等に出掛け、嚴重なる捧頭の監視の下に鐵鎖につながれて一日平均十五六時間も過激なる勞働を強ひらるゝ有様が監獄と同様である故にいふのである。

カンゴチヨウ(看護長) 【軍】衛生部下士。二三等の三階級がある。各兵科兵卒又は看護士の志願者に衛戍病院で必要な學術を修得させ、通常三等看護長勤務を命じ、故員に應じ三等看護長に任ずるのである。

カンゴツ(顔骨) 【生】顔面骨の一。左右一對あつて、上唇骨の上外側にある。顴の美麗なる花を開く。

カンサザン(管茶山) 【國】詩人で儒者。備後神邊の人。名は晋卿、字は禮卿。太沖と號す。詩を以て一世に鳴る。黄葉夕陽村舎といふ和塾を建て、南海・山陽の子弟多く學んだ。文政十年八十歳で歿す。

カンザシ(簪) 【國】髮飾の義。上古挿頭花といひ、公卿宮人の花の枝を頭髪に挿し冠の止めにしたと諸書にある。簪字は古く和名類聚抄に見え、簪は孝謙帝の代既にあつた。平安朝に簪子・享保頃に耳簪附のもの。元文に花簪が出来、近世東洋簪等が出来た。種々の寶石類をもちりばめ益々きらびやかになつて行く。儀式用・常用と形を異にする。

カンザス(Kansas) 【地】アメリカ合衆國の中部にある州。面積約一三、六一〇方里。「ロッキート」山脈の東斜面に屬し、東北端に「ミズリー」河流れ、北部の水は「カンザス」河に南部の水は「アーカンソー」河に注ぐ。氣候は中和快適であるが寒暑稍々強く、空氣は乾燥清澄である。雨量は東部に多いが西部には少い、農業は主産業で小麦・玉蜀黍を出し、鑛産には石炭・岩鹽・鉛・亞鉛等がある。首都を「トベカンサ」

カンサ

カンコーカンサ

の四骨に聯接する。カンコツキン(股骨筋) 【生】腰部無名骨附近の筋肉のこと。内外の二つに分つ、甲は方形腰筋と腸腰筋の二つからなり大腿骨を前屈する。乙は臀部の肉で四層七筋からなつてゐる。

カンゴトリ (Gangotri) 【地】ヒマラヤ山頂「カンジス」河に沿ふ佛教徒の參詣地。河水は印度各地に運搬して、高價に販賣される。

カンゴフ(看護婦) 醫師の治療手術を助け、病人を看護する婦人。普通教育のある十八歳以上にして二個年以上看護婦養成所等に於て、生理・解剖・病理・藥物・看護・繻帶の諸學を學び、又看護試験に及第した者を採用する。東京醫科大學・赤十字社を初め、公私立の病院にこの養成所の設がある。

カンゴリ(寒垢離) 【國】寒中水を浴びて神佛に祈願すること。

カンサイ(關西) 【地】もと近江逢坂關を以て全國を二分し、その西方三八國を稱へたが、今は専ら近畿地方を指して中國・西國と區別し、尾張亦往々にこの名稱内に包括せらる。

カンサツ(監察) 【教】注意して物を見る事。即ち有意的に注意する經驗。

カンサツカン(監察官) 【人相】眼の稱。五官の一で、黑白分明なるによりいふその自然清秀にして威あるを貴ぶ。

カンサ

カンサツ(監察使) 【歴】明治維新の前後朝廷から諸藩の軍備を監察させる爲めにおいた臨時職。文久三年長門藩の外國船と戦端を開いた時これを慰撫するため正親町公董を遣はせられた。これを監察使といつた。

カンサツク(監査役) 【商】株式會社及び株式合資會社の監督機關であつて民法上の法人の監事に當り、取締役と對立し、會社内部の事情・會計等の事務を監督し、株主總會に報告して、會社の利益を保護するものである。監査役は必ず株主中から選任される。

カンサ



カンサ

ものとする。

カンザンシ(寒山子) 支那唐時代の詩人。その氏名詳でない。豊縣の西に寒明の二嶺があつた。常にその寒巖中に居るので名づけたものであるといふ。面貌枯槁、布衣、常に樺皮を冠として大木履を穿いてゐた。或時天台の國清寺に詣で、豊干禪師及び法弟拾得と親しんだ。尤も詩をよくして超越清澹すべて禪理をいつた。後去つて終る所を知らない。その林間に遺した木の葉を綴つて書したものと、屋壁に書いた詩とを併せて詞頌二百餘首を、沙門道翹が編して一集とした。稱して寒山詩といふ。又寒山が拾得と相携へてゐる風姿は後世畫題として寒山拾得といつてゐる。カンザンシツトク(寒山拾得) 【畫】カンザンシの條を見よ。

カンザンダイシ(元山大師) 【宗】護符の一種。慈恵大師管下衆生の災疫を免れさせやうと自ら夜叉の形となつて鏡に映り我影像を置く所は必ず邪魅災難なからしめんと誓つた。それより一般これを門戸に貼る。大師正月三日に寂した。故に元三大師といふ。又角大師の稱がある。カンザンシツトク(寒山拾得) 【畫】カンザンシの條を見よ。

カンシ

の一島。慶尚南道に屬して居る。文祿の役朝鮮將士李舜臣の水軍の根據地であつた。

カンシ(漢詩) 【漢】支那の詩。通常一句五字又は七字であつて五言又は七言といふ。古詩律、排律、絶句等の諸體がある。各條を見よ。

カンシ(監視) 【法】舊刑法で將來を檢束する爲め、主刑の終りたる犯人に對して警察官がその行狀を監視させる行爲的處分をいふ。刑法上附加刑の一種である。

カンシ(干支) 【九】十干十二支の併稱。干は幹、支は枝の義、甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸を十干。子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥を十二支と云ふ。古來干支を配合して曆數上に應用し、年月日を示すに便す。

カンシ(漢字) 支那文字のこと。觀念文字に屬し、象形から出來たもの、楷書を眞とし、行草古文篆、隸等種々の書體がある。黃帝の史官倉頡が鳥跡を見て創めたと傳へてゐる。最初は蝌蚪文字で漆の類で竹簡に書き、漸次發達して大篆・小篆となり、楷書に進化し、草書が出來た。字數次第に増し、漢代には一萬未滿、説文九三五三、唐代には二萬六千餘、黃帝二六

カンシ

一九四) 明代には四萬五千餘(字彙四五五〇) 清代には四七二一六(康熙字典)となつた。尙「ラッタペリー」氏は八萬に近いといひ、「ジャールズ」氏は六千を知れば日常の事足りといつた。各字意義が有つて應用廣いが、復雜多數で修學に困難であるのが不便である。

カンシ(監事) 【法】法人の理事の事務執行を監督する權利ある一機關をいふ。商法の會社に於ける監査役に當る。常設機關なれど必須の機關ではない。(民法第五八條第五九條)その職務は法人の財産状態・理事の職務執行の狀況を監査し、若し不正の廉あれば、これを主務官廳に報告すること、並に必要に應じては總會を召集する等である。但し自ら法人を代表して業務を執行する事は出來ぬ。その數一人又は數人たることを得。(民法第八十四條)

カンシ(感心) 【心】外界より或る力を受けて起る心持、又は自發的に心に起る心持。

カンジー(Kandy) 【地】セイロン島の都府。コロンボの東北七〇哩。香料を産する。蘭の都府を稱した。蘭の都府を稱した。

カンシ

があるため巡禮者の來り拜するものが多い。

カンシキ(標) 冬期氷雪の上を歩む時、藁沓の雪中に陥入し、又氷上に滑るを防ぐため、更にその裏に穿つ器具。木製・鐵製の二種がある。木製は雪上に、鐵製は裏面に釘を附け氷上に用ひる。



カンシキセイレンホウ(乾式製煉法) 火熱の力を藉りて鑛産物を處理し、これより金屬又合金を抽收する法。

カンジス(Candies) 【地】印度の大河南流は「ベンガル」灣に注ぐ。下流は「ブーグラー」河及びその他の支流交叉し河口凡そ二十。全長一六八〇哩、流域四三二四八〇方哩、附近は深林に蔽はれ猛獸が多い。

カンシツ(乾漆) 【塗】漆に麻屑・木屑等を混ぜて乾燥したもの。専ら佛體に用ふ。二法あつてその一法は木にて頭部・四肢等骨子となる大體を椀取りこれに布をさせ乾漆を塗り形態を作り、乾かして彩色や金箔を施す。又一法は型土にて數形を作り、上に乾漆を塗り、乾かして仕上げたもの。

土を取去るのを乾漆といふ。共に奈良時代に流行し、東大寺三月堂・唐招提寺・法隆寺にその像多い。尙簡便なる木心乾漆法がある。木にて粗作せる上にこれを施して仕上げる。此類も亦奈良縣に多い。

カンシツカシヨウ(換質假像) 【鑛】ある鑛物質成分が他の組織中に滲み込み漸次その物質と入替り、遂に全くその成分を變し、而もその外形は原の儘なもの。硅化木は此理に基いて木質中に硫酸の滲入して生じたもの。

カンシツキウシツトケイ(乾濕球湿度計) (Dry and wet bulb hygrometer) 【物】空氣中の湿度を測る装置の一。二個の寒暖計を並べて吊し一方の球を布で包み、布の下端は水中に浸されて球部の布が常に濕つて居る。空氣中の湿度の大小によつて水の蒸發に多少があり従つて濕球の温度の低下に差がある。この乾濕兩球の示度の差により、別に調製せる表によつて湿度を知るのである。

カンシツソウ(乾漆像) 【塗】奈良朝時代の造像法。塗液を材料としたもの。その方法は外塗は塗液と砥粉とを混ぜた俗にサビといふものを塗り、それへ地の粉を塗り、下地となる部分

カンシ

カンシ

カンシ

カンシ

は麻布を漆で幾重にも貼り固めて作る三層である。この法には外部から塗ると内部から塗るとの二法がある。何れも精密な製像法である。東大寺・三月堂内の不空羅觀音・梵天・帝釋天・四天王・金剛力士は外層より塗上げたもの。法隆寺・西園堂の藥師如來・夢殿の行信僧都像は木型の骨子を作り内層から塗上げたもの。

カンシツノセチエ(元日節會) 【儀】昔正月元日に朝拜の後天皇紫宸殿に御して群臣に酒を賜ふ儀式。先づ外任奏あり、諸國の守任命を奏し、次に七曜の御曆、氷條、腹赤の奏等諸司の奏、後に三献の式がある。終りて群臣に宴を賜はり、祿を授けられる。神武帝の時からあつて「公事根源」には「持統天皇四年を始とする。」

カンシヒヨウ(監視票) 所轄警察署から被監視人に下附する書類。監視期間中遵守すべき條件を記載する。官吏の認印を受くべきものである。カンシの條を見よ。

カンシヘイ(監視兵) 陣地の前方要點或はその他所要の地に位置して敵を見張する者で歩哨の如きものである。要塞等にも之を出す。カンシミヤク(岩枝脈) 【礦】岩脈から

分岐した細い枝脈をいふ。カンシヤ(監車) 【漢】罪人を載せる車。オリグルマともいふ。

カンシヤ(Candia) 【地】クレタに同じ。地中海の東部、多島海(エーゲ海)の口に横はり、長さ百五十哩、幅六哩から三十五哩。面積約五百二十一方里。全島山脈に蔽はれ、「イダ」山の如きは二四五八米に達する。平地は極めて少なく、産物は多くないが氣候良好で健康に適し、果實・蔬菜・オリグ・油の類は到る處に産する。人口三〇九千(一九〇〇年)首府を「カンヂヤ」といふ。西北海岸の「カニヤ」を主要なる港とする。住民は「ギリシヤ」人が多く、本島は今「ギリシヤ」の有に歸してゐる。

カンシユ(看守) 【刑務所職員の一で判任待遇である。】燈明を守護し、燈臺・燈船・浮標・立標・霧警號等を維持する者の職名。

カンシユ(巻鬚) 【植】葉又は枝等の變形して鞭毛状をなしたるもの。これによりて他物に巻附く。例へば豌豆・葡萄等の卷鬚。

カンシユ(艦首) 【軍】軍艦の軸の總稱。敵艦の主帯甲の下方を衝突擊破する爲めに衝角を水中適宜の深度に有し

てゐるので著しく前方に突出してゐる衝角を用ひた時外板の損傷を防ぐため二重張とした。けれども近來は接戦が絶無になつたので、衝角を廢した商船と殆ど同じやうにした。常に波浪の衝撃を受ける。揚鑿装置がある。我軍艦首には菊花御紋章が輝いてゐる。

カンシユ(岩株) 【地】岩漿が地球の内部分から上昇して地殻内に來り、冷却凝固して不規則なる塊状をしてゐるもの。花崗石・閃綠岩その他深成岩に屬する火成岩は通常多くこの状態をしてゐる。

カンシユ(癌腫) 【醫】原因は未だ詳かでないが、上皮性腫瘍に屬する悪性腫瘍の一。三十歳以上五十歳から六十歳の老年に多く、少年には極めて稀である。症候は其發生の部位に由つて種々である。胃癌・乳癌・直腸癌・子宮癌等。療法として手術により可及的速かに除去するより他はない。

カンシユウ(甘州) 【地】支那國甘肅省にある府。山岳重疊地帯で氣候寒冷である。この省政治の中心地。住民には漢族・蒙古族・トルコ族等があつて今も穴居する者がある。産物は牛・羊・馬・駱駝・植物藥品等がある。

カンシ







カンシ

用ひる。又漢族ともいふ。

カンシ(鑑真)【歴】支那唐の揚州江陽縣人。幼くして佛に入り、三藏を究め戒律を傳へた。天平勝寶五年乘僧を從へ佛典を携へ我國に來て、東大寺に住し、又唐招提寺を開いた。

カンシ(寺西関心) 享保頃の江戸の俠客。幼名は彌助。もと土井大炊頭の家士。致仕後江戸西久保に道場をひいた。誤て幕吏を殺し落髮して古塵といつた。後六法組の壯士十五人と衝突して、十三人を斃し、難を避けて下野に走り、その地で終つた。

カンシ(韓信)【歴】張良・蕭何(或は陳平)と共に漢室創業の三傑と稱へられてゐる。淮陰の人。初め項羽に從ひ、後漢に歸して大將軍となり、諸侯を伐て天下を統一した。淮陰侯に封せられたが呂后に忌まれ、高祖の十年捕はれ殺さる。嘗て恥を忍び賤夫の股を潜つたは著名の美譚である。

カンシ(顔真卿)【歴】唐中世の忠臣。博學で詩又書を善くした。殿中侍御史となり、次で平原の太守となる。安祿山反するや勳王の大義を唱へてこれを討つ。亂平ぎ刑部尚書に遷り魯郡公に封せられた。徳宗の朝に

カンシ

したが、節を持して屈せず終に興元元年殺せられた。

カンシ(觀心寺)【地】大阪府(河内)南河内郡川上村大字元にある眞言宗の寺。楡尾山といふ。天長四年眞慈の開基。本尊の如意輪觀音は空海の作であると傳へられてゐる。正平中後村上帝の行宮址、南朝及び楠氏の遺物が多い。本堂は現に特別保護建築物となつてゐる。寺内に正成の首塚、寺後に後村上帝の御陵がある。

カンシ(勸進帳)【能】カンゲチヨウの條を見よ。【能】安宅で辨慶の讀む勸進帳の文句で三讀物の一つとして重む習である。【目】歌舞伎十八番の一。謡曲の安宅を脱化した長唄囃子を入れた演舞で、源義經の奥州落に加賀の安宅の關で關守富樫左衛門に見奪られ己に危かつた時辨慶が南都東大寺の客僧と稱して勸進帳を讀み上げ富樫を欺いて虎口を脱したことを脚色したものである。

カンシ(勸進帳)【能】臨時に寄進を募つて催す能。寺を立て道普請をする等のために養僧金を請ふに催したのが始で後には太夫が一世一代とし催す大能の稱となつた。

カンシ(雁爪)【農】農業上の語。雁爪を用ひて稻田を耕すこと、稲苗を移植してから二十日前後を経て苗のよく活着した時これを行ふ。雁爪打を行ふと株間の土が深く軟くなり根の成長宜しく効能が多い。

カンシ(慣性)【物】物體は外から力が加はらなければ静止して居る。物體は永久に静止し運動して居る物體は永久にその運動状態を繼續する性質を有する。この性質を慣性と稱する。

カンシ(官制)【法】官職に関する百般の規定。往古の官制は政治の變遷に従つて沿革多く特定の官制は孝徳天皇の御代新制を布くに至つて漸く定まつた。現代の官制は司法裁判所、行政裁判所、會計検査院等で、憲法にて法律によりその組織権限を定むべきことを規定したるもの、他、行政各部の官制は天皇その憲法上の大権により勅令を以つてこれを定める。法律にて官制を規定せるときは、命令を以てこれを變更廢止することは出來ぬ、その他豫算に掲載なき新設増設の官廳は假令官制に規定せらるゝ

カンシ(雁爪)【農】水田耕作の具。柄は短かく爪列面は、彎曲して鉤の如くなつてゐる。通常爪の数は四本なれど二本のものもある。土壌の反



【めづんが】

カンス

カンス

行人の俗稱。もと勸進相摸の頃の名稱から出たもの。今日では願人と改稱されたけれ共なは相撲社會では勸進元といつてゐる。

カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンス

養殖するには、海岸に堤塘を築いて海の一部を區劃して仔魚を放ち、蝦介類の肉、米糠等の飼料を與へて成長せしむるのである。又人工で鰻、鱒等の孵化發生を助け稍々成長した仔魚を海中に放つこともある。現今養殖してゐる海魚には鰻、鱒、黒鯛、鱈等で介類には牡蠣、蜆等の海産には海苔等の養殖が行はれてゐる。

カンスウ(函數)【數】圓の面積は、半径が變ればその面積も變り、半径が定まれば亦定まるを以て、圓の面積はその半径の函數といふ様に相關させる二量があつて、一量變れば他も變り、一量定まれば他も定まる時、他は一量の函數といふ。又は定まるを以てこれをの函數といふ。就ての函數に於てを獨立函數又自變數といふ。

カンスウ(完數)【數】整數でその數自身より小さい總ての約數の和が丁度その數に等しい數をいふ。6は完數である。即ちその約數は1・2・3でその和は6であるからである。

カンスウ(函數論)【數】或る量の變化が他の量の變化に伴ふとき、前者の後者に對することを函數といふ。

カンスウ(函數論)【數】或る量の變化が他の量の變化に伴ふとき、前者の後者に對することを函數といふ。

カンスウ(函數論)【數】或る量の變化が他の量の變化に伴ふとき、前者の後者に對することを函數といふ。

カンスウ(函數論)【數】或る量の變化が他の量の變化に伴ふとき、前者の後者に對することを函數といふ。

カンスウ(函數論)【數】或る量の變化が他の量の變化に伴ふとき、前者の後者に對することを函數といふ。

カンスウ(函數論)【數】或る量の變化が他の量の變化に伴ふとき、前者の後者に對することを函數といふ。

カンス

カンス(管生植物)【植】カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。

カンス(管生植物)【植】カンスイ(澆水)【地】カンコウの條見よ。



カンセ

政の三博士又は三博士ともいふ。柴野栗山(彦輔)・古賀精里(彌助)・尾藤二洲(良佐)の三人で、共にすけといふ字があるのでいふ。

カンセイホンブ(艦政本部)【軍】東京海軍省内にある。兵器・艦需品及び艦船の設備機関に關することを掌る所。一乃至四部に分つ。

カンセイミサイ(關稅未濟)【Duty unpaid】【商】買物を賣るとき、關稅負擔が買手にあるのをいふ。

カンセイユ(乾性油)【油】本來液油で物に塗附し空氣中に放置すれば乾固する油類をいふ。「ペンキ」・印刷「インキ」・油繪具等の原料に用ひる。亞麻仁油・荳油・麻實油等の類。

カンゼオンジ(觀世音寺)【地】福岡縣(筑前)筑紫郡水城村にある。齋明帝の御願で天智帝の建立せられた寺である。もと西海道勸建の戒壇であつたが、後世衰廢したのを元祿年間に小宇を建て、今尙舊跡を有してゐる。

カンゼオンボサツ(觀世音菩薩)【佛】苦の衆生を救はんとの大慈悲を以て濟度自在を得られた菩薩。諸の苦惱を受くるとき、この菩薩の名號を一心に唱ふれば、解脱を得しむることである。

に機毛を生じ、外縁は腹面側部に於て小孔にて外通し内端の擴がりたる口は同一管の外孔の在るよりも一つ前なる環節の體腔と交通して居る。

カンセツキヨウチヨク(關節強直)【醫】關節の運動全く廢絶に歸する病。胎生性の關節發育障害その他神經中樞及び關節の炎症や損傷から發病する療法としては温浴・按摩・電氣療法・截骨・截筋術等に依るのである。

カンセツコウヨウ(關節効用) 吾人人類の欲望を直接に満足せしめ得ざるも、之を他物と交換することによりて欲望を満足せしめ得べき場合に於ける財貨の効用をいふ。

カンセツコクゼイ(間接國稅)【法】國庫の財源たる間接稅、我國現行間接國稅、犯則者處分法にて間接國稅と認めたるものは、酒造稅・アルコール及び「アルコール」含有飲料稅・麥酒稅・醬油稅・砂糖消費稅・賣藥印紙稅・骨牌稅・毛織稅及び石油消費稅等である。

カンセツシヤゲキ(間接射擊)【軍】目標を直接に標準せず、別に假の目標を定めこれを照準して而も實際の目標に彈丸を命中せしめる方法。砲兵の射擊は通常この方法による。小銃

カンセ

カンセ

カンセキ(鑛石)【機】汽鑛の内面に附着する湯垢。給水は普通炭酸カルシウム・硫酸カルシウム・炭酸マグネシウム・食鹽・鹽化「マグネシウム」等を含有し、汽鑛内で高温となり蒸發するに従ひ、これ等の物質殘留し、水の濃厚と高温と壓力増加とによつて沈澱して附着するものである。これは熱の惡導體で厚く附着したものは種々の害及び危險があるけれども又極薄いものは汽鑛の内面を掩ふて酸化を防ぐ防腐劑として喜ばれる。

カンセキカク(岩石學)【地】地殼の一部分を構成するもので、山岳を作れるものを始めとし、河海の底にある砂礫粘土、兩極地方の水塊の如きも岩石と稱することが出来る。そして岩石は一般に色々な礦物から成立つて居る。又岩石はその成因によつて火成岩・水成岩・變成岩の三種に大別される。

カンセキガク(岩石學)【地】地殼の一部分を構成するもので、山岳を作れるものを始めとし、河海の底にある砂礫粘土、兩極地方の水塊の如きも岩石と稱することが出来る。そして岩石は一般に色々な礦物から成立つて居る。又岩石はその成因によつて火成岩・水成岩・變成岩の三種に大別される。

カンセキケン(岩石圈)【地】地殼のこの。地球の表面は、岩石圈といつて、固い岩石の部分と、水圈といつて水

も時々の方法に依て射擊する。カンセツシヨウセイ(間接消費稅) 課稅品の消費者は直接納稅せず、その生産者又は販賣者の納稅する消費稅・直接消費稅に對する語である。

カンセツシヨウメイホウ(間接證明法)【Indirect proof】【數】一定理を證するに便宜上その定理の形を對偶の形に變じて證明するをいふ。例へば「甲が乙ならば丙は丁なり」を證するに「若し丙が丁に非れば甲は乙ならず」を證するにある。即丙が丁ならずと假定し、甲が乙ならずとの結果を得たりとせんか、甲が乙なりとの假説に反し背理である故に丙は丁ならざる可らずと斷ずる。この背理に歸する法を歸謬法ともいふ。

カンセツスイイ(間接推理)【Reasoning, Mittelhaehissung】一命題より他の命題を媒介として斷案を作る法。換言すれば甲乙二語の關係を丙なる媒語によりて定むること。

カンセツゼイ(間接稅)【法】納稅者から負擔者に向つて轉嫁する租稅。例へば酒造稅の如きは、酒造者が納稅者であるけれども其實はその税金は需要者が負擔し、又織物消費稅の如きも納稅者の機業家であるがその負擔者

即ち海と成りこれ地殼といふのである。陸地をなせる土砂は岩石の粉碎せられて出來た者であるから岩石圈の部に屬するのである。

カンセキソク(岩石組成)【地】岩石を組成する礦物。又造岩礦物といふ。礦物は多種多様な種類がある。主なるものは僅かに數十種に過ぎない。就中、石英・長石・雲母・綠泥石・輝石・方解石・燐灰石・柎柎石・霞石・白榴石・角閃石・ジルコン・橄欖石等を主要なるものとする。

カンセキヨク(觀世清孝)【能】觀世流二十二代。初名三十三郎後織部と改めた。能の古實に精通してゐた。明治二十一年歿。長子清康その跡を繼ぐ。

カンセキヨク(觀世清次)【能】猿樂の祖。服部氏、後に觀阿彌といつた。春日神社の禰宜。足利氏に仕へ大和結崎を領した。應永十三年歿。(カンゼリヨク参照)

カンセツ(嵌接)【建】材に得難き長大なる材料を作るため數材を結合する法。例へば船の龍骨の如きは其の鐵たるを木たるを問はず、一材にて是を作るを得ず數材を結合して作る。結合面の垂直なるを垂直嵌接、斜

カンセ

稱し、鐵船の龍骨材の結合に用ひる。カンセツ(關節)【生】二骨の相聯接結合すること。及びその部局をいふ。分て不動及び可動の二種ある。

カンセツ(環節)【動】環虫類・節足動物の如く體軀の節狀體部若干より成るも少くない。この種の體部を名づけて環節といふ。

カンセツカワセ(間接爲替)【商】兩國間に直接に爲替取組をなさず、他の一國若くは數個國との爲替取組を経由して爲替取引をなし、以てその間の債權債務の關係を決済する方法。例へば我國より「イギリス」に送金する場合に上海宛爲替を買ひ、上海に送り、その取立金を以て「イギリス」宛爲替を買ひて、是を「イギリス」に送り、又上海爲替を買ひて直ちに「イギリス」に送る方法などその例。

カンセツカンナンツ(關節間軟骨)【生】關節は常に關節軟骨にて被覆せらる。これを關節間軟骨といふ。滑液を分泌して骨面を滑澤にし、骨の運動を便にするものである。

カンセツキ(環節器)【動】環虫類の排泄器をいふ。即ち各環節に一対づつ存在するを以て名づく。その構造は各多少異なる。環狀の管で管腔面

は一般の需要者である、而しこれは學說上よりいふのであるが、制度上では明文を以てこれを指定することが多い。普通これを間稅といつて居る。(カンセツコクゼイ及びカンセツシヨウセイ参照)

カンセツドブツツ(環節動物)【動】カンセツヒリヨウ(間接肥料)【農】農作物直接の養分たる窒素・磷酸・加里の三要素を含有せず、唯土壤の理學的性質を改良し或は他の肥料の分解を助くる効ある肥料をいふ。石灰・石膏の如きものである。

カンセツブンレツ(間接分裂)【動・植】細胞分裂の普通の法。分裂せんとする時は不素錯雜せる核絲は細胞の赤道部に規則正しく並び短大となり、染色體を造る。この時核膜及び仁は消滅す。次に中央より縦裂して二分する。その數細胞の種類により一定してゐる。次に兩極より紡錘線を出し、各染色體はこれに沿ふて各兩極に向ひて分れ一塊となり、核膜・核絲・核粒等を形成する。次で赤道部に横膜を生じ遂に細胞二分せらる。高等動物の細胞分裂は凡てこの法によるのである。

カンゼリユウ(觀世流)【能】諸曲流儀の名。足利義滿の時に伊賀の人結崎三郎清次といふあり、もと奈良春日の禰宜にて猿樂の道に達し、義滿に仕へ名を觀阿彌と改む。これ觀世流の始である。その子世阿彌元清も大に猿樂を擴張し、新曲など作り遂に幕府の式樂とすに至つた。清次より現時の元滋に至りて二十四代これが觀世流の家元である。

カンゼン(汗腺)【生】汗の分泌器。皮膚の到る處に存在してゐる。腺で掌・趾等には最も多い。眞皮の深部に絲狀

カンゼン(汗腺)【生】汗の分泌器。皮膚の到る處に存在してゐる。腺で掌・趾等には最も多い。眞皮の深部に絲狀

カンセ

カンセ



カンセ



汗腺

塊をなし、汗道は真皮・表皮を通じて皮膚面に漏れ出し、汗道は汗腺の開口して開く。汗腺の周囲は緻密に網羅してある毛細管で繞られ、汗はこの毛細管から滲出し、汗腺を傳はつて體外に排泄せられるものである。汗腺の長さは約一時の四分の一位であるが大人の有する總数は凡そ二百五十餘萬本であるから、これを連続すると約十哩に達し、各人又時候等に依つて異なるが、大人一日の發汗分量は凡そ三合餘であるといふ。

カンセン(幹線) 【電】電氣事業に於て電流の分配に用ふる主要電線。電氣鐵道に於て幹線とは電氣鐵道電線より「トロッコ」線に電流を供給する電線である。

カンセン(艦船) 【船】軍艦及び船舶の總稱。廣く艦船と稱する時は軍艦船舶即ち水を航行する一定の建造物をいふ。船舶には蒸氣力・電氣力・風力・人力等にて運轉するものもある、いづれの場合でも船舶は自ら動く外觀を有するものである。

カンセ

音程亦然り。音程にこの名を與へしはこの二音の調和頗る良好で快感を與へ、長短音階の上下行又は音程の轉回に於て變化せざるによる。



花全完

カンセン(頰瓣) 【醫】俗稱はタムシで寄生菌の傳染附着に依つて起る。赤褐色の丘疹又は水泡であつて多くは輪形をなして居る。次第に周圍に蔓延するもので、頑固にやく陰囊・股間・臀部・外陰部・腋窩に來ることが多い。加里石鹼で洗滌した後、ヘグリサロビン軟膏を塗布するとよい。

カンゼンカケイ(完全花) 【植】花冠及び雄蕊・雌蕊を有するものを完全花といひ、この内一部乃至三部を缺くものを不完全花と稱す。サクラ等は完全花で、ソバは花冠を缺き、ドクダミは萼及び花冠を缺き、松類の花は萼・花冠の外に雄蕊又は雌蕊を缺く不完全花である。

カンゼンシカケイ(完全四角形) 【Ge.】quadrangle) 【數】四つの點とこれを二つ宛運なつた六個の直線とから成り立つ四角形。四個の點を角點といひ、六個の線を對角線といひ、普通の四角形の四點を順次二個づつ運

せず發散する水蒸氣を周圍から絶えず、除去するのである。後者は又密閉した器に入れて空氣「ポンプ」で抜去るか器中に乾燥剤を入れて蒸發する水分を吸収させるか、乾燥した空氣を送つて水蒸氣を運び去る等の方法がある装置として加熱による蒸氣乾燥器・硫酸・鹽化「カルシウム」等の乾燥剤を用ふる。硫酸乾燥器又氣體を乾燥する目的で乾燥管がある。太くて眞直なもの或はU字形或は中央に膨みある硝子管に乾燥剤を入れた物で、乾燥剤には氣體の性質に應じて鹽化「カルシウム」・濃硫酸に濕した浮石・粉末狀無水鹽酸等を用ふる。

カンゾウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。

カンゾウキ(乾燥器) 【化】濕氣ある物體を乾かす装置。物を乾かすには物を熱して水分を蒸發させるか或は熱

カンセ

ねる四直線の圍む平面の一部分に重きを置くと區別するために起つた近世幾何學の套語である。

カンゼンセツ(完全説) 【Perfectionism】「ドイツ」人「ライブニッツ」の首唱した説。快樂説と克己説との兩極端を避けて、その中庸をとり、吾人が究竟の目的として追求すべきものは、自己の本性を實現して己れを完全なものにするにあるとの説である。

カンゼンヒリヨウ(完全肥料) 【農】肥料の三要素なる窒素・燐酸・加里を適當に混合した肥料。現今では種々の肥料材料を混合し完全肥料として市中で販賣してゐる。

カンゼンヘンタイ(完全變態) 【動】「カン」の條を見よ。

カンゾウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。

カンゾウキ(乾燥器) 【化】濕氣ある物體を乾かす装置。物を乾かすには物を熱して水分を蒸發させるか或は熱

カンゾウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。

カンゾウキ(乾燥器) 【化】濕氣ある物體を乾かす装置。物を乾かすには物を熱して水分を蒸發させるか或は熱

カンセ



葉全完

托葉の三分よりなるもの。例へばサクラ・リンゴ・ユナダウの葉の如くである。右の内の一部を缺くものを不完全葉といふ。アブラナはその一。

カンゾウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。

カンゾウキ(乾燥器) 【化】濕氣ある物體を乾かす装置。物を乾かすには物を熱して水分を蒸發させるか或は熱

カンゾウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。

カンゾウキ(乾燥器) 【化】濕氣ある物體を乾かす装置。物を乾かすには物を熱して水分を蒸發させるか或は熱

カンゾウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。

カンゾウキ(乾燥器) 【化】濕氣ある物體を乾かす装置。物を乾かすには物を熱して水分を蒸發させるか或は熱

カンソ

カンソウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。



うざんか

カンソウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。

カンソウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。

カンソウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。

カンソ

カンソウ(甘草) 【植】豆科の多年生草。歐洲・南方・地中海沿岸諸地と中央「アジア」に自生する藥用植物。高さ三四尺、葉は羽狀複葉で、通常十枚又は十三枚の小葉より成る。春夏の候、葉腋より花枝を抜き、淡紅色の小さき蝶形花を擧げする。果實は扁平滑の莢である。甘草糖・甘草は健胃劑として廣く用ひらる。



カンタ

全區中最も賑かなる處である。

カンタイ(艦隊)【軍】二隻以上の軍艦の集まつたもの。その数の多少によつて大小の別がある。聯合艦隊は大艦隊の種類で、又その任務に依つて常備艦隊・練習艦隊等の名稱がある。

カンタイ(寒帯)【Frigezone】【地】南北緯六十六度半の南極圏・北極圏から高緯度にある地域。一年間數週若くは數月間、太陽は地平線上に昇らない。又昇つてもその光線地面に對し其の斜めであるから太陽熱を受くること極めて少く地球上最寒冷である。北半球にては西伯利北部・ロシア北部・グリーンランド・カナダ北部等の中にあれど南半球ではこの地域にある陸地は極めて少く又氣候上から年平均温度攝氏零度の同温度から以外低温度の地を寒帯といふ。

カンダイ【動】カンダヒ科に屬する魚。近海暗礁の間に棲み、體長一尺五寸乃至二尺、大なる鱗を披り、頭上に大なる隆起がある。體紅色で體側に紫の條線がある。脊鰭と臀鰭は黄色、尾鰭の上下縁は黒色、胸鰭の基部は黄色である。常に近海に産する。

カンタリス(豆斑蟊)を「アルコール」發出した液。劇薬である。禿頭病に外用する。成分は「カンタリヂン」約〇・二%で恐水病預防や、交接不能等に用ふる事あるも稀である。

カンタン【動】蟋蟀科に屬する小形の昆蟲。初秋の頃草間に於て美聲を發して鳴く、體五分位にして細長く黄綠色をなし、腹は黒色で透明な翅を爲して居る。

カンタン(邯鄲)【能】西名。古名は邯鄲の枕又盧生といつた。枕中記の盧生の傳説を筋とし、盧生邯鄲の里に休らひて、名高い邯鄲の枕を借り一睡し、夢中勅使より王位・大臣より千歳の仙藥を授かつたが、榮華の夢覺めて人生の大望はみなかくの如くであると悟り、我を救へた智識はこの枕であると押載いて故郷に歸るといふことを作つたもの。

カンタン(元旦)一月一日のこと。古はこの日四方拜・御藥・御節供・朝賀・小朝拜・元日節會・内侍所御供等の朝儀があつた。今は四方拜及賢所並に皇靈殿御祭典等はせらる。

カンダンケイ(寒暖計)【Thermometer】【物】普通物體の膨脹を利用して温度を測定する装置。膨脹を利用する物

カンタ

カンタ

けて居つた熔融體が地上に出で、平らに廣つて冷却凝固したもので、讃岐の屋島はその好例である。

カンタイドウブツ(寒帯動物)【動】寒帯地方に産する海象・白熊・白狐・白兔・馴鹿・麝香牛・海豹・白鷗・雷鳥・ペンタイン等をいふ。

カンダジンジャ(神田神社)【地】東京市神田區宮本町に在る府社。この社はもと柴崎村に在つたのを慶長八年今の駿河臺に移し元和二年更に今の所に移すと云ふ。祭神は大己貴命・少彥名命・通稱神田明神といふ。その創設は聖武天皇の時代である。末社に半將門を合祀してあるといふ。祭期は九月十五日。神田祭とて古來その名高く東都三大祭の一に數へられてゐる。カンダマツリ参照。

カンダチメ(上達部)【國】一名カンタチベといふ。公卿・殿上人に同じである。大臣大納言三位以上の人を參議は四位以上をいふ。

カンダバル(Kandahar)【地】アジヤの「アフガニスタン」にある郡邑。國の南部にある海拔約一千米の肥沃なる平原上に位して、印度・ペルシャ間交通上の要地を占む。市街は城壁を圍繞し毛氈及び絹布を産し、附近

質の種類に依つて「アルコール」寒暖計・水銀寒暖計・瓦斯寒暖計・金屬寒暖計等の種類が有つて、之れ等は其の使用の目的により各特徴を持つて居るものである。即ち「アルコール」寒暖計は「アルコール」の寒暖により膨脹或は收縮する物を利用したもので、毛細管を有する硝子管の下部に「アルコール」を充した小球に連續せしめ、この小球内の「アルコール」が外氣の寒暖により膨脹する結果温度を指示するのである。水銀寒暖計は「アルコール」の代りに水銀を封入したものであつて、この水銀を封入するには細き硝子管の底部の膨大した物を取り太き球部を熱して空氣を驅出し、管口を水銀槽中に立てる球部が冷ゆるに従つて水銀は管内に入る。再び球部を熱して管口を水銀槽中に入れる。これを數回行つて水銀が適量に充ちた後、更に強く球部を熱して水銀の溢れつゝある間に管口を密閉するのである。これに目盛を施すには一氣壓で融解しつゝある碎水中に立て、管内の水銀面の位置を管面に記して水點とする。又一氣壓で沸騰しつゝある水蒸氣中に入れ水銀の昇つた位置を沸騰點とする。

カンタ

カンタ

に果實を出す。

カンタプリアザン (Cantabrian Mas)【地】「レネビー」山脈の西、「スベイン」北境から大西洋沿岸に至る山脈。カンタベリー (Cantebury)【地】英國の「ケント」州の都府。「ロンドン」の東南五十五里。西紀六〇五年「セントオーガスチン」がこゝに寺院を建立して以來、「イギリス」宗教上の首府で、現時の寺院は一二世紀に改築したものである。

カンダマツリ(神田祭)【江】江戸の大祭。祭日九月十五日である。本祭・蔭祭とがある。隔年これを執行する。その前日十日を宵宮といふ。宵宮から當日にかけて、大町人は家業を休み店頭には名筆・名畫の金屏風を飾り、或は棧敷をかけ、賓客を迎へて饗應す。氏子の町々には幟を建て、軒提燈を出し、神酒所を設け、酒樽・蒸籠を積む。花車は近傍を練り、年番の町内よりは家臺頭・地走り踊を出し、大神樂・住吉踊等も出て賑しいことは筆紙に盡し難い。されど現時交通その繁忙を極むるに隨ひ漸くその事衰へ、只形式に止まる程度に行ふ。【音】この祭を脚色して同名に名を取り清元に作つた。

この二點を寒暖計の基點として目盛を施すのである。寒暖計は目盛の施し方によつて華氏寒暖計・攝氏寒暖計・列氏寒暖計の三種がある。その他一定時間内の最高最低の温度を示すものには最高最低寒暖計がある。體温度計は一種の最高寒暖計である。一定時間内の温度の變化を示す日記寒暖計、水中の温度を測る水温計、地中の温度を測る地中寒暖計等がある。又物體の膨脹を利用せずに熱電氣を利用した熱電氣寒暖計・電氣抵抗が温度に依つて變化する事實を利用した電氣抵抗寒暖計等がある。これ等は高温度を測定するもので高温計とも稱する。各その條参照。

カンダンケイノヒヨウテン(寒暖計の水點)【Freezing point of thermometer】【物】寒暖計に目盛を施す上の一基點で一氣壓の下で碎氷が融解しつゝある時若くは氷が水りつゝある時の温度である。攝氏寒暖計は水點を零度、華氏寒暖計では水點を三十二度とする。

カンダンケイノフツテン(寒暖計の沸點)【Boiling point of thermometer】【物】寒暖計に目盛を施す上の一基點で一氣壓の下で水の沸騰しつゝある

カンタ

カンタ

カンダラ【漁】鰯・鯖・鱒・鯉等すべて大漁の場合に、混雜に乗じてその漁獲物の一部を取り去る所業をいふ。多くは九州地方に行はるゝ漁業者間の言葉である。

カンタリジン (Cantharidin C<sub>12</sub>H<sub>16</sub>O<sub>4</sub>)【藥】元善及び斑猫の有効成分で、荒菁に「アルコール」或は「エーテル」を加へて得る無色の板狀結晶で、皮膚に觸れると發泡する劇物である。

カンタリス【藥】豆斑蟊なる甲蟲類の昆蟲の全體を乾燥した屍で「カンタリヂン」なる劇物を含み、引赤・發泡並に發毛の効あるため藥局方では丁幾・膏藥又は引赤紙等を造つてこの目的に用ひられる。



カンタリスチユウドク【醫】口腔から腹内に刺しい加答兒性病狀を起し、淫亂症を發し腎臟・尿道・肛門等の疼痛をも伴ふ。其他頭痛・眩暈・顔面潮紅・瞳孔散大・脈搏及び呼吸遲徐となる事がある。又痙攣を起し妊婦の如きは流産を招く事もある。療法は強心劑を與へて後對症療法を執る。カンタリスチンキ藥酒を飲用する。

時の蒸氣の温度。攝氏寒暖計の沸騰點は百度、華氏は二百十二度である。カンダンケイノメモリ(寒暖計の目盛)【Graduation of thermometer】【物】寒暖計で温度を示す分割。これを施すに先づ二基點を定める。現時この二基點は水點と沸騰點とである。次にその間を適當に分割する攝氏寒暖計では一〇〇に分割し、水點を零度沸騰點を百度とする、華氏では水點を三十二度、沸騰點を二百十二度とする。これと同じ割合に水點下にも沸騰點上にも目盛を施すのである。

カンタンシ(感歎詞)【文】カンドクシの條を見よ。

カンタンノユメ(邯鄲の夢)支那の傳説、邯鄲の夢・盧生の夢・又黃梁一炊の夢ともいふ。唐の世、呂翁といふ道士道中邯鄲の邸舎に休んだ時、一少年盧生の榮華を極めた夢の故事を思ひ人生は夢の如く果敢ないことたとへ謂つたのである。委しくは枕中記にある。

カンタンブン(感歎文)【文】感歎の意味を含んだ文をいふ。例へば「嗚呼悲しいかな」の如きもの一例。

カンチユウフ(漢中府)【地】支那陝西省の南隅。南に漢山・北に秦嶺がある

カンタ

カンタ



カンチ

府城は漢水に臨み險要の地。布漆等を産出する。漢の高祖、漢中王としてここに都した。府下は舊蹟が多い。後興元と改めた。



【類環】

カンチユルイ(環蟲類) 【動】蠕形動物の一綱。體長く數多の環節よりなり。隔膜が

カンチヨウ(官廳) 【Behörden】 【法】國家元首が一定範圍の國家事務を外部に向て行はしむるために設定した國家機關。或は國家事務を取扱ふ一團の人及び設備全體、或は單に行政各部の事務の一團を指して官廳と稱することもある。その組織には合議制、獨任制とある。合議制では事務の決定處分は通常官廳組織員の多數決により、獨任制ではその首長が專する。

カンチ

み、官廳は又中央官廳と地方官廳とに分れて居る。

カンチヨウ(艦長) 【軍】一軍艦の主宰者。艦内の整理は勿論、戦闘、教育外交、紀律その他軍艦内に起る百般の事件は一に艦長の裁断を待たざるものはない。又急劇なる事變起り、これが鎮定のため兵力を要すと認めたときは地方官と合議して、臨機の處分をなすの權限がある。

カンチヨウ(干潮) 【ebb】 【地】海水の表面は太陽及び月の引力によつて上昇及び下降し、約半晝夜毎に一漲一落して、所謂潮汐をなし、その下降中を引潮(落潮)、その極點に達した時を干潮といふ。

カンチヨウ(間諜) 交戦國一方の状態を探知して交戦國他方に通じるため作戦地帯内に於て隱密の行動をし、又は虚偽の口實を設けて行動する者をいふ。捕へられた時は軍法會議で審判の後處刑される。

カンチヨウ(灌腸劑) 【藥】注入劑の一種。直腸より注入する藥液の總稱である。通利瀉腸劑、滋養瀉腸劑、興奮瀉腸劑、止痛瀉腸劑等の別がある。それ故又その種類に従つて用ふる藥液も石炭水、食汁、肝油又は他種を調製する。

カンチウ(間島) 【地】朝鮮・支那兩國國境地帯の地方。その豆滿江北の地を南嶺島といふ。北間島は即ち朝鮮・支那人の係争地で、朝鮮及び支那人の雜居地である。面積一五〇〇方里。豆滿江の支流海蘭布、爾哈通等諸河の流域に屬し、龍井村に統監府派出所、局子街に支那延吉廳がある。朝鮮北部に穀物を供する農業地である。

カンドウ(勸業) 【國】罪科を勸考して律に當つること。古く唐書及び我文德實錄に見えてゐる。【又久離といふ。徳川氏の頃無賴の子弟を義絶し家籍を削りて放逐すること。父兄は勘定奉行所へ届出で公簿に登記を乞ふ。これを帳といふ。かくせば本人が他所で惡事をなすとも累をその家に及ばさない規定がある。若し他日先非を悔いて改心せば、父兄は復籍

カンチーカント

カンチーカント 【哲】ドイツの哲學者。西紀一七七〇年より九七年迄、「ゲーニヒスブルグ」大學教授であつた。同九二年「純理範圍内に於ける宗教」の論文を雜誌に投じ、その緒論が雜誌に現る、や「プロシヤ」政府より續載を禁せられたにつき故國「ゲーニヒスブルグ」で續に全篇を公にした。各大學の招聘を辭し名利を求めなかつた。著書「純粹理性批判」が最も名高い。一八〇四年歿。

カント

カント

カント

カンツカント

油等いふ様に異なるが多くのその主薬を合劑とか乳劑とか適當な流動體として用ふる。

カンツウザイ(姦通罪) 【法】夫有る婦女と他の男子と淫猥なる行為をすること。その男子を姦夫、婦女を姦婦、場所を姦所といふ。姦通は刑法上の犯罪で、本夫の告訴を待つて罪を論ずる。二ヶ年以下の懲役となる。

カンテイビヨウガイ(關帝廟街) 【地】臺灣臺南洲管内。外新豊里にある。臺南府の東南約三里。

カンテイリユウ(勸業流) 【演】劇場の看板及び番附に用ふる一種の書體。長谷川勘亭によりて創められたるを以てこの名がある。

カンテキシヨウ(監視哨) 【軍】實彈射撃に彈丸の着點効力等を調査するものをいふ。

カンテン(寒天) 【水】デングサから製したる「トコロラン」を凍らせて製したもの。食料、糊料、酒類清澄劑、寒天紙、防腐劑、弱劑版等の原料とす。

カンテン(乾田) 【農】農地の一種。水田の冬季乾燥せるもの。年中水を湛ふる田に對していふ。稲の收穫多し。

カント

米の品質も良く、裏作として麥・油菜・紫雲英などを栽培する。

カンテンコウヒツ(閑田耕筆) 伴蒿蹊の隨筆。閑田とは蒿蹊の號である。

カンテンチ(乾電池) 【Dry battery】 【物】電池の一種。ルクランシエの電池の變形。亞鉛の箱の中に鹽化アンモニウム(U)の溶液を石膏・燈心等の物體に浸み込ませた物を入れ、その内方に炭の粉と二酸化「マンガ」の粉との混合物をつめ、中央に炭素棒を立てたもので、炭素棒は陽極、亞鉛の外箱が陰極となるのである。液が溢る、ことが無いから携帯に便である。その他の得失は「ルクランシエ」の電池に同じ。

カンテンバイヨウキ(寒天培養基) 【醫】細菌培養器の一種。肉汁に寒天を加へて凝結せしめたる透明固體の培養基「ロベルト、コッポ」の發明に係る。製法に三種ある。【普通寒天斜面培養基】牛肉一斤に水一立を加へ、煮沸し後浸出したる肉汁に寒天一五〇乃至二〇〇瓦を加へ、數時間煮沸して後「ペプトン」一〇〇瓦乃至二〇〇瓦及び食鹽五〇瓦を加へ、普通肉和液を以て中和し、鶏卵白二個を加へ、よく攪拌し「コッポ」の培養基を

カンドウ(龍燈) 忍び提燈の稱。鐵の薄金で火被を造り、把手も亦鐵にて作り、藤を捲きて火熱を避け、燭立は縦横に回旋する様に作り、我方を暗くし先方を見るに便利にしたるもの。

カンドウカンレイ(關東管領) 【歴】建武二年足利尊氏が北條時行を討じて鎌倉に入り、自ら征夷大將軍・東國管領と稱へ、頼朝の舊制を襲ひ、府治を開置したに起る。後其次子、基氏を鎌倉管領とし、上杉憲顯・高師冬を執事とした。四代持氏の頃自ら公方と稱し、執事を管領と稱ふる様になつた。

カンドウシ(感動詞) 【文】喜怒哀樂等すべて人情感動する時に發する聲をいふ。感情の最自然な表彰で、各國語略々その軌が同じである。常に一文章と同等の力を持ち、獨立してその意義は完成してゐる。我國語の「あ」「あら」「お」「あはれ」英語の「A」「O」の類。

カントウシユウ(關東州) 【地】滿洲盛京省の南部にある我租借地遼東半島の一部で主に關東半島から成る面積約二一九方里。旅順・大連の二民政署に分つて旅順に關東廳・旅順鎮守府高等法院、地方法院の裁判所、多くの



カントーカンナ

カントウミヤク(眼動脈)【生】内頸動脈の分岐。眼球及び眼窩内の器官を營養するもの。上眼動脈・鼻前頭動脈・涙腺動脈の三大枝、及び網膜中心動脈・長後毛様動脈・短後毛様動脈・前毛様動脈の四小枝に分岐する。

カントクカンチヨウ(監督官廳) 監督の職務権限を有する官廳。監督官府ともいふ。例へば内務大臣・府縣知事及び郡長は町村なる自治體に對する監督官廳。時としては内務省とか大藏省を指して監督官廳ともいふ。

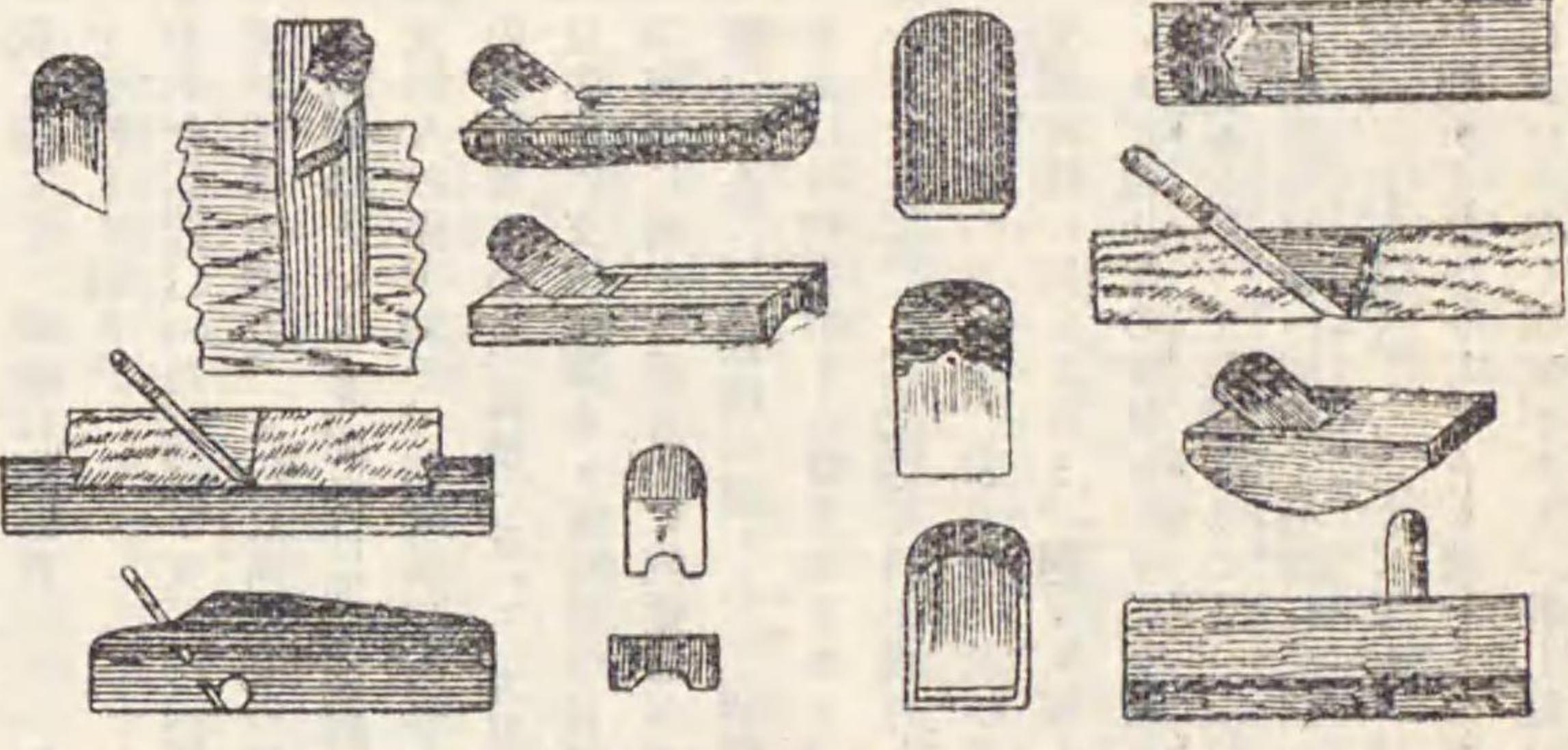
カントクキヨウカイ(監督教會) 【宗】又「エスビコバル」派。英王「エリザベス」が新舊兩教を折衷して國教に定めた一派。後幾多の分派を生じた。我國に行はるゝ聖公會は英米監督派の合同したもの、我國特殊の名稱である。

カントツク(乾船渠) 【船】船舶修理のためにこれを引き入れ浮戸を閉ぢ、「ポンプ」で水を乾して工作し得る裝置。大さは船舶に應じ、築造費は主に地質の如何に關する。普通單に船渠と稱するものはこれである。

カントン(廣東) 【地】コウシツと同じ。カナン(飽) 【工】木材の表面を平滑に削る爲に用ふる道具。通常長さ九寸。厚さ九分の樺木に幅一寸二分あり。

カンナ

二寸迄の鉋刀を種々の勾配に仕込め



るものである。現今普通用らるゝ數種を示すと圖の如くである。

カンナ【植】ダンドクの條を見よ。

カンナガワ(神名川) 【地】群馬縣(上野)多野郡三國山麓に發し、上野・武藏の國境を過ぎて鳥川に合す。又甘樂川ともいふ。

カンナカンニ

カンナギ(巫) 【國】ミコともいふ。神殿に奉仕し、神樂を奏し、或は神託を宣する女をいふ。垂仁帝の皇女日本媛が伊勢齋宮に立たせられたのが始めて、清淨無垢の貴女を充てる。後世一種の舞姫となり、參詣者から賽錢を得て演舞する。春日社・住吉社等では今でも平時これを置く。神代天・細女のお故事に出たといふ。

カンナメマツリ(神嘗祭) 【儀】毎年季秋にあたり、新穀の大御饗を伊勢大神宮に奉る神事。古來九月十七日を以て行れしが明治以後十月十七日と定めた。この日は宮中よりは勅使を派遣せられ、舊例により前日即ち十六日豊受宮に、當日皇太神宮に幣帛及荷前の調絹を奉獻するのである。

カンニンガム(William Cunningham) 【學】英國の經濟學者。千八百七十二年大學を卒へ、初め史學・神學等に精心せしむ。後大に經濟學上の研究に従事

カンニカンネ 六〇〇

し、史的及び實驗的研究の必要を唱導し、英國經濟史家の一先進者である。著作物が多い。

カンニング(George Canning) 【歴】英國の政治家。西紀一八〇七年外務大臣となり、一八一六年以來外交の衝に立ち、總理大臣となる。カリシヤの獨立を助け「アイルランド」の舊教徒に民権を與へた。一八二七年歿。

カンニシ(汗馬) 【漢】馬走り汗の出でたるをいふ。汗馬の勢とは戰功をいふ。カンノシマチ(觀音寺町) 【地】香川縣・讚岐三豊郡の首邑。郡役所・稅務署・區裁判所・警察署等がある。多度津町の西南六里、觀音寺川口に沿ふて西海に面してゐる。應神天皇を祀れる琴引八幡宮のある琴引山及び有明濱等の勝地は近郊にある。人口一三、八五五。

情が初めて吾人の心に表れたものが印象。それを心に思ひつかへて再現するものが観念であると述べた。つまり一度心に經驗したものが心の中心に残つてゐるもの。即ちあらゆる心象を観念といふのである。

カンネンノフクキ(観念の復起) (E. H. Auerbach) 【教】観念の再現ともいふ。一旦意識の外に落ちた観念が、再び意識界に現れる時にいふ。而してその機會に最初の観念と同じ観念が新に意識に入るときを論理的復起といひ、最初の観念と連接した観念が入る時を器械的復起といふ。

カンネンノレンゴウ(観念の聯合) (attention) 【教】観念の復起には通常これを誘起するものがある。例へば湊川といへば、楠公の戦死を想起する。かやうな事實を観念の聯合といふ。観念の聯合には類同・接近・對比・繼續の四則がある。

カンネンブツ(寒念佛) 【佛】僧の寒夜修業すること。綱代笠・墨染の衣にて鉋を叩き念佛を唱へて三味場を巡るものである。

カンネンレンゴウガクハ(観念聯合學派) (Associational scholar) 【教】一切の精神現象を聯合律によつて説明し

これ以外に自發的のことを許さない學派で、「イギリス」の近世の心理學者「ミル」・「ハートレー」・「ペイン」等はこれに屬してゐる。

カンネンレンゴウノホウソク(観念聯合の法則) 【教】吾人の観念は既知のものとの既知のものとの相聯合し或は既知のものとの未知のものとの相聯合して一の観念を形成するもの。故にこの法則に基きて記憶律も定めらるゝ、今參考として列擧すれば、【既知観念】・【表現律】(家と門)・【部分律】(身體と手)・【關係律】(火鉢と鐵瓶)・【因果律】(勉強と成功)・【順序律】(二三等)・【反對律】(白と黒)・【類似律】(馬と牛)・【未知観念】(想像律)では接近律(想像にて接近の形狀を畫く)・變化律(ある事件より事件へと迎へる等)。

カンネンロン(観念論) 【心】人間の認識は事物の真相を示すものでなく、唯假象又は現象を認むるのみであるとの説、又人間實在といふものは吾人の表象であつて表象を離るれば實在は無くなるの説である。

カンノウ(間腦) 【生】腦髓の一部であつて、主要部は視神經牀及び第三腦室である。

カンノウ(感應) (Induction) 【物】磁氣

の感應は磁性體或は反磁性體に磁石を近ければその磁石となる現象。電氣の感應は(イ)導體に帶電體を近くればこれに電氣の出現する現象。

カンノウ(官能) 【生】動物が生活を營む器官のはたらきを官能といふ。

カンノンザキ(觀音崎) 【地】神奈川縣(相模)三浦郡東端。上總の富津と相對して東京灣の咽喉を扼したる要害。砲臺及一七連を照す燈臺がある。

カンノンジ(觀音寺) 【地】天台宗。磁賀縣(近江)蒲生郡老蘇村大字清水鼻。織山の東峯にある。本尊千手觀音。聖德太子の開創といふ。西國第三十二番の札所で、山上に觀音寺の城址がある。佐々木氏十八世、四百餘年間の舊跡で、殘礎處々に存して居る。

カンバ(汗馬) 【漢】馬走り汗の出でたるをいふ。汗馬の勢とは戰功をいふ。

カンバイヨウ(間胚葉) 内外中胚葉の間にあつて後結締組織となるべき細胞のことである。

カンバツ(開伐) 【林】林業上の語。各林木を整一に成長せしむるため、適當の間隔を以て林木を伐採すること。スキヤリともいふ。

カンバツインキ(感發インキ) 書きたる儘では無色なれど熱或は化學的處理により始めて有色文字を現す「イ

カンノ一カンハ 六〇一



カンパ

カンパ。娯楽用に供せらる。例へば青色を現すには鹽化「コバルト」溶液にて書き熱して現色する。又鹽化第二銅溶液にて書いて熱せば黄色を現し、放冷せば褪色する。後者で書いた後、單に酸溶液で處理せば黒文字を現す。鹽素酸曹達溶液で書いて乾し、硫酸銅溶液で濕せば美緑色の文字現る。

カンパニヤ [Campania] 【地】イタリヤの古州で今の「ナポリ」附近に當る所。風光明媚、昔時「エトルリヤ」人等市をたてて此處に居つた所。

カンパマチ (蒲原町) 【地】静岡縣駿河、庵原郡の町。東海道五十三次の一街道の北に城址がある。永祿中北條綱重これに據り武田氏の大軍を防ぎ殊戦して死んだ所。人口八、二〇二。

カンバン (甲板) 【軍】船の梁上に張詰めた木板又は銅・鐵・板の總稱。その位置により上甲板・主要甲板・下甲板・最下甲板等がある。構造により防禦甲板等がある。甲板間の高さは通常六乃至八呎。木を木甲板・鐵を鐵甲板といふ。木は通常「チーク」を用ふ。

カンバン (官版) 【印】勅命及び徳川幕府で刻ませた版。慶長版に始まつて以後屢々印刷され、學問所の起る様

く。當日各寺院に花見堂を飾り、誕生會を立て、甘露水を灌ぐ。又佛生會・誕生會・浴佛節等ともいふ。

カンブリック [Camber] 【織】細い亞麻絲で平織にした薄織物。「シヤツ」地・ハンケチ等に用ひる。綿で擬製したものも「コットンカンブリック」といふ。輸入品である。

カンブリヤキ (寒武利亞紀) 【地】古生代中最も古い時代、生物が始めてこの世に出た時代で、植物には下等の海藻類、動物には三葉蟲等がある。何れも岩石中に化石となりて存する。この時代に成つた成層岩全體を寒武利亞系といふ。粘板岩・砂岩・硬砂岩・珪岩等がある。

カンブレ [Cambrai, Cambry] 【地】「フランス」國の一都邑。國の北部にあつて「シエルト」に沿ふ。西紀一五〇八年「マキシミアン」二世等の對「ベネニス」條約を締結し、織物・石鹼・砂糖等を産する。

カンプロ (雁風呂) 【國】奥州南部外ヶ濱附近で、海邊に落ちてゐる木片を拾ひ集めて立てる湯。傳説に雁が海を越へて來るとき、途中水上で翼を休めため木片を啣へ來り、已に陸に達すれば落ちて去り明春雁が歸る

カンフ

カンバーカンヒ

政十年その書肆によつたものは官版の文字を用ふることを禁せられた。カンバン (眼板) 【動】ウニ類の殻中背に中央部にあつて、歩帶に對する稍々小さな石灰板で五板ある。各々小眼を具へる。

カンバン (乾板) [Dry-plate] 【物・化】ンヤシンの條を見よ。

カンバン (看板) 【賣品】職業等の目標で、需用者の注意を惹くために作りたるもの。轉じては他の表章をもかく呼ぶことがある。例へば印を附けたる半纏・提燈等。

カンバンワタン (甲板渡) [Free on board, F. O. B.] 【商】商品取引上の用語。商品を取引する場合に、その取引場所を定めるのが普通であるが、着船と同時に甲板上で直ぐ買受人に商品を引き渡すものをいふのである。

カンビ (韓非) 【歴】支那戰國時代の法家。韓の公子。史記によれば、口吃で辯論拙であつたが、よく書を著はす。李斯と共に荀卿に事ふ。當時韓、秦に削弱せられ、日に危険であつたのを見て、韓非度、書を以て韓王安を諫めたが容れず、韓非悲憤して書十餘萬言を作つた。秦王これを見て深く賞した。韓非の著した書は

とき又その木片を啄み行くのだが殘れる木片の多いのは、内地で死んだ爲であるからだとしてその供養の心で風呂を立てるのである。

カンブン (漢文) 【漢】漢人種の國文。その通行の區域は支那全土より日本・朝鮮・安南等の諸國である。而してその慣用の字面章句の構造に於て各國互に多少の異同がある。然して漢文を大別すれば古文・駢體文の二つとなる。(カンジ参照)

カンブンシヨ (官文書) 詔書及び法令の定むる程式に従ひ官吏・公吏がその職權内に於て調成したる文書又は調成すべき文書及び公證文書の稱。官吏の職權は法令の明かに定むる事あり、或は内規のこれを定むる事もあり、或はその何を問はず悉くこれを含み狭義の官文書といふ。公證文書とは一人の利益のため官吏・公吏が或事項を證明して特別の證據力を附して、一人に下附する一切の文書をいふ。公債證書・登記の原本の如きものである。

カンベ (Cambay, Kamlay) 【地】印度の西岸「カンベ」灣に面する海港。昔時は殷賑であつて「アラビヤ」商人が常にここに來往したが、海底漸次

カンフーカンヘ

カンヒ

られた。その遺著を韓非子といふ。カンビ (雁皮・前夏羅) 【植】瑞香科。暖地に自生する落葉灌木。高さ五六尺に達する。葉は卵形で互生し有毛、夏日小形の花を莖頂に數個簇生し、萼四裂し花冠狀を呈して、黄色、下部筒狀白色、毛を密生する。内皮を製紙原料とする。



〔びんか〕

カンビエルシトウ [Camber 諸島] 【地】南太平洋中にある諸島。佛國の保護地である。面積一五方哩、一七九七年発見。「テリ」・「タヒチ」間に於て航海上重要な給水地である。

カンビシ (韓非子) カンビの條を見よ。カンビシ (雁皮紙) 【紙】カンビ屬の植物の纖維にて漉いた薄紙。古來膠寫用として使用されたが原料とする野生のカンビ屬減少した爲に近來製造するものない。

カンビーチエー [Campechy] 【地】メキシコ・「ユカタン」半島。カンビーチエー州の海港都府である。「ツキシコ」木材の中心市場である。蠟・棉花・葱根草を輸出する。

カンベキ (岩壁) 【土】港灣・河津・運河等に於て船舶を繋留するに必要な設備の一。埠頭若くは岸に沿ひ作りたる壁にして繋船壁ともいふ。その目的は船舶を陸地に接近せしめ水陸運輸の連絡を全からしむるもの。

ガムベツタ [Leon Michel Gambetta] 【歴】フランスの政治家。普佛戰爭の終期に國民政府の頭統となり、大統領「マクマホン」辭職後大統領に推されしが辭して、「グレビー」大統領の下に首相兼外務卿であつた。一八八二年自ら誤って銃丸に中り歿した。

カンベマチ (神戸町) 【地】三重縣 (伊勢) 河藝郡津市の北約六里。川原田驛の南一里。伊勢街道の一驛。木田氏の舊城地。今本多及び西條の二城址がある。西條城は一に澤城といふ。神戸

に埋積したため市勢漸く衰へた。カンベイシキ (觀兵式) 天長節・陸軍始・その他臨時の儀式等に、陛下が軍隊を集令、整飾せしめて觀閲せらるること。閱兵・分列の二式に分る。皇族・元帥・陸軍大臣・參謀總長・教育總監・其他軍隊の長たる將官等が之を行ふ場合は閱兵式と名づけてゐる。

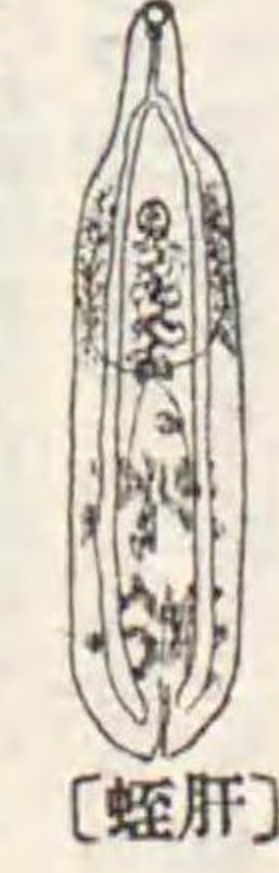
カンハ

カンヒーカンフ

西岸に位し、英國の植民地である。面積六九方哩。皮革・象牙・砂金・米・材木等を輸出する。「ガンビヤ」河は流長一四〇〇哩。

カンヒヨウ (乾瓢) 扁蒲を薄く切りて乾せるもの。即實の成長既に止みなほ少しく青色を帯び、軟毛多く生ぜる時を期して採收し、長さ庖丁で厚さ一寸位宛に輪切となし、匏にて薄く削りまづ竿の上にて干し、後に筵の上に干したるもの。下野の産最も著名で宇都宮方面殊に多く産出す。

カンビル (肝蛭) 【動】吸蟲類に屬する「ジスト」の一種で體舌狀二個の吸盤を有し、綿・羊・牛・馬等の肝臓に寄生して大なる害をなす。



〔蛭肝〕

カンブツエ (灌佛會) 【佛】釋迦誕生日四月八日に行ふ儀式。藍尼尼園で誕生の時、八大龍王歡喜の餘り甘露の雨を降して灌浴せしめたといふ。氏

の居城で灌田倍考、神戸及藍の養子となつて此處を領した。町の人口三、八九二。

カンベントウ (甘扁桃) 【菓】地中海沿岸から中央歐の温帶各地に産する「ブルヌス」・「アミグダラス」の種子で、「ゴム」質・砂糖・「アスバラギン」等を少量宛含有して居るが大部分は脂肪油と蛋白質で此油は搾つて乳劑を造り搾り粕は石鹼に代用する。甘扁桃の形狀は苦扁桃と全く同じで植物全體も植物學上一寸區別し難い。



〔桃扁甘〕

カンホウ (感冒) 【醫】身體及びその一部が温冷の劇變に逢ひ、或は永く濕潤した空氣に觸れるによつて起る。随つてその部分の抵抗力減少し、諸種の病を誘起する。身體は、惡寒・頭痛・嘔・鼻液分泌過多・咳嗽等をまねき、普通呼吸器系の加答兒を續發する。數日間外出を禁じ、身體の温暖を保ち、發汗劑を用ひ温臥すれば治すことがある。發熱・胸痛ある者は注意

カンヘーカンホ







カンユーカン

カンユーリン(官有林) 【林】國家の所有に屬する森林。我國では維新の際諸侯及び寺院の領地奉還並に引繼ぎ官有。民有の區分決定によつて森林原野の官有に屬したものが頗る多い。その後多少の拂下をなしたが現在官有林の面積は六百四十五萬町歩(大正十年現在)である。

カンヨウ(漢陽) 【漢陽】 【地】支那湖北省にある府。揚子江の左岸にある。漢水を隔て、漢口と相對す。人口四十萬と稱す。支那屈指の大都、北門外に支那第一の製鐵所がある。

カンヨウ(咸陽) 【地】支那陝西省西南府咸陽縣にある一都邑。黄河の支流渭水の左岸にある。秦の始皇帝天下を一統するやこの地に宮廷を築き天下の富豪十二萬戸を此に移し、當時支那第一大都であつた。その位置は今咸陽と異つてゐる。

カンヨウキ(咸陽宮) 【能】能の曲名。燕の荆軻と秦舞陽の二人が秦に恨ある燕太子の命を受けて、秦から逃れ來た樊於期の首と地圖をもつて秦に行き、咸陽宮で始皇帝に拜謁した。その時隙を見て荆軻は帝を捉へて刺殺さんとした、帝は花陽夫人の琴の音を名聲に殺されんといつて

カンラ

夫人に琴を弾せしめた。琴の秘曲のために荆軻は恍惚となつた際に、帝は袖を引切つて逃れ遂に二人は殺されたことを作る。

カンラク(乾酪) 【Cheese】 【農】牛乳より製する滋養品。牛乳に價の胃粘膜を加へ又は酸を加へて牛乳中に含める乾酪素を凝固せしむるのである。全乳から製したものを肥乾酪といひ多量の脂肪を含む。脱脂牛乳から製したものを瘠乾酪といひ脂肪含量少ないものである。普通肥乾酪は脂肪三〇%蛋白質二五%を含み、瘠乾酪は脂肪一〇%蛋白質三〇%を含んでゐる

カンラクツ(乾酪素) 【Casein】 【化】哺乳動物の乳汁中に含まれる、蛋白質酪素又はカゼインといひ、強力なる栄養質である。牛乳を煮沸するも酪素は凝結せざれど「アルコール」酸類等に逢へば白色に凝結する。牛乳を空気に曝して置くと凝固するものは

カンラ

空气中にある乳酸、バクテリヤが乳汁中に入つて乳酸菌を起し、乳糖を變じて乳酸にし乳汁を酸性とするから酪素が凝結するのである。豆類にも酪素に似た蛋白質を多量に含みこれを植物乾酪素又は普素といふ。豆腐を製する時豆の搾り汁がニガリで塊まるは普素があるからである。



〔らんらんか〕

カンラン(橄欖) 【種】アジヤの熱帯地方に自生する喬木の喬木。百二十三尺の高さに達する。葉は互生し奇數羽狀複葉で長い柄を具ふ。花は白色。果實は長橢圓形の核果である。果實を食用に供し種子より油を搾る。又樹幹に傷けて樹脂を採りこれを藥用に供する。本邦の暖地に於てこれを栽培する。

カンランガン(橄欖岩) 【Peridotia】 【礦】過鹽基性の岩石。長石を含まず主に橄欖石より成つてその他の鐵礦柘榴石・尖晶石などを含むことがある。この岩石は深成岩で我國では岩脈をなして所々に露出して居る。阿武隈高原の南方、磐城の石川山の附近にこれを栽培する。

カンラーカンリ

六〇六

近などにその例がある。カンランザン(橄欖山) 【地】アジヤトルコの「シリア」地方に在る山。今は「イエヘルエトツル」と稱ふ。イエハサレム」の東に位し「キドロ」の谷を隔て、市内の「ランブル」崗と對する。山頂に「アツセンション」會堂、「ゲトセマニ」園等がある。

カンランゼイ(觀覽稅) 【法】觀覽物に課する稅、觀覽料の百分の五以下を課することとなつてゐる。

カンランセキ(橄欖石) 【Olivine(MgFe)SiO<sub>3</sub> 2(MgFeO, SiO<sub>2</sub>)】 【礦】造岩礦物としてその分布が極めて廣い、普通短柱狀又は厚き卓狀をなし、断面は介殼狀で脆い。硬度は約七、通常「ガラス」狀綠色なるも多少分解すれば黃褐色又は赤色となる、橄欖石は輝石と共に輝綠岩・斑輝岩・玄武岩・橄欖岩などの中に存しその透明なるものを貴橄欖石といつて寶石とす。橄欖石は屢々變化して蛇紋石となることがある。

カンリ(官吏) 【Amn】 【法】國家の元首に隸屬し國家に對し合意に依り、服務義務を設定したる一個人のことで是れに職務の官吏と副職務の官吏とある。然して官吏は國家的服務の

義務及びその他服從の義務等を負ひ、俸給請求權を存するものである。カンリ(管理) 【Bogerning】 【教】監護又は教導ともいふ。一定の規律を設け、兒童にこれを準據せしめて、教授訓練を容易ならしめること。

カンリ(一瓢蕪關里) 【華】石州流種花の祖。徳川幕府の士近藤平五郎政好が祖である。カンリイゾク(フジヨホウ) 【官吏遺族扶助法】 【法】列任文官以上の者の遺族に扶助料を給與することによつて規定せる法律。明治二十三年六月初て公布せられ、大正十二年改正された。

カンリコウイ(管理行爲) 【法】他人に屬する事物又は権利の保存及びその性質を變せざる範圍に於て改良・利用等をなす行爲で、處分行爲とは異りこれに代理の原則によるものと事務管理の規定に従ふものとある。

カンリシヤ(管理者) 【教】町村にある小學校の管理者は町村長にして、縣立中學校の管理者は縣知事等其例。カンリジユツ(管理術) 【教】學校教育をなす場合、その生徒を管理して教授し易からしむるをいふ。

カンリニン(管理人) 【法】私法上他人の財産上の事務を管理するために撰

カンリ

任せられたる人。例へば不在者の財産管理人。相続人の曠飲せる相続財産所有者の委任によることがある。又相続財産の管理人の如く裁判所より選任せらるゝこともある。

カンリノウ(管理農) 【農】營農法の一。地主自ら農業を營むことなく、管理者を置いて農場の經營をせしむるもので、通常富豪又は團體企業の農業に行はる。

カンリフクムキリツ(官吏服務規律) 【法】官吏の服務義務に關する法規。官吏は任命の結果國家に對して特別の權力關係の下に立ち國民一般義務と異なる服務義務を負ふものでこの義務の内容によつて規定するものを官吏服務規律といふ。

カンリユウ(寒流) 【地】高緯度の地から低緯度の地に向つて流れる海流。その海水の温度は附近の海水よりも低い。本邦の近海にあるものには千島海流(親潮)・樺太海流・リマン海流等有名である。

カンリユウ(乾溜) 【化】固形物を密閉器中に入れ、外部から熱して分解を起させ蒸氣を生せしめてこれを外部に導いて冷却し種々の物質を得る方

カンリ

法。例へば木材乾溜・石炭乾溜の如きである。カンリ、ユウゴム(含硫護膜) 【Vulcanized caoutchouc】 【化】熱帯地方の特種の植物から抽出した液汁を凝固させた物が護膜である。この物は寒氣に遇ふと硬化して折れ易くなるから、これを防ぐために硫黄を混じて用ふ。この硫黄を混じた「ゴム」を「ゴム」と稱す。普通器具に使用する物は含硫「ゴム」である。

カンリヨウ(管領) 【歴】足利幕府の職制、管領の時上杉朝定・高師直の二人を執事職とし、將軍を輔けて政務に參與せしめたが、貞治元年これを管領と改め、斯波・細川・畠山の三家を之に補し、又東國を鎮するたために關東管領を置いた。

カンリヨウ(顔料) 【畫】「リズリン」・油・膠等に和して、水彩繪具・油繪具・印刷「インキ」・繪具墨等を造る。その染料と異なる點は、顔料は水に溶解せず、これを塗るには油・膠等に依るも染料は水に溶解して、容易に被塗物に着色することを得るにある。

カンリヨウジヨウ(顔料錠) 【畫】顔料を固めて隨時硯又は皿で磨つて用ふ

カンリ

もの。これを作るには魚膠汁と糖類「ゴム」液との同量混液で顔料を練つて、硝子板の間に挟んで壓搾して乾燥するので形状は適宜とする。カンリン(翰林) 【漢】支那で京にある大學をいふ。轉じて學者社會もいふ。カンリソウキン(眼輪筋) 眼の周圍筋である。眼瞼破裂を閉鎖し、且内眥を牽引する。カンレイシヤ(寒冷紗) 【織】もと亞麻絲を以て紗織にしたものであるが、今は綿織で金巾の一層薄手な廣幅物をいふ。主に印度産である。蚊帳・暖簾・繪絹代用等用途が廣い。

カンレキノイワイ(還曆祝) 【國】六十歳の賀である。誕生日に行ふ。六十一は千支一週して初に還る歳故本卦歸ともいふ。

カンロ(甘露) 【動】草木の葉から滴る甘汁。昔からこの甘汁が點下するものとがあると、瑞兆として、瑞露・天酒・神漿などいつて、神靈の精とか仁政の澤などいつて、これを食せば五臟六腑を養ひ、永年饒ふることがないといつてゐたが、科學の進歩は、今日之を蛆虫の分泌物であるのと、早天に際し、重に潤葉樹植物が、水分の吸收、發散作用の關係上、葉から發散す

カンリ

カンリカンレ 六〇七



カンレーキ

水分が乏しくなり、遂に植物の葉液である糖分を分泌するのであることが分つたのである。この場合には植物は多く枯死してしまふ。

カンロク(勘六) 【演】江戸中村座の手代芝居看板の勘亭流書風の祖。岡崎屋と號す。文化二年歿。

カンロシユ(甘露酒) 【釀】味醂の一種。百分中酒精分二・三・二、澱粉一九・三二〇。備後福山の名産で古來多く用ひられる。

カンロベール(Francois Certain canrob) 【歴】フランスの元帥。ナポレオン三世の幕僚。クリミア戦争の時佛軍の司令官となり、西紀一八五九年「マゼンタ」の役に参加した。普佛戦争の際第六軍團長とし普軍に當つたが「メッツ」に包圍せられ遂に普軍に降つた。

キ

キ 五十音圖中カ行第二の音。

キ(季) 【俳】俳句には春・夏・秋・冬いづれかの景物・感情をこめて、を定規とす。この景物感情を季といふ。季は

春の季。夕立は夏の季。天の川は秋の季。蒲團は冬の季などその例。キ(記) 漢文の一體。事實を記述するもの、もと叙事を主とせるも後には議論を訴ふるもの、又韻語を用ふるものも出た。

キ(木) 【演】劇場で舞臺の合圖に狂言方の撃つ拍子木の稱。その撃方に數種ある。「とめき」といつて幕を引付けて後賑かに「しやざり」たる木「ちよん／＼」と二つ撃つのでこれに俳優は各自化粧を始める。「いちやう」とは「二度目」ともいつて化粧をする頃撃つものでこれに衣裳や髪を附ける。「まはり」は最初二つ、次に一つ頭取臺の前で撃ち初め、次第に舞臺の方廻りて行く。これで俳優が悉く舞臺に出る。「なほす」とはすつかり舞臺に揃つた時ちよん／＼と二つ打つ同時に鳴物にかゝり幕を開ける。

キ(基) 【Radical】 【化】イオン化する能はざる根を基といふ。例「アミトゲン」基(NH<sub>2</sub>)「エチル」基(C<sub>2</sub>H<sub>5</sub>)の如しである。

キ(畿) 【地】支那周の制度。王城から遠近により設けた區別の稱。王城の四方五百里を王城又は國畿と稱し王の直隸地である。その外里數を加ふる

互生し、圓錐狀、形で鈍鋸齒を具ふ十月枝頭にて黃花を開く。

キアリ(黃蟻) 【動】蟻の一種。蟻類中大形、全身黃褐色、背上に二棘があるアカアリともいふ。

キアンコウ(輝安礦) 【Stibnite Sbs.】 【鑛】斜方晶系に屬する金屬鑛物。通常長い柱狀又は針狀の結晶をなし、縦に細い條線が多い。柔軟で強い金屬光澤を有して鉛白色をなしてゐる。硬度二燧燭の火でも容易に熔ける。我國の伊豫市之川嶺山は世界に名高い美品を産し、これより「アンチモン」を採つて活版製造の原料とし、又他金屬に鍍金し、「ゴム」製造の際その硬化劑とし、その外塗料、顔料として需用が甚だ廣い。

キアンティンツケン(議案提出權) 【法】議案を立法議會の議に付する權。議案中でも特に法律案の提出權は、我國にあつては政府、兩議院が均等に存することになつてゐる。

キアンニウドウバンゲン(喜安入道蕃元) 【歴】和泉の人。琉球に渡り、尙寧尙質王に信任を受けた。承應二年歿。記には木國とある。和銅六年五月紀伊と改めた。北は大和・河内・和泉伊

勢、東南西は太平洋に面してゐる。紀伊川下流の地を除いては、國中山岳が起伏してゐる。面積三八一方哩。行政上一市九郡に分ち、和歌山市、海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁は和歌山縣、南牟婁、北牟婁は三重縣に屬する。産物の主なるものはネール、紋羽織、蜜柑、漆器、木材、那智黒石等である。

キイサンミヤク(紀伊山脈) 【地】紀伊、伊勢、志摩の三國を略し東西に貫く山脈の總稱。西は紀伊水道を隔て、四國の山脈と相對し、東は伊勢に没し再び顯はれて赤石山脈となる。この山脈の中部には十津川・北山川の二流並にその下流熊野川があつて壯大なる横谷を造り、地形を複雑ならしめてゐる。山脈中には經ヶ岳・山上ヶ岳・大臺ヶ原山・大塔峰等があつて高二千米内外を有してゐる。この山脈中の縦谷を走る河流には西に紀伊川・有田川・日高川ある。東に宮川・柳田川等がある。

キイシバイ(生石灰) 【化】サンカカルシウムを見よ。

キイスイドウ(紀伊水道) 【地】和歌山縣の西岸と徳島縣との間の水路。日ノ御崎と蒲生田岬とはその外口を成

勢、東南西は太平洋に面してゐる。紀伊川下流の地を除いては、國中山岳が起伏してゐる。面積三八一方哩。行政上一市九郡に分ち、和歌山市、海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁は和歌山縣、南牟婁、北牟婁は三重縣に屬する。産物の主なるものはネール、紋羽織、蜜柑、漆器、木材、那智黒石等である。

キイサキイ(紀伊山脈) 【地】紀伊、伊勢、志摩の三國を略し東西に貫く山脈の總稱。西は紀伊水道を隔て、四國の山脈と相對し、東は伊勢に没し再び顯はれて赤石山脈となる。この山脈の中部には十津川・北山川の二流並にその下流熊野川があつて壯大なる横谷を造り、地形を複雑ならしめてゐる。山脈中には經ヶ岳・山上ヶ岳・大臺ヶ原山・大塔峰等があつて高二千米内外を有してゐる。この山脈中の縦谷を走る河流には西に紀伊川・有田川・日高川ある。東に宮川・柳田川等がある。

キイシバイ(生石灰) 【化】サンカカルシウムを見よ。

キイスイドウ(紀伊水道) 【地】和歌山縣の西岸と徳島縣との間の水路。日ノ御崎と蒲生田岬とはその外口を成

勢、東南西は太平洋に面してゐる。紀伊川下流の地を除いては、國中山岳が起伏してゐる。面積三八一方哩。行政上一市九郡に分ち、和歌山市、海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁は和歌山縣、南牟婁、北牟婁は三重縣に屬する。産物の主なるものはネール、紋羽織、蜜柑、漆器、木材、那智黒石等である。

キイサキイ(紀伊山脈) 【地】紀伊、伊勢、志摩の三國を略し東西に貫く山脈の總稱。西は紀伊水道を隔て、四國の山脈と相對し、東は伊勢に没し再び顯はれて赤石山脈となる。この山脈の中部には十津川・北山川の二流並にその下流熊野川があつて壯大なる横谷を造り、地形を複雑ならしめてゐる。山脈中には經ヶ岳・山上ヶ岳・大臺ヶ原山・大塔峰等があつて高二千米内外を有してゐる。この山脈中の縦谷を走る河流には西に紀伊川・有田川・日高川ある。東に宮川・柳田川等がある。

キアイキアシ

に從ひ種々の畿がある。キ(義) 【儒道五常の第二位に在る徳。仁に次ぎ重んぜられたるもの。義は通常これを解して宜となし、ことに當りて宜しきに合ふをいふ。又正と解し、情を以て曲げず、人に依りて許さざるの意である。尙又公と解し、授受・取捨の際平衡なるをいひ、廣くは正・宜・公を包括した徳をいふ。漢文の一體。その理に就きてこれが球明をなすものにして禮記の冠義・祭義・財義の諸篇の如き即これである。

キ(魏) 【歴】支那に於ける國號。この國號を稱せしもの三つある。戰國時代の諸侯。初め晉に仕へその大夫であつた。文侯の時諸侯に封せられ、その領域は現今の山西省南部より河南省に跨る。文侯の子武侯の時、吳起を用ひて將とし、國勢大いに振つたがその子惠王、齊に破られ、爾來國勢振はず。九代にして秦に滅された。三國時代の國名曹丞これを建つ。故に曹魏ともいふ。曹丞は曹操の子。後漢の天下を篡ひて帝位に昇る。當時蜀・吳の二國と對立し、洛陽に都し、勢最も強かつた。丕の後四世にして其の臣司馬炎の爲めに篡はる。曰南北朝時代北朝の國名。鮮卑の拓跋珪これ

を建つ。故に拓跋魏(後、姓を元氏と改めし)により元魏とも云ふ)ともいふ。初め平城(山西省)に都す。後、洛陽に遷る。珪(道武帝)の孫太武帝雄略あつて、南朝の宋を滅し、支那を一統せんとし、屢々宋を破る。その玄孫孝文帝の時、禮樂を起し、制度を改め文物觀るべきものあつたが、國勢これより衰へ、帝の歿後三十年にして東魏西魏に分裂し、東魏は北齊に、西魏は北周に滅された。

キアイ(氣合) 【擊】敵手に對しまづ我身全部に心を配り少しも間隙なき様にして、敵手の舉動に注意し、對手來れば我却てこれを撃ち又は突かんとする氣分を以てそれに應じ、對手に間隙あればそれに乘するの心を忘れず、勇氣我に定まり活潑敢爲の氣全身に滿つるをいふのである。

キイク(偽惡) 偽善に對して作られた近代語。惡を衒ふこと。

キアゲハ 【動】昆虫類鱗翅目に屬する。翅は濃黄色で黒點多く、又藍色を混する。幼虫は綠色で黒帶多く又赤紋がある。胡蘿蔔・茴香・防風等の類を食害する。

キアシキ(黃足鴨) 【動】鴨の一種。脚黄色。鴨として中大的もので、背廣及

し、それから淡路島に至るまで長さ二十哩、幅十二哩乃至二十五哩。水道の水は一は紀淡海峡によつて大阪灣に通じ、一は鳴門海峡を経て瀬戸内海に通ずる。

キイチゴ(懸鉤子・木苺) 【植】薔薇科に屬する小灌木。果實は食用に供する。アワイチゴを見よ。

キイチボウ(歸一法) 【Unary Method】 【數】比例の應用問題を解く別法。各數が一なるときに所要の數を求め、然る後與へられた條件に所要の數を求むることである。

キイチボウゲンサンリヤクノマキ(鬼一法眼三略卷) 【演】淨瑠璃の曲名。源義經が鬼一法眼の秘藏したる兵法の書を読んだことを敷衍して作つたもの。作者は松田文耕堂。長谷川千四で享保十六年大阪竹本座で始めて興行した。全篇五段十三齣から出來てゐる。そのうち今上演するものは第三段目菊畑から奥庭で鬼一切腹する所と、四段目槍垣茶屋から大藏卿物語と、五段目橋辨慶の所である。

キイト(生絲) 【農】家蠶の繭から製した糸。羽二重・糸織その他の絹織物の原料になる。同功繭から取つたものを玉糸といひ、類節がある。銘仙等の

勢、東南西は太平洋に面してゐる。紀伊川下流の地を除いては、國中山岳が起伏してゐる。面積三八一方哩。行政上一市九郡に分ち、和歌山市、海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁は和歌山縣、南牟婁、北牟婁は三重縣に屬する。産物の主なるものはネール、紋羽織、蜜柑、漆器、木材、那智黒石等である。

キイサキイ(紀伊山脈) 【地】紀伊、伊勢、志摩の三國を略し東西に貫く山脈の總稱。西は紀伊水道を隔て、四國の山脈と相對し、東は伊勢に没し再び顯はれて赤石山脈となる。この山脈の中部には十津川・北山川の二流並にその下流熊野川があつて壯大なる横谷を造り、地形を複雑ならしめてゐる。山脈中には經ヶ岳・山上ヶ岳・大臺ヶ原山・大塔峰等があつて高二千米内外を有してゐる。この山脈中の縦谷を走る河流には西に紀伊川・有田川・日高川ある。東に宮川・柳田川等がある。

キイシバイ(生石灰) 【化】サンカカルシウムを見よ。

キイスイドウ(紀伊水道) 【地】和歌山縣の西岸と徳島縣との間の水路。日ノ御崎と蒲生田岬とはその外口を成

勢、東南西は太平洋に面してゐる。紀伊川下流の地を除いては、國中山岳が起伏してゐる。面積三八一方哩。行政上一市九郡に分ち、和歌山市、海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁は和歌山縣、南牟婁、北牟婁は三重縣に屬する。産物の主なるものはネール、紋羽織、蜜柑、漆器、木材、那智黒石等である。

キイサキイ(紀伊山脈) 【地】紀伊、伊勢、志摩の三國を略し東西に貫く山脈の總稱。西は紀伊水道を隔て、四國の山脈と相對し、東は伊勢に没し再び顯はれて赤石山脈となる。この山脈の中部には十津川・北山川の二流並にその下流熊野川があつて壯大なる横谷を造り、地形を複雑ならしめてゐる。山脈中には經ヶ岳・山上ヶ岳・大臺ヶ原山・大塔峰等があつて高二千米内外を有してゐる。この山脈中の縦谷を走る河流には西に紀伊川・有田川・日高川ある。東に宮川・柳田川等がある。

キイシバイ(生石灰) 【化】サンカカルシウムを見よ。

キイスイドウ(紀伊水道) 【地】和歌山縣の西岸と徳島縣との間の水路。日ノ御崎と蒲生田岬とはその外口を成

キアイキアシ

に從ひ種々の畿がある。キ(義) 【儒道五常の第二位に在る徳。仁に次ぎ重んぜられたるもの。義は通常これを解して宜となし、ことに當りて宜しきに合ふをいふ。又正と解し、情を以て曲げず、人に依りて許さざるの意である。尙又公と解し、授受・取捨の際平衡なるをいひ、廣くは正・宜・公を包括した徳をいふ。漢文の一體。その理に就きてこれが球明をなすものにして禮記の冠義・祭義・財義の諸篇の如き即これである。

キ(魏) 【歴】支那に於ける國號。この國號を稱せしもの三つある。戰國時代の諸侯。初め晉に仕へその大夫であつた。文侯の時諸侯に封せられ、その領域は現今の山西省南部より河南省に跨る。文侯の子武侯の時、吳起を用ひて將とし、國勢大いに振つたがその子惠王、齊に破られ、爾來國勢振はず。九代にして秦に滅された。三國時代の國名曹丞これを建つ。故に曹魏ともいふ。曹丞は曹操の子。後漢の天下を篡ひて帝位に昇る。當時蜀・吳の二國と對立し、洛陽に都し、勢最も強かつた。丕の後四世にして其の臣司馬炎の爲めに篡はる。曰南北朝時代北朝の國名。鮮卑の拓跋珪これ

を建つ。故に拓跋魏(後、姓を元氏と改めし)により元魏とも云ふ)ともいふ。初め平城(山西省)に都す。後、洛陽に遷る。珪(道武帝)の孫太武帝雄略あつて、南朝の宋を滅し、支那を一統せんとし、屢々宋を破る。その玄孫孝文帝の時、禮樂を起し、制度を改め文物觀るべきものあつたが、國勢これより衰へ、帝の歿後三十年にして東魏西魏に分裂し、東魏は北齊に、西魏は北周に滅された。

キアイ(氣合) 【擊】敵手に對しまづ我身全部に心を配り少しも間隙なき様にして、敵手の舉動に注意し、對手來れば我却てこれを撃ち又は突かんとする氣分を以てそれに應じ、對手に間隙あればそれに乘するの心を忘れず、勇氣我に定まり活潑敢爲の氣全身に滿つるをいふのである。

キイク(偽惡) 偽善に對して作られた近代語。惡を衒ふこと。

キアゲハ 【動】昆虫類鱗翅目に屬する。翅は濃黄色で黒點多く、又藍色を混する。幼虫は綠色で黒帶多く又赤紋がある。胡蘿蔔・茴香・防風等の類を食害する。

キアシキ(黃足鴨) 【動】鴨の一種。脚黄色。鴨として中大的もので、背廣及

し、それから淡路島に至るまで長さ二十哩、幅十二哩乃至二十五哩。水道の水は一は紀淡海峡によつて大阪灣に通じ、一は鳴門海峡を経て瀬戸内海に通ずる。

キイチゴ(懸鉤子・木苺) 【植】薔薇科に屬する小灌木。果實は食用に供する。アワイチゴを見よ。

キイチボウ(歸一法) 【Unary Method】 【數】比例の應用問題を解く別法。各數が一なるときに所要の數を求め、然る後與へられた條件に所要の數を求むることである。

キイチボウゲンサンリヤクノマキ(鬼一法眼三略卷) 【演】淨瑠璃の曲名。源義經が鬼一法眼の秘藏したる兵法の書を読んだことを敷衍して作つたもの。作者は松田文耕堂。長谷川千四で享保十六年大阪竹本座で始めて興行した。全篇五段十三齣から出來てゐる。そのうち今上演するものは第三段目菊畑から奥庭で鬼一切腹する所と、四段目槍垣茶屋から大藏卿物語と、五段目橋辨慶の所である。

キイト(生絲) 【農】家蠶の繭から製した糸。羽二重・糸織その他の絹織物の原料になる。同功繭から取つたものを玉糸といひ、類節がある。銘仙等の

勢、東南西は太平洋に面してゐる。紀伊川下流の地を除いては、國中山岳が起伏してゐる。面積三八一方哩。行政上一市九郡に分ち、和歌山市、海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁は和歌山縣、南牟婁、北牟婁は三重縣に屬する。産物の主なるものはネール、紋羽織、蜜柑、漆器、木材、那智黒石等である。

キイサキイ(紀伊山脈) 【地】紀伊、伊勢、志摩の三國を略し東西に貫く山脈の總稱。西は紀伊水道を隔て、四國の山脈と相對し、東は伊勢に没し再び顯はれて赤石山脈となる。この山脈の中部には十津川・北山川の二流並にその下流熊野川があつて壯大なる横谷を造り、地形を複雑ならしめてゐる。山脈中には經ヶ岳・山上ヶ岳・大臺ヶ原山・大塔峰等があつて高二千米内外を有してゐる。この山脈中の縦谷を走る河流には西に紀伊川・有田川・日高川ある。東に宮川・柳田川等がある。

キイシバイ(生石灰) 【化】サンカカルシウムを見よ。

キイスイドウ(紀伊水道) 【地】和歌山縣の西岸と徳島縣との間の水路。日ノ御崎と蒲生田岬とはその外口を成

勢、東南西は太平洋に面してゐる。紀伊川下流の地を除いては、國中山岳が起伏してゐる。面積三八一方哩。行政上一市九郡に分ち、和歌山市、海草、那賀、伊都、有田、日高、西牟婁、東牟婁は和歌山縣、南牟婁、北牟婁は三重縣に屬する。産物の主なるものはネール、紋羽織、蜜柑、漆器、木材、那智黒石等である。

キイサキイ(紀伊山脈) 【地】紀伊、伊勢、志摩の三國を略し東西に貫く山脈の總稱。西は紀伊水道を隔て、四國の山脈と相對し、東は伊勢に没し再び顯はれて赤石山脈となる。この山脈の中部には十津川・北山川の二流並にその下流熊野川があつて壯大なる横谷を造り、地形を複雑ならしめてゐる。山脈中には經ヶ岳・山上ヶ岳・大臺ヶ原山・大塔峰等があつて高二千米内外を有してゐる。この山脈中の縦谷を走る河流には西に紀伊川・有田川・日高川ある。東に宮川・柳田川等がある。

キイシバイ(生石灰) 【化】サンカカルシウムを見よ。

キイスイドウ(紀伊水道) 【地】和歌山縣の西岸と徳島縣との間の水路。日ノ御崎と蒲生田岬とはその外口を成



キイト

原料とする、又糸の練りを施さない物も生糸といふことがある。

キイトケンサジヨ(生糸検査所) 【監】

生糸の品位及び重量に就いて検査を行ふ所。我國では横濱市に官設の検査所がある。その他石川縣金澤市・福井縣等の縣立の検査所がある。主として輸出生糸の検査を行ふと同時に生糸生産者の依頼に應じて特別検査を施行し、製絲法の改良を圖る。

キイトトシボ(動)【動】蠶の一種。體は黃色にして美、胸背は綠色、尾端の背部は黒色である。

キイトノケンサ(生糸の検査) 【農】

生糸の検査を別して肉眼鑑定及び器械検査の二とする。前者として生糸色澤の等級を定め、後者は生糸の纖維の齊否・縮節の多少・再練の難易、強力並に伸縮の多少を檢定し場合により含水量・練破の多少をも検査する器械に檢尺器・檢位衡(デニール衡)・檢力計等がある。

キイトノサンカク(生糸の産額) 【農】

生糸の産額は年々増加し最近の調査によれば年産額六百萬貫、價格六億七千萬圓である。その中六割三分は米國・德國・英國・伊太利等に輸出される。

キインーキウイ

キイン(議員) 【政】合議制の機關を組織し議事を討議決定する數に加はる權利ある者。例へば貴族院議員・衆議院議員・府・縣・市・村會議員・陸軍技術審査部議員・海軍將官會議議員等で多くその選與せらるる。範圍の名を冠せらる。選任の方法・資格・職務・權限等各法合に依りて定めらる。各々の關係・範圍の條項を参照せよ。

キインホウ(議院法) 【法】帝國議會に關する細目を規定したる法律。

議會議長・委員及び書記官の組織並に職務・議長議員の歳費・議院に於ける會議・豫算の議定・國務大臣政府委員の議院に於ける地位。貴族院・衆議院の質問・上奏・建議の權限。貴衆兩院の關係。貴衆兩院と人民・官廳・地方議會との關係・人民の請願。議員の退職・資格審査・請願・辭職・補選。議院の規律警察及び懲罰等を規定する。明治二十二年二月十一日法律第一號を以て發布せられ明治三十九年法律第四十九號を以て改正せられた。

キウイ(動)【動】走禽類に屬する鳥。ニュージーランドの特産で家雞大、嘴長く脚短く、雄は雄雉に似て、雌は雌雉に似る。

キウエーキエフ

キウエスト(Kew) 【地】アメリカ合衆國「フロリダ」州の港市。「フロリダ」海峽にある「キウエスト」島にある。「アメリカ」合衆國海軍の根據地。煙草・海綿の産がある。

キウマ(木馬) 【機】形の木材運搬器具。木材を積み小丸太或は枝木の横木を敷きたるもの、上を曳き下すもの。

キウラ(木裏) 【工】板目の板に於て木心に近き側面をいふ、木表より質緻密で美である。

キウルシ(生漆) 【塗】漆樹より極き取りたるまの灰色の樹液。製漆に對しては、その採集の時期によりて濃淡・裏目漆・留漆及び枝漆等の別がある。

キウンチヤウ(瓊州) 【地】

支那廣東省瓊山縣の都市である。附近の海口を合せ外國貿易港の一つで人口二十萬ある。

キエ(佛依) 【佛】佛を信じて邪より正に歸り依るとの意。信仰と同じ。

キエ(木繪) 【象】象の一種木片を嵌し、て表せる圖樣。奈良平安朝の頃に唐土より傳へたるものらしく、東大寺の琵琶など最も古い。今の寄木細工はこの遺製である。

キエ(寄貨) 【貨】珍らしいたからもの意。又と得べからざる好機をいふ。

キカ(歸化) 【法】一定の條件を以て、他國又は無所屬國の人民が、或國の國籍を取得することをいふ。或人が自己の望により他國の國民となる事である。我現行法にては外國人が日本に歸化するには、歸化前引續き五ヶ年間の住所又は十ヶ年間の居所を有すること。意思能力あること。品行方正なること。獨立し生計を営むに足るべき資産又は技能ある者。從來の國籍を失ふこと。五の要件に充たなければならぬ。

キカ(氣化) 【物】液體が氣體になるをいひ、蒸發と沸騰とを含む。前者は液の表面から徐々に氣體となるをいひ、後者は液が熱せられてその内部から泡を生じ、盛に氣

キエルーキオク

キエル(貴鉛) 【鑛】金銀を含んだ鉛。割合に金銀を含む量の多いもの。

キエン(義捐) 【義】義のためにする意で金品等を施して不幸の者を恵むこと。

キエンサン(稀鹽酸) 【化】鹽酸を蒸餾水に三倍に稀めたものである。

キオイジン(勢獅子) 【演】常磐津に合せて演ずる舞踏。本外題は「勢獅子劇場花籃」といつて曾我祭の練物に擬して男女の手足舞に扮し、渡り獅子の頭と尾とに二人入つて狂ひを舞ふ振事である。

キオイレル(木を入れる) 【演】演劇用語。柏子木を入れること。舞臺の開閉・廻り舞臺の時に柏子木を撃つ。

キオク(記憶) 【憶】「憶」變更なき正質なる觀念の復起。過去といふ附屬的意義を有するものである。

キカ(木質温泉) 【地】神奈川県相模(足柄下郡)にある。箱根山中早川の西岸に位し、早雲山の東麓である。底倉を距る數丁。鹽泉にて箱根七湯の一つである。

キカイ(機械) 【機】自然力を結合して成る所の完全なる器具。勢力的・勞力的の二つがある。前者は蒸氣機關及び電氣發動機など、後者は紡績機械・織物機械などである。

キカイ(議會) 【法】人民の代表者が立法又は豫算に關し意思を發表する所。中央・地方の二がある。我國に於ては帝國議會・府縣會・郡會及び市町村會などがある。

キカイガク(機械學) 【機】機械の構造に就きて考究する學科。天然力を機械的エネルギーに變せしむる原動力の研究。材料強弱學・機械學・機械製作學。等各種の分科がある。

キカイガシマ(鬼界島) 【地】鹿児島縣(大隅)大島郡、大島の東方の島、周回七里。

キカイユウガク(機械工學) 【機】應用力學の一種。機械の運動を研究する學科である。

キカイスイライ(機械水雷) 【軍】觸發

的國語的日對的の二に分る。

キオクシユツ(記憶術) 【Mnemonic】

又は頓智的方法に依り、故意に觀念を聯合せしむる便法である。

キオス(Chios) 【地】地中海の一支多島海中の一島。「トルコ」にては「サキズアダツシ」をいふ。面積五十三方里。人口約十萬、首府を「キオス」といふ。島内山岳多く風光明輝である。氣候・地味共に佳良で、葡萄酒・乳香・無花果・オリブ等を生ずる。又「アンチモニー」大理石を出す。住民はまた「ギリシヤ」人で今ギリシヤの領地である。

キオモテ(木表) 【建】板目の板に於て木心に遠き側面をいふ。

キオロシマチ(木下町) 【地】千葉縣(下總)印旛郡の町。利根川に臨む要津。寛文中から乗船場を設け、鹿島・香取・銚子への參詣遊覽者を運び、旅客を運送する。又鐵道成田線の停車場がある。人口三、三三七。

キオン(氣温) 【氣】空氣の温度。太陽熱は一旦地表を温め、地表は更にその熱を地上の空氣に傳へ、下層の空氣は更に傳導と對流とによりて次第に上層の空氣にその熱を與へる。さ

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

キオクーキオン

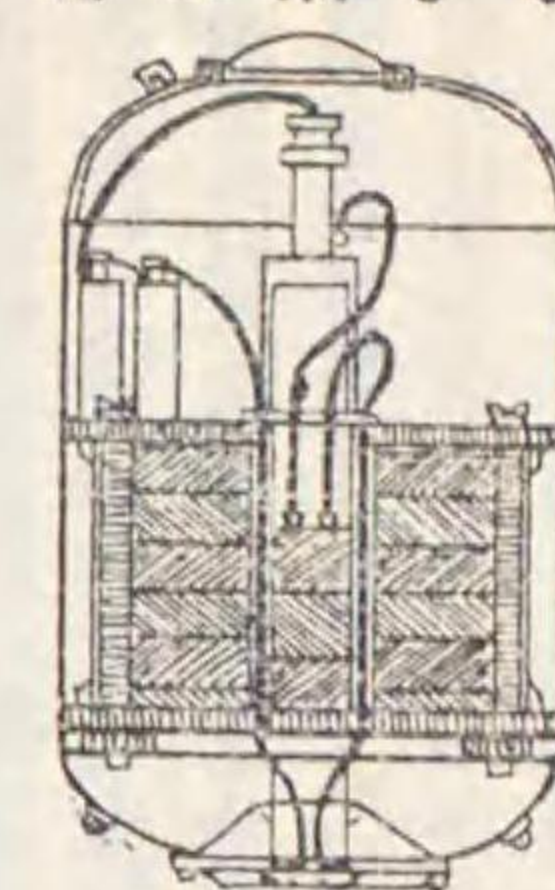
キオクーキオン

キオクーキオン



キカイ

水雷の一。敵艦の衝脚力を利用し電路を閉塞し以て水雷を發火せしむる如く裝置したるもの。電源陸上に置かる。



雷水機機

ひ、水雷内に裝置したるときこれを電氣機械水雷と謂ふ。

キカイセイソウ(機械製糸) 機械によつて蠶繭から引出した生絲。汽罐を使用し熱及び原動力を根基として絲引又は揚絲等の工程皆機械の力によるもの。優等の生絲を製することが出来る。

キカイセイズ(機械製圖) 用器畫法によつて機械及び機械裝置の一部を線に表はした圖。時には淡彩を加へたものもある。

カイタイソウ(器械體操) 【體】徒手體操に對して器械を用ひる體操のこと。體育の重要視される今日は各學校で盛に行はれてゐる。兵式體操の鐵棒・木馬・木等の器械その他さまざまの器械がある。

キカイ

剛毅果敢等の精神修養。身體強健の素に適し、軍隊體操から始まる。

キカイツチ(機械槌) 【機】機械力で動かす槌の總稱。本機には蒸氣力による蒸氣槌、リフトハンマー、リールハンマー、トリップハンマー等稱する種類があつて重に鐵材を用ひる建築等には至極便利なものである。家屋の大建築架橋工事等に鐵材を鋸留する場合に使用する。蒸氣の「カッポップ」に依つて打力を如何にも變更することが出来る。その他壓搾空氣の力を應用し強度の打力を出し前種と同じ働きを行ふもの、槌自身の重さによるもの等があるが何れも機械力にて目的の槌が上下に運動し打力は常に一定して居る。

キカイテキ(機械的) 何等の變化もない同一の活動を次から次と斷へまなく續けて行くこと。機械の様にといふ意味で物理的・不變化的といふ意。キカイテキセカイカン(機械的世界觀) 世界の現象は悉く物理學的の原則に支配され、それ以上の力即ち生命・靈魂の力といふ如きものなしとするもの。唯物論者又は自然主義者は多くこの世界に依るものである。

キカイネ(木矩) 【體】二個の木片を曲尺形に正しく接合して作った直角定規で、長手は薄く妻手は稍厚い、木工に用ひられる。

キカネツ(氣化熱) [Heat of vaporization] 【物】液體の一瓦が同温度の氣體となる爲に要する熱量。液體が氣化の際分子間の距離増大し位置の「エネルギー」に變じ、又外壓に抗して體積を増すに費さるゝ、その値は水五三六「カロリー」・エーテル九二「カロリー」・アルコール二〇八「カロリー」等である。蒸發熱ともいふ。

キカネセキ(氣賀關) 【地】静岡縣(遠江)引佐郡氣賀町にあつた關、徳川幕府の世、今切によらずに濱松三河吉田間を往來する旅人を檢した所。

キカン(艦艦) 【軍】艦隊の司令長官若しくは司令艦坐乗の軍艦の稱。司令長官又は司令官の官階に隨て旗を艦頭に掲げ夜間は旗を白燈に代ふ。艦艦は戰闘の際に照射を蒙るもの、艦隊中にて最も優秀なる軍艦を充つるものである。

キカン(艦艦) 艦はこれを占に用ひ疑を決すべきもの、艦は物を辨すべきものとの意、手本・模範といふに同じである。

キカン(器官) 【生】高等なる生物體は諸機能を分擔せる數多の部分から成る、その異りたる機能ある各部分を器官といふ。

キカン(氣管) 【生】上は喉頭に連り下は氣管支に接する中空の管。數多の彎曲せる。

キカン(軟骨) 【生】環と環との間は筋肉によつて相連接する。管の後方凡三分一は軟骨輪を缺きて筋肉のみより成つてゐる。肺に空氣を出入せせる通路である。

キカン(軌間) 【鐵】鐵道軌條の内側間の距離。歐米諸國にて多く用ひるのは四呎八吋二分一で、普通これを標準軌間といひ、これより廣きは廣軌、狭きは狹軌と稱するのである。我國のは三呎六吋である。

キカン(期間) 【法】或時期より或時期迄の時日の範圍。その計算法は他に法令・裁判上又法律行為上別に定なき時は民法規定に因る。民法起算法は、時間を以てしたるは即時より、日・月又は年を以てせば初日を算入する。

キカン(幾何學) [Geometry] 【數】物の形、大位置に關する眞理を研究する學科である。又空間の性質を論ずる學科なりともいふことが出来る。これを分ちて【平面幾何學】、【立體幾何學】の二とする。前者は平面(表面の最單なるもの)上に畫いた圖形を論じ、後者は立體表面及び表面上に畫いた圖形を論ずる。而して初等平面幾何學は點・直線及び圓より成る圖形に限り論ぜられる。幾何學が論ぜず。未日休日の時は翌日満了となる。刑法及び訴訟法の計算法は各法律に規定あるも大體は民法と同じ。

キカイ

植物學上の語。植物體自己の重量及び一部より動く力に對して抵抗すべき強固なる組織である。厚角組織、厚膜組織及び木質部皮兩纖維等である。この中初皮纖維最も大切である。その排列は屈折・牽引・裂開等の抵抗によりて異なる。

キカイテキチンデンガン(器械的沈澱岩) 【鑛・地】碎岩層ともいふ。水成岩中最も普通なるもので、既成の火成岩又は水成岩が、大氣水等の營力によりて破壊し、風雨流水に運搬されて、地球面の低處なる海底若しくは湖沼等に堆積固結したものである。

キカイノキリ(機械鋸) 【機】機械力に依つて動す鋸。サーキュラー、ソー、バンド、ソー、フレイチ、ソー等がある。1は丸鋸の回轉。2は帶鋸の回轉。3は一又は二以上の平行鋸の上下又は前後に依つて材木を挽くもの。

キカイバタ(機械織機) 【機】人力の代りに機械力で運轉するやう構造した織機。又自動織機といふのがある。人力使用のもの機械使用のものとの中間に在るもので或は手ばかりで運轉し、或は足ばかりで運轉するものがある。

キカイボリ(機械掘) 【鑛】鑛石を掘り取るのに人力によるを手掘といひこれに對して専ら機械によつて坑道を開鑿して鑛石を掘り取るをいふ。

キカイユ(機械油) 【油】摩擦を減ずる爲めに機械の摺動する部分に注ぐ油。その用途によつて種々ある。汽笛のやうに重いものに使ふものは濃厚な「シリンドル」油で又淡薄な「ダイナモ」油等皆粘度を異にしてゐる。菜種油は鑛油と共に廣く機械の注油にしてゐる。又時計のやうに精緻な機械には鯨油を用ふ。これ等を使用すれば金屬間即ち固體同士の摩擦を防止せし液體の摩擦をして甚だ輕微にすることが出来る。

キカイガク(幾何學) [Geometry] 【數】物の形、大位置に關する眞理を研究する學科である。又空間の性質を論ずる學科なりともいふことが出来る。これを分ちて【平面幾何學】、【立體幾何學】の二とする。前者は平面(表面の最單なるもの)上に畫いた圖形を論じ、後者は立體表面及び表面上に畫いた圖形を論ずる。而して初等平面幾何學は點・直線及び圓より成る圖形に限り論ぜられる。幾何學が論ぜず。未日休日の時は翌日満了となる。刑法及び訴訟法の計算法は各法律に規定あるも大體は民法と同じ。

キカン(汽罐) 【機】蒸氣機關を動かす爲に水を蒸氣に變するカム。水管式・圓筒形・直立圓筒形等がある。燃料は石炭・重油。壓力は一平方吋五十乃至三百ポンドである。

キカン(機關) 【機】燃料若しくは或物體中に含有せらるゝ「エネルギー」を變じて機械を動かす原動力となすもの。大別して熱機關及び水壓機關の二に區別される。各その條を見よ。

キカン(輝岩) [Pyroxenite] 【礦】火成岩中最も鹽基性の岩石でよくその構造が深成岩に似て居るけれども岩脈をなして産出せられることが多い。輝石が集まつて粒狀構造をなし、その色は一般に綠である。

キカンガク(器官學) 【生】生物體外部の形狀。特に諸器官の外形を觀察考究する學問である。

キカンシ(氣管支) 【生】氣管は下部に於て二分し更に細分して氣胞に達する。氣管支とはその二分したる部分より氣胞に達するまでをいふ。

キカンシ(機關紙) 特種の團體・集會・結社等に於てそれらの黨派に便利なる

キカン

キカイ

キカイボリ(機械掘) 【鑛】鑛石を掘り取るのに人力によるを手掘といひこれに對して専ら機械によつて坑道を開鑿して鑛石を掘り取るをいふ。

キカイユ(機械油) 【油】摩擦を減ずる爲めに機械の摺動する部分に注ぐ油。その用途によつて種々ある。汽笛のやうに重いものに使ふものは濃厚な「シリンドル」油で又淡薄な「ダイナモ」油等皆粘度を異にしてゐる。菜種油は鑛油と共に廣く機械の注油にしてゐる。又時計のやうに精緻な機械には鯨油を用ふ。これ等を使用すれば金屬間即ち固體同士の摩擦を防止せし液體の摩擦をして甚だ輕微にすることが出来る。

キカイガク(幾何學) [Geometry] 【數】物の形、大位置に關する眞理を研究する學科である。又空間の性質を論ずる學科なりともいふことが出来る。これを分ちて【平面幾何學】、【立體幾何學】の二とする。前者は平面(表面の最單なるもの)上に畫いた圖形を論じ、後者は立體表面及び表面上に畫いた圖形を論ずる。而して初等平面幾何學は點・直線及び圓より成る圖形に限り論ぜられる。幾何學が論ぜず。未日休日の時は翌日満了となる。刑法及び訴訟法の計算法は各法律に規定あるも大體は民法と同じ。

キカン(汽罐) 【機】蒸氣機關を動かす爲に水を蒸氣に變するカム。水管式・圓筒形・直立圓筒形等がある。燃料は石炭・重油。壓力は一平方吋五十乃至三百ポンドである。

キカン(機關) 【機】燃料若しくは或物體中に含有せらるゝ「エネルギー」を變じて機械を動かす原動力となすもの。大別して熱機關及び水壓機關の二に區別される。各その條を見よ。

キカン(輝岩) [Pyroxenite] 【礦】火成岩中最も鹽基性の岩石でよくその構造が深成岩に似て居るけれども岩脈をなして産出せられることが多い。輝石が集まつて粒狀構造をなし、その色は一般に綠である。

キカンガク(器官學) 【生】生物體外部の形狀。特に諸器官の外形を觀察考究する學問である。

キカンシ(氣管支) 【生】氣管は下部に於て二分し更に細分して氣胞に達する。氣管支とはその二分したる部分より氣胞に達するまでをいふ。

キカンシ(機關紙) 特種の團體・集會・結社等に於てそれらの黨派に便利なる

キカン

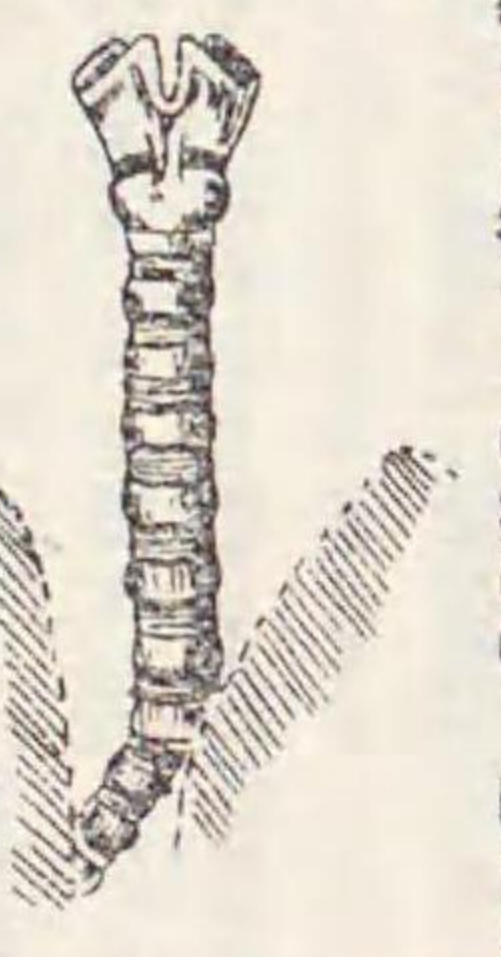
キカン

キカン

キカン

キカン

キカン



環相



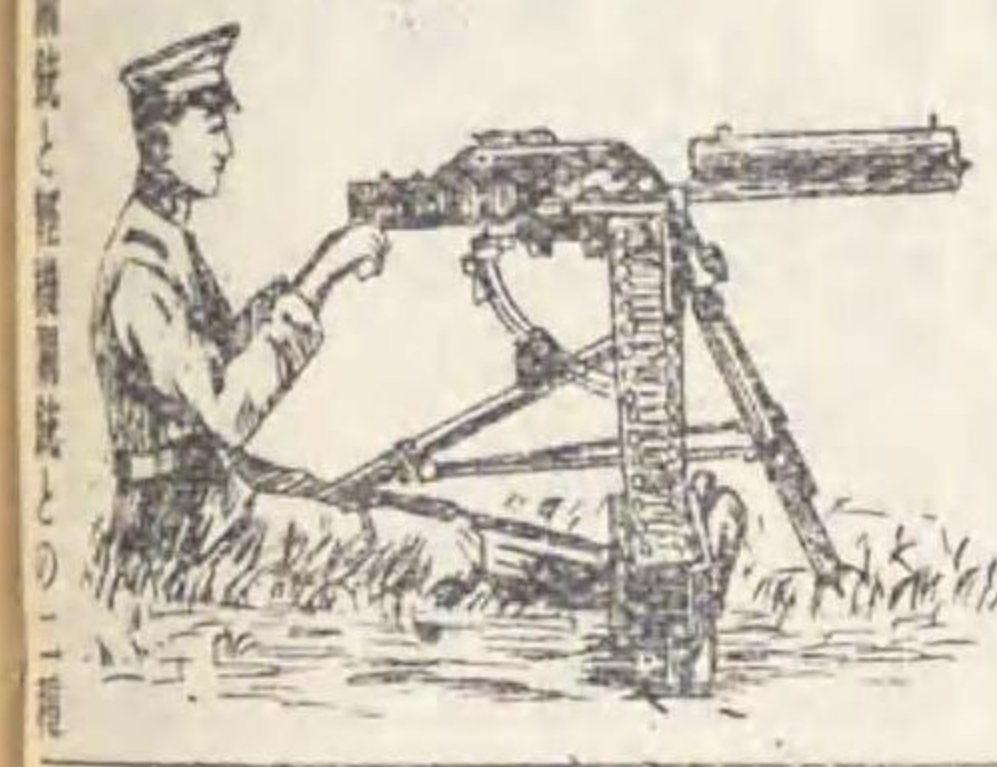
有力な言論を發表するために發行されてゐる新聞雑誌。

キカンシカクテヨウシヨウ(氣管支擴張症) 【醫】老人の咳、劇性氣管支加答兒、肺氣腫、慢性肺炎、肺肋膜癒着等が原因と成つて氣管支が擴張する病。多量の喀痰がある。顔面は蒼白く食慾缺乏し擴張部分分泌物の嚔出を防ぐため患者は患側を下にして寝るのが常である。氣管支炎その他原因となる病を癒し「バルナム」劑の内服と吸入を成さしめる。又、囊狀擴張症が一部に局限する時は外科的手術で奏効することがある。

キカンシカタル(氣管支加答兒) 【醫】氣管支の爛れる病。一名氣管支炎といふ。急性・慢性。又は纖維素性等にありそれ／＼相應した種々の症候があるが何れも咳嗽と喀痰はつきもので、その他頭痛・惡寒・發熱或は呼吸困難、起る。急性のものは二三日乃至一週日位で癒るが毛細氣管支炎又は慢性症等は全治し難い。療法は症狀に應じて發汗劑・祛痰劑を與へて良く、重曹水・食鹽水等で吸入するのがよい。重症のものは安靜靜地療養の必要がある。同時に強壯劑を用ふ。

キカンシカタル(氣管支加答兒) 【醫】氣管支の爛れる病。一名氣管支炎といふ。急性・慢性。又は纖維素性等にありそれ／＼相應した種々の症候があるが何れも咳嗽と喀痰はつきもので、その他頭痛・惡寒・發熱或は呼吸困難、起る。急性のものは二三日乃至一週日位で癒るが毛細氣管支炎又は慢性症等は全治し難い。療法は症狀に應じて發汗劑・祛痰劑を與へて良く、重曹水・食鹽水等で吸入するのがよい。重症のものは安靜靜地療養の必要がある。同時に強壯劑を用ふ。

要汽罐のある室。通常船の中央部汽機室の前部にある。上部に圍壁を設け、船内底より最上部迄突き抜けてある。戰艦・巡洋艦等には防御甲板の下に設けてある。  
キカンシツ(機關室) 【船】汽船にありては主要汽機及び汽罐室の總稱。その他の船では船を航行せしむる機關のある室をいふので、凡て船内底に位置する。  
キカンシヤ(機關車) 【鐵】貨車、客車等を運搬する原動力。大別して炭水及び水機機關車の二種である。英・米・獨各特長を異にし、構造狀態も亦種々ある。燃料は石炭・重油等である。礦山用のものには壓縮空氣を動力とするものもある。  
キカンジユウ(機關銃) 【軍】機關銃は少數の人員を以て狭少な地域より短時間に多數の彈丸を發射するを目的とする。



キカンシヤ(機關車) 【鐵】貨車、客車等を運搬する原動力。大別して炭水及び水機機關車の二種である。英・米・獨各特長を異にし、構造狀態も亦種々ある。燃料は石炭・重油等である。礦山用のものには壓縮空氣を動力とするものもある。  
キカンジユウ(機關銃) 【軍】機關銃は少數の人員を以て狭少な地域より短時間に多數の彈丸を發射するを目的とする。  
キカンシヤ(機關車) 【鐵】貨車、客車等を運搬する原動力。大別して炭水及び水機機關車の二種である。英・米・獨各特長を異にし、構造狀態も亦種々ある。燃料は石炭・重油等である。礦山用のものには壓縮空氣を動力とするものもある。  
キカンジユウ(機關銃) 【軍】機關銃は少數の人員を以て狭少な地域より短時間に多數の彈丸を發射するを目的とする。

キカンシヤ(機關車) 【鐵】貨車、客車等を運搬する原動力。大別して炭水及び水機機關車の二種である。英・米・獨各特長を異にし、構造狀態も亦種々ある。燃料は石炭・重油等である。礦山用のものには壓縮空氣を動力とするものもある。  
キカンジユウ(機關銃) 【軍】機關銃は少數の人員を以て狭少な地域より短時間に多數の彈丸を發射するを目的とする。

キキヤク(棄却) 【法】受訴裁判所が審理の結果、その訴を理由なしと認め、若くは條件を缺乏せるものとして返却することである。  
キキヤク(義脚) 切り捨てた脚を補ふために木又は「ゴム」で作つた足の形をいふ。  
キキヤク(鰭脚類) 【動】哺乳類の一目その體形は水中生活に應化し、全身に短毛を密生する。四肢指趾の数は五、各爪を具へ、厚き蹼膜にて連接する。齒は三種共に具り食肉目に似てる。温帯及び寒帯の海に棲息して、魚介・海藻類等を食とし、睡眠する時は岩礁又は海岸に上る。性溫柔



[類脚鰭]

キキユウ(氣球) 空氣より輕き氣體。例へば水素の如きを充たし空中高く昇騰する球狀の囊である。氣球の創作者として傳ふるは「フランス」人「モンゴルフィエ」である。  
キキユウ(實業) 【漢】父祖の業を受けつぐことである。禮記「良治之子必學爲裘、良弓之子必學爲箕」より出づ。  
キキユウ(企業) 人が生産の目的に向つて自己の計算危險に於て爲す各種生産力の結合である。これに大小又は個人的會社的の別がある。  
キキユウ(桔梗) 【植】桔梗科に屬する宿根草本。古名をアサガホといひ、秋の七草の一に數へる。その花美なるを以て栽培される。地下莖を煎じて呼吸器の諸病に用ひる。  
キキユウ(海膽類) 【動】海膽類の一種。形扁くして圓く、表面に短き棘を簇生し、我國各地の海に産する。

キキユウ(氣球) 空氣より輕き氣體。例へば水素の如きを充たし空中高く昇騰する球狀の囊である。氣球の創作者として傳ふるは「フランス」人「モンゴルフィエ」である。  
キキユウ(實業) 【漢】父祖の業を受けつぐことである。禮記「良治之子必學爲裘、良弓之子必學爲箕」より出づ。  
キキユウ(企業) 人が生産の目的に向つて自己の計算危險に於て爲す各種生産力の結合である。これに大小又は個人的會社的の別がある。  
キキユウ(桔梗) 【植】桔梗科に屬する宿根草本。古名をアサガホといひ、秋の七草の一に數へる。その花美なるを以て栽培される。地下莖を煎じて呼吸器の諸病に用ひる。  
キキユウ(海膽類) 【動】海膽類の一種。形扁くして圓く、表面に短き棘を簇生し、我國各地の海に産する。

キキヤク(棄却) 【法】受訴裁判所が審理の結果、その訴を理由なしと認め、若くは條件を缺乏せるものとして返却することである。  
キキヤク(義脚) 切り捨てた脚を補ふために木又は「ゴム」で作つた足の形をいふ。  
キキヤク(鰭脚類) 【動】哺乳類の一目その體形は水中生活に應化し、全身に短毛を密生する。四肢指趾の数は五、各爪を具へ、厚き蹼膜にて連接する。齒は三種共に具り食肉目に似てる。温帯及び寒帯の海に棲息して、魚介・海藻類等を食とし、睡眠する時は岩礁又は海岸に上る。性溫柔



[石菊]

キキヤク(棄却) 【法】受訴裁判所が審理の結果、その訴を理由なしと認め、若くは條件を缺乏せるものとして返却することである。  
キキヤク(義脚) 切り捨てた脚を補ふために木又は「ゴム」で作つた足の形をいふ。  
キキヤク(鰭脚類) 【動】哺乳類の一目その體形は水中生活に應化し、全身に短毛を密生する。四肢指趾の数は五、各爪を具へ、厚き蹼膜にて連接する。齒は三種共に具り食肉目に似てる。温帯及び寒帯の海に棲息して、魚介・海藻類等を食とし、睡眠する時は岩礁又は海岸に上る。性溫柔



キクイキケキ

ふ。翼には白斑がある。冬春の候松林等に來て小虫を捕食する。保護鳥。



キクイムシ(木蠹虫) 【動】箱翅目昆蟲の幼虫。

キクイモ(菊芋) 【植】菊科の山地路傍に自生する多年生草本。高さ五六尺、葉は長橢圓形で尖り、微鋸齒ありて互生する。地下にサトイモに似た地下莖を有する。夏秋の候黄色の稍々ヒマハリより小さき花を開く。

キクウ(和津祇空) 【俳】大阪の俳人。初め青流と號し、芭蕉門人で俳諧の外詩文にも長じた。諸國を遍歴し、箱根に至り宗祇の墓に詣てた時落飾して祇空といふ。享保八年歿。

キクカノエン(菊花の宴) 古昔、宮中にて九月九日に群臣に賜はりし宴。この日賜はる酒は菊の酒又は菊酒といふ又は菊の盃ともいふ。菊の節會「又は重陽の宴」といふ。

キクキリノモン(菊桐紋) 我皇室の御紋。菊は「十六菊及び「八重十六菊」は「五七桐」である。菊桐の紋

キクチタケトモ(菊池武時) 【歴】元弘の子。元弘中兵を擧げて官軍に屬し王事に勤めた。足利尊氏の西に來るや少貳貞經、子頼尙等が迎へるを知り、急に頼尙の後軍を殲し貞經を太宰府に破つた。尊氏、直義到り之と戦つて多々良に敗れ山中に匿れた。

キクチタケトモ(菊池武朝) 【歴】武敏の子。肥後守左京權太夫であつた。天長。應永の際義兵を擧げて屢々今川貞世、大内義弘等と戦ひ、互に勝敗あつた。應永十四年卒す。

キクチタケマサ(菊池武政) 【歴】武光の子。肥後守となり左京大夫に任せられた。正年二十一年赤馬關に大内義弘を破つた。建徳元年兵五萬を以て東上を計り、足利義詮爲に今川貞世を九州探題たらしめた。文中二年

キクチ

キクサキケス

を皇室の御調度類に附けさせ給ふに就きては古今の學者に種々の考説あつて一定しない。

キクザイタク(菊細工) 菊の枝をため、その花又は葉を種々に組合せて人物、鳥獸等の形を造りたるものである。

キクジサ(菊蒿草) 【植】菊科の園地に栽培せらる。越年生草本。高さ二三尺に達する。葉は潤葉。細葉の二種がある。春夏の候紫色の花を開く。冬春の頃新葉の嫩縮菜合したものを採りて生食する。

キクジドウ(菊慈童) 【能】能の曲名。支那の古事より出でたるもので、時の皇帝の怒りに觸れた童兒が或る深山に幽閉せられたが、其の童子は日々の日課として菊の葉に一種の經文をかき谷間に流した、處が其の下流でこの水を呑む者は長壽を保つたといふ一種不老長壽を夢想した神話で觀世流ではかりの稱。菊の作物を出す。枕草子の條を見よ。

キクジン(麴塵) 【歴】天皇の藝の時に用ひらる。袍。カリヤス。灰。紫の三色で染めた黄勝ちな緑色の模様は桐。風。竹又は唐草と鳥等である。

キクスイ(菊水) 【圖】花一輪が流水上に浮ばつた形。繪師の定款

義滿十七萬の兵を率ひ來り攻めた。泰成親王を擧げて六萬の兵を以て防戦したが敬和した。天授一年筑後より肥後を平げ大に九州を平定せんと欲したが事成らずして病の爲に卒す。

キクチタケミツ(菊池武光) 【歴】南朝の忠臣武時の第八子。幼名豊田十郎。肥後守であつた。興國中懷良親王を奉じて小貳、大友の兵を破りその他各所に轉戦して敵軍を破りし事多く遂て小貳頼尙の大軍を筑後川に擊破して武威を九州に振つた。文中二年歿。明治三十五年從三位を贈位。

キクチヨウサイ(菊池容齋) 【歴】歴史畫の畫家、名は武保、通稱は量平、容齋はその號。江戸の人。十八歳にて高田圓乘の門に入りて畫を學ぶ。容齋尊王の念に篤く歴史上の明君、義士、忠臣、烈婦の像五百餘人を圖しこれに小傳を附し、「前賢故實」と題し孝明天皇に獻じ嘉賞せられた。明治十一年六月歿。

キクトウダイ(菊燈臺) 臺座を菊形に彫りたる燈臺。白水又は黒塗。朱塗等がある。古くは唯山形に造れるのみであつた。

キクトウジ(菊結) 【圖】菊結の義。水干、直垂などの縫留に餘りの糸を組み

キクチキケト

キクスーキクチ

として世に知られる。もと山吹の花を水上に浮べた形であつたが、誤り傳へたのだといへど、果してどうか疑はしい。

キクスイ(菊虎) 【動】天牛科の一種。體長橢圓形、長さ三分藍黒色にして胸背上に斑紋がある。幼蟲は白色、長さ五六分。成蟲。幼蟲共に菊を食害す。

キクスイダマシ(菊益科に屬する小甲蟲。體長五分許り、長橢圓形にして黄褐色なれど胸背は黒色である。大根などの花に集る害蟲。

キクスミ(菊炭) 木炭の一種。原材はクヌギ。切口の割目に因みて名く。又サクラズミともいふ。

キクチガワ(菊池川) 【地】熊本縣(肥後)にある川。源を菊池郡深葉山に發し、菊池、鹿本の二郡を貫流して沃土を沖積し玉名郡高瀬町附近を過ぎて有明海に注ぐ。流程十六里であるが灌溉運輸の便少くない。

キクチゴザン(菊池五山) 【圖】名は桐孫。字は無愁。五山はその號。始め江戸に入り市川寛齋の門に學び、遂に帷を下して諸生を教授し、特に詩名が高く、後郷里高松に還りて藩儒となつた。安政六年八月十四日歿。

押し平め、菊花の形にしたもの。キクニキヨウ(菊人形) 菊花にて人物、鳥獸、風景等を模擬したるもの。文化年間江戸麻布狸穴に始まり、後巢鴨村に移り又安政三年本郷團子坂に開闢し、明治十五年頃には他は廢絶して團子坂の獨有となつたが土地開くる爲これ漸次廢止する者多く明治四十三年頃には兩國國技館に於て毎年開闢する事となり、水道、電氣等を應用し俳優の舞臺に髣髴たるものがある。尚大阪名古屋等各地に於ても盛に行はれて居る。

キクノエ(菊宴) 【歴】又た重陽の宴ともいふ。九月九日行はる。昔は天子南殿に出御ありて節會があつた。群臣に菊酒を贈り、御帳の左右に來英の袋をかけ、御前に菊瓶を置く、共に邪疫を拂ふ爲たといはれる。

キクノキセワタ(菊の著綿) 【歴】九月八日夜菊花に小圓形の眞綿を著せ露に沾へるを翌日取つて、これにて身體を摩せば延年長壽の効があるといふ。中世の頃流行した。

キクバオウレン(黄蓮) 【植】毛茛科に屬し、根出葉を有する。果實は膏突である。根に苦味性あり健胃劑となる。

キクパン(菊版) 【紙】普通の教科書型

キクニキケト

キクチ

縣(肥後)菊池郡隈府村大字正觀寺に在る神社。祭神菊池武時。明治三年創建。同十一年一月十日別格官幣社に列した。祭日は毎年五月五日。

キクチダイロク(菊池大麓) 【理】理學博士。帝國學士會員。舊津山藩士。著作秋坪の二子、著作佳吉の弟。明治三年英國「ケンブリッヂ」大學に遊學八年歸朝、東京大學教授に任じ、又文部省諸官を兼た。廿三年貴族院議員に勅選。三十一年東京帝國大學總長。三十四年文部大臣に任じ、在職中男爵を授けられた。三十九年英國「ケンブリッヂ」大學に聘せられ我教育勸語を講じたことがある。

キクチタケシゲ(菊池武重) 【歴】南朝の忠臣武時の長子。二郎と稱した。肥後守となり、後左京大夫となつた。元弘三年父義兵を擧げたが勝つべからざるを知り歸國再擧を計らしめた。建武中東國に赴き足利直義と箱根に戦ひ、延光元年新田義貞に屬し、尊氏の東上を防ぎ利あらず延暦寺に退いた。又脇屋義助と船阪山を攻めて功があつた。尊氏僞て歸順せる時、因はれて禁錮せられたが脱走歸國し、一色範氏等と戦つた。歿年不明。明治三十五年從五位を贈られた。

の版長三尺一寸。巾二尺一寸の洋紙全紙を十六に切つたもの稱。最初四つに折り、更に四つに折つて四四十六となる。ところから十六片の菊花になぞらへて菊版といふ。又舶來せし當時用紙に菊の印ありしに起るともいふ。

キクメイシ(海花石) 【動】多放線珊瑚類の一種。團塊状の群體で、骨格の表面には一様に菊花の如き模様が散在する。

「ホリブ」は、分體によつて繁殖する。暖海の岩石に固着して居る。

キクモ(菊藻) 【植】水田その他淺き止水中に生ずる水草である。根は土中に入り莖の高さ三四寸乃至一尺許に達する。羽狀に分裂した小葉數箇を輪生し、その長短及び分裂の狀態等一定でない。夏日葉腋に紅紫色を呈した唇形花を開く。

キクラゲ(木耳) 【植】擔子菌類。山林諸木の朽處に生ず。大小不同なれども大なるものは二三寸に達する。その形類人形の耳に似てゐる。内面は

キクメーキクチ

キクメーキクチ



石花海



キケルキケマ

暗褐色で平滑、外面は淡褐色で短毛を密生する。秋日多く發生する。繁殖器を乾して食用とする。

キケルマ(轎車) 葬車の稱。もと轎と車とは別で、轎とは喪屋俗に小屋形ともいふ。棺の上部を覆ふもので其狀屋形に似てゐるので此名がある。

キケン(義訓) 【國】萬葉假名の讀み方の一種。正訓ともいふ。例へば天地をアメツチ。姉妹をアネイモトと訓むが如しである。

キケイ(略型) 動物體胚種の成熟する間に異常の發育をなし、不整齊の形態をなすをいふ。

キケキ(喜劇) 【演】滑稽に脚色せられたる劇をいふ。  
キケキ(喜劇) 【演】滑稽に脚色せられたる劇をいふ。

キケツ(刺厥) 【漢】彫刻に用ふる刀といふ意。ホリモノのこと。  
キケマン(黄星) 【植】粟科の陰地に生ずる草本。概形ムラサキケマンに似る。葉は白色で脈は緑色を帯びる。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キケロキケン

有毒植物である。

キケロ(Oliver) 【歴】「イマ」第一の雄辯家。文人であつたから、死後幾多の演説筆記及び文章を遺した、亦哲學に於て深遠な理想を持つてゐた。(西紀前一〇〇—四八年)

キケン(紀元) 【歴】歴史上の年代を計算する標準となる年をいふ。古代「ギリシヤ」にては西暦前七六六年を「ロイヤ」にては同七五三年を、「アラビヤ」にては西暦六二一年を紀元元年となせるが如し。現今「キリスト」教國にては「キリスト」降誕の年を以て我國にては神武天皇御即位の年を以て紀元元年としてゐる。

キケン(期限) 【法】將來到達する事の確定せる事實に法律行為の發生・實行・消滅を繋ぎしむる法律行為の任意的附款。本年最終日給與すべし(始期)、我去る迄開代を拂ふべし(終期)といふ類。又明示・默示・確定・不確定任意及法定期限の類の別がある。不確定期限とは早晩到來すべきも時期の確定せざるもの故に到來の不確なる條件及全くの無期限とは異なる。キケン(危険思想) 自己の主張を實現するために暴力を以て他人に用られる。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キコウ(氣孔) 【植】葉の表皮に存在する孔。その周縁には孔邊細胞と稱する二個の特異な細胞があり、開閉するに因り、大きき三分、外面は淡青色に光澤があつて種々の模様がある。シタガキ・キシヤク・イシヤラ貝・オナガキともいふ。

キケンキコウ

あるが、現在では所謂危険思想と言へば、社會主義、無政府主義の思想を指していつてゐる。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キケン(見城) 【佛】佛釋天王の居所。須彌山の頂上切利天の中央で純金にて作られ珍寶珠玉を飾る。藥叉神周圍を警衛し、城中の宗樓重閣に、天王無数の天女と歡樂し居るといふ。

キコウ

る。氣孔は初期出入の門口である。キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。



【ゲササキ】

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。

キコウ(氣候) 【天】大氣の平均の状態のこと。大氣の状態の瞬時を指して天氣といふ。故に氣候といふことは平均の氣候状態ともいふべきで、氣候の要素は氣温・湿度・降水量・風向・風速・雲量・日照時等の如きをいふ。



キシン

キシンアルデヒド(蟻酸 Aldehyd)

[HOHO] [化] フォルムアルデヒドとも稱する。刺激性の臭気ある氣體。普通水溶液として知られ、還元作用がある。メチルアルコールの蒸氣を空気に混じり熱した白金線或は銅線上に通つて不十分に酸化させて製する。約40%の水溶液を「フォルマリン」と稱して消毒防腐に用ふる。

キサンチン(枝糖花) [植] 菓糖花の一種である。一雙の花梗が單頂花の下底から發生して、それが各亦頂花を生じ、その下底よりも亦一雙の花梗を抽き、幾回もこの如く左右に抽出するものである。ミ、ナグサ、ハコベ等に見る所である。

キサンチン [Xanthene 色素] [薬] 一名「フリユネロセン」色素。或は「ピロニン」色素。若干の鹽基性染料及び酸性染料、媒染染料これに屬する。例「ピロニン」「ローダミン」「イオジン」「エリスロシン」「カイレン」等。化學組成「フリユネロセン」の誘導體。

キシン(騎) [Equis] [歴] 中世封建制度の發達と共に起つたもの。諸侯の騎士として平素は忠實に奉仕し、戰時には世襲して君主の兵隊に仕へた。

キジニツテイ(議事日程) [法] 討議すべき事項及びその順序を各箇の日に配定したる課程。帝國議會では各議院の議長これを定め、政府案を先にする。然れ共緊急を要する場合は政府の同意を得てこれが順序を変更することもある。

キジノフ [Kishnow] [地] ルーマニア國「ベサラビア」州の首府。「オデッサ」の西北九十六哩にある。皮革、毛布、石鹼、「ブランドイー」等を産する。この地「ジュダヤ」人多く住し、一九〇四年及び同五年に「ジュダヤ」人の虐殺行はれ「キジノフ」事件として世界を震撼せしめた。

キジノ(岸派) [黨] 日本畫の一派。文化頃京都に一派を立たる岸駒を祖とする。書寫寫生を重んじ、特に虎を畫いて名がある。その義子連山、門人河村文鳳、横山華山等著名である。連山の養子竹堂は明治の大畫である。

キジバト(雉鳩) [動] 鳩の一種。頭頸の部は葡萄酒色、頸側に黒色と灰青色とより成る鱗狀の斑紋があつて背にも赤茶色と黒とを雜へた鱗狀がある。腹は灰黒色、胸以下は淡茶色で腹の方に至つて淡い。嘴は褐色、脚は紅色

キシ

キシーキシカ

以て任とする。騎士たらんとするに、幼少より君侯の宮廷に奉仕し、七歳より十四歳までは侍童の名の下に禮儀作法を學び、十四歳より二十一歳までは侍士と稱し、武藝を練習する。二十一歳にして嚴肅なる儀式の下に寺院を齋り、不正を撃ち、僧侶を尊敬し、婦女老幼を保護し、同胞の爲めには流血をも辭せずと誓約し、始めて一人の騎士となる。中世武士道の精華として有名である。

キジ(雉) [動] 雞目に屬し原野に棲息する。穀類・嫩葉・小虫を食する。益鳥で保護鳥の一に數へられ、三月一日から十一月一日迄捕獲を禁止さる。キジ(素地) [業] 陶磁器の粘土を以て形を製し、素燒窯にて燒き固め未だ施釉をせざる物である。

キシガク(岸岸駒) [黨] 畫家。岸派の祖。姓は佐伯。名は駒。字は眞然。華陽天開窟等の號がある。道久の子。加賀金澤の人。京都に出て有栖川宮に仕へて雅樂師となり後宮中の畫事を承當し、從五位下越前守に拜した。晩年岩倉の一廢寺に居り、山腹に一小庵を結びて天開窟と名づけた。その得意とするのは動物畫で、特に好んで鹿を畫いた。天保九年歿。

キジ(生遊) [遊] 漆桶より搾り取つた單寧質の溶液、乾燥性強く水氣の浸入を防ぎ又木織維をかため、栴合塗の下地用等には缺くべからざるもの。キジブン(記事文) 筆者の意見、主觀などを全然除いて見聞したまをありのまゝに書きつらねたもの。キジムシロ(雉子席) [植] 薔薇科。路傍山路などの雜草少なき所に生ず。匍枝を出して繁殖する草本。地上に匍ふ莖は三五寸より尺餘に及び下葉は羽狀複葉をなす。春日黄色の五瓣花を開く。

キシモジン(鬼子母神) [佛] 藥叉女神の名。梵名阿利帝の意譯で、歡喜母。愛子母等共いふ。カリライモを見よ。キシモトマチ(岸本町) [地] 高知縣土佐(香美郡)にある町。西北赤岡町に接したる南海の濱である。町の常樂寺は承久年中土御門天皇の行在所であると傳へられる。人口一、五七九。

キシヤ(汽車) [鐵] 蒸氣力を原動力とする機關車により旅客を運送する客車。貨物を運搬する貨車を敷設したる一條の軌道上に牽引する車。軌條間の距離は七呎乃至二呎。我國は三呎六吋を普通とする。機關車並に客

キシヤ(起重機) [機] 重量物の揚卸又は移動に充つる機械の總稱。自動・自動の二種がある。動力には人力

キシ

キシキ

キシキ(羊蹄) [植] 薔薇科の草本。シブクサともいふ。稍々濕氣ある原野路傍に生ずる。初春より花を開く。根の搾り汁は疥癬及び諸種の腫物を治す効がある。



[蹄羊]

キシコウ(擬餌釣) [漁] 釣釣の一種。魚の嗜好せる小魚又は昆虫等の形に擬して造れる餌不用の釣にて鹿角・牛角・羽毛・鯨骨等にて、或る動物の運動形状或は色彩をも模擬したるものを付けてある。視覚鋭敏、運動活潑なる動物に用ひて効多い。鯉・烏賊・イサキ・鱒・鮎等に主として用らる。

キシダエン(偽似輪圓) [畫] 輪圓に似て眞正の輪圓にあらざる形をいふ。キシダギンコウ(岸田吟香) [實] 實業家。美作の人。元治元年始て横濱に新聞を起し、又た米人「ヘボン」と和英字書を編し、慶應三年京濱間に汽船航海を開いた。明治七年東京日々新聞の主筆となり、後支那に往復

車・貨車の全部組立を列車といふ。大別して旅客列車・貨物列車・混合貨物列車とする。我國現今最大速力一時間平均四十哩である。キシヤクド(稀釋度) [Dilution] [化] 溶液の稀薄の度で、「一瓦分子の溶質を以て表はされ、濃度の逆數である。而して氣體にも適用される。キシユ(旗手) [軍] 歩騎兵聯隊には軍旗がある。これを捧持する少尉を旗手といふ。その他特別の旗(天皇旗皇后旗等)を捧持する者も旗手である。キシユウ(義州) [地] 朝鮮鴨綠江の左岸にある要害の地。滿洲に渡る要衝である。京義線の終點で、新義州の東北に位する。

キシユウ(貴州省) [地] 支那本部十八省の一。楊子江の南にあつて南嶺山脈の南北兩側を占む。面積約一萬一千二百里、人口九百二十六萬、貴陽平原の外概ね山地で、氣候地味共によくない。種々の礦物に富むが水銀鑛に名がある。住民は苗が多く開化の程度低し。

キシユウキ(起重機) [機] 重量物の揚卸又は移動に充つる機械の總稱。自動・自動の二種がある。動力には人力

キシヤ(起重機) [機] 重量物の揚卸又は移動に充つる機械の總稱。自動・自動の二種がある。動力には人力

キシ

キシダ

キシダ(起始點) [生] 横紋筋はその兩端に於て骨に附着するものであるから、この二點の中、身體の中心に近いものを起始點といふ。キシトウ(鬼頭) [醫] 禿頭病或は俗に「タイワンボウツ」といふ病で、榮養神經の障害又は寄生菌により烈しいのは全身に及ぶものもあるが多くの場合は頭部へ限局的圓形の脱毛部が出来る。學校や兵營では流行性に傳染することがある。療法としては精神の過勞を避けて強壯療法を施し、局部へは毛根刺戟薬を塗擦するのである。劇症でも毛髮再生することもあるが、又再生しないこともある。剃髪しては毛髮下層にシヤ

蒸氣・水蒸・電氣並び行はる。抵抗力は一噸乃至一五〇噸。ボーターブル、クレイン、トラベリング、クレイン、ハイドロリック、クレイン、ウオール、クレイン等種類がある。キシユウミカン(紀州蜜柑) [農] 蜜柑の一品種。果形温州蜜柑に似、成熟すれば外皮橙黄色となり、沙瓢黄色多量で頗る甘味である。

キシユウモン(宜秋門) [歴] 京都大内裏外郭十二門の一。一に西の陣又右衛門陣ともいふ。内裏の西内郭陰明門に相對する。門の大き三間、戸一間である。構造略々建禮門に同じ。キシユクシヤ(寄宿舎) [教] 學生生徒をして外界の悪影響より免れしめん爲め設たる宿舎。特殊の訓練を施す學校には特に必要にて、合宿所とは性質を異にするもので教育の効果を擧げ均等ならしむる効少くない。府縣立中學校・同高等女學校・師範學校・高等學校・高等師範學校等には附屬寄宿舎の設ありて入合せしむるを原則とし居る。

キシユツテンモン(記述天文学) [天] 天體の軌道運動・大小形狀距離・理化學上の性質その他諸現象法則等を記述する天文学。

キシユ

キシ



キシユーキシヨ

キシユム(Kiam)【地】アジャ湖に属する。長さ六十哩幅十二哩、住民は農業・牧畜・漁業に従事する。

キシユン(宜春)【地】支那江西省にある郡邑。附近に石炭を産するので有名である。産炭は南昌から九江に送り長江沿岸の各地の需要に應ずる。

キシヨウ(徽章) 所屬・身分又は名譽を表彰し、他の人々より區別する爲に用ふる徽號。公の物には親王提燈徽章・元帥徽章等種々ある。私のものには學校・會その他團體等にて用ふる帽章・會員章の如きもので、赤十字社員章の外勳章又は政府制定の記章に類似せるものは一般に公然の佩用を禁止せられて居る。

キシヨウ(記章) 天皇の榮典授與の大權により賜はる標章の一種。特別の慶事又は或記憶すべき事實の記念を表する爲の小牌・胸部に佩用する。普通は金屬製にて維新後今日迄に制定せられたるものは、明治七年從軍徽章・大日本帝國憲法發布記念章・大婚二十五年祝典之章・明治三十七八年從軍記章・明治三十七八年從軍記章等である。

キシヨ

キシヨウ(氣象) 【集】地球を包圍する界圍氣中即ち氣界中に起る諸種の現象をいふ。

キシヨウ(宜昌) [Chang] 【地】支那橋子江畔の貿易港。長江汽船航路の最終點として重要な地。

キシヨウ(擬晶) [Metakristall] 【物】或る礦物の結晶が雙晶をなして單晶のやうな形をなし、本來有する對稱面より更に多くの對稱面を有する他の結晶の形を模倣することがある。例へば斜方晶系に屬する金綠玉は三晶互に透入して六方晶系の外觀を呈する。又軟石・重十字石にもこの現象が見られる。

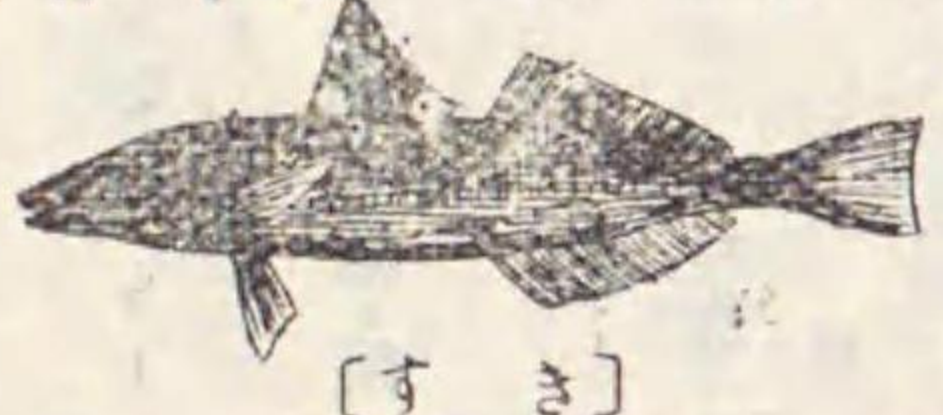
キシヨウ(偽證) 【法】證人が裁判所で被告人を曲庇又は陷害せんとして、不實の證言をなすこと。

キシヨウ(義淨) 【僧】唐初の高僧。學古今に通ず、二十五年間西域三十餘國を歴遊し、梵本經律論を得て還り、後佛典の翻譯に努めた。

キシヨウガク(氣象學) 【氣】大氣の状態と諸種の現象を研むる學問。氣壓・氣温等の如き氣象中の要素を研究し、測し、風雨の發生變化・地磁氣・空中電氣を調査する學問。天氣豫報の如きはその應用の一つである。

キシヨウ(擬人法) [Personification] 【文】或る記述をなすに當り、天地萬物に擬人して人間の如く見做して、書き表はす修辭の手法。例へば「春山霞の衣を着て笑を呈せり」は山を人擬したのである。

キス(鱈・鼠頭魚) 【動】硬鱗類、體稍圓柱狀で長く、鱗は小で密生してゐる。體色背部は淡黄、腹部淡黄白色で、大なるは一尺位もある。



キス(木津) 【地】町。京都府(山城)相樂郡の町。大和街道の一驛。木津川に臨む。奈良市の北一里三十町にある。郡役所・區裁判所・稅務署・鐵道停車場がある。大智寺・岡田國神社・哀堂等の名高い社寺がある。哀堂の附近には平重衡の墓がある。人口六、二二四。川。伊賀・山城。

キシヨ

キシヨウ(偽證罪) 【法】法律に依り宣誓せる證人・鑑定人・及び通事が虛偽の陳述・鑑定・通譯をなせる罪。三月以上十年以下の懲役に處せらる。猶その證言したる事件の裁判確定前又は懲戒處分前自白したるときは刑の減輕又は免除せらるゝ事がある。(刑法一六九條乃至一七一條)

キシヨウ(氣象臺) 【氣】氣象の觀測及び調査をなす所。測候所も亦これに屬する。我國では東京に中央氣象臺があり、他は氣象臺と稱せず。然して文部大臣の管理に屬し、全國氣象の調査及び報告・暴風雨警告・天氣豫報・氣象通報・氣象器械檢定・氣象地氣空中電氣・地震等の觀測をなす所である。

キシヨウ(儀仗兵) 【軍】天皇皇后皇族を護衛し、又内外人中高貴の人々或は特に規定ある人々を護衛する儀式的兵隊。皇城を守る守衛の兵も儀仗兵で英國皇太子來訪のときその旅宿を警護し、或は函薄を警衛する部隊も儀仗兵である。

キシヨウ(奇靜脈) 【生】胸椎體の右側にある。肋間靜脈血を收容して上大靜脈に開口する。左側にあるを奇靜脈といふ。

キシヨウ(黃水晶) [Citrine] 【礦】水晶の一變種。黃白色乃至酒黃色をなし産出は少ないけれどもその透明で美しいものは寶石として貴ばれる。

キスイセン(長壽花) 【植】石蒜科の庭園に培養して觀賞に供せらるゝ多年生草。葉は線狀で甚だ狭く、殆んど半圓形の横斷面を有する。水仙よりは根球小なるを常とする。三四月頃黄色の花を開く。

キスウ(基数) [Primitive number] 【數】一より九までの整數の稱。

キスウ(奇數) [Odd number] 【數】二にて割り切れぬ整數をいふ。例へば1, 3, 5, 7等の如くである。代數學では2n-1, 2n+1等で奇數を表はす。

キスウ(記數法) [Notation] 【數】僅かの記號を用ひ如何なる數をも書き表はす方法。基数を代表する記號

キシヨーキシロ

キシヨウモン(起請文) 【國】約束をなすにあたり神佛を勸請して二心なきを誓ふ書。起請の語は「起し請ふ」の義で本來は事を發起して君主に請ひ奉る狀を起請文と稱へたが、後世に至つて神佛に對し神罰又佛罰を請ひ奉る文を斯様にいふやうになつたのである。

キシヨイルマク(Kizil Irnak) 【地】アジャ湖小「アジャ」にある河。「ガラベル」山に發源し、黒海に注ぐ。長さは二百二十里に及ぶが山間を流るゝが故に船路の便がない。古代に於て「アリヤン」族と東「セム」族と「ハム」族との住地を劃した境である。

キシロ(黃汁繪) 【畫】黄色顔料で彩色した浮世繪の一種。安永年間僅に行はれしも今傳はれるもの極めて少い。

キシロ(Kylene C.H.) 【化】ベンゼン(C<sub>6</sub>H<sub>6</sub>)をCH<sub>2</sub>にて置換したものでC<sub>6</sub>H<sub>4</sub>(CH<sub>2</sub>)<sub>2</sub>なる構造式を有し「メンゼン」に似た液體である。多く色素製造に用ひらる。

キシロ(木地蠟塗) 【塗】漆器の一種。栗棗などの木地目を透明漆にて塗り上げしもの。如繪本は高價なる高級品として他の木地に於ては上

キシロ(併せ數字) [Numeri] 或は(Digit) 又は「アラビヤ」數字(Arabic numeral)と名くこれ「アラビヤ」人が西紀千三百年代に歐洲に傳へたからである。整數は各位の九倍を超へぬものゝ集りであるから、數字を横に並べたときは、その數字が表はす位は、その右の數字が表はす位の十倍たりとし、左より右へ順次にその位を表はす數字を記する。零と他の數字と區別する必要あるときは、一より九まで數を特に有効數字と名ける。

キシロ(杵築町) 【地】島根縣(出雲)杵築郡の町。出雲大社の所在地として名高い。参拜者全國から集まるから町内旅舎頗る多い。イヅモオホヤシロ(參照)。人口四、七九三。大分縣(豊後)速見郡の町。正しくはキンキマチ。杵築灣に臨む。區裁判所・中學校等がある。灣は大船を容るゝに適しない。この地維新前は松平氏の城下であつた。人口六、一八九。

キシロ(木造町) 【地】青森縣(陸奥)西津輕郡にある町。嶽澤町の東四里。弘前市北方六里。人口三、五一七。

キシロ(水産製品の一) 【水】水産製品の一

ける。静岡縣の特産で他府縣にもあ

れど粗悪である。

キシロ(測容器) 【物】不正形なる材の容積を測る器具。圓筒形水槽に度盛を附せるもので、これに水を容れ、後測定すべき木片を投じて、増加せる水の分量によりてその容積を算定するものである。

キシロ(岸和田市) 【地】大阪府和泉)の北部にある市。大阪を南西に距る鐵路約十六哩。堺市に次ぐ都會で市役所・泉南郡役所・區裁判所・中學校・高等女學校等がある。綿糸を産出したまた煉瓦の製造盛に行はれ蜜柑とともにその積出し盛んである。市に岸和田城址がある。城は正慶年中和田高家これに居り、その後三好・中村小出・松平諸氏これに居り、寛永十七年岡部宣勝に賜り、爾來世襲明治維新に至る。城址今公園となつた。此處に有名の蛸地蔵堂がある。参拜者甚だ多い。人口二九、三〇六。

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の

キシロ(義真) 【僧】天台宗の僧。相模の人。傳教大師最澄の弟子となる。支那語に通せし故に最澄の通譯となつて、共に教を受けて歸朝した。最澄の



キスシキスミ

種少なる魚類に味を付けて焙乾したるものにして罐に入れて販賣する。芥子又は青海苔等を附着して香味を付けたるはその特色である。福岡の人宮野儀助の發明したものである。

キスジノミムシ 【動】金花蟲科に屬する小形の甲蟲。蔬菜を食害する。成蟲の體長は僅かに八厘、黒色にして硬翅の上に左右一對の黄色縦線がある。其幼蟲は黄白色にて各節に瘤がある。



〔たびき〕

タビキ 【動】葉は卵形で深緑色、秋冬の頃淡黄緑色の小花を繖形に開く。葉葉を乾かし煎じて發汗劑に用ひる。

キズミ(木積) 【礦】炭坑で採炭跡間の天井の崩落を防止するため杭木を井桁状に組積すること。空木積と質木積との二法ある。前者は木材のみを使用するもので、後者は木積内に

に體の内部に寄生する體内外生蟲との別がある。

キセイドウブツ(寄生動物) 【動】キセイノウウの條を見よ。

キセイバチ(寄生蜂) 【動】蜂科に屬する昆蟲一群の名目。その幼蟲は農作物に寄生する昆蟲に寄生してこれを斃死せしめる。馬尾蜂・姫蜂等。

キセガワ(黄瀬川) 【地】靜岡縣(駿河)駿東郡の川。甲斐國境に發し富士・愛鷹・足柄の諸溪流を合せて後、狩野川に合す。頼朝・義經對面せる陣址は當時川の東岸に當り、今清水村大字長澤の邊である。長澤八幡宮はその址と傳へられる。

キセキ(輝石) 【礦】單斜晶又は斜方晶系で、硬度は五乃至六、比重は三・一乃至三・五。色は綠・黝・白・褐等がある。條痕は白色又は黝綠色。玻璃・眞珠或は樹脂光澤がある。成分は一様でない。柱面と柱面とのなす角は八十八度或は九十二度をなす。

キセキ(軌跡) 【Locm】【數】或る要件に適する凡ての點のみを含む圖形(一直線或は直線の一部或は數直線或は面なる事がある)をその要件に適する點の軌跡といふ。

キセキ(奇蹟) 【Miraculum】宇宙律以

キセイキセキ

キスリキセイ

捨石を充填するものをいふ。キスリ(木積) 【礦】建築學の語。漆喰を保たする下地として幅一寸許の質を三分あきに打附すること。舶來品に鐵網・鐵孔葉鐵もある。これは耐久性を特長とする。

キースリー(Keigley) 【地】英國「ヨークシャー」の郡邑。リーズの西北七哩。人口約四十二萬、毛織・毛織・鐵工・器械工業行はれてゐる。

ギゼー(Gizeh) 【地】アフリカ「洲」エジプトの「ナイル」河左岸の一村。餘に位し、「エジプト」古代の遺物たる三大「ピラミッド」・「スフィンクス」あるを以て著れ、又古物展覽會場がある。

キセイ(寄生) 【動】植物が他の生物體に寄生し、又體内に生息しこれより養分を攝取して自體を養ふこと。

キセイ(犠牲) 生きたまゝ、獸を神に供ふることが、轉じて他の者の爲に身を捨つるをいふことになつた。イケムへに同じ。

キセイ(擬制) 【法】現實に存在せざるものを法律の規定を以て現實存在するものとして取扱ふこと。法人は人の上の事象又は不可思議の出來事。聖書にてはこの語は神・天使・豫言者・聖人等の行ふ眞正なる事蹟を指し、又惡魔・惡人・似而非眞言者・魔術師等の行ふ虚偽なる事蹟をもいふ。

キセキアンザンガン(輝石安山岩) 【礦】安山岩の一種。單斜輝石を含み、時に斜方輝石を含むこともある。我國では分布が最も廣く、諸火山地方の岩石は概ねこの岩石である。故に單に安山岩といふ時はこの岩石を指す。色は灰・暗灰・黒などがあるが一般に斑狀組織が明らかである。

キセル(煙管) 刻煙草を吸ふ具。外來語なれど傳系不詳、天正頃煙草と共に傳る。初は小竹節に細き竹管を挿入し用ひたりといふ。徳川初世頃より木煙管・金煙管も用ひられ、五尺前後の鐵煙管を擦り行く様古書に見え、各國各様に異り、朝鮮人の用ふるもの最も長い。

キセルガイ(煙管具) 【動】軟體動物中腹足類に屬する。介殻は細長く左巻で煙管形をなす長短二對の觸角があつて雌雄一體である。殻口は稍卵形で肺を以て呼吸する。日蔭の朽木等の邊に棲息してゐる。

キセロフォルム(Xeriform) 【藥】臭素

キセキキセキ

キセイ

に非ず、隨て人格を有し權利の主體たるべきに非ざれど、その人格を有し權利の主體となるは法がこれを自然人と同視する擬制に基づくものと論ずるの類である。

キセイカン(議政官) 【歴】明治元年に置ける太政官の一。上下二局に分れ、主として立法權を掌りし官である。

キセイカザン(寄生火山) 【Parasitic Cone】地既に存在せる噴火口の外に、更に又噴出し一火山をなすもの。

キセイコウシヨウ(氣成鑛床) 【礦】高壓過熱の瓦斯により生成せられたる鑛床。火成岩が迸發して周圍や岩石の接觸帶或はその附近に有價鑛物を聚集して出來たものを觸變鑛床といふ。此火成岩の迸發岩床の冷却凝固する前に盛に高壓過熱の瓦斯を噴出し、周圍の岩石特に水成岩。例へば石灰岩の如きを腐蝕變質せしめて、有價鑛物例へば石膏・石・綠泥石・「ベスプー」石・鏡赤鐵鑛・磁鐵鑛等を生ずる。此處には金・鐵・銅・鉛・水鉛等の鑛床がある。之を氣成鑛床といふ。

キセイコン(氣生根) 【植】空氣中に懸垂する根で水分を吸收する。タコノキ・アコー・セキコク・フーラン等の有する所である。

キセワタ(繁葉) 【植】唇形科の山麓・原野に生ずる草本。莖の高さ一二尺概形タルマバナに似てゐる。夏秋の候梢上に淡紅を帯ぶる白色唇形花を層々穂狀に簇生する。

キセン(基線) 【測】三角測量に於てその最初に組成にすべき三角形の一邊をなすべき直線。その方向及び長さは甚だ精密に測定するを要し、普通は平坦にて成る可く長き直線を得らるべき堅牢なる地を擇び、相當の設備を要する。

キセン(汽船) 【船】船内に裝置せる汽鍋中の水を熱して水蒸氣を發せしめ、これを推進器に作用せしめて航行する船の總稱。

キセンイデン(蹄先遺傳) 【農】或動物の形體習性上に數代前に當る祖先の形體・性質等を再び現出すること。近きは二三代前、遠きは數十代前の形質再現することがある。無角牛の仔に角を生じ、黒白斑の「ホルスタイン」

キセワキセン

キセイ

キセイコン(寄生根) 【植】植物の根が他の植物體内に侵入し、これより自家の養料を吸收する所のものである。ヤドリキ・ネナシカツラ等有する。

キセイシヨクブツ(寄生植物) 【植】他の植物或は動物より養分を攝取して生活する植物の總稱。而して生活せる他の動物又は植物に寄生するものを活物寄生植物といひ、生活を失ひたる他の動物植物に寄生するものを死物寄生植物といふ。ヤドリキ・クロボ菌類等は前者に屬するもので、シヒタケ・カウチカビ等は後者に屬する。

キセイセイソウエン(寄生性爪炎) 【醫】爪甲に「トリコヒートン」・「トングラレ」・「アコリオン」・「シエライニー」・「プラスチック」等の菌類が寄生してその表面潤滑し粗糙となり、又は縦横に隆線が出来て發育を妨げられ、遂には爪甲實質の糊狀軟化を來すこともある。療法は「メス」を以て軽く爪甲を削り取つて一%の昇汞精「ヨード」丁幾又は「サリチール」酸硬膏等を貼用する。

キセイチノウウ(寄生蟲) 【動】他の動物體に寄生して、養分を攝取する動物の總稱。ダニの様に體の外部に寄生する體外寄生蟲と「サナダムシ」の様に體内に寄生する體内寄生蟲とを區別する。

キセン(木會・岐蘇) 【地】山脈。長野縣の西南部にある山脈。東は天龍川の齋谷を隔て、赤石山脈に對し、西は木曾川の齋谷をへだて、飛騨山脈と相對する。その北端は同縣諏訪湖に達し、その西南端は三河國渥美灣岸に及んでゐる。脈中に駒ヶ岳・惠那山等がある。山。飛騨山脈の西南側一帯の地。長野縣(信濃)西筑摩郡に屬す。森林蕪蕪として茂り、特に檜の良材に富み、飼料林最も顯はる。川。長野縣の西南部飛騨・木曾兩山脈の間を流る、大河。西南して美濃に入り右岸に飛騨川・長良川等を容れ、南

キセン(喜撰法師) 【歌】傳記不詳。山城國宇治郡喜撰は此の人の曾て住んだ跡だと言ひ傳へられるが明かでない。六歌仙の一人。弘仁頃の人である。

キセン(木會・岐蘇) 【地】山脈。長野縣の西南部にある山脈。東は天龍川の齋谷を隔て、赤石山脈に對し、西は木曾川の齋谷をへだて、飛騨山脈と相對する。その北端は同縣諏訪湖に達し、その西南端は三河國渥美灣岸に及んでゐる。脈中に駒ヶ岳・惠那山等がある。山。飛騨山脈の西南側一帯の地。長野縣(信濃)西筑摩郡に屬す。森林蕪蕪として茂り、特に檜の良材に富み、飼料林最も顯はる。川。長野縣の西南部飛騨・木曾兩山脈の間を流る、大河。西南して美濃に入り右岸に飛騨川・長良川等を容れ、南

キセンキソ



キソウ

流して伊勢海に入る。長さ四十六里舟楫の便が大きい。四路。長野縣西筑摩郡鳥居峠に起り、美濃國境に至る

キソウ(上野喜蔵)【纂】上野焼の鼻祖朝鮮の人。名は尊階。細川忠興に召

キソウ(偽造)【法】法令上権利なき者が、行使の目的にて尋常一般の注意

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キタア

キソウキソク

八條) キソウエンコウ(揮着鉛礦) (Bismuth-ore) 片状。纖維狀。粒狀の

キソウ(偽層理)【地】海岸附近又は河流の漸をなす所などに沈積せる地

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キタア

キソクキソク

議員を以て組織する。貴族院議員は、皇族の男子にして成年に達せられ

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キソク(規則)【法】一定の準則の稱。法規上では屢々法令の名號として

キタア

キソトキタア

は多少物に攀登する性を有し葉は羽状複葉で互生し、三又五箇の卵状小

キソト(木會殿)【國】源義仲のこと。木會冠者とも木會義仲ともいふ。

キソト(木會殿)【國】源義仲のこと。木會冠者とも木會義仲ともいふ。

キソト(木會殿)【國】源義仲のこと。木會冠者とも木會義仲ともいふ。

キソト(木會殿)【國】源義仲のこと。木會冠者とも木會義仲ともいふ。

キソト(木會殿)【國】源義仲のこと。木會冠者とも木會義仲ともいふ。

キソト(木會殿)【國】源義仲のこと。木會冠者とも木會義仲ともいふ。

キタア



【醫】素黄



キタイ

胎胎といふ。その原因は不明なるも母體の貧血状態・腎臓炎は原因となるやうである。此病氣は豫後不良に陥るべければ其發生を認むる時は速に子宮摘出術を受くべきである。

キタイノテイリツ

【化】氣體に關し各種を通じて等しく適合する、定律をいふ。ボイルの定律・シャルルの定律・ダルトンの定律等その主なるもの。

キタイノボウチヨウ

【Expansion of Gas】【物】熱の爲に氣體が體積を増すことである。氣體は三態中最も著しく、且最規則正しく膨脹するもので、膨脹率は凡ての氣體を通じて、略同一に273の値を持つてゐる。

キタイハンゴウノテイリツ

【Law of Raoult's reaction】【化】氣體が化學反應を受ける時體積の變化に關する定律。相反する諸

キタイキタカ

氣體及びこれによつて生ずる諸氣體の體積は共に同一體積の整數倍。

キタイン

【地】埼玉縣(武藏)入間郡仙波村にある天台宗の寺。東京上野寛永寺に屬す、天長十七年慈覺大師の開創、天海僧正此處に寂。

キタウラ

【地】茨城縣(常陸)行方郡及び鹿島郡間に在る狹長なる湖。南北六里、東西三〇町乃至六町。周圍十五里。南浪逆浦に連りて、遂に利根の大江に流通する。水運の便多く、晝夜定期汽船がある。

キタオハ

【畫】浮世繪の一派。北尾重政に起つた。繪本及び繪草紙の下繪を主とし細密な畫を書いた。門人には政美・政演等がある。政美は後に文晁の弟子となりて畫風を變へ、蕪齋紹真といつた。政演は後ら畫を止め、専ら小説に筆を執つた。有名な山東京傳はこの人である。

キタカイキセン

【北回歸線】(Tropic of Cancer)【地】赤道に平行し、北に二十一度半を距つる地表の假線をいふ。キタガタ(喜多方町)【地】福島縣(岩代)郡麻郡の町。會津盆地の北部にある。郡役所の所在地。若松・米澤の一線、鐵道沿線に在る。生絲・漆等の産物で商業發達する。人口

キタノカタ

【北の方】【國】中世以後五位以上の者の妻の通稱。大北方は母をいふのである。往古寢殿作り置き正妻の居室を北としたからこの名がある。

キタノシヨウ

【北莊】【地】福井縣(越前)福井の舊稱。淺倉氏の一族此に居る。天正五年織田信長・柴田勝家をこの處に封す。天正十一年勝家(じふや、丹羽・堀・春木の諸氏を経て結城秀康これに代り、慶長六年福井と改稱。

キタノジン

【北野神社】【神】京都上京區馬喰町にある官幣神社。祭神は菅原道真、祭日は八月四日。天曆五年民間此處に道真の靈を祭る。永延元年勅して官社となる。現社殿は慶長年中豊臣秀頼の造營に係る。今特別保護物である。

キタバタケアキエ

【北島顯家】【歴】アキエの條を見よ。  
キタバタケアキノブ【北島顯信】【歴】アキノブの條を見よ。  
キタバタケアキヨシ【北島顯能】【歴】アキヨシの條を見よ。  
キタバタケチカフサ【北島親房】【歴】アキヨシの條を見よ。

キタノキタハ

名がある。村上天皇の天德三年菅原道真の靈を祀り、願舎を建て、天滿天神といつた。

キタカ

九、七二四。

キタカミガワ

【北見】【地】奥羽地方にある川。源を巖手縣(陸中)巖手郡北上に發し、盛岡市を過ぎ、松川・宇石川・廣澤川・磐井川・追川・江合川を合せ、鹿又附近にて二分し、一は東北に向ひ追波灣に、他は南流して石巻灣に入る。後者は伊達政宗の開きしものト傳ふ。本流全長五九里十町。盛岡以下舟楫を通じ、狐禰寺より石巻間約廿里は定期汽船を通ずる。河中多

キタカロライナ

【北見】【地】北見合衆國の一州。太平洋沿岸に位し、棉花・米等を産する。西紀一七七六年率先して獨立を宣し、合衆國の一州に合した。南北戦争の時分離したが、同六八年復歸した。首府はラレー。

キタガワウタマロ

【喜多川歌麿】【畫】喜多川派の始祖。通稱勇助。幼名市太郎、本姓小川氏。名は豐章又信義ともいふ。喜多川歌麿はその號である。江戸の人。幕府の小吏たりといふ。又鳥山石燕なる浮世畫師の子なりともいふ傳ふ。歌麿は長じ自ら一流を創出し最も美人畫に多かつた。正平六年三宮の難、時難、風俗を村とし市井有名な婦人を選り、寫實的に描きしかば

キタバタケトモノリ

【北島具教】【歴】晴具の子。父の封を没いで權中納言正三位に至つたが威望振はず。永祿年中織田信長と戦ひ後和し、信雄を養子としたが、天正四年信長と再び隙を生じ、内山里に襲はれて遂に自殺した。年四十九。

キタバタケミツマサ

【北島滿雅】【歴】顯泰の子。應永二十一年小倉皇子の受禪なきを憤り、兵を擧げて幕府に抗し南朝統を復せんとしたが、後遂に和を結び、永享十二年薨、年六十四。

キタマクラ

【北枕】【國】北を枕として死人を臥せしむること。釋迦涅槃の儀に倣ふものであるといふ。

キタミ

【北見】【地】北海道の東北部にある國。東北一帯、オホーツク海に臨み、南は根室・釧路・十勝に、西は石狩・天鹽に接する。國內山岳多く、海岸に數々の平地があるのみ。面積九百三十五方里。人口五三、八六八。宗谷・網走の二支廳これを管轄する。土地は開拓次第に進み、粟・稗・大豆・菜豆・薄荷・馬鈴薯・黍・玉蜀黍等の農産物、鱈・鯨・昆布等の水産物がある。交通は鐵道網走線の開通以來次第に便利となる。

キタムラキキ

【北村季吟】【文】國學者。拾穂軒とも湖月亭とも號した。近江の人。始め醫、後玉津島の社司となつた。松永貞徳の門に學び、後幕府に仕へ、更に歌學所に入り國學博士と稱した。寶永二年八十二で歿した。國學に長じ、殊に古書の註釋に最も力を盡した。「源氏物語湖月抄」「枕草抄」の如きは其の主なるものである。紙春曙抄「徒然草文段抄」「八代集抄」の如きは其の主なるものである。

キダユウブシ

【義太夫節】【音】浄瑠璃節の一。竹本義太夫の語り出でし所である。貞享二年竹本座を興し、元祿中近松門左衛門を聘して作者とせしより、章曲・樂曲と相待ちて名聲顯に上り、斯界を壓倒したのである。浄瑠璃即ち義太夫の稱を專有する觀があつた。大阪文樂座の如きは今尚舊芝居を興行して居る。

キタリユウ

【喜多流】【能】猿樂謡曲の

キタムキタリ

六二九

キタクキタシ

その名忽にして著はれた。晩年書て畫きたる錦繪「繪本太閤記」のために罪を得、手鎖五十日に處せられた。刑期間身體疲勞甚しく、翌文化二年五月五十三歳にして歿した。歌麿の繪は婉麗にして官能的に富み然も決して野鄙でなかつた。

キタガワマカオ

【北川真顔】江戶の人。通稱嘉兵衛。真顔は姓名である。四方歌垣とも鹿部部真顔とも呼んだ。蜀山に就て狂歌を學び、師と共に世に持囃されたが、晩年零落して門弟の家に寄食し、文政十二年七十で歿。

キタク(寄託)

【法當事者】一方が或物を保管させる爲め、相手方に預くる契約。保管を託する者を寄託者、保管を約する者を受寄者といふ。

キタサトシバサロウ

【北里柴三郎】【醫學博士】熊本縣の人。惟信の長男。十六年東京大學醫學部出身、獨逸に學び、「コッポ」博士に就いて血清療法・細菌學を研究し、北里菌を發見し學界に貢獻する所甚だ多かつた。現に北里傳染病研究所長及び慶應大學醫學部長をも兼任してゐる。

キタシラカワノミヤヨシヒサシ

【伏見宮那家親王の第九子】初め攝關。安永五年親王

キタムラキキ

【北村季吟】【文】國學者。拾穂軒とも湖月亭とも號した。近江の人。始め醫、後玉津島の社司となつた。松永貞徳の門に學び、後幕府に仕へ、更に歌學所に入り國學博士と稱した。寶永二年八十二で歿した。國學に長じ、殊に古書の註釋に最も力を盡した。「源氏物語湖月抄」「枕草抄」の如きは其の主なるものである。

キダユウブシ

【義太夫節】【音】浄瑠璃節の一。竹本義太夫の語り出でし所である。貞享二年竹本座を興し、元祿中近松門左衛門を聘して作者とせしより、章曲・樂曲と相待ちて名聲顯に上り、斯界を壓倒したのである。浄瑠璃即ち義太夫の稱を專有する觀があつた。大阪文樂座の如きは今尚舊芝居を興行して居る。

キタリユウ

【喜多流】【能】猿樂謡曲の

キタムキタリ

六二九







キツトーキツネ

キツト【Kitt】【革】山羊皮から製したなめし皮の一種。靴などに作ると非常に美しいものが得られるが値段は頗る高い。



狐

キツネ(狐)【動】食肉類に属する、形犬に似て茶褐色。性頗る狡猾である。北地に産する種類には冬季變色するものがあるといふ。毛皮は防寒用として實用され、北地に産する種類最も珍重される。黒狐・白狐等あつて、樺太には其養殖場もある。キツネアザミ(泥胡菜・狐薊)【植】菊科

の山野田圃に自生する多年生若しくは一年生草本。高さ二三尺に達し、葉は大形で羽状に分裂し、下面に白色の軟毛を密布する。全形他のアザミに似たれども葉も花序も刺を有せず、柔軟なるのが異なる。四五月頃梢上に紅紫色の花を開く。キツネケン(狐拳)【遊】手にて狐と庄屋と鐵砲との形とをなし勝負する戲は両手を擡げて狐の前足を擡げた

キツネ

る形をし、庄屋は両手を膝の上に置き、鐵砲は右掌を握りて前に出て左手を以て肘を支ふ。勝敗は狐は鐵砲に、鐵砲は庄屋に、庄屋は狐に負けるのである。キツネゴウシ(狐格子)【建】細き棧を縦横に組みたる格子。古くは狐戸といひ、屋根の破風の格子の事で、狐などを防いだ故この名がある。一説には木連ともいはる。キツネザル(狐猿)【動】擬猿類に属する動物。外形狐に似たるを以て名づく。アフリカの森林、マダガスカル島に産する。



猿

キツネズカ(狐塚)【能】狂言の名。主人が太郎冠者を呼び出して、鹿・猿等が田畑を荒すから番に行けといつて又狐塚の狐が化かすからと注意して置く。冠者は元來臆病で、こはく鳴子をならして番してゐる所へ、日暮れて主人が淋しいと察して次郎冠者を相手に使はす。後自分も行く。太郎冠者は二人を狐の化けたのと思ひ二人を縛り苦しめ今般すと云ふ。

キツネノカミソリ(鬼燈籠)【植】石蒜科の山麓原野に自生する多年草本。略々ヒガンバナに類すれども、鱗莖より出る葉はヒガンバナより稍廣く、長くして白緑色である。初夏葉枯死して夏日花莖をぬくこと一尺許、莖頭に黄赤色の四五花を開く。有毒植物である。キツネノホタン(回春粉)【植】毛茛科の路傍野原の類に自生する多年

キツネ

取りに行つた後で、二人縛を解して太郎冠者を逆さまに苦しめるのを作つたもの。キツネツキ(狐憑)【醫】迷信者に發する一種の神經病。精神錯亂し、或は奇聲を發し、或は不可思議の動作等をして一見或る怪物の宿つてゐる様な状態で、醫學上假に狐憑病といつてゐる。土地によつて狐・犬・猿・狸等その信する所の動物の所爲としてゐる數百年前からの迷信で支那・印度・歐洲等にもある。キツネノエフデ(鬼筆)【植】擔子菌類。各地陰濕の場所に生ずる。形初め稍く卵圓形で急速に成長し長さ四五寸に達す。柄は淡褐色で菌傘は長帽状を呈し紅色。全體極めて柔かである。有毒菌。

キツネノカミソリ(鬼燈籠)【植】石蒜科の山麓原野に自生する多年草本。略々ヒガンバナに類すれども、鱗莖より出る葉はヒガンバナより稍廣く、長くして白緑色である。初夏葉枯死して夏日花莖をぬくこと一尺許、莖頭に黄赤色の四五花を開く。有毒植物である。キツネノホタン(回春粉)【植】毛茛科の路傍野原の類に自生する多年

キツネ

年生草本。高さ二三尺、葉は三全裂葉で各小葉亦三裂する。四月より九月に至りて黄色の花を開く。汁液は發泡に用ふ。キツネノマゴ(爵牀)【植】爵牀科の一年生草本。カグラナウともいふ。山野に自生する。莖の高は一尺許、葉は廣披針形、夏日葉腋に淡紫紅色の小唇形花を以て一寸許の穂をなす。莖葉の搾汁は充血を治し、「レウマチス」に塗るとその痛みを除く効がある。キツネビ(狐火) 夜陰の曠野地に火を點すること。遠くこれを望むに大小數多の火忽ち合し、一となりて往來し或は消えて又燃える。キツプス(Gilgas)【物】Amelia Wilbard (Gilgas) 【物】アメリカ合衆國の物理學者。理論物理に關する著述があり、殊に熱力学に深き造詣があつた。「イニール」大學の理論物理学の教授となり。又「ナショナルアカデミー」オブサイエンスに並に「ロンドン」王立學會の會員ともなつた。(西紀一八三九—一九〇三年)【Wolcott Gibbs】 【化】アメリカ合衆國の化學者。物理化學に就ての新發見多く、殊に蒸氣密度白金の性質「アンモニヤ」

又「リッパゲール」といふ。内に前後に運動する嚙子を包含し、その厚をT(吋)、直徑をD(吋)とし、Pを一平方吋に就いての壓力「ゴンド」とすれば  $T = P \times D + 0.5$  となる。キトウ(祈禱)【佛】祈禱を祈り災禍を拂ふこと。もと道家の語。佛敎これに法式を立て、式の様に行へば佛力を被つて祈願成就するものとしてある。眞言日蓮に多い。基督教でも又行つてゐる。キトウ(軌道)【地】南アメリカ「ユエクアドル」の首都。海拔九千呎の高所に位し、火山の中心で地震の虞ある。キトウ(軌道)【天】星學で宇宙間のあらゆる星の運行する時畫く道のこと。一定したもの、一定しないものと二つある。例へば前者は太陽・月・地球等のやうなもの。後者は彗星の軌道である。橢圓形・拋物線狀・雙曲線狀の三種である。キトウ(軌道)【鐵】土木で鐵道線路の施工基面上に「ラスト」・枕木軌條及びその附屬品を設置して列車の通路に供する部分をいふ。キトウ(義堂)【僧】足利初世の僧。名は周信。夢想國師に師事し、足利基氏に徵されて圓覺寺に住し、康曆中

【ハーツ】大野の應用科學の教授となり「ナショナルアカデミー」オブサイエンスの會長となつた。(一八二二—一九〇三年)キツプリング(Dudyard Kipling)【詩】英國の小説家。印度、ボンベイに生れ、少時英國にて教養を得。西紀一八八〇年印度「ラホール」の文武新聞の記者となつた。一八八九年支那・日本米國を漫遊して英國に歸り次で再び米國亞弗利加・濠洲等を漫遊した。名ある著書頗る多い。キツボン【動】テナガザルに同じ。その條を見よ。キツリフネ(水金風)【植】鳳仙花科の高山の陰濕地自生の草本。高さ一二尺概形ツリフネサクと同じ、葉は橢圓形でツリフネサクより稍小く、粗鋸齒がある。七八月頃黄色花を三四箇着く。キツリンフ(吉林府)【地】一にキリンといふ。支那滿洲吉林省の首府。松花江の左岸に位し、水運の便がある。又吉長鐵道の停車場がある。北滿洲の咽喉に當り、商業繁昌し、府城は周圍に城壁を廻らし、その長さ一里二十二町。人口凡そ三十二萬。キツレガワマチ(喜連川町)【地】栃木

【ハーツ】大野の應用科學の教授となり「ナショナルアカデミー」オブサイエンスの會長となつた。(一八二二—一九〇三年)キツプリング(Dudyard Kipling)【詩】英國の小説家。印度、ボンベイに生れ、少時英國にて教養を得。西紀一八八〇年印度「ラホール」の文武新聞の記者となつた。一八八九年支那・日本米國を漫遊して英國に歸り次で再び米國亞弗利加・濠洲等を漫遊した。名ある著書頗る多い。キツボン【動】テナガザルに同じ。その條を見よ。キツリフネ(水金風)【植】鳳仙花科の高山の陰濕地自生の草本。高さ一二尺概形ツリフネサクと同じ、葉は橢圓形でツリフネサクより稍小く、粗鋸齒がある。七八月頃黄色花を三四箇着く。キツリンフ(吉林府)【地】一にキリンといふ。支那滿洲吉林省の首府。松花江の左岸に位し、水運の便がある。又吉長鐵道の停車場がある。北滿洲の咽喉に當り、商業繁昌し、府城は周圍に城壁を廻らし、その長さ一里二十二町。人口凡そ三十二萬。キツレガワマチ(喜連川町)【地】栃木

【ハーツ】大野の應用科學の教授となり「ナショナルアカデミー」オブサイエンスの會長となつた。(一八二二—一九〇三年)キツプリング(Dudyard Kipling)【詩】英國の小説家。印度、ボンベイに生れ、少時英國にて教養を得。西紀一八八〇年印度「ラホール」の文武新聞の記者となつた。一八八九年支那・日本米國を漫遊して英國に歸り次で再び米國亞弗利加・濠洲等を漫遊した。名ある著書頗る多い。キツボン【動】テナガザルに同じ。その條を見よ。キツリフネ(水金風)【植】鳳仙花科の高山の陰濕地自生の草本。高さ一二尺概形ツリフネサクと同じ、葉は橢圓形でツリフネサクより稍小く、粗鋸齒がある。七八月頃黄色花を三四箇着く。キツリンフ(吉林府)【地】一にキリンといふ。支那滿洲吉林省の首府。松花江の左岸に位し、水運の便がある。又吉長鐵道の停車場がある。北滿洲の咽喉に當り、商業繁昌し、府城は周圍に城壁を廻らし、その長さ一里二十二町。人口凡そ三十二萬。キツレガワマチ(喜連川町)【地】栃木

【ハーツ】大野の應用科學の教授となり「ナショナルアカデミー」オブサイエンスの會長となつた。(一八二二—一九〇三年)キツプリング(Dudyard Kipling)【詩】英國の小説家。印度、ボンベイに生れ、少時英國にて教養を得。西紀一八八〇年印度「ラホール」の文武新聞の記者となつた。一八八九年支那・日本米國を漫遊して英國に歸り次で再び米國亞弗利加・濠洲等を漫遊した。名ある著書頗る多い。キツボン【動】テナガザルに同じ。その條を見よ。キツリフネ(水金風)【植】鳳仙花科の高山の陰濕地自生の草本。高さ一二尺概形ツリフネサクと同じ、葉は橢圓形でツリフネサクより稍小く、粗鋸齒がある。七八月頃黄色花を三四箇着く。キツリンフ(吉林府)【地】一にキリンといふ。支那滿洲吉林省の首府。松花江の左岸に位し、水運の便がある。又吉長鐵道の停車場がある。北滿洲の咽喉に當り、商業繁昌し、府城は周圍に城壁を廻らし、その長さ一里二十二町。人口凡そ三十二萬。キツレガワマチ(喜連川町)【地】栃木

【ハーツ】大野の應用科學の教授となり「ナショナルアカデミー」オブサイエンスの會長となつた。(一八二二—一九〇三年)キツプリング(Dudyard Kipling)【詩】英國の小説家。印度、ボンベイに生れ、少時英國にて教養を得。西紀一八八〇年印度「ラホール」の文武新聞の記者となつた。一八八九年支那・日本米國を漫遊して英國に歸り次で再び米國亞弗利加・濠洲等を漫遊した。名ある著書頗る多い。キツボン【動】テナガザルに同じ。その條を見よ。キツリフネ(水金風)【植】鳳仙花科の高山の陰濕地自生の草本。高さ一二尺概形ツリフネサクと同じ、葉は橢圓形でツリフネサクより稍小く、粗鋸齒がある。七八月頃黄色花を三四箇着く。キツリンフ(吉林府)【地】一にキリンといふ。支那滿洲吉林省の首府。松花江の左岸に位し、水運の便がある。又吉長鐵道の停車場がある。北滿洲の咽喉に當り、商業繁昌し、府城は周圍に城壁を廻らし、その長さ一里二十二町。人口凡そ三十二萬。キツレガワマチ(喜連川町)【地】栃木

【ハーツ】大野の應用科學の教授となり「ナショナルアカデミー」オブサイエンスの會長となつた。(一八二二—一九〇三年)キツプリング(Dudyard Kipling)【詩】英國の小説家。印度、ボンベイに生れ、少時英國にて教養を得。西紀一八八〇年印度「ラホール」の文武新聞の記者となつた。一八八九年支那・日本米國を漫遊して英國に歸り次で再び米國亞弗利加・濠洲等を漫遊した。名ある著書頗る多い。キツボン【動】テナガザルに同じ。その條を見よ。キツリフネ(水金風)【植】鳳仙花科の高山の陰濕地自生の草本。高さ一二尺概形ツリフネサクと同じ、葉は橢圓形でツリフネサクより稍小く、粗鋸齒がある。七八月頃黄色花を三四箇着く。キツリンフ(吉林府)【地】一にキリンといふ。支那滿洲吉林省の首府。松花江の左岸に位し、水運の便がある。又吉長鐵道の停車場がある。北滿洲の咽喉に當り、商業繁昌し、府城は周圍に城壁を廻らし、その長さ一里二十二町。人口凡そ三十二萬。キツレガワマチ(喜連川町)【地】栃木

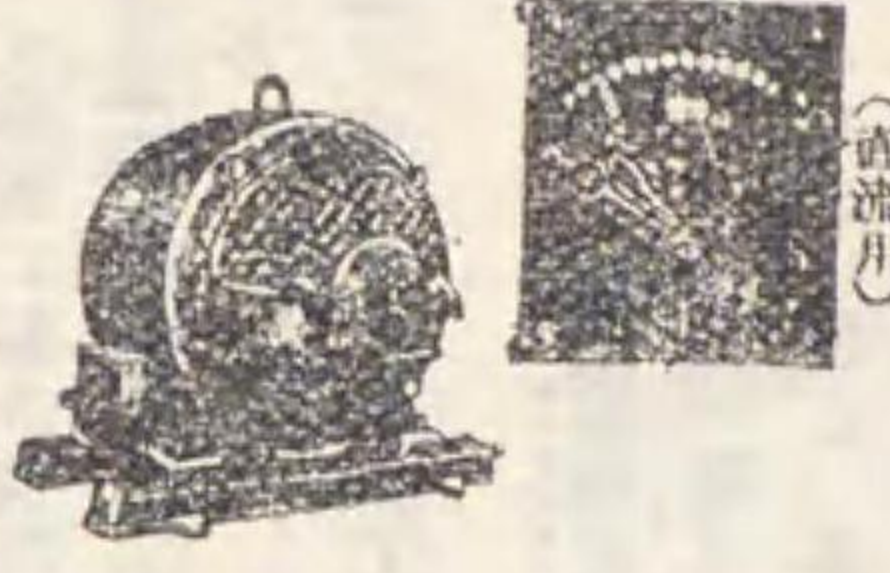
【ハーツ】大野の應用科學の教授となり「ナショナルアカデミー」オブサイエンスの會長となつた。(一八二二—一九〇三年)キツプリング(Dudyard Kipling)【詩】英國の小説家。印度、ボンベイに生れ、少時英國にて教養を得。西紀一八八〇年印度「ラホール」の文武新聞の記者となつた。一八八九年支那・日本米國を漫遊して英國に歸り次で再び米國亞弗利加・濠洲等を漫遊した。名ある著書頗る多い。キツボン【動】テナガザルに同じ。その條を見よ。キツリフネ(水金風)【植】鳳仙花科の高山の陰濕地自生の草本。高さ一二尺概形ツリフネサクと同じ、葉は橢圓形でツリフネサクより稍小く、粗鋸齒がある。七八月頃黄色花を三四箇着く。キツリンフ(吉林府)【地】一にキリンといふ。支那滿洲吉林省の首府。松花江の左岸に位し、水運の便がある。又吉長鐵道の停車場がある。北滿洲の咽喉に當り、商業繁昌し、府城は周圍に城壁を廻らし、その長さ一里二十二町。人口凡そ三十二萬。キツレガワマチ(喜連川町)【地】栃木

【ハーツ】大野の應用科學の教授となり「ナショナルアカデミー」オブサイエンスの會長となつた。(一八二二—一九〇三年)キツプリング(Dudyard Kipling)【詩】英國の小説家。印度、ボンベイに生れ、少時英國にて教養を得。西紀一八八〇年印度「ラホール」の文武新聞の記者となつた。一八八九年支那・日本米國を漫遊して英國に歸り次で再び米國亞弗利加・濠洲等を漫遊した。名ある著書頗る多い。キツボン【動】テナガザルに同じ。その條を見よ。キツリフネ(水金風)【植】鳳仙花科の高山の陰濕地自生の草本。高さ一二尺概形ツリフネサクと同じ、葉は橢圓形でツリフネサクより稍小く、粗鋸齒がある。七八月頃黄色花を三四箇着く。キツリンフ(吉林府)【地】一にキリンといふ。支那滿洲吉林省の首府。松花江の左岸に位し、水運の便がある。又吉長鐵道の停車場がある。北滿洲の咽喉に當り、商業繁昌し、府城は周圍に城壁を廻らし、その長さ一里二十二町。人口凡そ三十二萬。キツレガワマチ(喜連川町)【地】栃木



キトウ

義満の命により建仁寺に移り、後南禪寺の主となり、五山の首位に置いた。五山文學者中の白眉で、又遊をよ



【機動起】

キドウキ(起動機) 【電】電動機を動か

キトウキトタ

三。銅鑛は重要な銅鑛であるけれども我國にはその産出が少くない。

キドウリン(龜頭淋) 【醫】陰莖包皮内面に生ずる加答兒性炎症。龜頭が潮

キトチキトリ

功臣。西郷隆盛・大久保利通と併せて維新三傑といふ。小字は小五郎。松菊

キドリ(木取) 【建】丸太から角材を取ること。普通の木取には概ね七掛と

キナキナノ

キナ(規那・幾那) 【藥】キナヒを見よ。キナイ(幾内) 【地】京都附近の國。文

キナシ(木無) 【演】或一駒を終つて幕を引くに合圖の柏子木を撃たないこと

キナヒ(規那皮) 【藥】(Cinnabar) 【藥】南米「ペルー」の原産で後に印度でも

キニツボンシ(擬日本紙) 歐洲諸國から輸入する擬鳥の子及び「ロール」紙

キノイ(絹糸) 蠶繭から製する糸の總稱。生糸・玉糸・製斗糸・由緒糸・作

キノイ(絹糸) 蠶繭から製する糸の總稱。生糸・玉糸・製斗糸・由緒糸・作

キノイ(絹糸) 蠶繭から製する糸の總稱。生糸・玉糸・製斗糸・由緒糸・作

キノウモン(絹雲母) 【地】雲母の一種。灰緑・黄・白等の色を

キノウモノ(絹織物) 【織】經緯全體絹糸で織つた布。時にはその大部分

キノガサ(鬼怒川) 【地】栃木縣(下野)鹽谷郡衣沼に發し、五十里川。

キノコ(キノコ) 六三五



【菇 鬼】

キノガサ(鬼怒川) 【地】栃木縣(下野)鹽谷郡衣沼に發し、五十里川。

キノコ(キノコ) 六三五

キノコ(キノコ) 六三五



キヌメーキネ

を除きたるものもある。生糸に代用される。又絹玉紡と稱し、著しく類節あるものもある。...



[ねき]

キネトーキネヤ

餅搗杵がある。キネトフオン [Kinophon] 發聲活動寫真といふ。...

キネマ [Cinematograph] 「キネマトグラフ」の略。活動寫真をいふ。...

キネヤ [Guinea] 「地」アフリカの西部沿岸地方で、上下の兩地方に區分せらる。...

キネヤカンゴロウ (杵屋勘五郎) 【音】長唄及び三味線師。同名五代ある。...

キネヤ

門弟。幼名は六代三郎助。四代を襲ぎ隠居後は淨觀といつた。...

キネヤキサプロウ (杵屋喜三郎) 【音】長唄及び三味線師。初代から十二代迄ある。...

キネヤロクザエモン (杵屋六左衛門) 【音】長唄及び三味線師。同名前後十代ある。...

キネエネ (甲子) 【九】日に配當して干支の甲子に方る日。六十日に一巡し年に六回來復する。...

キノオマロ (紀男麻呂) 【歴】欽明天皇三十三年大將軍となり、河邊瓊弁を副將として新羅を征す。...

キノカイオン (紀海音) 徳川中葉の淨瑠璃作者。本姓は榎並、俗稱は鯛屋喜右衛門。...

キノカワ (紀之川) 【地】紀伊・大和吉野寛保二年歿。年八十一歳。

キノエーキノカ

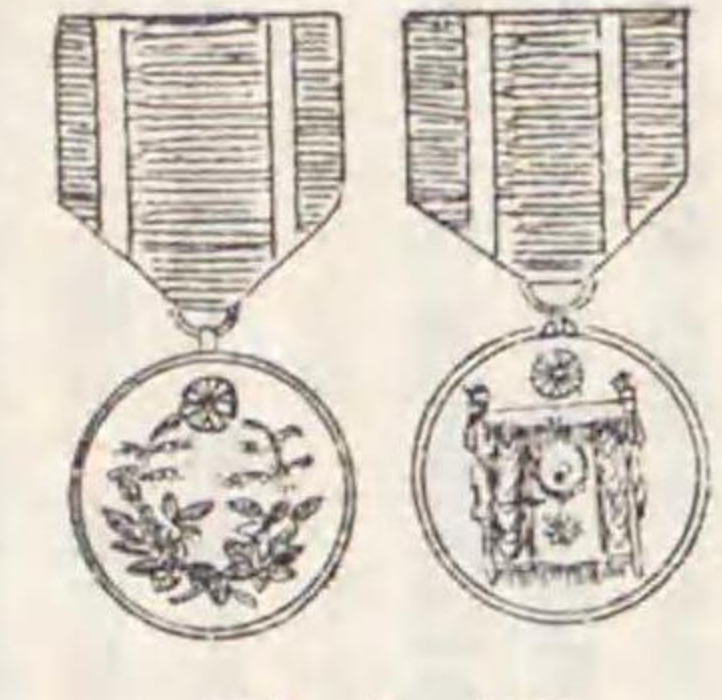
キノクニヤブザエモン (紀の國屋文左衛門) 徳川時代の豪商。初代と二代とある。...

キノコルイチュウドク (菌類中毒) 【醫】諸種の有毒菌を食用してその中に含まれて居る「ムスカリン」...

キノクイキノコ

六三七

キネンサイ (新年祭) 【儀】毎年二月四日神社官と國司の廳とで年穀の豊穰を神社に祈請する祭。...



[章念記]

キネンハガキ (記念葉書) 【郵】或事の記念の爲發行するもの。...

キネン 餅搗杵がある。キネトフオン [Kinophon] 發聲活動寫真といふ。...



[納吉]

キノウ (氣囊) [Air Sac] 【動】飛翔鳥類の有する膜囊。...

キノウテキキヨウカ (技能的教科) 【教】圖書・唱歌・體操・手工及び裁縫の如く、技能に屬する教科である。

キノエーキノカ

六三七

キネヤキネン

た。正徳二年歿。三代は三代喜三郎の子。節附に妙を得て頗る美聲であつた。...

キネーリヨク (Gaiet氏) 【畫】緑色堅牢顔料。重クローム。...

キネンキツテ (記念切手) 【郵】記念すべき事件發生の時郵便省で發行せし切手。...

キノクニヤブザエモン (紀の國屋文左衛門) 徳川時代の豪商。初代と二代とある。...

キノコルイチュウドク (菌類中毒) 【醫】諸種の有毒菌を食用してその中に含まれて居る「ムスカリン」...

キノクイキノコ

六三七



キノサキキノシ

キノサキマチ(城崎町)【地】兵庫縣(但馬)城崎郡の町。豊岡町の北約二里二十町、城崎川の左岸にある。海山の眺望を兼ね、温泉がある。但馬湯・城崎湯とも稱し、山陰地方有名の温泉であつて浴客が常に多い。温泉は六ヶ所から湧出する。産物には茶細工業細工等がある。人口三、六〇一。

キノシタヒロツグ(木下廣次)【法】法名は勝俊。肥後守家定の長子。豊臣秀吉の姻戚。若狭小濱の城主であつたが、大阪の役後封を奪はれ、京都東山に潜居し、和歌に志し悠々自適し、長嘯子と號した。慶安三年八十一で歿。キノシタヒロツグ(木下廣次)【法】法名は勝俊。肥後守家定の長子。豊臣秀吉の姻戚。若狭小濱の城主であつたが、大阪の役後封を奪はれ、京都東山に潜居し、和歌に志し悠々自適し、長嘯子と號した。慶安三年八十一で歿。

キノシタヒロツグ(木下廣次)【法】法名は勝俊。肥後守家定の長子。豊臣秀吉の姻戚。若狭小濱の城主であつたが、大阪の役後封を奪はれ、京都東山に潜居し、和歌に志し悠々自適し、長嘯子と號した。慶安三年八十一で歿。キノシタヒロツグ(木下廣次)【法】法名は勝俊。肥後守家定の長子。豊臣秀吉の姻戚。若狭小濱の城主であつたが、大阪の役後封を奪はれ、京都東山に潜居し、和歌に志し悠々自適し、長嘯子と號した。慶安三年八十一で歿。

キノツキノモ

年文部省専門事務局局長に、三十年京都大學總長に任じ四十年辭職した。二十四年以來貴族院議員に列す。キノツラユキ(紀貫之)【國】領學紀長谷雄の孫、延喜年中御書所預となり、土佐守を経て木下權守從四位下に叙せられ、勅を奉じて躬恒等と共に古今集を撰した。天慶九年六十五で歿した。その著に「土佐日記」「古今集序」「紀貫之集」等がある。

キノトモノリ(紀友則)【國】貫之の甥。父を有友といひ宮内權小輔である。和歌に巧みで、古今集撰者の一人。キノトモノリ(紀友則)【國】貫之の甥。父を有友といひ宮内權小輔である。和歌に巧みで、古今集撰者の一人。

キノトモノリ(紀友則)【國】貫之の甥。父を有友といひ宮内權小輔である。和歌に巧みで、古今集撰者の一人。キノトモノリ(紀友則)【國】貫之の甥。父を有友といひ宮内權小輔である。和歌に巧みで、古今集撰者の一人。

キノリーキハ

南牟婁郡の町。熊野浦に臨む。郡役所區裁判所等がある。海岸の風光がよい。人口四、七六六。和歌山縣(紀伊)海草郡の村。和歌市の西北約一里紀淡海峡に面してゐる。附近に木本八幡宮がある。人口二、三三八。滋賀縣(近江)伊香郡の村。郡役所の所在地。鐵道北陸線の停車場がある。その牛馬市は古來有名である。人口五、四八五。

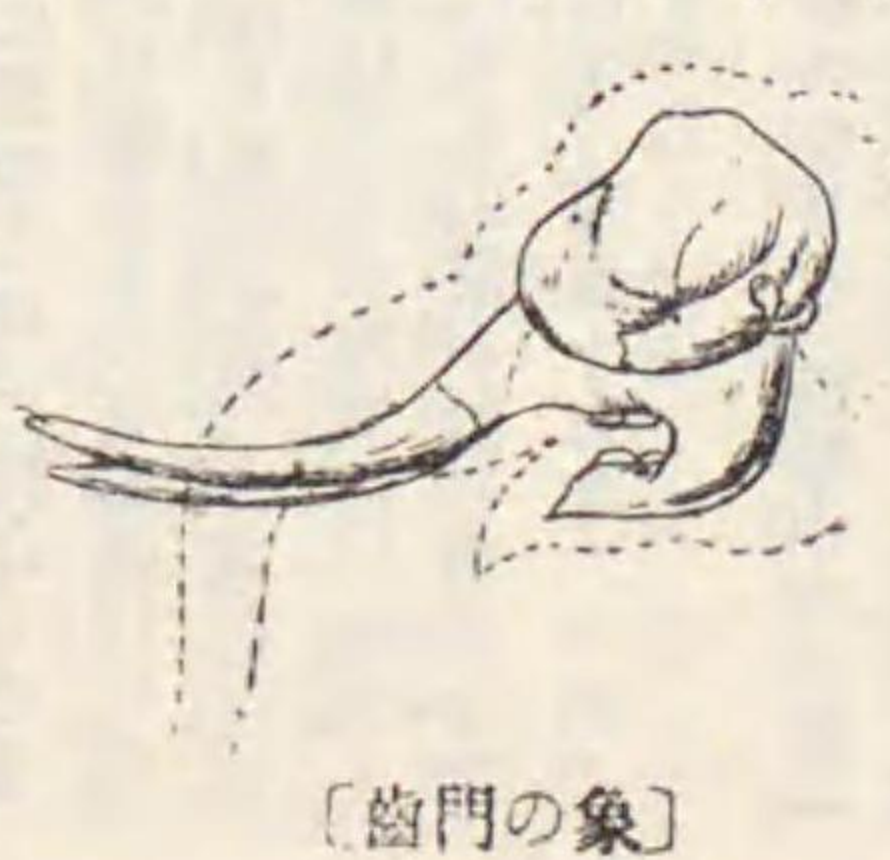
キノリン(Quinine C<sub>20</sub>H<sub>24</sub>N<sub>2</sub>)【化】膏油中に有する無色油状液體で特臭がある。通常「アニリン」と「グリスリン」との混合物を強硫酸の如き脱水劑及び砒酸の如き弱き酸化劑で作る。

キノリン(Quinine C<sub>20</sub>H<sub>24</sub>N<sub>2</sub>)【化】膏油中に有する無色油状液體で特臭がある。通常「アニリン」と「グリスリン」との混合物を強硫酸の如き脱水劑及び砒酸の如き弱き酸化劑で作る。キノリン(Quinine C<sub>20</sub>H<sub>24</sub>N<sub>2</sub>)【化】膏油中に有する無色油状液體で特臭がある。通常「アニリン」と「グリスリン」との混合物を強硫酸の如き脱水劑及び砒酸の如き弱き酸化劑で作る。

キハ

空氣の波動のこと。この界面の波浪は兩層の密度の差の小さい程波長が頗る大きく、波の高さも甚だ大きい。兩層の内もし下層が濕つてゐる時は波の山にあたる所は水蒸氣が凝結し雲となり、谷に當る所は雲が消散する。氣波の顯れる時は復々白雲が列をして幾條となく平行して田畑の隅のやうである。

キバ(牙)【動】通常獅子・猫・犬等の如き食肉動物の上下兩顎にある犬齒をいふ。その形鋭くして尖る。



【齒門の象】

キバ(Khiva)【地】中「アジャ」にある「ロシヤ」の保護國。「アム」河の左岸にある。北は一部「アラル」海に臨む。四三八。住民は多く遊牧を事とする。西紀一八七三年以來「ロシヤ」の保護國を受く。首領「キバ」は人口約五萬を有する。



【蜂黄】

キハチジヨウ(黄八丈)【織】八丈の黄色に焦茶・黒等に絞織とせるもの。もと八丈島の産。染色に人造染料を用ひざるを特色とする。衣服・蒲團等に適する。秋田八丈として秋田地方でも類似品を産する。

キハツユ(揮發油)【Chinha】【化】石油原油を分留するに當り、200-150の温度で蒸留したもので、揮發し易い透明の液である。樹脂油・「イム」等を溶解する性質を持つてゐる。石油「エーテル」ともいふ。

キバナシヤクナゲ【植】石南科で本邦中部以北の高山に産し、常緑の低矮なる灌木。枝は通常地に匍ふて宿存

キビ(鬼眉)【人相】人相粗くして眼を壓した眉のこと。生活不如意・竊盜の相だといふ。



【鬼眉】

キビキダマリ(生引溜)【釀】溜醬油の一種。素引溜にいら溜とある。大豆を蒸熟して豆麴を造り、これへ一定の食鹽水を加へて作る。俗に溜といふものである。

キビソ(生皮苧)【織】製絲屑物の一。

キハナキヒソ



【鶉黄】

キビタケヒコ(吉備武彦)【歴】景行帝の時日本武尊に從ひて東夷を征し轉じて越國に遣はされ、尊の能褒野に病み給ふや、これを京師に復命した。

キビダンゴ(吉備團子)【食】岡山縣岡山市の名物菓子。その昔は家毎に黍を作つてそれを團子として食べてゐた。非常にその味が雅美であつたといふ。今では吉備團子といつて折箱の中に薄い木片で境をして小さい團

キヒタ



キヒツキヒノ

子を一つ宛きつて砂糖をつけて賣つてゐる。

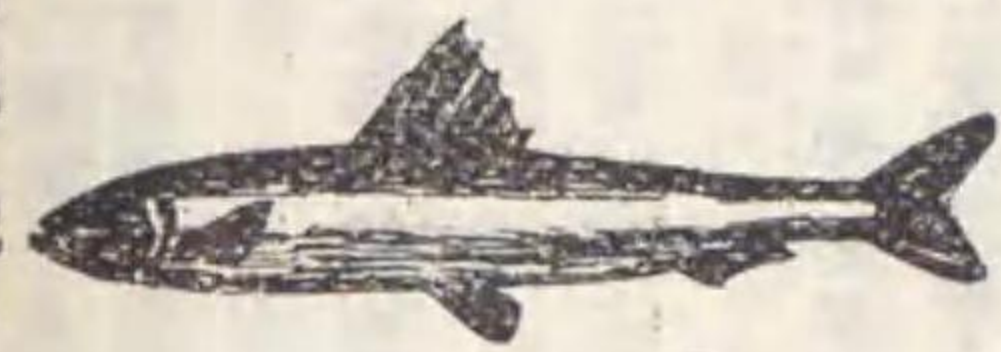
キビツジヤ(吉備津神社) 【地】岡山縣(備中)吉備郡真金村にある國幣中社。祭神孝靈天皇の第三皇子大吉備津彦命或は御弟稚武彦命ともいふ。延喜代に名神大社に列し、明治四年五月國幣中社となる。祭日は十月十八日である。

キビツヒコノミコト(吉備津彦命) 【歴】孝靈天皇の皇子。崇神天皇の朝西海に遣はされた四道將軍の一人。

キビテラ(吉備寺) 【地】岡山縣(備中)吉備郡備前村にある真言宗の寺。鏡林山と號する。吉備真備の創建。寺内に真備の墓と稱するものがある。

キビナゴ 【動】喉鰓類に屬する魚。キビナイワシともいひ、頭部及び尾柄側扁、體の背部蒼色體側に銀白色の縦條がある。

キビノカミチノタサ (吉備上道田狹) 【歴】稚武彦命の後裔。雄略天皇の朝に任那國司であつたが、帝その妻稚媛の美なるを見て妃とした。後任那の生



〔くまびき〕

父母の忌重りたる時は後にかゝりたる日より後改めて忌服を敷へ、これに服す。重復するとも輕き忌重き忌の中に過ぎたる時は、重き忌明けたる後、又改めて服するに及ばず。日數餘りあればその日數丈これに服する。

キフケン(岐阜縣) 【地】東山道の西部にある縣。美濃・飛騨二國を管轄する。四境北は富山、東は長野、南は愛知、三重、西は滋賀・福井・石川の諸縣に接し、面積六百七十八方里八四。人口一〇七〇、三六六。行政上美濃を岐阜・大垣二市、稲葉・羽島・海津・養老、不破・安八・揖斐・本巣・山縣・武儀郡、上・加茂・可兒・土岐・恵那の十五郡、飛騨を益田・大野・吉城の三郡に分つ地勢東境に飛騨山脈あり西境には鈴鹿・伊吹の二山脈あり、中部には東西に走る分水嶺があつて飛騨を南北の二斜面に分つ。されば飛騨の全部、美濃の一部は所謂濃飛高原をなして縣の面積の約三分の二を占めてゐる。縣の南部は東濃・西濃の二部に分れ、西濃はいはゆる濃尾平野の一部をなし主要なる米産地である。河川の主なものは、木曾川・長良川・揖斐川。

キフケ

キフケ(寄附行爲) 【法】公益上の目的で財團法人を設くるため、我財産を無償で所分する行爲をいふ。

キフコーキフシ

キフコーキフシ(岐阜市) 【地】岐阜縣美濃國の西南部にある市。名古屋を北西に距る十九哩、東に稲葉山を負ひ、北に長良川流れ、縣治の中心地。もと井の口と稱したが永祿七年織田信長の領となり、岐阜と改稱した。徳川氏郡代又

キヒノキフク

める屋川皇子亂をなしたを聞き援けんと欲し、舟師を率ひて赴きしが、道にその敗を知りて逃れその終る所を知らない。

キビノチカヤマ(吉備中山) 【地】岡山縣(備中)吉備郡真金村大字宮内にある。吉備神社の後に當る。歌枕、まがねふく吉備の中山帯にせる細谷川の音のさやけさ。

キビノマキビ(吉備真吉備) 【歴】本姓は下道朝臣。靈龜二年遣唐留學生となり、經史を修め兼藝に涉つた。天平七年歸朝し東宮侍講となり、後再び遣唐使となり、歸朝後累進して正二位右大臣に任せられ、光仁帝の寶龜六年八十三で薨じた。片假名五十音圖は公の作だと傳へられる。

キビヨウシ(黄表紙) アオハンを見よ。キビラ(生平) 【織】晒さない麻絲にて織りたる布。その儘衣服の料とし、又晒しても用ひらる。劣等のものは墨線・霞地等のみ用ひられる。

キフ(妓夫) 女郎屋の客引男の總稱。俗に「わかいしゆ」とも呼ぶ。又は「ぎふ」などともいふ。もと散茶店より起つた名である。

キフカキフク

を風通の如き外觀に顯したる織物。風通に代用して用途廣い。京都・桐生・足利等に産する。

キフカワ(貴生川驛) 【地】滋賀縣(近江)甲賀郡水口町の南一里。關西線草津線連絡驛。近江鐵道は此處を終點として關西線に連絡する。

キフク(忌服) 喪に居る禮。喪服を着くる間を服にあるといひ、穢を忌憚ることを忌といふ。親疎によりて忌服期間異なる。明治七年十月以來武家の制を用ふべき事を定めらる。大略左の如し。忌明後は常事を採るに差支なく、忌服のかわる間は神事に關するを憚る。出仕の際忌服に罹ることとなつてゐる。親任官は除服宜下又長官より除服出仕せらるる事もある。

Table with 2 columns: 忌服日數表, 忌日數 服日數. Rows include 一父母 (50, 十三ヶ月), 一養父母 (30, 一五〇), 一嫡母 (10, 三〇), 一嫡父 (10, 三〇), 一嫡母 (10, 三〇), 一嫡父 (10, 三〇).



〔子臺及〕

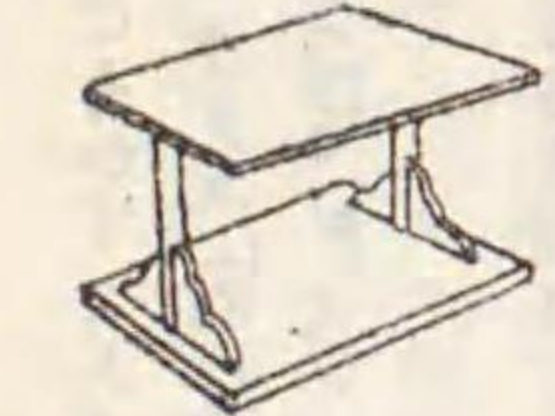
キフシ(五倍子) 【動】ゴバイシの條を見よ。

キフジ(旌節花) 【植】旌節花科に屬し花莖は四個雄蕊は八個ある。花序は穗狀或は總狀で、花は黄色、葉は花後に發生する。觀賞用として栽培さる。

キフソン(John Gibson) 【彫】英國の彫刻家である。羅馬に赴き「カーバ、トルワルドセン」に學んだ。有名な作「グイナス」女神像は五年間の苦心に成れるもの。竣成後四年間惜みて他に交譲せなかつたといふ。西紀一八六六年「ローマ」に致した。

キフダイス(及喜子) 【茶】茶席に用ふる棚物の一で、二本の柱を用ひ、高さ一尺六寸五分五厘、天井の幅一尺二寸、長さ二尺

キフシーキフダ



〔子臺及〕

キフク

一夫 三〇 十三ヶ月  
一妻 二〇 九〇  
一嫡子 二〇 九〇  
家督を繼がない場合は末子の定による、女子は皆末子の定による。

一末子 一〇 三〇  
一養子 一〇 三〇  
家督を繼たる場合は嫡子の定による。  
一夫の父母 三〇 一五〇  
一祖父 三〇 一五〇  
一母方なる時 二〇 九〇  
一曾祖父 二〇 九〇  
一母方 二〇 九〇  
一伯祖父 二〇 九〇  
一母方 二〇 九〇  
一兄弟姉妹 二〇 三〇  
一嫡妹 一〇 三〇  
一末妹 三 七  
一曾孫玄孫 三 七  
一從父兄弟妹 三 七  
一甥姪 三 七  
一七歳未満小兒 ナシ ナシ  
一聞忌

父母忌又は聞きし日より正式に起算し、その他は聞き日迄の日數を忌服の日數中より除き、残り日數を算す。

キフツセキ(輝沸石) [Epidote Galsi, Forst. H.] 【鑛】單斜晶系完面像晶族に屬し、硬度三・五乃至四で通常無色白色帯褐色をなして居る。輝沸石は玄武岩やその他の鹽基性火山岩中に出現するが稀れには花崗岩や金屬鑛脈中に出ることがある。我國では小笠原島より白又は淡綠色の輝沸石が出で、磐城の小原からは變朽安山岩の隙間より白色半透明の物を出す。

キブネンジャ(貴船神社) 【地】京都府(山城)愛宕郡鞍馬村大字貴船にある官幣中社。祭神聞竈神。祭日六月一日。弘仁九年勅使祈願あつた。

キープル(Keppel) 【僧】英國の僧侶で詩人。一八三一年、オックスフォード大學の詩學教授に任じ、同三五年「ウインチェスター」附近の一寺院の住職となつて一生を終へた。著書「基督教徒の一年」は人口に膾炙する所。一八六六年歿。

キフチキフル



キプロス

キプロス [Cyprus, Cyprus] 【地】地中海の東部にある大島。長さ一四〇哩、

幅さ六〇哩ある。軍事上重要な地

で、西紀一八七八年以降英國に属

した。

キブン(紀文) キンクニヤンザエモ

ンの條を見よ。

キブン(氣分) 従來氣分がわるい、氣

分が勝れぬ等と用ひられたるは主觀

的の意味であるが、近來文壇藝術に

いふ氣分は英語の(Mood)の意にて

全體の調子から生ずる特殊の客觀的

氣持をいひ表はすに用ふ。

キブン(戯文) 【文】滑稽諧謔を主とし

て作れる文。狂文又は滑稽文ともい

ふ。俳文に似て一層俗趣味がある。徳

川時代狂歌の盛なる頃亦大に發達

した。蜀山人の「四方の留精」、宿屋飯

盛の「東なまり」等有名である。

キブンゲキ(氣分劇) ある觀念を以て

貫いたものでなく、舞臺の上に特殊

の氣分を浮動させるのを目的とした

劇。「メーテルリング」の作にはそれ

が多い。

キブンフウケイカ(氣分風景畫) 【畫】

従來の風景畫は主として忠實な風景

の寫生であつたが、現代に於ては、

キイーキ

らす、それに加ふるに自己の主觀を

交へてその時の氣分を現して畫くと

いふことが唱導されてゐる。

キイー(騎兵) 【軍】兵種の一。迅速な

馬足に依り、敵偵察、警戒及び通

信勤務をなす。その戦術は力を以

てする攻撃の手段あるのみで騎兵は

陣任務を成功する補助手段である。

【軍】戦術及び馬術の訓練をなし、且

馬匹に関する研究調査を爲す學校。

學生は騎兵科士官・馬術科學生は騎

兵科の下士・砲兵・輜重兵士官及び下

士である。東京の澁谷にある。

キペツルイ(龜鼈類) 【動】龜鼈類の一

目。體軀扁圓で背腹兩甲を有し、背面

及び四肢には表皮の變形した鱗を被

る。兩顎は齒を生ずることなく、角鞘

ありて一種の嘴を形成してゐる。イン

ガメ・ヌツボン等にこれに屬する。

ギバルチ(Gibraltar) 【形】イ

タリアの彫刻家・建築家・畫家であ

る。「プロレンヌ」の洗禮所に現存せ

る二面の銅扉は最も有名な作である

いはれる。西紀一四五五年歿。

キペル(龜鼈) 一種の「こしつ」に不

キヘンキ

まく理窟をつけてごまかすこと。ギ

リンヤ」では「ソククラヌ」前に詭辯

學派なるものがあつた。キベンガク

ハを見よ。

キベン(旗鱗) 【植】豆科植物の有する

蝶形花は

五瓣より

成り、そ

の中の

鱗は大き

く他鱗を擁護する。之が旗鱗である。

キベンガクハ(詭辯學派) 【種】五、ギリ

シャ。「プロタゴラス」等の一派で

「實在といふものなく、善しこれある

も吾人は認識し得ず、又善し認識し

得とも、我心他に異なれば、これを傳

へ難し」この懷疑説を立て、従つて

「真理は各自の心中にのみ存す」との

獨斷説を主張した。

キホウ(氣胞) 【生】肺臓内氣管支の先

端にある囊。この周壁とこれを回繞

する毛細管壁とを透して、呼吸作用

が行はれる。

キホウイツタイ(機法體) 【佛】眞宗

で用ひられる法門上の用語。機とは

キホウ

植物の炭素同化作用を計る方法。圓

筒内に水を盛り中に新鮮なる水藻を

入れ、日光に晒し置き、水中で莖を切

れば切口より氣泡上昇する。これ主

に炭酸分解によりて生じた酸素瓦斯

である。故にこれを計算しその多少

により同化作用の強弱を知ることが

出来る。

キホウシ(擬寶珠) 【國】欄干・橋等の柱

頭に用ふる玉葱形の裝飾物である。

佛經にある摩耶の寶珠に擬したも

の東洋建築に用ひられ、印度「ベルシ

ヤ」「トルコ」等にもその例がある。

キホウシ(紫雲) 【種】百合科の宿根草。

普通庭園に栽培さる。葉はオホバコ

に似れど更に大きく、且柔かい。葉叢

の中央から花莖を抜き紫白色の花を

開く。根を擦りおろした汁を酒に混

せて飲めば癪腫を治すといふ。

キホウタイ(騎砲隊) 【軍】野戰砲兵の

一。獨立騎兵團隊に隷屬させる輕野

砲兵をいふ。事實的戰術上の考慮を

以つて編成されたのは「プロシヤ」の

「フリードリヒ」大王が始めて「ロッ

スバハ」の戰にこの好訓を示したの

キホウ

植物の炭素同化作用を計る方法。圓

筒内に水を盛り中に新鮮なる水藻を

入れ、日光に晒し置き、水中で莖を切

れば切口より氣泡上昇する。これ主

に炭酸分解によりて生じた酸素瓦斯

である。故にこれを計算しその多少

により同化作用の強弱を知ることが

出来る。

キホウシ(擬寶珠) 【國】欄干・橋等の柱

頭に用ふる玉葱形の裝飾物である。

佛經にある摩耶の寶珠に擬したも

の東洋建築に用ひられ、印度「ベルシ

ヤ」「トルコ」等にもその例がある。

キホウシ(紫雲) 【種】百合科の宿根草。

普通庭園に栽培さる。葉はオホバコ

に似れど更に大きく、且柔かい。葉叢

の中央から花莖を抜き紫白色の花を

開く。根を擦りおろした汁を酒に混

せて飲めば癪腫を治すといふ。

キホウタイ(騎砲隊) 【軍】野戰砲兵の

一。獨立騎兵團隊に隷屬させる輕野

砲兵をいふ。事實的戰術上の考慮を

以つて編成されたのは「プロシヤ」の

「フリードリヒ」大王が始めて「ロッ

スバハ」の戰にこの好訓を示したの

キホウ

植物の炭素同化作用を計る方法。圓

筒内に水を盛り中に新鮮なる水藻を

入れ、日光に晒し置き、水中で莖を切

れば切口より氣泡上昇する。これ主

に炭酸分解によりて生じた酸素瓦斯

である。故にこれを計算しその多少

により同化作用の強弱を知ることが

出来る。

キホウシ(擬寶珠) 【國】欄干・橋等の柱

頭に用ふる玉葱形の裝飾物である。

佛經にある摩耶の寶珠に擬したも

の東洋建築に用ひられ、印度「ベルシ

ヤ」「トルコ」等にもその例がある。

キホウシ(紫雲) 【種】百合科の宿根草。

普通庭園に栽培さる。葉はオホバコ

に似れど更に大きく、且柔かい。葉叢

の中央から花莖を抜き紫白色の花を

開く。根を擦りおろした汁を酒に混

せて飲めば癪腫を治すといふ。

キホウタイ(騎砲隊) 【軍】野戰砲兵の

一。獨立騎兵團隊に隷屬させる輕野

砲兵をいふ。事實的戰術上の考慮を

以つて編成されたのは「プロシヤ」の

「フリードリヒ」大王が始めて「ロッ

スバハ」の戰にこの好訓を示したの

キホウ

植物の炭素同化作用を計る方法。圓

筒内に水を盛り中に新鮮なる水藻を

入れ、日光に晒し置き、水中で莖を切

れば切口より氣泡上昇する。これ主

に炭酸分解によりて生じた酸素瓦斯

である。故にこれを計算しその多少

により同化作用の強弱を知ることが

出来る。

キホウシ(擬寶珠) 【國】欄干・橋等の柱

頭に用ふる玉葱形の裝飾物である。

佛經にある摩耶の寶珠に擬したも

の東洋建築に用ひられ、印度「ベルシ

ヤ」「トルコ」等にもその例がある。

キホウシ(紫雲) 【種】百合科の宿根草。

普通庭園に栽培さる。葉はオホバコ

に似れど更に大きく、且柔かい。葉叢

の中央から花莖を抜き紫白色の花を

開く。根を擦りおろした汁を酒に混

せて飲めば癪腫を治すといふ。

キホウタイ(騎砲隊) 【軍】野戰砲兵の

一。獨立騎兵團隊に隷屬させる輕野

砲兵をいふ。事實的戰術上の考慮を

以つて編成されたのは「プロシヤ」の

「フリードリヒ」大王が始めて「ロッ

スバハ」の戰にこの好訓を示したの

キホウ

植物の炭素同化作用を計る方法。圓

筒内に水を盛り中に新鮮なる水藻を

入れ、日光に晒し置き、水中で莖を切

れば切口より氣泡上昇する。これ主

に炭酸分解によりて生じた酸素瓦斯

である。故にこれを計算しその多少

により同化作用の強弱を知ることが

出来る。

キホウシ(擬寶珠) 【國】欄干・橋等の柱

頭に用ふる玉葱形の裝飾物である。

佛經にある摩耶の寶珠に擬したも

の東洋建築に用ひられ、印度「ベルシ

ヤ」「トルコ」等にもその例がある。

キホウシ(紫雲) 【種】百合科の宿根草。

普通庭園に栽培さる。葉はオホバコ

に似れど更に大きく、且柔かい。葉叢

の中央から花莖を抜き紫白色の花を

開く。根を擦りおろした汁を酒に混

せて飲めば癪腫を治すといふ。

キホウタイ(騎砲隊) 【軍】野戰砲兵の

一。獨立騎兵團隊に隷屬させる輕野

砲兵をいふ。事實的戰術上の考慮を

以つて編成されたのは「プロシヤ」の

「フリードリヒ」大王が始めて「ロッ

スバハ」の戰にこの好訓を示したの

キホウ

植物の炭素同化作用を計る方法。圓

筒内に水を盛り中に新鮮なる水藻を

入れ、日光に晒し置き、水中で莖を切

れば切口より氣泡上昇する。これ主

に炭酸分解によりて生じた酸素瓦斯

である。故にこれを計算しその多少

により同化作用の強弱を知ることが

出来る。

キホウシ(擬寶珠) 【國】欄干・橋等の柱

頭に用ふる玉葱形の裝飾物である。

佛經にある摩耶の寶珠に擬したも

の東洋建築に用ひられ、印度「ベルシ

ヤ」「トルコ」等にもその例がある。

キホウシ(紫雲) 【種】百合科の宿根草。

普通庭園に栽培さる。葉はオホバコ

に似れど更に大きく、且柔かい。葉叢

の中央から花莖を抜き紫白色の花を

開く。根を擦りおろした汁を酒に混

せて飲めば癪腫を治すといふ。

キホウタイ(騎砲隊) 【軍】野戰砲兵の

一。獨立騎兵團隊に隷屬させる輕野

砲兵をいふ。事實的戰術上の考慮を

以つて編成されたのは「プロシヤ」の

「フリードリヒ」大王が始めて「ロッ

スバハ」の戰にこの好訓を示したの

キホウ

植物の炭素同化作用を計る方法。圓

筒内に水を盛り中に新鮮なる水藻を

入れ、日光に晒し置き、水中で莖を切

れば切口より氣泡上昇する。これ主

に炭酸分解によりて生じた酸素瓦斯

である。故にこれを計算しその多少

により同化作用の強弱を知ることが

出来る。

キホウシ(擬寶珠) 【國】欄干・橋等の柱

頭に用ふる玉葱形の裝飾物である。

佛經にある摩耶の寶珠に擬したも

の東洋建築に用ひられ、印度「ベルシ

ヤ」「トルコ」等にもその例がある。

キホウシ(紫雲) 【種】百合科の宿根草。

普通庭園に栽培さる。葉はオホバコ

に似れど更に大きく、且柔かい。葉叢

の中央から花莖を抜き紫白色の花を

開く。根を擦りおろした汁を酒に混

せて飲めば癪腫を治すといふ。

キホウタイ(騎砲隊) 【軍】野戰砲兵の

一。獨立騎兵團隊に隷屬させる輕野

砲兵をいふ。事實的戰術上の考慮を

以つて編成されたのは「プロシヤ」の

「フリードリヒ」大王が始めて「ロッ

スバハ」の戰にこの好訓を示したの

キホウ

植物の炭素同化作用を計る方法。圓

筒内に水を盛り中に新鮮なる水藻を

入れ、日光に晒し置き、水中で莖を切

れば切口より氣泡上昇する。これ主

に炭酸分解によりて生じた酸素瓦斯



キマイーキマル

キマイ(期米)【相】ライキマイに同じ。キマダラチヨウ(黄斑蝶)【動】蛇目蝶科の昆蟲。中形。全翅の表面は黄褐色で所々に黄紋がある。後翅にてはこの紋外縁に一列をなして列び中に黒點がある。前翅裏面黄色、褐條を交へ外縁に三個の環状黒紋がある。後翅の裏面は灰色にして外縁には數多の蛇目状の環紋がある。



【蝶捲葉斑黄】

キマルバチ【動】膜翅類に屬する昆蟲。體肥大、胸背には黄毛密生し、腹背には黒毛生じ、尾端に赤毛を有す。



【もばるまき】

キマワキキミカ

生ず。花間を飛翔する。キマワリ(木翅)【動】ゴジユウカラ(五十雀)に同じ。【小形】の甲蟲。黒色にして青味を帯び、脚は比較的長く朽木に居て人近づけば樹を廻つて身を隠す故にこの名がある。



【翅木】

キマンメンジヨ(期滿免除)【法】時の経過による權利の消滅で、時效と同じである。ジョウの條を見よ。

キミイテラ(紀三井寺)【地】和歌山縣(紀伊)海草郡紀三井寺村名。草山の西端にある眞言宗の寺。寶龜年中僧爲光開創し、本尊十一面觀音を祭る。法號を金剛寶寺護國院といふ。西國三十三所第二番の札所。境域和歌浦の海岸にあつて眺望絶佳である。

キミカケソウ(君影草)【植】百合科。本邦北部に自生する多年生草本。觀賞用に栽培する。地下莖より二箇の長橢圓形の葉を生じ、六月頃白色短鐘狀の小花を總狀に下垂しその形鈴に似てゐる。キミガヨ(君が代)我國歌。古今集賀正の節「我君が代に八千代に今もあれ

キミヤキキムキ

石の巖となりて苔のむすまで「讀人不知」の初句を「君が代は」に改め、曲は明治十二年頃宮内省一等伶人林廣守の作である。調和は同省展教師獨逸人フランツ、エツケルに手に成つたものである。

キミヤクシルイ(擬豚翅類)【動】直翅類の一亞目。前後の翅は性質を同うし疊收することはない。トンボの類は多くこれに屬する。

キム(義務)【法】法律による意思の約束。義務は第一に法律によつて發生する。法律がなければ義務の觀念は存在しない。道徳上の義務は法律上の行爲の自由を拘束すべき法律上の義務ではない。義務はこれを種々に分類し得る。公法上の義務又は私法上の義務は、義務が公法に基くか、私法に基くかによつて區別する。又主體が特定の人なるや、一般の人なるやによつて、特定義務と一般義務とがある。その他主體によつて種々の義務がある。【つとめ】といふ。人たる本務をいふ。

キムキヨウイク(義務教育)【教】國家の隆興と文化の程度とは、密接の關係があるが故に國家は教育制度を定め一定の數學を全國國民に課せしむる。

キムナキキムラ

る。これを義務教育といふ我國にては尋常小學六年間の初等教育がそれである。明治三十三年發布小學校令を以て規定されたもので滿六歳に達したるものは學齡兒童と呼び、就學すべきものと定められる。此の就學年齡は各國によりて異り、英國五歳乃至十三歳、佛國六歳乃至十三歳等の如き別がある。

キムナジウム(文科中學校)【Gymnasium】【教】古ギリシヤの體操練習所の稱であつたが、現時「ドイツ」では高等教育の學校で、古語を中心としつゝ、教授し、以て大學の豫備たらしめた者の名となつた。

キムランゲネリ(木村重成)【歴】西臣末時の武將。常陸守重茲の子。豊臣秀頼に仕へて長門守と稱した。慶長十九年大阪冬の陣に際し、一方の將として奮戦する功があつた。翌年夏の陣起るや、手兵を提げ縦横奮闘し、藤堂氏の軍を破り、更に井伊氏の軍と戦ひ、遂に直孝の部將庵原助左衛門の手に倒れた。重成容貌秀麗で頗る沈勇であつた。最後の出陣に際し、名香を兜に薫じ必死を覺悟してつた。死する時年二十一。

キムンダイメイシ(疑問代名詞)【國】代名詞で疑問の意に用ふる語「レ」。「イツコ」「ドレ」等の如きもの。キヤク(規約)【法】或多數の關係者其同利益の爲に共同の行爲を生ずるを目的とする合意の約束をいふ。契約と異なる。契約は各當事者各意思を有し、その合致の結果協定により一方義務を負ひ、他方權利を有する事となれど、規約に於ては各當事者意思の合致により、初めて法律上有効の意思を生ずるものである。往々これを、國家が法規たる性質を與へ強制すべき權力服従の關係を與ふるものもある。水利組合條例による組合規約の如きはその例で、この法規を法律上特に規約と稱する事がある。

キメイカブシキ(記名株式) 株式會社の株主證券券面に權利者の氏名を記入せるもの。無記名株式に對する。二者はその譲渡及び質入の手續を異にする。例へば記名式の譲渡は讓受人の氏名住所を株主名簿に記載し、且氏名を株券に記載するを要するが、無記名はこれに要しない。唯株券の引渡しをすればよいのである。(次條參照)

キメイシキ(記名式) 證券發行の一方式。證券面に權利者の氏名又は商號を記載發行するもの。無記名式に對する。無記名式債權ならば單純に譲渡の意思を以て他人に交付すればその債權を譲渡し得れど、記名式は本則としてこれを債務者に通知し、又は債務者がこれを承諾せざる時は債務者その他の第三者に對抗する事出來ない。又指圖式なるものは債權者の氏名又は商號を名宛とすれど尙その債權者の指圖したる人に裏書・交付によりて債權を譲渡する事が出来る。

キメイ(記名) 證券發行の一方式。證券面に權利者の氏名又は商號を記載發行するもの。無記名式に對する。無記名式債權ならば單純に譲渡の意思を以て他人に交付すればその債權を譲渡し得れど、記名式は本則としてこれを債務者に通知し、又は債務者がこれを承諾せざる時は債務者その他の第三者に對抗する事出來ない。又指圖式なるものは債權者の氏名又は商號を名宛とすれど尙その債權者の指圖したる人に裏書・交付によりて債權を譲渡する事が出来る。

キメイ(記名) 證券發行の一方式。證券面に權利者の氏名又は商號を記載發行するもの。無記名式に對する。無記名式債權ならば單純に譲渡の意思を以て他人に交付すればその債權を譲渡し得れど、記名式は本則としてこれを債務者に通知し、又は債務者がこれを承諾せざる時は債務者その他の第三者に對抗する事出來ない。又指圖式なるものは債權者の氏名又は商號を名宛とすれど尙その債權者の指圖したる人に裏書・交付によりて債權を譲渡する事が出来る。

キメイシヤサイ(記名社債) 商法第一九九條以下の規定に從ひて株式會社の發行する社債。その證券面に權利者の氏名を明記するもの。無記名社債に對する。これは何時にても無記名社債になし又再び記名式に記し得る株式と同じである。譲渡に就ては記名株式と同じで(その條參照)只質入に關しては社債の信用證券たる性質に基き、取引の安全を保護するため、記名株式と異り譲渡と同様の規定による。(民法第三五六條)

キメイトウヒヨウ(記名投票) 投票者氏名を投票用紙に記載して行ふ投票これに對し氏名を記載せざるを無記名投票といふ。現今議員選舉には多く無記名投票を用ふ。議場に於てはその時によりて投票方法を定める。

キメンザン(鬼面山谷五郎)【角】江戸の力士。美濃の産。武隈に從つて濱碓又は彌高山といひ、入幕後改名して阿州侯の抱となつた。明治元年西方横綱を張つた。同四年歿。

キモイリ(肝煎)【國】王として事を執り辨ふ者のこと。多く世話人等の意に用ひられ、室町幕府の頃から出た言葉である。

キモウキキモ

キモウキ(起毛機)【織】織物の仕上げ工程の一。織物の表或は裏面を毛羽で被はせやうとする時、例へばフツラン「メル」のやうなものを製する時に使用する機械の名稱。單起毛機・複起毛機・廻轉「チ」セル起毛機・金剛針起毛機等である。

キモウシユザイ(欺罔取財)【法】サヤシユザイに同じ。その條を見よ。

キモノシラミ(衣蝨)【動】シラミの條を見よ。

キモメン(生木綿)【織】木綿織物の一種。一に生白ともいつて、岩槻・久喜・粕壁地方を主たる産地とする。すべて平織で片捻糸を用ひる。絲の太・細によつて並生白・細生白とある。中形浴衣地・晒地・染地として用ひる。

キモン(氣門)【動】昆蟲類及び多足類の呼吸をいふ。通常體側にあつて内方は氣管に連る。

キモン(鬼門)【漢】佛家、陰陽家の語。東北の方角に當り、鬼星のある方角であるともいひ、常に惡鬼の出入する門戸ともいひ、古來より忌み避くべきものといはれる。殊に城郭等にては鎮護のためこの方位に社寺を建つるを例とした。

キモンシキ(疑問式)【教】教式の一法。

キモウキキモ 六四四



キヤク

これを逆爲替といふ。キヤクカンテキ(客観的) 主観に對して客観と云ふ。他人の行為事物を基として自己一人の感じを捨て相手方に代つて見る観方。

キヤクゴ(客語) 【國】文典の用語。一文中動作の目的を表はすもの。即ち動詞の働きを及ぼす語。例へば「小兒犬を打つ」に於て「打つ」といふ動作を及ぼす者は犬なれば犬は客語。

キヤクコウセン(逆光線) 見る物の方向から来る光線。

キヤクサヤ(逆鞘) 【相】長期のものが高かるべきものが反對に近期より安値を附る場合をいふ。

キヤクシヤ(客車) 【鐵】四輪車及び「ボギー」式の二種がある。前者は車體の短少なるもの。後者は車體の長大なるもの故「ボギー」車輪を使用せるものである。

キヤクシユ(逆修) 【佛】逆め善根を修する事である。逆は豫と同意。自己の死後に行ふ佛事を生前に營むのである。命未だ終らざる時、七七日齋を行ひて善根を積む時は、その功德全く己の身に歸し、死後の追福を受ける功徳に勝るといはれる。【轉】生前に戒名を附け置く事ともいふ。

キヤク

キヤクシユウ(逆襲) 【軍】持久戦をする目的を以つて防禦陣地に在る軍隊が敵の過失に乗ずるか又は戦況が止むを得なくなつた時、突進して敵を襲撃する攻勢動作のこと。

キヤクジヨウ(逆上) 【醫】頭部の充血俗に「のぼせる」ともいふこと。通常疾病の症候として現れる。多く急激に發作し、全身の血が一時に頭に上るやうな感じがして苦悶・耳鳴・眼火・閃爍・眩暈・頭内搏動等を起し悪心嘔氣を催す。額は赤くなつて頸動脈強く搏動し、脈搏は充實して頻數になり、脈充血と共に知覺異常を來し躁狂・狀の發作をすることがある。療法は絶體安靜にして頭を高くし氷で冷すことである。

キヤクシヨク(脚色) 小説や劇に於て大小種々の事件・變化・人物と云ふものを組合せ効果ある結構に仕組む。

キヤクスウ(逆數) 【算】數の逆數とは、1をこの數で割る得る數のことである。3の逆數は1/3で、4の逆數は1/4である。

キヤクセンフウ(逆旋風) 【Anti-cyclone】【地】高氣壓部の中心の周りに空氣の逆旋風を起すものである。

キヤク

キヤクダ(恰克圖) 【Khatka】【地】シベリヤの「トランスバイカル」州の都會。「イルクツク」の東南鐵道百八十里、支那蒙古の買賣城に對し茶・毛皮の取引行はれる。一七二七年清露兩國の使者相會して通商條約を締結し、露清の國境を定めこの地を互市場とした。

キヤクダンソウ(逆断層) 【地】断層の起る時には断層面に沿ひ、その上盤の方の落ち込むを常とするが、稀に下盤の方落ち込むか又は上盤の方のこり上る事がある。斯る特別の現象を云ふのである。

キヤクチヨキン(規約貯金) 【郵】勤儉貯蓄をなさしめんが爲、組合を組織し、規約を設け、拂戻に制限を附して預入する郵便貯金をいふ。明治三十二年十二月特別法として實施されたが、明治三十八年六月郵便貯金法の實施に伴ひ同貯金規則の一に編入され従前より改善せらるゝ所多く、現今利用するゝ所甚だ多い。

キヤクテイリ(逆定理) 【數】三角形の二邊相等しければその二角相等し、三角形の二角相等しければその二邊相等しと云ふ兩定理の如きもの。即ち甲ならば乙なりと云ふ形式の定理。

キユウ(球) 【Sphere】【數】半圓の直径を軸とし半圓を一周廻轉させるとき生ずる所の體。球を界する表面を球面と稱し、又は略して球とのみいふことがある。回轉して球を生ずる所の半圓の中心を球の中心又は球心と名け、中心を表面の點に結ぶ有限直線を球の半径と名ける。球の中心を過ぎり、兩端が球の表面に終る有限直線を球の直径と名ける。直径は半径の二倍である。直径の兩端にある一雙の點を對點といふ。球面は一つの定まれる點から、一定の距離にある點の軌跡である。球は球面を以て圍みたる體なりと定義することが出来る。球面の積は4πr<sup>2</sup>、體積は4/3πr<sup>3</sup>である。

キユウ(灸) 俗にマイト。蕪を乾燥し艾となせし綿様の材料。人體に附着し、火を點じ病症の治療に用ふるもの。凡て神經性の人又は迷信者に對しては多少の効はあら。

キユウカン(久安寺) 【地】大阪府(攝津)豊能郡細河村にある眞言宗の寺。大澤山安養院と稱す。本尊觀世音。僧行基の開基といふ。久安元年近衛帝僧賢實の爲に久安寺の名を給つた。

キユウカ(毬果) 【植】多花果に屬するもので多數の鱗片狀の雌蕊の發育したもので成るものである。松・樅等はこれに屬する。

キユウカク(嗅覺) 【生】瓦斯の微分子が、鼻腔の粘膜に分布せる嗅神經を刺激して生ずる感覺である。

キユウカザン(休火山) 【地】活火山中、現今その活動の止んだものである。

キユウカザンガン(舊火山岩) 【礦】中生代以前に噴出した火山岩である。

キユウカン(九官) 【動】鳴禽類、もと支那の産である。人語を擬すること極めて巧であるから、籠中に飼養する。略々カケス大で、全身の羽毛黒く翼に白い部分がある。眼の下から後頭の方に向つて黄金色の裸出部屈曲線をなして存在し嘴は赤く脚は黄色である。

キユウカン(休閑) 【農】田畑一年乃至數年の間作物を栽培することを休止すること。地力の恢復する一方法である。

キユウ 六四七

キヤク

と、乙なれば甲なりといふ形式の定理とを互に他の逆又は互に他の逆定理なりといふ。甲なれば乙なりとの定理ありとも、必ずしも乙なれば甲なりといふ定理ありとはいひ難い。例へば直角は相等しき角なりといふ定理あれど、相等しき角は直角なりといふ定理は無いのである。

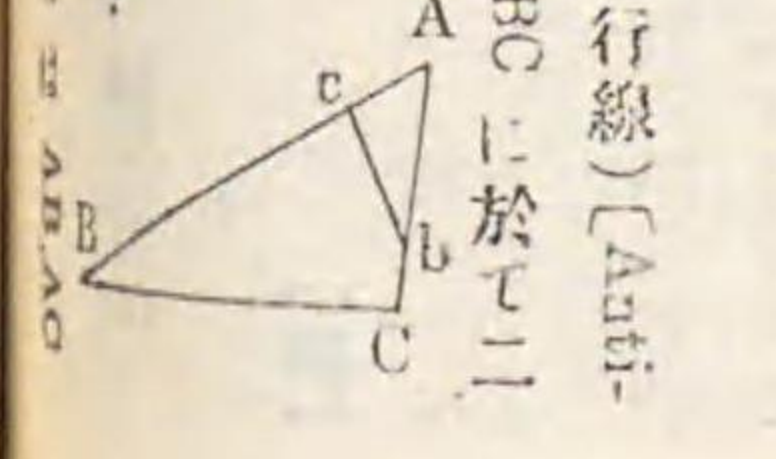
キヤクテン(逆轉) 宙返飛行の一形式。機首を上方に向つて後に轉するもの。

キヤクハンオウ(逆反應) 【Reversible reaction】【化】或反應に對してそれと正反對な反應。例 炭酸「カルシウム」が酸化「カルシウム」と二酸化炭素とに分解する反應に對しては、後の二者が化合して前者を生ずるのを逆反應といふのである。

キヤクヒレイ(逆比例) 【數】ハニルンに同じ。

キヤクブンスウ(既約分數) 【數】ヤクブンを見よ。

キヤクヘイコウセン(逆平行線) 【Anti-parallel】【數】三角形ABCに於て二點D、EがCA、ABの上A、Bに等しき距離に取ると、DEは二角形ABCに平行である。而してDEはBCの半長である。



キユウアンジ(久安寺) 【地】大阪府(攝津)豊能郡細河村にある眞言宗の寺。大澤山安養院と稱す。本尊觀世音。僧行基の開基といふ。久安元年近衛帝僧賢實の爲に久安寺の名を給つた。

キユウカ(毬果) 【植】多花果に屬するもので多數の鱗片狀の雌蕊の發育したもので成るものである。松・樅等はこれに屬する。

キユウカク(嗅覺) 【生】瓦斯の微分子が、鼻腔の粘膜に分布せる嗅神經を刺激して生ずる感覺である。

キユウカザン(休火山) 【地】活火山中、現今その活動の止んだものである。

キユウカザンガン(舊火山岩) 【礦】中生代以前に噴出した火山岩である。

キユウカン(九官) 【動】鳴禽類、もと支那の産である。人語を擬すること極めて巧であるから、籠中に飼養する。略々カケス大で、全身の羽毛黒く翼に白い部分がある。眼の下から後頭の方に向つて黄金色の裸出部屈曲線をなして存在し嘴は赤く脚は黄色である。

キユウ 六四七

キヤク

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七

キヤク 六四七



土壌改良の目的である。この法を行ふときは一旦地力を消耗して、作物の栽培に見込なき土地も、数年の後には無肥料で生産する土地となる。

キエウカンキ(嗅覚器) 【生】嗅覚を司る所の機関で即ち鼻である。即ち嗅神経たる第一對腦神経は、頭蓋腔と鼻腔の間に存する篩状の骨板を通じて、鼻腔上部の粘膜に分布し、物の香臭を嗅ぐことを司るものである。

キエウカンタイ(義勇艦隊) 國民の義勇奉公心を以て任意に組成する艦隊平時は運輸業を營んでその經費を支辨し、事ある時は海軍の使用に供する。故にその船體は普通商船と非裝甲巡洋艦とを折衷して快速力を持たせるものである。

キエウカンタイソウ(球竿體操) 【體】普通體操の一つで、球竿を用ひて行ふものである。

キエウキキ(吸氣器) [Aspirator] 【化】燃焼管等に氣體の流通を促がす爲め氣體を吸入する器。圓筒形の器の上下にある。中に水を充たし、上口を管に連ねて下口を開かす。水が流出するに従ひ、上口より氣體が吸込まれて管中を流通する。

キエウシヤ(牛舎) 【農】牛舎は乾燥なる土地を選び南面して温暖なるをよしとする。尙ほ空氣の流通を完全にすることが必要である。床は不透透質の物質で造り、百分の一乃至八十分の一の勾配を附す。廣さは牛の種類により普通市四五尺奥行八九尺位とする。後方に三四尺の通路を設け畜舎の掃除に便にする。

キエウシユ(牛脂油) 【油】牛脂中の液體分を採取した淡黄色の油。主に器

鮮な空氣を坑内に輸送する堅坑。通常掃揚及び排水に、又間々排氣を兼ねしむるものもある。

キエウキヨウ(九歸法) 【數】ハッサンを見よ。

キエウキヨウノイチモウ(九牛一毛) 【漢】澤山の中の少し許りのことで、大海の一滴といふのに同じである。

キエウキヨウノウ(救急囊) 通行人が不時の傷害を蒙つた場合、徒らに時間を空費し手遅れにならない様應急手當が加へられるための用意にこの程警視廳から各巡査派出所に一個づつ、救急囊なるものが渡された。

キエウキヨウ(新教) 【宗】新教に對する呼び方。ギリヤ教、天主教共に同じ舊教であるけれども主に天主教を指す。テンシキヨウを見よ。

キエウキヨウモクテキ(究竟目的) [End aim] 人類が必然の追求を要する目的で、倫理學の研究する所である。古來これに關し三説ある、曰く快樂説、克己説、實現説である。

キエウキヨウ(九去法) [Casting out nine] 【數】或る整数から9の倍数を引き盡した残り、即ち9で割つた剰餘の別數字の和を言ふ。割ればその餘は山である。

キエウケイ(弓形) 【數】圓の弓形とは、弦とこれに對する二つの共軌弧の中の一つで圍んだ圓形である。弓形はこれを圍む弧が優弧なるか或は劣弧なるかに従つて、優弓形或は劣弓形といふ。弓形に於ての角とは弓形の弧の上の二つの點からその弧の兩端へ引いた二つの直線の夾む角をいひ、その弓形はこの角を含むといふ。

キエウケイ(球莖) 【植】地下莖の一種。大なる盤狀をなし、小なる鱗片を附着する。スキセン・サフラン等が有してゐる。

キエウケイカンラン(球莖甘藍) 【農】十字科植物に屬する外國産蔬菜の一種。莖に似れど地中に球根を生ぜず、地上莖が肥大してゐる。栽培法は三四月頃床地に播き、五六葉出で、他に移植し、約二ヶ月を経れば收穫に適する。一般の手入れは他の蔬菜と同じである。

キエウコウ(九江) [Kin-kiang] 【地】支那廣東省韶州の首府で貿易港である。揚子江上南京の西南二五〇哩。人口約四萬ある。

キエウコウ(宮城) 舊稱は大内裏・内裏・皇居等である。明治天皇江戸に行幸。江戸城を東京城と改稱皇居とせられたのである。明治六年炎上、同二十一年造營成り、詔して宮城と改められたのである。

キエウシヨウカヤク(急燒火藥) 【軍】

キエウシヨウ(急燒火藥) 【軍】

海に臨む。特別開港場の一。港内水淺く船舶の出入に不便である。附近に多く柑橘を産し又芋麻を出す。

キエウコウサクモツ(救荒作物) 【農】飢饉の時栽培に適する作物。菊芋・瓜哇薯・稗の如く性強く旱魃・風雨のためにも損すること少く、瘠薄なる土地にもよく成長するものは何れも適當とする。

キエウコウ(鳩類) 【動】嘴は短く末端の膨大せる所の角質、餘は軟皮を被り、鼻孔上に鱗狀の軟骨がある。翼は長大にして能く飛翔する。足は短小にして赤色、樹上に棲息し穀物を食とする。ハトはこれの類の鳥である。

キエウザエモン(大瀬休左衛門) 鹿兒島縣(大隅種子島の人。製鹽を業とし、兼ねて農を營び、元禄二二年琉球から甘藷一箱を傳へ、始めてこれを栽培した。後諸州に傳播し終に全國に傳はつた。同一三年歿。

キエウシ(白齒) [Molart] 【生】の條を見よ。

キエウシ(休止) 【法】訴訟中口頭辯論の期日に當事者雙方出廷しない時は更に新期日の指定を申請しなければ訴訟は停止する。

キエウシ(休止) 【法】訴訟中口頭辯論の期日に當事者雙方出廷しない時は更に新期日の指定を申請しなければ訴訟は停止する。

キエウシ(牛脂油) 【油】牛脂中の液體分を採取した淡黄色の油。主に器

キエウシ(牛脂油) 【油】牛脂中の液體分を採取した淡黄色の油。主に器

キエウシ(牛脂油) 【油】牛脂中の液體分を採取した淡黄色の油。主に器

キエウシ(牛脂油) 【油】牛脂中の液體分を採取した淡黄色の油。主に器



キユウ

板上を轉動する状態をいふ。この際水溝の下面は水蒸氣を以て板と隔離さるゝから容易に凍結せぬのである

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウ

ケ年。判任官にありては滿一ケ年。復職を命ぜらるゝことなくこの期間を過ぐれば當然官吏たる資格を失ふ。休職中の俸給は本俸の三分の一。判事は十五年以上奉職し疾病その他により休職を願出する時之を命ぜらる。武官は陸軍分限令により解隊・廢職・定員改正・滿期解任・停職となりたる者歸朝し、他人已に代りてその職に在るとき、特別の職を終へ就職の命なきとき、本人の請願により修學を許可したるとき及び修學滿期して就職の命なきとき、傷疾若くは疾病六ヶ月に至り尙恢復の徴候なきとき、陸軍上長官・士官各その部内の文官に専任したるとき等によりて職務なきものをいふ。海軍高等武官・准士官服役令に據れば休職は待命一年を過ぎたるものでその他修學許可・修學滿期・傷疾疾病・文官に専任したるとき等は皆陸軍の規定と略同じである。陸海軍何れも休職後五個年を経過職せざる時は豫備に編入せらる。その他外國在勤巡查・戰時事變の際陸海軍監獄看守及び陸軍警守・海軍警査・巡查・看守・貴衆兩院守衛等の休職に就きては特に法令を以て夫々規定せられて居る。

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウ

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウ

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウシヨク(休職) 【法】官吏及び准官吏が職務の擔任を一時停止されること。全く官職の關係を離れた辭職ではない。故にその資格を存続する點に於ては免官と異り又全然職務より脱退せざる點に於ては停職と異なる。

キユウ

キユウセイ(九星) 【九】陸陽家の語。夏の禹王水を治めし時、浴水より獲たる神龜の脊上にあつたといふ浴書九星に基くといふ。浴書の圖は一より九迄の數の排列にして九を縦き、一を横き、二を左にし、七を右にし、二と四を肩にし、六と八を足とし、五を中央に在る縦・横・對角線共にその總和十五となる。これに水・火・木・金上の五行を配當して一白(地)・水星・二黒(西南)・土星・三碧(東)・木星・四綠(東南)・木星・五黃(中央)・土星・六白(西北)・金星・七赤(西)・金星・八白(東北)・土星・九紫(南)・火星の名目を設けこれを九星といふ。

キユウセイ(九星) 【九】陸陽家の語。夏の禹王水を治めし時、浴水より獲たる神龜の脊上にあつたといふ浴書九星に基くといふ。浴書の圖は一より九迄の數の排列にして九を縦き、一を横き、二を左にし、七を右にし、二と四を肩にし、六と八を足とし、五を中央に在る縦・横・對角線共にその總和十五となる。これに水・火・木・金上の五行を配當して一白(地)・水星・二黒(西南)・土星・三碧(東)・木星・四綠(東南)・木星・五黃(中央)・土星・六白(西北)・金星・七赤(西)・金星・八白(東北)・土星・九紫(南)・火星の名目を設けこれを九星といふ。

キユウ

キユウセイ(九星) 【九】陸陽家の語。夏の禹王水を治めし時、浴水より獲たる神龜の脊上にあつたといふ浴書九星に基くといふ。浴書の圖は一より九迄の數の排列にして九を縦き、一を横き、二を左にし、七を右にし、二と四を肩にし、六と八を足とし、五を中央に在る縦・横・對角線共にその總和十五となる。これに水・火・木・金上の五行を配當して一白(地)・水星・二黒(西南)・土星・三碧(東)・木星・四綠(東南)・木星・五黃(中央)・土星・六白(西北)・金星・七赤(西)・金星・八白(東北)・土星・九紫(南)・火星の名目を設けこれを九星といふ。

キユウセイ(九星) 【九】陸陽家の語。夏の禹王水を治めし時、浴水より獲たる神龜の脊上にあつたといふ浴書九星に基くといふ。浴書の圖は一より九迄の數の排列にして九を縦き、一を横き、二を左にし、七を右にし、二と四を肩にし、六と八を足とし、五を中央に在る縦・横・對角線共にその總和十五となる。これに水・火・木・金上の五行を配當して一白(地)・水星・二黒(西南)・土星・三碧(東)・木星・四綠(東南)・木星・五黃(中央)・土星・六白(西北)・金星・七赤(西)・金星・八白(東北)・土星・九紫(南)・火星の名目を設けこれを九星といふ。

キユウ

キユウセイ(九星) 【九】陸陽家の語。夏の禹王水を治めし時、浴水より獲たる神龜の脊上にあつたといふ浴書九星に基くといふ。浴書の圖は一より九迄の數の排列にして九を縦き、一を横き、二を左にし、七を右にし、二と四を肩にし、六と八を足とし、五を中央に在る縦・横・對角線共にその總和十五となる。これに水・火・木・金上の五行を配當して一白(地)・水星・二黒(西南)・土星・三碧(東)・木星・四綠(東南)・木星・五黃(中央)・土星・六白(西北)・金星・七赤(西)・金星・八白(東北)・土星・九紫(南)・火星の名目を設けこれを九星といふ。

キユウセイ(九星) 【九】陸陽家の語。夏の禹王水を治めし時、浴水より獲たる神龜の脊上にあつたといふ浴書九星に基くといふ。浴書の圖は一より九迄の數の排列にして九を縦き、一を横き、二を左にし、七を右にし、二と四を肩にし、六と八を足とし、五を中央に在る縦・横・對角線共にその總和十五となる。これに水・火・木・金上の五行を配當して一白(地)・水星・二黒(西南)・土星・三碧(東)・木星・四綠(東南)・木星・五黃(中央)・土星・六白(西北)・金星・七赤(西)・金星・八白(東北)・土星・九紫(南)・火星の名目を設けこれを九星といふ。

キユウ

キユウセイ(九星) 【九】陸陽家の語。夏の禹王水を治めし時、浴水より獲たる神龜の脊上にあつたといふ浴書九星に基くといふ。浴書の圖は一より九迄の數の排列にして九を縦き、一を横き、二を左にし、七を右にし、二と四を肩にし、六と八を足とし、五を中央に在る縦・横・對角線共にその總和十五となる。これに水・火・木・金上の五行を配當して一白(地)・水星・二黒(西南)・土星・三碧(東)・木星・四綠(東南)・木星・五黃(中央)・土星・六白(西北)・金星・七赤(西)・金星・八白(東北)・土星・九紫(南)・火星の名目を設けこれを九星といふ。

キユウセイ(九星) 【九】陸陽家の語。夏の禹王水を治めし時、浴水より獲たる神龜の脊上にあつたといふ浴書九星に基くといふ。浴書の圖は一より九迄の數の排列にして九を縦き、一を横き、二を左にし、七を右にし、二と四を肩にし、六と八を足とし、五を中央に在る縦・横・對角線共にその總和十五となる。これに水・火・木・金上の五行を配當して一白(地)・水星・二黒(西南)・土星・三碧(東)・木星・四綠(東南)・木星・五黃(中央)・土星・六白(西北)・金星・七赤(西)・金星・八白(東北)・土星・九紫(南)・火星の名目を設けこれを九星といふ。



キエウ

雌雄同體である。「デストマ」類はこ  
の目に属する。

キエウニエウ(牛乳) 【食】牝牛の産出  
する乳。白色又は帯黄白色の液であ  
る。酸性とアルカリ性とを同時に  
呈する。脂肪・蛋白質・糖分に富み消  
化し易く、人の飲料に用ひ嬰兒を養  
ひ、病者の栄養を補給する効がある。  
その他「バター」煉乳・乾酪等を製造す  
る。牛乳中には病原的細菌存在する  
場合ある故飲用するには七十五度位  
の温度で三四分間熱するを可とす。

キエウノマイ(急之舞) 【能】舞の名。  
舞の位の最も早きもので、道成寺に  
ある。

キエウバトウガイ(牛馬頭街) 【地】臺  
南臺中州の都會、今清水街といふ。牛  
馬頭は舊稱である。豊原の西、梧樓の  
東に在り。彰化・新竹街道に當り王田  
から分れる海岸鐵道の一驛である。

キエウバン(吸盤) 【動】他動物に吸着  
して容易に離れない器官。頭足類の  
觸手、蛭類の口部及び尾端等に有す  
るものである。

キエウビエー(Cuvier) 【生】佛國の生  
物及び生理學者である。動物學分類  
法、比較解剖學の始祖。又古生物學の  
開拓者。「ナポレオン」一世及び「ル  
イ」三世の遺骸の一部分を反射面と  
する鏡で、凸鏡凹鏡の二種ある。

キエウメンキョウノコウシキ(球面鏡  
の公式) 【物】球面鏡の共軛焦點並に  
正焦點の鏡心よりの距離の間の關係  
を示す式をいふ。今Dを以て夫々  
焦點から光點及び焦點から鏡心に至  
る距離を表せば、その關係は次の  
如くである。

四面鏡の公式  $\frac{1}{p} + \frac{1}{q} = \frac{1}{f}$   
凸面鏡の公式  $\frac{1}{p} - \frac{1}{q} = \frac{1}{f}$   
を以て曲率半徑を表せば、 $f = \frac{r}{2}$ とな  
る故、上式中「r」の代りに「2r」を用  
ふるも差支ない。

キエウメンサンカケイ  
(球面三角形) 【數】半圓周から小  
さき三つの大圓周の弧が二つ宛相會  
して、球面の一部分を圍んだ圖形を  
いふ。その三つの弧は何れも三角形  
の邊である。又邊の角が三角形の角  
である。球面三角形に直角三角形・二  
等邊三角形・等邊三角形がある。

キエウメンシユウ(球面収差) (Spherical aberration) 【物】球面鏡又は「レ  
ンズ」に於て一點から發射し來れる  
光が反射又は屈折する際、鏡心又は  
光心に近く來れるものは、殆ど一點

キエウ

イ「二世の恩賜を得、ルイ、フイリッ  
プ」王に貴族に進められたのである。  
(西紀一七七一—一八三二年)

キエウビエーシキ(Cuvier's device) 【動】  
多くの「ナマコ」類の排泄腔に連つた  
ところの數多の線状をした管。體外  
に突出することが出來、その作用は  
排泄であるといふ。正確でない。

キエウビエム(Cubism) 【畫】近年佛國  
美術界を風靡しつゝある三角立體畫  
法と稱する一様式。畫面の上に立體  
の感じを現はさうとする一派の畫法  
「セザンヌ」に始まり「ピカソ」に至つ  
て益々變化して來た。

キエウビツド(Cupid) 【神話】愛の神  
「ジュピター」と「ヴィーナス」との子  
翼を  
持ち  
常に  
弓矢  
を携  
へて  
ゐるが、その矢を胸に射込まれたも  
のは戀を味ふとの傳説がある。

キエウビノイタ(鳩尾板) 鏡の附屬具。  
左の綿上に懸け高紐を載ふ。一枚板  
を裝着して包み毛引にせず外へ高く反  
らせる。



トツビエウキ

キエウメンタカケイ(球面多角形)  
【Spherical polygon】【數】大圓弧を以  
て圍んだ球面の一部分である。

キエウメンテンモンガク(球面天文学)  
【天】天文学の一。天球上に於ける天  
體の位置を論ずる學問。實地天文学・  
理論天文学等に極めて密接な關係を  
有してゐる。

キエウメントツキヨウ(球面凸鏡) 【物】  
單に凸面鏡とも稱する反射面が鏡面  
の一部から成り光を反射する面は球  
の外側に向ふ面である。換言すれば  
中高な反射鏡である。この鏡によつ  
て生ずる像は虚像で定物より常に小  
である。

キエウヤクゼンシヨ(舊約全書) 【宗】  
基督以前に完成した猶太民族の經典  
凡て三十九卷。律法部・歴史部・詩歌  
部及び豫言部がある。又これを二分  
して律法及び豫言ともいふ。最完成  
した古典である。

キエウウキ(給油器) 【機】機械が運動  
して擦合ふ部分に摩擦を減じ熱を防  
ぐための注油する機械。種々あつて汽  
筒の内部に給油する方法は少し他と

キエウ

キエウブン(球分) 【數】球分の名稱或  
は扇形體を指すことがある。或は缺  
球臺即ち平行する平面で截つたとき  
その間にある部分を指示することが  
あつて一定しない。

キエウフン(牛糞) 【農】冷性の運動肥  
料。牛は他の反芻動物に比べて多量  
の水を飲むゆへ糞尿も水分に富み、  
養分割合に少く、その質緻密で空氣  
の侵入難き故醗酵遅く効能速かくな  
いが砂土の如き輕鬆土に施して効が  
ある。平均成分は窒素〇・三二%、磷  
酸〇・一五%、加里二・二五%である。

キエウフンザン(牛份山) 【地】臺灣基  
隆河の上流、基隆の東南に當り、金を  
産する。

キエウヘイ(義勇兵) 【軍】各人任意に  
志願して服役する兵。英國に行はれ  
る。同國では西紀一八五九年外寇の  
憂あるところからこの制を設け國防  
に充て、自ら將校を選擧し、任意に兵  
術を練習し、一定の練習を終つたも  
のを有効兵とする。兵器は政府から  
支給し、その他の費用は官給・私費夫  
々規定がある。

キエウホウ(白砲) 【軍】短砲身に騎裝  
藥を裝填し彎曲した彈道を以て射撃  
する火砲。各國共通通常海岸砲・攻城砲  
異り、蒸氣がある故多くは「サイト  
アイド」リユックケーター」を使用す  
これは油の中に汽管を導き縮した  
水の量丈比重量の差に依つて油を送  
出しこれを蒸氣中に混じる装置。

キエウゴボン(給油筒) (Oil can)  
【機】油槽より汽機の主軸承部  
に油を供給する「ポンプ」船用「ター  
ビン」汽機は各動作部の調整微妙な  
れば注油最も注意を要し、豫備用と  
も二組の小形唧筒を用ふ。本器には  
又冷油装置及豫油槽を備へてある。

キエウヨウ(給養) 【軍】軍隊で人馬に  
糧食を供給すること。戦時軍隊を  
統率する上に最大要務の一である。  
戦地の給養法には宿舎・倉庫・推行糧  
林・徵發給養の四つがある。

キエウヨウハン(給養班) 【軍】平時軍  
隊の教育及び經理上の關係から各中  
隊を數個の給養班に分ち、各班長は  
軍曹又は伍長である。

キエウラクシ(牛酪脂) 【食】牛酪中  
の脂肪。主に酪酸・カプロイン・酸・  
「カプリン」酸・「カプリン」酸・「パ  
ルミチン」酸・「ステアリン」酸・「ミ  
スチン」酸及び「オレイン」酸の「グリ  
セリン」・「エステル」より成て居る。

キエウリ(胡瓜) 【植・農】胡瓜科の上昇

キエウ

に用ひる。二十四・十五及び九 equal の  
各種の口徑がある。

キエウホウ(宮保) 支那清朝時代高官  
を優待する意味で太子少保の銜を賜  
ふ。これを宮保と云ひ、その人の性の  
下に附して尊號とした。

キエウミンシ(休眠子) 【植】接合藻類  
の接合子の休眠の状態にあるもの。  
一時水底に沈み期を待つて發生す。  
キエウメイテイ(救命艇) (Life-boat)  
【船】本船に搭載し置き危急の場合に  
人命を救助するのに使用する端艇。  
兩側に空氣箱を設け浮力を輔ける。

キエウメン(球面) 【數】半圓がその直  
徑を軸として一週回轉する時畫く表  
面。立體解幾何學では中心を原點  
とし、回轉半圓の半徑を一とすれば、  
球面は  $x^2 + y^2 + z^2 = 1$  にて表される。

キエウメンオウキョウ(球面凹鏡) 【物】  
反射面中底の球面鏡をいふ。  
キエウメンカク(球面角) (Spherical an-  
gle) 【數】二つの球面上の二つの大  
圓のなす角である。

キエウメンカクジヨウ(球面過剰) (Sph-  
erical excess) 【數】球面三角形の角の  
和と、二直角の差をその三角形の球  
面過剰といふ。

キエウリー(Pierre Curie) 【物】佛國の  
物理學者。「ソルボンヌ」大學を卒業  
し、理學博士の學位を受け、後その教  
授に任せられた。「ウラニウム」並に  
その化合物の放射性に就て研究し、  
西紀一八九八年「ラヂウム」並に「ポ  
ロニウム」を發見した。その妻「マリ  
ー・スクロドウスカ」も亦物理學化  
學に造詣深く、夫を輔けて斯學に貢  
獻せしこと實に大である。一九〇三  
年、夫妻共に「ノーベル」賞金を受領  
した。一九〇六年歿。

キエウリユウ(穹窿) 【建】半球狀をし  
てゐる天井の稱であつたが後には半  
球以外のものも總稱するやうになつ  
た。材料は煉瓦・石・土等を用ひ、  
種類は筒穹窿・圓穹窿・稜穹窿及び鏡穹  
窿等がある。筒穹窿は竹筒を二つ割  
にした様な形で、圓穹窿は恰も碗を

キエウ  
六五三



キユウキユウ

伏せたやうな形でその下に鼓胴と垂下飾とを持つものがある。その他は...

キユウリヨウ(丘陵)【地】低く小な山。その高については確なる定限がない...

キユウレキ(舊曆)【地】タイインレキの條を見よ。

キユウレンジヨウ(九連城)【地】支那滿洲盛京省の東端、鴨綠江を隔て、朝鮮の義州城と相對する。日清日露...

キユウバ(欽馬)【地】北アメリカ、湖西印度の最大島。キユバ、共和國といふ。面積六千三百六十方里...

キユウキユウ

蔗、煙草を第一とし、珈琲、カカオ、馬鈴薯を出だし、砂糖は世界第一の産額がある。首府は西北岸にある...

キユウ(貴陽府)【地】支那貴州省の首府。雲南に通ずる要路に當る。この地方政治の中心で、湖南、廣西の産物...

キユウ(經)【佛】梵語。修多羅。素咀。修妬路といふ。正譯は經である。經を以て花環を造る様に元理を貫いて萬...

キユウアン(教案)【教】教授案といふ。豫定の教材を各時間に配當して、教授の順序方法を記した教案。

キユウカ(狂歌)【國】和歌の變體。狂じた滑稽の歌。(キョウカシ参照)キユウカワセ(狂歌合)【歌】狂歌を調はせて優劣を競ふこと。歌合に倣つたもの。後柏原天皇から始まる。

キユウカイ(教會)【宗】宗教の團體。基督教は基督教徒の團體。これを大きくすれば教派を意味する。キリシヤ教會、ローマ教會、日本基督教會、組合教會の類。これを小さくしたものは一地方に組織されてある團體で本郷教會、麻布教會、大阪教會、神戸教會の類。又これ等の大小の團體の總稱になることもある。單に基督教會といふ類である。

キユウカイ(福田行誠)【僧】淨土宗の名僧。晉阿と號す。淨土及び天台の宗義に通じ、東京深川回向院、傳通院の住職を経て明治十二年増上寺の住職となり、二十年京都智恩院の門主となり、翌年四月寂。年八十三。佛教に關する著書頗る多し。

キユウカイカク(境界角)【物】キワドキカクニ同じ。

キユウカイガン(凝灰岩)【地】【礦】火山灰及び火山岩の碎片が水中に沈殿凝結して生じた岩石。粗鬆柔軟で...

キユウキユウ

キユウキユウ

て或る期間繼續して行ふ普遍的陶冶で、被教育者をして獨立し得る個人、社會の一員たらしむるを目的とする。これをその場所によつて家庭教育、學校教育、社會教育に分つ。

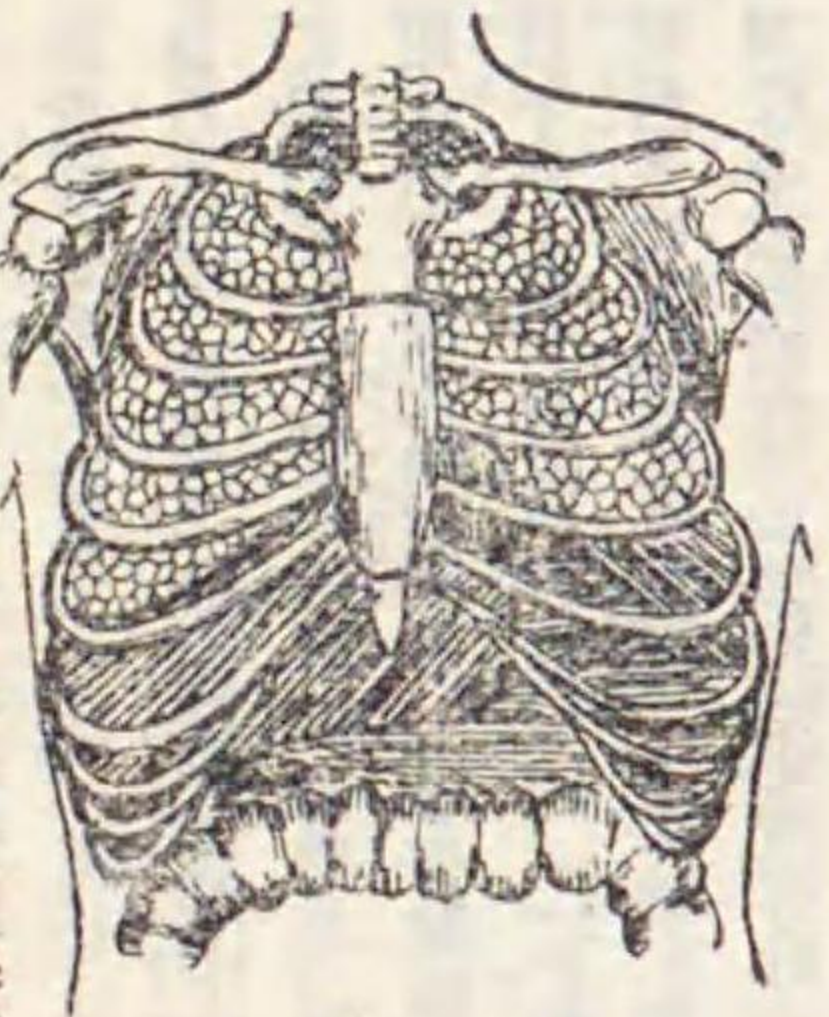
キユウイクガク(教育學)【教】教育の目的方法及び兩者の關係等を連絡系統あらしめる様組織したるもの。倫理、心理等を最基礎な基礎學とする。各條を見よ。

キユウイクキヨウセイ(教育行政)【教】國の教育事務と市町村の教育事務とあり、前者は學校の目的、種類、編制、教科目、教學の義務、設備の準則、費用の負擔等を定むる國家行政の一方...

キユウイクセイド(教育制度)【教】又學制ともいふ。國の教育組織である。我國に於ては普通教育に幼稚園、小學校、高等女學校、專門教育に大學、醫學校、商工農學校、美術學校、音樂學校、特殊教育に盲啞學校等がある。文部省これに關する。

キユウカオン(協和音)【音】音樂上の語。音程を組織する二音の同時に發する時その調和最良く聽者に快感を與へるもの。長三度、短三度、完全四度、完全五度、長六度、短六度及び完全一度又は八度の類である。

キユウカク(胸廓)【生】前壁は胸骨及び肋軟骨、後壁は脊柱、兩側は肋骨にて成り、諸骨の間に筋肉がある。その中に肺臓及び...



胸廓

キユウカク(胸廓)【生】前壁は胸骨及び肋軟骨、後壁は脊柱、兩側は肋骨にて成り、諸骨の間に筋肉がある。その中に肺臓及び...

キユウキユウ

外陸海軍、選信、司法及び宮内の諸省にも、亦各所屬の學校がある。キユウイクツウカン(教育總監部)【軍】陸軍全般教育の齊一進歩を規畫する所。東京麹町區竹橋にある。總監は大・中將。

キユウイクチヨクゴ(教育勅語)【教】明治天皇が明治二十三年十月卅日これを下された勅語。我國體の成立、風世君臣の關係、國民道德の特色を列叙し、國民の根本主義を明示し、臣民の益々感奮興起を促し給ふた不磨の金言である。同三十一日文部大臣から騰本を全國公立學校に交附し、聖意を奉體して研讀薰陶の大業とし、學校の式その他便宜に時を定め生徒を會集して奉讀し、諄々誨告し生徒をして日夜佩服すべき旨を訓示した。

キユウイクテキキヨウジユ(教育的教授)【教】單に組織技能の傳達に止まらず、これを以て思想界を陶冶し、品性を確立しやうとするにある。ヘルバルトの創唱した所で、普通教育は實にこの主義に基く。

キユウイクハクツツガン(教育博物館)【教】東京高等師範學校の附屬。湯島大政殿に在る。教育用品、成績品、教育圖表を展覽し、供する所。明治八年...

キユウカク(仰角)【地】一直線が地平面上に於るその正射影となす角で、地平面から上にあるもの。下にあるを俯角といふ。

キユウカシ(狂歌師)【歌】又與歌師ともいふ。太田蜀山人、六樹園飯盛、北川眞顔等最有名である。大屋眞住が定家の遠忌に「當も蛙も同じ歌仲間、經よむもあり唯鳴くもあり」と詠み某婦神家より萩の屋の號を賜はつてから何の屋の號を附す事が始まつた。

キユウカシヨ(教科書)【教】教材を記した書籍。被教育者は教師の教授によつて始めて十の理解が出来る。教科書の理解を容易にし又は獨習する時に用ひる書籍を参考書といふ。教科書は教授を容易にし且効果を多くさせる方法のもので、小學校の教科書は明治三十七年以來國定となり、中學、師範、高等女學校等のは文部省檢定を経べきものとしてある。

キユウカダビラ(經衣・經帷子)【國】經衣・經帷子といふ。死者を葬る時著せる薄衣である。表は法華經、阿彌陀經、真言陀羅尼又は六字の妙號等を書くのである。惡逆の罪業を犯せる者もこの功德により惡逆の苦惱を免れ能...



キヨウ

く天界に生るゝ事を得るといふ傳説から来たもの。  
キヨウカツシユザイ(恐喝取財)【法】人に危害を通告して畏怖せしめ財物を交付せしめ、又は不當の利得を得、又は得せしめたるをいふ。他人畏怖のため意思の自由を失ふ程度に到りたるときは盗賊となるも、脅迫の程度重大ならざるときは恐喝取財といふ。一月以上十年以下の懲役に所せらる。(刑法二四九條)

キヨウガミサキ(經岬)【地】京都府(丹波)竹野郡の北端。東方遙に立石岬に相對する所である。

キヨウカン(胸管)【生】腸及び胃の淋巴管の漸次相集り、一本の太き管となつたものを胸管といふ。これは左頸静脈と左鎖骨下静脈の會合部に開口する。

キヨウカンジ(行願寺)【地】京都市上京區寺町通にある天台宗延曆寺の別院。寛弘元年行圓上人の開基。本尊の十一面觀音は行圓作と傳へらる。西國第十九番の札所。一名草堂といふ。

キヨウキ(狭軌)【鐵】三呎六吋の軌道を有する鐵道。現在我國に行はれてゐる鐵道はこれである。(キドウの條參照)

キヨウ

キヨウキ(兇器) 人の身體を損傷さすべき器具。性質上のもつと、用法上のものである。銃・鉞・刀劍等は前者に、棍棒等は後者に屬する。  
キヨウキ(經木)【工】杉・檜等の材を大匏にて紙の如く薄く削つたるもの。長方形に切り、食品の包装・折箱の下敷等とし、その細長きは經木眞田に組みて夏の帽子を編み、又た著色して髪飾の根掛等に用ふる。眞田は外國へ相應に輸出さるゝのである。

キヨウキベン(凝汽機)【機】蒸氣は鐵管中を通過する間に外氣に冷され、又は曲角を通過する時遠心力により水分を生ずる故、是等水氣の汽筒に至るのを防ぐ爲め中途にてこれを排出する器である。

キヨウキヤキ(行基燒)【窯】土器。大阪府(和泉)泉北郡淡村の産。僧行基の創製といつてゐる。

ギョウキヤクルイ(機脚類)【動】甲殻類の一目。體軀は明に數關節より成り、口器は嚙咬刺通或は吸着に適し、四乃至五對の機脚を具へ、尾端は分又してゐる。雌は腹の兩側に卵囊を携帶する。寄生生活を營む機脚類には、頗る異狀の體形を持つてゐるものがある。(シタロップス、コンド)

キヨウ

ラカンド(等)これに屬する。  
キヨウキユウ(供給)【Supply】販賣又は交換の目的で、市場に持出された財貨の分量である。  
キヨウキン(胸筋)【生】軀幹筋中胸部の筋肉淺在・深在二層に大別し、甲を更に第一層大胸筋・第二層小胸筋・鎖骨下筋・第三層前大胸筋に、乙を外肋間筋・内肋間筋・横胸筋に細別する。  
キヨウキン(類筋)【生】顔面筋第三層の。頬部を形づくり、又齒槽に向つて壓迫し又口裂を閉鎖してゐる。この筋の纖維は口角で交叉し、口輪匝筋を成してゐるものである。

キヨウク(狂句)【俳】滑稽趣味の俳句の右稱。芭蕉の「景清も花見の座には七兵衛」などの如きもの。後來川柳と混同してゐるが、川柳とは全く異なるものである。(センリウウの條參照)

キヨウグ(教具)【教】教授用及び教室用の器具の總稱。

キヨウクヨウ(經供養)【佛】新に書寫した經卷を佛前に飾つて香華・燈明・珍饌等を供へ、衆僧集つて法要を營つたこと。現世・後世に非常な功德があつたとしてゐる。

キヨウクンツウ(教訓草紙)【文】寛永の末から寛文頃まで流行した婦女て人心術とした状態。稱類は産業上の恐慌・農業上の恐慌・工業上の恐慌・商業上の恐慌・金融上の恐慌・貨幣上の恐慌・銀行上の恐慌等がある。  
キヨウクウ(競合)【法】同一の目的物について互に相似した効力を有する權利が二箇以上共存する状態を權利の競合といふ。例へば、二種以上の先取特權が同一物に對して存在する時、又は先取特權と動産質權とが共存する様なものである。法律はこゝにいふ場合に對してその効力の差等を設ける爲めに順位なるものを規定する。

キヨウクウ(行幸) 天皇の御外出をいふ。近衛騎兵衛を護衛し、天皇旗を捧持するのである。昔はミユキと稱し、中古に天皇の御行を行幸、太上天皇の御幸、三宮・東宮等のを行啓と區別し御列には齒簿の公式がある。  
キヨウクウ(強行軍)【軍】軍隊の戰鬥力を失はない程度に於て急速に行進して目的地に到ることを務むる行軍である。(コウグンの條參照)

キヨウクウチヨツケイ(胸高直徑) 立木で吾人の胸の高さに當る部分の直徑、地上約四尺三寸の高さのこと。  
キヨウクウチヤツツ(強行偵察)【軍】防禦ある敵地に侵入し危険を顧みず

キヨウ

の修身書で、平易な假名文で綴られたもの。中江藤樹の「鑑草」北村季吟の「假名烈女傳」・辻原元甫の「女四書」等である。元祿・享保にも尙刊行された。  
キヨウケイ(行啓) 太皇太后・皇太后・皇后の諸陛下、皇太子・同妃・皇太孫・同妃の諸殿下の御外出のこと。近衛騎兵衛衛しその御旗を捧持するを例としたが、現時では公式の他は僅の供奉の御近臣を従へさせられるばかりである。

キヨウケンヤ(凝花舎) 平安内裏の一殿。紫宸殿の西北に當り、數芳舎と飛香舎との間に在る。又梅壺ともいふ。前庭に紅白の梅が植えてあつたのでこの別名がある。

キヨウケツ(凝結)【Condense】【物】氣體が液化すること。又凝固と同意味な(Freeze)の譯語たる事もある。  
ギョウケツキ(凝結器)【機】コンデンサーともいふ。蒸氣機關の背壓を減じ馬力を増す爲め用ひられる器。汽筒から最後に排出された廢汽を直に水に凝結させる装置で、「ジェット・コンデンサー」・「サーフェース・コンデンサー」がある。船用には凡て後者を採用してゐる。

キヨウコウルイ(胸甲類)【動】甲殻類の一目。頭胸部は一甲で蔽はれ、一對の有柄複眼・二對の觸角・一對の上腿・二對の下腿・若干の腿脚及び數對の脚がこれに附屬する。腹部は數環節から成り、各環節毎に一對の機脚を持つてゐる。淡鹹水に産し、エビ・カニ等がこれに屬する。

キヨウコウルイ(狭口類)【動】蛇類の一種。小形で頭短く、口は狭小尾は短小である。本邦にはこの類を産しない。  
キヨウコク(峡谷)【地】豁谷の幅が狭く、兩岸の地の高い絶壁又は急傾斜面をしてゐるものをいふ。主に深い山間にある。  
キヨウゴクカカツグ(京極高次)【歴】豊臣時代の武將。高吉の嫡子、初め織田氏に仕へ、後豊臣氏に仕へ、姉と妻の縁によつて秀吉に親近し大津六萬石を賜つた。關ヶ原の戰に東軍に屬し、戦後家康より若狭小濱及び越前敦賀郡九萬二千石に封せられ、參議從三位に陞つた。慶長十四年卒。年四十七。

キヨウゴクカトモ(京極高知)【歴】

キヨウケン(狂言)【能】在古行はれた田樂・猿樂などが分派變遷して成つた滑稽劇。室町時代に謡曲・能などと並び行はれ、文は當代の言語をその體に寫して、當時の世態を面白く描いたもの。  
キヨウケン(教權)【教】教師の威信に依つて學生を支配し、教導する一種の權力、その性質親權に近い。  
キヨウケンサクシヤ(狂言作者)【演】劇場の座員で脚本を作る人のこと。長を立作者といひ、二枚目・三枚目の席順がある。又すけといつて補助作者もある。三枚目以下は大方筆を執らず舞臺のことを斡旋したり拍子木を撃つたり、俳優の後見をしたりして狂言方といつてゐる。又別に作者見習もある。  
キヨウケンシ(狂言師)【能】能狂言の役者。翁の三番叟・能の間の狂言・後シテの出る間の語等を務めるもの。舞臺の上には黄色の革足袋を用ひる。古く大藏・和泉の三流がある。現今は和泉流最も行はれ流は殆んど廢たれた。  
キヨウケンビヨウ(狂犬病)【醫】天に流行する一種の傳染病。この病氣に罹つてゐる犬の咬傷又涎によつて

人・猫・馬・羊・豚等に傳染する。この狂犬は初め狂狂状態となつて街上を狂奔し、人畜は勿論木片・壁石等に無暗に咬付き飼主をも忘れるもので、食慾はなくなり却つて異物の味を好み、遂に癡痺に陥つて沈靜横臥して一週内に死ぬのが普通である。原因は目下研究中であるが病毒が人體に入つた時は十八日乃至三十日間位は潜伏してゐて次に二十三日間は愛憎忿怒の傾向・不安・不眠等精神上に障害を來し食慾缺乏し異物を咬みたり、次で三四日間發作性呼吸や嘔吐を見たり想像したり又は僅かの刺戟で直ぐに癡癲を起し、筋肉が震戦して一種の吠聲を出す。非常に苦悶して嘔吐・狂狀となり瞻妄幻覺を發し、熱は三十七八度から四十度になる。以後一日か三日の後癡痺して刺戟が無くなつて嗜眠に陥つて死ぬ。狂犬病又は恐水病ともいふ。狂犬に咬傷された時は、直に注射療法を受けなければならぬ。  
キヨウコ(凝固)【Solidification】【物】ギョウケンに同じ。其條を見よ。  
キヨウコウ(恐慌) 經濟上の調和を失ひ金融關係非常に亂れ破産者續出し

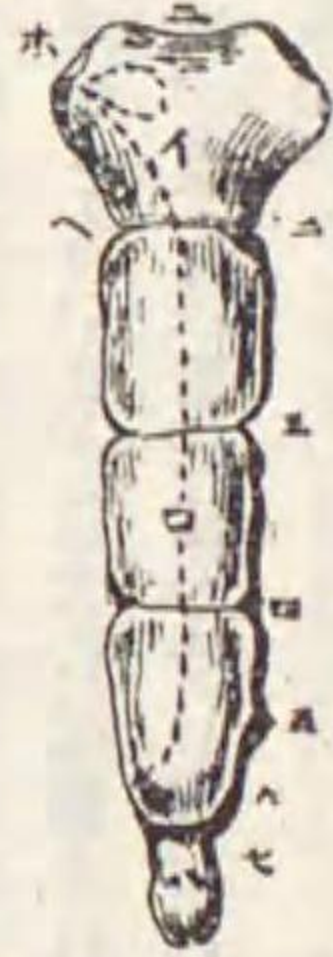
て人心術とした状態。稱類は産業上の恐慌・農業上の恐慌・工業上の恐慌・商業上の恐慌・金融上の恐慌・貨幣上の恐慌・銀行上の恐慌等がある。  
キヨウクウ(競合)【法】同一の目的物について互に相似した効力を有する權利が二箇以上共存する状態を權利の競合といふ。例へば、二種以上の先取特權が同一物に對して存在する時、又は先取特權と動産質權とが共存する様なものである。法律はこゝにいふ場合に對してその効力の差等を設ける爲めに順位なるものを規定する。  
キヨウクウ(行幸) 天皇の御外出をいふ。近衛騎兵衛を護衛し、天皇旗を捧持するのである。昔はミユキと稱し、中古に天皇の御行を行幸、太上天皇の御幸、三宮・東宮等のを行啓と區別し御列には齒簿の公式がある。  
キヨウクウ(強行軍)【軍】軍隊の戰鬥力を失はない程度に於て急速に行進して目的地に到ることを務むる行軍である。(コウグンの條參照)

キヨウクウチヨツケイ(胸高直徑) 立木で吾人の胸の高さに當る部分の直徑、地上約四尺三寸の高さのこと。  
キヨウクウチヤツツ(強行偵察)【軍】防禦ある敵地に侵入し危険を顧みず



豊臣時代の武將。高吉の子。高次の弟。初め豊臣氏に仕へ、信濃飯田六萬石を領し、慶長五年徳川氏に從ひ上杉景勝を征し、次いで美濃岐阜城を攻めて功を立て、丹後宮津十二萬七千石に封せられた。元和六年卒。年五十七。キヨウゴクダタカ(京極忠高)【歴】高次の子。徳川秀忠の女婿となつた。父の封を襲ぎ、更に大阪役の功によりて、出雲・隠岐兩國に移され前封と合せて二十六萬石に封せられた。寛永十四年卒。

キヨウゴクダメアキ(京極爲明)【歴】權中納言爲藤の子。和歌を善くし、後醍醐天皇の歌會毎に召された。北條高時を討つた謀洩るゝに及び爲明を捕へて鞠問せんとした。爲明歌を作り「思ひきやわが敷島の道ならで、浮世の事を問はるべし」と詠じ、罪を免かれた。天皇に從ひ安置城路るに及び捕へられ土佐に流された。建武の時京師に歸り、後北朝に仕へ正平十五年正三位侍從に進んだ。同十九年薨。年七十。キヨウゴクテウナゴン(京極中納言)【歌】フジヲラノサダイエを見よ。キヨウゴザン(京五山)【歴】足利義満の時支那印度に徵つて定めた禪寺の



等級である。即ち南禪寺・天龍寺・相國寺・建仁寺・東福寺・萬壽寺。キヨウコツ(胸骨)【生】前胸壁の正中に位し長方形をなす。手柄(イ)把柄(ロ)劍身(ハ)劍尖(ニ)頭截痕(ホ)鎖骨截痕(ヘ)軟骨及び鎖骨と連接する。キヨウコテン(凝固點)【Solidifying Point】【物】液體の凝固し初めてから終る迄の温度不變で、且同一の物質にあつては常に同一である。この温度をその物質の凝固點といふ。凝固點はその物質の融解點と同じ。キヨウサイ(河鍋曉齋)【畫】畫家。名は陳之、幼名周三郎。後河内。保元。狂齋。周。畫鬼。狂者。酒。亂。齋。雷。醉。怪。々。庵。賣。畫。道。者。賣。畫。道。人。怪。々。狂者。如。空。入。道。等。の。別。號。が。あ。る。下。總。古河の殺商の子。河鍋正信の養子。歌川國芳・狩野洞白に學び一家を成した。罪を得て獄に投せられた。笞五十を加へて放免された。因て狂齋を號號と

成車輪を生徒に教へやうとする時にその取扱方法を明にしたもの。これを立正にはまづ生徒の發達に適合し、又方法に變化がなくてはならぬのである。略して教案といつてこれを記載する簿冊を教案簿といふ。キヨウシユウ(強襲)【軍】要塞又は陣地攻撃の一方、攻撃隊を作り猛烈な砲撃を以て熱然敵營に突進するのである。明治三十七八年役旅順攻圍軍の行つた第一回總攻撃の類。キヨウシユウリヨク(藥暴力)【Chemical】【物】同質の分子が互に引合ふ力で、固體・液體が形又は大きさを保つはこれが爲である。キヨウシユウケン(共軸圓)【教】コウジユクエンを見よ。キヨウシユウキ(凝縮機)【機】蒸氣を冷却して再び水に復させる装置のこと。蒸氣機體で用ひてゐる一旦使用した排泄蒸氣の有つてゐる背壓力を消却するために直接や間接に冷水のある管の表面に觸れさせ、機關の啣子の一側に吹入する蒸氣の効率を膨大させる装置をいふ。種類装置法は多くあるけれども皆同じ理由で製氷などのやうに一度に熱を除去する作用

改めたといはれる。明治二十二年改。キヨウザイ(教材)【Unterrichtsstoffe】【教】教授材料の約。心意生活を基本として歴史的。自然科學的の二類に分つが、我國の實際に於ては、これを教科の下において更に狹義に用ふる。キヨウサニウシキン(胸鎖乳頭筋)【生】頭筋淺在層中の長筋。一側の作用にては頭部を廻轉又は傾斜し、頭を固定せる時兩側同時に作用せば胸部を牽上する。キヨウサニウトウキン(胸鎖乳頭筋)【生】胸骨及び鎖骨と鎖骨との間に亘れる筋。左右同時に收縮すれば頭を俯下し、その一方のみ收縮するときは、右或は左向をなす。キヨウサハン(教唆犯)【法】人を勸め、そのかして重罪を犯させた所爲行爲者(被教唆者)と同じく所罰されるのである。この犯罪は被教唆者の犯罪行爲が成立しなければ成立しない。但既遂・未遂を問はず所罰さる。キヨウサン(夾算)【國】昔の紙帙で長三寸、竹製で絲又は紙捻で結ぶもの。枕の草紙に御冊子にけふさんして云々とあるから讀ましの紙を挟んで案に代用したものらしい。

に用ひる。キヨウシユウサイモク(教授科目)【教】各學年に於ける教科目を實際の教授に充つる爲め、小學校長が適宜に選擇して、更にその排列・分量を精細に豫定したものである。キヨウシユウツ(供述)【法】民事の原告、被告或はその法律上代理人及び刑事被告人、又は民・刑事の證人、鑑定人並に參考人等が裁判長・受命判事・受託判事又は檢事の訊問に對してその訊問事項を陳述すること。キヨウシユウケイシキ(教授の形式)【教】キヨウシユウケイシキの條を見よ。キヨウシユウダンカイ(教授の段階)【教】ヘルバルト學派に於ては「ライン」ありて、豫備、舊觀念の喚起。提示、新事物の教授。比較、類似事項との比較。圖説、教科書の使用。又要領の筆記。應用、各種の實用練習の五段となすが、實際上では直觀、思慮・應用(デルバルト)又は受領・理解・應用(キルマン)の三とするを便とする。キヨウシユウモクテキ(教授の目的)【教】これに形式的及び實質的の二方面がある。一面に於ては智能を啓發し、徳性を成就するものを目的とし、

キヨウサン(強酸)【化】鹽酸・硝酸・硫酸等のやうに水溶液で同濃度の他の酸に比して解離度大に、隨て水素イオン(濃度大なる酸類をいふ。キヨウサン(協賛)【法】帝國議會が國家の立法行爲に同意すること。凡そ法律及び豫算の制定には必らず議會の協賛を要する。協賛を得ずば法律及び豫算等は有効に成立することがない。一議院が議案を提出し兩院にて可決する時も亦た協賛となる。キヨウサン(京棧)【織】片摺の綿絲を以つて織つた絹木綿。古の棧留綿に似てゐる。東京附近で産するので、京棧といふ。キヨウサンシユキ(共産主義)【私】有財產制度を破壊して、分配を各人の任意に放任し、各人が自己の欲するがまゝの仕事に從ひ得るために獲財を省かうとする主義。一部の人の間に唱道されてゐる。キヨウシユウ(狂詩)【平仄韻のみ法に違ひ戲謔を主とし通俗の語を用ひて作る詩。五山の僧に始まり、徳川時代天明の頃狂歌等と並び殊に盛であつた。キヨウシユウ(經師)【國】經文を表裝する工人。古代より寫經堂に行はれ、これを巻軸に作るに專業者を要した。

他面に於ては智識・技能、その物を以て實用に資せんとする。(シヨウガクコウキヨウセンク参照)キヨウシユウホウ(教授法)【教】教授學の示す所に従つて各教科の目的。材料及び取扱の方法を講究するもの。その方式に教師の主となるものを注入方式と名づけ講演方式・指示方式・示範方式等がある。兒童學生と教師と共に働く場合を開發方式と名づけ課題方式・問答方式等がある。キヨウシユウヨウ(教授用具)【教】圖書(地圖・掛圖・教科書・參考書・教育法令)・器械(度量衡・樂器・地球儀・理科器械・體操器械・作法用具)・標本(動物標本・物産標本・地歴に關する繪畫及び寫眞)等で、學校により同一でない。キヨウシユウ(教書)【Message】【政】北米合衆國で行政部首長(大統領)の發する論告書のこと。主に立法部に向て發し、特に使者を派出して傳達し、議院開會の府の式辭又は臨時に發する勸告・忠告の類である。キヨウシユウ(行書)【書】書體の一種。楷書と草書との中間に位する。キヨウシユウ(鏡城)【地】朝鮮咸鏡北道にある郡邑。清津港と六里の間、輕

である。轉じて廣く書畫を表裝し、又際子・襖等を張る職人をもいふ。表具師・表具屋に同じ。キヨウシユウ(行司)【角】相撲の勝負審判役のこと。土俵上で東西力士取組の次第を監視し勝者に軍配を上げるのである。立行司・足袋行司の格がある。甲は草履・刀・紫紐の賣格を許され力士の三役に相當し、乙は白足袋穿きの格で關取に當る。標本の吉田追風を宗家とする。キヨウシユウ(教室)【教】教授を行ふ室。兒童學生用の机・腰掛・黒板等を備へて一般教授に充てるものを普通教室といひ、特別設備を要する音楽教室・手工教室・圖畫教室・理科教室等種々あつてこれを特別教室といふ。何れも幅三間乃至四間、長四間乃至五間の長方形を適當とする。採光・換氣・温度・燈光等の注意も亦必要である。設備上の規定は小學校令施行規則六十九條、中學校令施行規則二十九條による。キヨウシユウヨウ(教室用具)【教】机・腰掛・黒板・教壇及び教卓等をいふ。キヨウシユウヤ(行者)【圖】シユキヨウシユウヤの條を見よ。キヨウシユウアン(教授案)【教】教師が



キヨウ

便鐵道の便がある。元同道の首府であつた所。

キヨウシノノケン(換書の特) 【歴】秦の始皇帝が李斯の説を容れ學者の新政評論を禁じ、天下の藏書を收めて概ねこれを燒棄させ又咸陽の學者四百餘人を坑殺した事。

キヨウシン(鏡心) 【物】球面鏡に於ける反射面の中央點をいふ。

キヨウシン(強震) 【地】地震の強さを示す語。震動激しく人々は戸外に出て、壁には小龜裂を生じ、棚上の器物は落ち、時計の振子の止る位のもの。(ジシンの條参照)

キヨウシンカイ(共進會) 多數の商工業者による製造販賣品を出品させ、これを一所に陳列して衆人の縦覧に供し、又賣却する組織。殖産・技術獎勵の趣旨に出でたもの。博覽會と殆ど同じ性質で規模小さいものである。又繪畫共進會の様に専門物品に限るものもある。明治十年の第一回内閣勸業博覽會閉鎖後各地で開いた。

キヨウシンノウ(恭親王) 【歴】支那清朝の皇族。名は溥儀。英佛聯合軍の北京を陥れし當時専ら折衝に當つた。老恭親王太子の子であるが養はれてその後を嗣ぎ親王に封せられた。

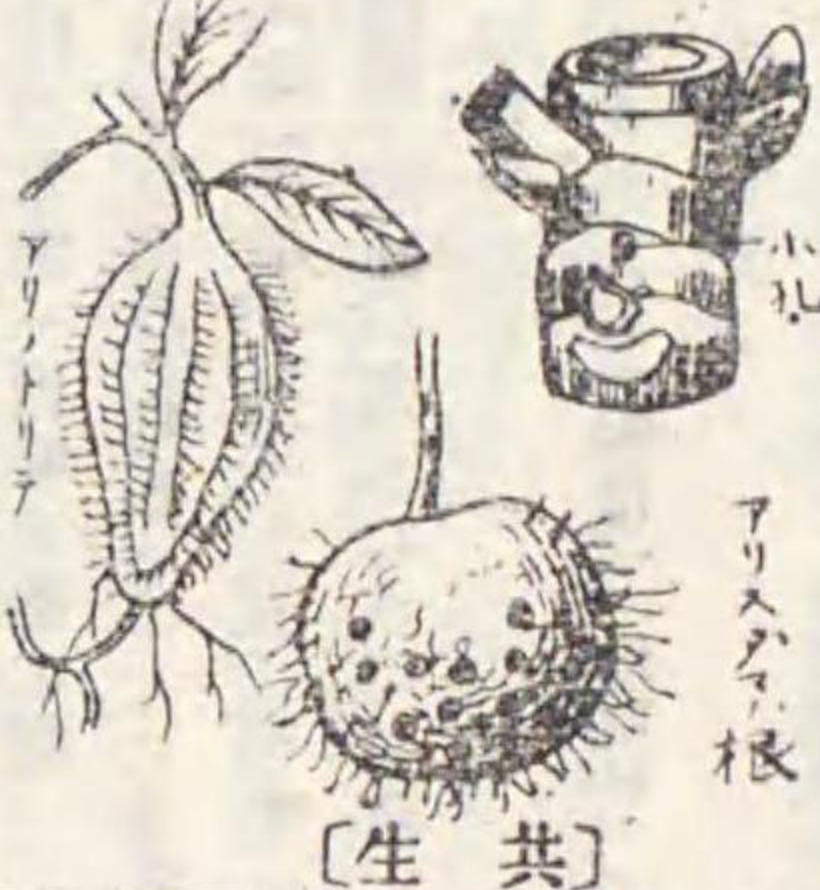
キヨウ

キヨウシンメイチリニウ(鏡新明知流) 【藝】桃井八郎左衛門直由が創めた劍術の流派。

キヨウスイビヨウ(恐水病・狂水病) 【醫】キヨウケンビヨウの條を見よ。

キヨウズカ(經塚) 【傳】佛典を書寫して土中に埋藏し、墳形に土を盛上げたもの。社寺の境内にある。

キヨウセイ(共生) 【植】動・全く別種の生物體が相附着して生活し、その一方が利益を得る。



[生共]

他の方一に害を與ふることなく、互に相互に利益を生ずること。例へば、ヤドカリの殻口にインゲンチャクの附着せる如きその一例。

(甲)植物と植物との共生。例一、地表類(藻類と菌類との共生)、チイの條を見よ。例二、根瘤菌科植物の根と細菌との共生、根瘤バクテリアを見よ。例三、菌根(蘭花植物の根と細菌との共生)、キノコを見よ。

キヨウ

(乙)植物と動物との共生。例一、淡水産の變形蟲、ザウリムシラツバムシ、淡水海綿・ヒドラの如き動物體内には「コロレラ」と名くる淡水藻共生し綠色を與へ、海中に産する放散蟲類の體中には「ゾオキサンテラ」と名くる單細胞藻類の所謂黃色細胞となりて存在するを見る、是等の植物は己れは動物に依りて保護を受くると同時に自ら同化して得たる有機物を動物に與へ、共生の實を擧ぐるもの。

例二、蟻植物・植物と蟻との共生。この種の植物を蟻植物と稱す。植物はこれと共に棲して蜜その他の食物を彼に與へ、或場合には、特に住家や設けたことと幹の構造をなす事がある。我邦にては「サクラ」は蟻植物なるが如くいはるるも未だ明かでない。アリシヨクゾウ参照。

キヨウセイ(行政) 【法】一般に國家が自己の目的を達する爲め、或機關により命令權を行使すること。我國にては行政官廳が大權及び法律の下にありて、命令權を行ふこと。【外務】。【内務】。【財務】。【大藏】。【陸軍】。【海軍】。【教育】。【農商務】。【逓信】。【鐵道】に分れる。

キヨウセイイカン(行政官廳) 【法】官治機關である。キヨウセイイカンを見よ。

キヨウ

キヨウセイイカンチヨウ(行政官廳) 【法】官治機關である。キヨウセイイカンを見よ。

キヨウセイイカン(強制管理) 【法】不動産に對する強制執行の一方方法。債權者が債務者の不動産から生じる收益を目的とする場合にその申立によつて債權者の爲に選任した管理人に收益を給附させる手續をいふ。

キヨウセイイカン(行政機關) 【法】これに二種ある。一は官治機關で内閣總理大臣・各省大臣・府縣知事・郡長・島司これに屬し、他は自治體で府・縣・島嶼及び市・町・村がこれに屬する。

キヨウセイキヨウバイ(強制競買) 【法】競買法に依る競買と對立する語で、強制執行に依る競買をいふ。不動産に對する強制執行の一方方法で、執行裁判所が債務者の不動産を差押へ競買に付す手續である。

キヨウセイカク(行政區劃) 【法】行政上便宜の爲に設けた土地の區分で例へば、府・縣・郡・島嶼・市・町・村等の如しである。

キヨウ

キヨウセイイカンチヨウ(行政官廳) 【法】官治機關である。キヨウセイイカンを見よ。

キヨウセイイカン(強制管理) 【法】不動産に對する強制執行の一方方法。債權者が債務者の不動産から生じる收益を目的とする場合にその申立によつて債權者の爲に選任した管理人に收益を給附させる手續をいふ。

キヨウセイイカン(行政機關) 【法】これに二種ある。一は官治機關で内閣總理大臣・各省大臣・府縣知事・郡長・島司これに屬し、他は自治體で府・縣・島嶼及び市・町・村がこれに屬する。

キヨウセイキヨウバイ(強制競買) 【法】競買法に依る競買と對立する語で、強制執行に依る競買をいふ。不動産に對する強制執行の一方方法で、執行裁判所が債務者の不動産を差押へ競買に付す手續である。

キヨウセイカク(行政區劃) 【法】行政上便宜の爲に設けた土地の區分で例へば、府・縣・郡・島嶼・市・町・村等の如しである。

これに關する各節の當該官廳に於て掌るを司法警察と異なる所とす。キヨウセイケン(行政權) 【法】國家統治權の行動の一形式。執行權ともいふ。行政は君主の大權に留保し、君主は大權の補弼により親裁し、或は君主の指揮監督の下に行政官廳、又は共同團體に委任して之を行はしむ。

キヨウセイコウイ(行政行為) 【法】命令を發すること。【處分】をなすこと。キヨウセイメイレイ。キヨウセイシヨクンを見よ。

キヨウセイサイバン(行政裁判) 行政官の法規・解釋上の誤謬より出た人民に對する違法處分に對して人民の之が中止又は取消を請求する裁判。

キヨウセイサイバンシヨ(行政裁判所) 【法】行政訴訟を裁判する所。長官一人・評定官若干を以て組織し、その保障は會計検査官に同じである。キヨウセイシヨクンを見よ。

キヨウセイシツコウ(強制執行) 【法】義務不履行の状態にある債務者に對し、國家の公力を以て裁判所の判決を實行する方法。【金錢】の債權に對して。【物】の引渡及び行為を目的とする債權につき。【假差押】及び假處分の三つがある。

キヨウセイシツコウ(強制執行) 【法】義務不履行の状態にある債務者に對し、國家の公力を以て裁判所の判決を實行する方法。【金錢】の債權に對して。【物】の引渡及び行為を目的とする債權につき。【假差押】及び假處分の三つがある。

キヨウセイシツコウ(強制執行) 【法】義務不履行の状態にある債務者に對し、國家の公力を以て裁判所の判決を實行する方法。【金錢】の債權に對して。【物】の引渡及び行為を目的とする債權につき。【假差押】及び假處分の三つがある。

キヨウセイシツコウ(強制執行) 【法】義務不履行の状態にある債務者に對し、國家の公力を以て裁判所の判決を實行する方法。【金錢】の債權に對して。【物】の引渡及び行為を目的とする債權につき。【假差押】及び假處分の三つがある。

キヨウセイシヨクン(行政處分) 【法】行政官廳が特殊の事件に付法規を適用し、又は法規に抵触せる範圍内に於て、自由に處理すること。【華法處分】。【裁量處分】の二つがある。

キヨウセイソウヨウ(行政訴訟) 【法】臣民が特定の行政處分により、權利を侵害されたとき、その救済を行政裁判所に求むる法律上の手段。

キヨウセイホウ(行政法) 【法】行政に關する法規の全體。

キヨウセイメイレイ(行政命令) 【法】行政官廳が大權又は法律の委任により下す所の命令。國家君主これを發すときは勅令といひ、行政官廳に委任するときはその發布機關の異なるによつて閣令・省令・道廳府縣令・總督府令等の別がある。

キヨウセイヤク(矯正藥) 【藥】藥物の不快な臭ひ味ひ又は色等凡そ患者に嫌惡の感を引き起さしめるものを矯める爲めに用ひられる藥物。味を調へるものを矯味藥。臭ひのそれは矯臭藥。色澤に關するものは矯色藥といふ。

キヨウセイヨサン(強制豫算) 【法】市町村法に從ひ豫算を議定せず、又は法律上當然豫算に掲載すべき費目を漏脱せしめた場合に、監督官廳がその支出を豫算表に掲載せしむる事。

キヨウセイヨサン(強制豫算) 【法】公力強行債務者の意思如何に拘らず債務を履行させること。公力を藉りる點は強制執行に似てゐるけれども彼は訴訟法の規定に從ふ一つの裁判の實行で、これは民法上の權利に基いて債務を履行させる方法の一であるに過ぎない。二者の間には性質と目的とに區別がある。

キヨウセン(數) 三倍以上の點が一直線上にあるとき、その諸點は共線なりといふ。

キヨウソウ(競走) 【體】走ることを競ふ技。徒歩競走・障礙物競走等の種別がある。今運動會等に於て常に行はれる。

キヨウソウ(競争) ジュウキョウソウと同じ。その條を見よ。

キヨウソウ(胸像) 【彫】人體の上部即ち頭首・肩及び上腕、又は頭首と頸のみを現した繪畫・彫刻をいふ。

キヨウソウ(經藏) 【佛】略して藏といふ。經律論から高僧撰述の諸書に至る迄一切の佛書を貯へ納める建物。佛書中主とする經からとつて名したものを(リンゾウ参照)

キヨウソウザイ(強壯劑) 【醫】病後の

キヨウソウザイ(強壯劑) 【醫】病後の

キヨウソウザイ(強壯劑) 【醫】病後の

キヨウソウザイ(強壯劑) 【醫】病後の

キヨウソウ(行符) 【僧】高僧。參議源基平の子。十二歳園城寺に入り、保安年中天台の座主となつた。書及び和歌を好む。夢によつて人麿の像を畫き後世の畫家皆以て粉本とせられた。長承四年寂。

キヨウダイ(鏡臺) 婦女化粧道具の一つ。古くは鏡架といひ、簡單なる木製の框に鏡を立てかけたもの。後檯匣を臺とし、上部に鏡立を設け、匣には抽斗を附して化粧道具・櫛道具を納むるに便にした。これを鏡臺といつたが、今は普通これを鏡臺といつてゐる。

キヨウタク(共託) 【法】法令の規定又は裁判所の命令によつて、金錢その他有價證券を法定又は指定の場所に提供寄託すること。

キヨウタンソウ(挾炭層) 【礦】石炭層を挾んでゐる地層のこと。泥板岩・砂岩等は最も屢々本層となる。

キヨウチクトウ(夾竹桃) 【植】夾竹桃科の觀賞用として庭園に栽培せる植物。暖國の原産である。常綠灌木で

キヨウチクトウ(夾竹桃) 【植】夾竹桃科の觀賞用として庭園に栽培せる植物。暖國の原産である。常綠灌木で

キヨウチクトウ(夾竹桃) 【植】夾竹桃科の觀賞用として庭園に栽培せる植物。暖國の原産である。常綠灌木で

キヨウチクトウ(夾竹桃) 【植】夾竹桃科の觀賞用として庭園に栽培せる植物。暖國の原産である。常綠灌木で



莖の高さ丈餘に達する。葉は革質の披針形で三葉宛輪生するを常とし、夏に紅色或は帶黄白色の花を開く。



の大なるは一丈に餘る。嘴は短くして齒なく、無翼にして脛骨長い、斯かる骨格の構造より察すれば、蓋しこの鳥は飛ぶこと能はざれど、走力の偉大なりしこと今の駝鳥の如くであつたらうといふ。

キヨウツイ(胸椎) 【生】背椎骨は二十四個の骨環より成り、その中第八乃至第十九の十二個を胸椎骨といふ。

約に基いて輸出入品の一部に對して課する關稅稅率のこと。この稅率は條約の結果に出るものであるから該條約の存續する限りこれを變更することはできない。

キヨウドウ(匈奴) 【歴】太古遊牧の民。商の湯王の時起り晉初に至り滅びた。匈奴は漢の代に初めて譯した名。

キヨウドウ(鏡銅) (Speculum metal) 【金】鏡を作る地金で銅六七・錫三三の割合より成る合金である。

キヨウドウ(行道) 【佛】佛敎諸宗の重い法會で、衆僧の佛座の周圍を繞り禮拜讚歎する法式のこと。佛像に向つて右に繞るを正則として各僧佛前に行く毎に禮拜するのである。これに三匝と七匝等の別がある。又燒佛・燒堂ともいふ。

キヨウドウカイン(共同海損) 利害關係人が法定の割合を以つて共同して負擔すべき海上の損失のこと。即ち船長が船舶又は積荷をして共同の危険を免れさせるため船舶や積荷についてなした處分に因つて生じた損害、又は費用をいふのである。

共有者不可分債權者の類。多數當事者の債權と異つて平等に名目にわりあて、請求することは出来ない。又共同義務者とはこれと同じに債務を數人が負擔する場合で、連帶債務・不可分債務の様なものである。

キヨウドウシヨク(教導職) 【宗】神道・佛敎の宣敎者のこと。明治の初め敎部省を置いて宗教政務を掌らせ神官僧侶を初め、俳優・俳諧師・落語家等であつても勲善懲惡の旨趣を傳へる目的で志望する者には正・權・大・中・小・敎正・同講義・訓導等を授けた。十七年以後この職名廢された。

キヨウドウセイカツ(共同生活) 普通には共同して生活を營むと云ふ意味であるが、近頃では男女が結婚の形式によらずに共同の意味で共同の生活する事に用ひられてゐる。然し男女の共同生活は多く自由結婚に始まるが、又それに陥るところから、共同生活といへば直に自由結婚の別名とも認められてゐる。

キヨウドウシヨウ(共同訴訟) 【法】數人が訴訟物に付き權利共通又は義務共通の地位に立つたか、又はこれに類する場合、共に訴を起し或は共に訴へられる時の訴訟をいふ。

キヨウドウデンチンキ(共同電池式) 【電】電話交換方式の一。磁石式といつて加入者宅内に送話用一次電池を備へず中央電話局に大きい二次電池を設備してそれを共用するもので中央電話式ともいふ。東京・大阪を始め各都市で使用されてゐる。この方式は電話發明後數年で考案の端緒を發し漸次改良工夫を加へ一八九三年以來完成され、北米合衆國で發達したものである。

キヨウドウナワシロ(共同苗代) 【農】數人或は一町村共同して仕立つる苗代。箇々散在せる苗代に比すれば各自共用して互に交代し、その管理の勞力を節約すること多く、管理十分なる故に良苗を得る利がある。

キヨウドカ(郷土科) 【教】直觀敎授の原則によつて兒童・學生の身邊から材料を採つて組織した一敎科。郷土にある山川・地勢・産物・交通・風俗・行政等を採擷したもので、他日地理・歴史・理科の敎授を受ける素養となるもの。

キヨウトク(行徳町) 【地】千葉縣(下總)東葛飾郡江戸川の東岸。東京市の東端を距る二里、總武線中山驛より半里の所。江戸川の支流に中山川あり

へ水運の便がある。人口七、二四二。

キヨウドゲイジュツ(郷土藝術) 文藝上の作品があまりに都會中心主義に偏し、作者が單に都市の情事描寫のみを以て世態全解の實相を表はし得るもの、如く誤認せるに反し、田園を題材とした剛健な作品を提供して地方特有の點をも發揮せんとするもので、これは近時獨逸文壇に生れた新運動である。

キヨウトゴシヨ(京都御所) 【地】京都御苑内に在る御所をいふ。御苑は東は寺町通、西は烏丸通、南は丸太町通、北は今出川通を限り、その位置平安京の東北隅にあたる。廣袤東西約百三十七間、南北約二百四十七間、塙塙を以て繞し、南面に正門たる建禮門、東面に建春門、西面に宣秋門、北面に朝平門、別に西面に清所御門、皇后宮御門ある、合せて皇居六門とする。皇居宮殿は大要平安京内裏の制に模し紫宸殿・清凉殿等諸殿あつて、繞らすに廻廊を以てし、南正面に承明門、東に日華門、西に月華門がある。紫宸殿は承明門内に在つて南面し、高御座・寶篋印子・左近樓・右近橋等多く舊制によられてある。清凉殿は紫宸殿の西北にありて渡廊により通ずる。

この他、宣陽殿・小御所・御學問所・常御所・御涼所等の諸殿相並ぶ。その温明殿・神嘉殿は明治二十二年大和權原神宮の本殿及び拜殿とせられ、皇后御所は別に一區劃をなしてゐる。御苑は即ち御所の附屬地で、中に仙洞御院・久遠宮邸・桂宮邸・宗像神社・主殿寮出張所がある。仙洞御院は御所の東南にある、御苑の東境に接する。昔上皇の御所なりしも、今は林泉の存するのみである。京都御所はもと大納言藤原邦綱の土御門高倉亭に始まり、高倉天皇讓位後屢々その亭に遷渡あり、遂に一の里内裏となつた。當時大内衰廢し再興なく、代々の天皇里内裏にましませしが、後醍醐天皇受禪し給ひ、又光嚴天皇ここに踐祚し給ひしより遂に天皇常住の御殿となつた。後度々炎上して造營したが應仁の亂後皇室式微を極め遂には三條大橋より内侍所の御燈明を拜する程に頽廢した。後信長・秀吉は大に工を起し、皇居の尊嚴大に加はり、徳川氏に到り度々の造營ありしも、大體豊臣氏の規模に従つた。安政元年四月炎上後起工されしものが現存の皇居で、東京遷都の後も京都御所は依然として存し、皇室典範にて天皇の即位・大嘗會等重大なる儀式を皆京都に於て行はるゝ事に決定せられてゐる。

キヨウトシ(京都市) 【地】京都府の首都、西京ともいふ。我國大都會の一で山城平野の北部に位した所にあつて南は紀伊・宇治兩郡に、東は滋賀縣(近江)に、北は愛宕郡に、西は葛野郡に接してゐる。東山・北山・嵐山等の諸峯に圍繞せられてゐる。東西二里六町、南北一里二五町、面積は二方里二八、市場の數千七百。街路は概して狭いけれども東西に直通して交點も正しく他に見ることの出来ないきれいな町並である。水で名高い加茂の流れを始め、高瀬川・藍染川・堀川・琵琶湖疏水運河等あつて水運の便よく橋梁も又多い人口五九一三〇五で、横濱・名古屋と大差が無い。桓武天皇の奠都以來一千有餘年間の帝都で名所舊跡多く又地勢上風景も頗る佳い、歴史的・宗教的の都市である。京都帝國大學・第三高等學校・帝室博物館・府立醫學專門學校・私立法政大學・私立同志社專門學校・私立佛敎大學・私立眞言宗聯合

キヨウトシンブン(京都新聞) 明治二十九年十月の創立で、帝國主義社會政策を標榜してゐる。所在地京都市三條小橋東詰。

キヨウトテイクダイク(京都帝國大學) 明治三十年の設置。最初理工科大學、三十二年に法科・醫科・兩大學を設け、三十六年には福岡醫科大學を福岡縣福岡市に設けてその分科大學とし、在來の醫科大學を京都醫科大學といふに至つた。更に三十九年文科大學を開始した。所在地は京都吉田町である。

キヨウトトイシツハクブツカン(京都帝室博物館) ハクブツカンの條を參照せよ。

キヨウトフ(京都府) 【地】近畿地方の



大嘗會あつて關西學術の一大中心地である。美術工藝種々の織物の産出は有名である。



キヨウ

一府。近畿の中央部から北西東海岸に至り、福井・滋賀・三重・奈良・兵庫の五縣及大阪府と界を接す。面積二九三万平方里。人口一、二八六、九一六。行政上京都市及び愛宕・葛野・乙訓・紀伊・久世・宇治・綴喜・相楽(以上山城)・南桑田・北桑田・船井・天田・河鹿(以上丹波)・加佐・與謝・中・竹野・熊野(以上丹後)の一市十八郡とし、府廳を京都市に置く。地勢、南東部は瀬戸内海瀕帯に属して山城盆地を作つてゐるが、他は中國山脈に属して、由良川の

キヨウ

都市を中心として、絹織物・絹織交織物・綿織物を出し、就中絹織物はその産額頗る多い。交通は東海道本線の池奈良線、山陰本線の起點で、電氣鐵道も亦大阪・大津を連絡してゐる。水運は琵琶湖の疏水によつて近江大津に通じ、且伏見から淀川小汽船の便がある。學校は帝國大學一・高等學校一・高等工藝學校一・師範學校一・女子師範學校一・中學校五・高等女學校七・醫學專門學校一・農林學校五・農學校一・商業學校一・私立大學三・商業實修學校一・美術工藝學校一・繪畫專門學校一・染織學校一・女子工藝學校一などである。都邑の主なるものは、京都市の他伏見・舞鶴・新舞鶴・宮津・除部・福知山・龜岡・八幡・木津・綾部・柳原・向日・宇治・網野等である。

キヨウ

察いで、輪道を造る鑿ぎ方をいふ。この場合に於て電動力と内抵抗とは共に電池の數に比例して増加する。キヨウニヨ(敬如) 【傳】東本願寺の祖で本願寺第十二世の僧。名を光壽といつて顯如の嫡子、母季子光昭を愛し秀吉に請うてこれを立てたけれども弟子は多く光壽に歸したから、慶長七年幕府本願寺を東西二派に分つた。東を新門跡といつて敬如に充て、信淨院と號し、權僧正に補せられた。同一九年寂す。

キヨウ

「ペンツアルデヒド及び「チアン」水素を含有し、鎮痙・鎮咳薬として呼吸器・炎症その他心臟諸病等に一回〇・五瓦乃至一〇瓦を内服するが劇薬である。キヨウネン(凝然) 【傳】示觀と號し伊豫の人である。最も佛學に精しく又孔老百家の學に通じてゐた。後宇多上皇に召されて五教章を講じ國師の號を賜はつた。元享元年寂す。著書が澤山にある。

キヨウ

賣行を爲めに定めた期間のこと。動産の競買は差押への日から起算して少くとも通常七日の期間經過後に又不動産は最初の競買は公告の日から起算して最少十四日の期間經過でなければ行へない。法律でこの七日・十四日期間を認められたのは差押債権者以外の債権者になるべく競買の申立あつたことを知らせて辨濟や配當の要求に便利を與えたのである。

キヨウ

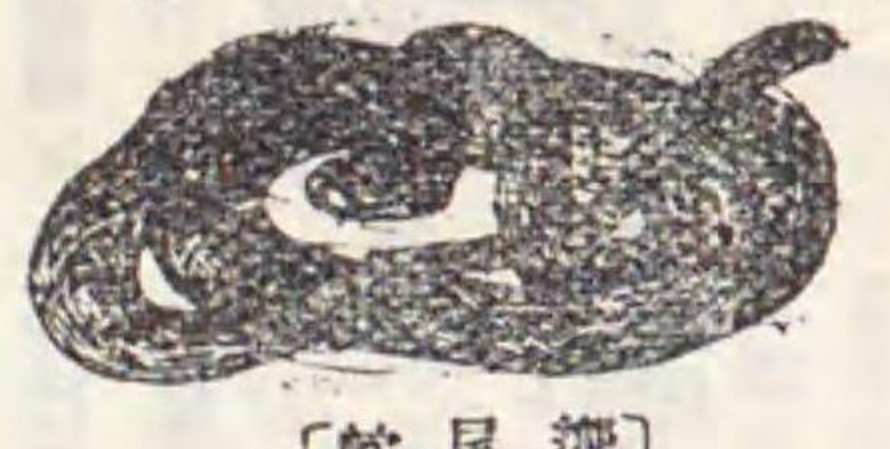
のである。多く精神衰弱病者トヒゴコンデリー患者に發する。キヨウハクキヨウイク(強迫教育) 【教】國家が一定期間學齡兒童を就學せしむべきことを、その保護者に命ずること。西紀一千七百二十三年普國「リードリッヒ」大王から創まつたことである。

キヨウ

大學校・西本願寺・石川島造船所等有名な建物がある。キヨウバン(盤盤) 【物】オドロキパンの條を見よ。キヨウヒシ(擬羊皮紙) 【化】三分の容の水で薄めた強硫酸中に、漏紙の如き膠のない紙を浸すこと數秒の後、冷水中に洗ひ、更に一乃至二%の「アムモニヤ」水で洗ひて製する紙。膠を塗つた如く滑り且質強く、水分を防ぐから、藥瓶の口を封じ、箱の内包となす等に用ふ。

キヨウ

「生」下行大動脈管の一部。第三胸椎體の左側から横隔膜裂孔の間に在る部分である。キヨウブン(狂文) 【國】盛に故事古典を引用して滑稽的に述べた一種の文



【蛇尾】

キヨウ

キヨウ

キヨウ

キヨウ

六六五



體。徳川時代に行はれたもの。太田蜀山、風來山人(平賀源内)等は有名な作者である。

キヨウボク(喬木)【植】木質の多年草。一本の主幹を有し、地際から枝を生ぜず、高さ丈餘に達する。杉、桐等はこれに屬する。

キヨウボク(教僕)【教】歴古、ギリシヤ「アテン」の兒童が家庭に於ける従者、保護者、監督者又は相談相手であつた者で、教育者及び教育の名は實にこれから起つた。

キヨウマ(京間) 六尺五寸を一間とするをいふ。この一間は田舎間の一〇八三三間に相當し、京都地方に流行するので稱せられる。

キヨウマク(胸膜)【生】肋膜ともいふ。胸廓の裏面を被ふ所の薄膜である。キヨウマク(鞏膜)【生】眼の最外面を被ふ所の膜で、白色強固である。その前面透明な部分をカクマクといふ。

キヨウマク(鞏膜)【生】眼の最外面を被ふ所の膜で、白色強固である。その前面透明な部分をカクマクといふ。硬膜ともいふ。硬膜の一つで最外部にある。結核組織から成り強靱である。

キヨウマクエン(鞏膜炎)【醫】上層性(上鞏膜炎)のものとして深層性(鞏膜炎)のものがある。前者は反覆すれば其比較的治し易いが後者は難治性の眼病である。

キヨウマク(魚眼石)【Apophyllite Ca.Sr.O.2H.O】【鑛】正方晶系。完面。鱗片族に屬し、結晶は錐狀、柱狀、薄片狀をなし、多くは着生して居る。底面に完全なる劈開を有し、脆くて硬度は四・五乃至五である。その色は無色か白・灰・黄・緑・褐等である。魚眼石は他の沸石類と共に火成岩の裂隙中に出て我國では越後國間瀬・肥前國高崎島より出る。

キヨウマク(漁業)【漁】水産動植物を採捕し又は養殖する業。漁場の遠近によつて遠洋漁業・沿海漁業又は海上漁業・淡水漁業等の名稱がある。

キヨウマク(漁業組合)【漁】一定の区域内に住所を持つ漁業者の行政、官廳の認可を得て設置する組合のこと。漁業権を享有して行使するのである。

キヨウマク(漁業権)【漁】漁業者又は漁業組合の享有する權利。營利のため水産動植物を採捕し、或は養殖する業に従事する者を漁業者といふ。漁業権は買讓渡・相續・共有・貸附等を行うことが出来る。

キヨク(五)【相】買買の品數。株式ならばその買附或は買附た株數。米はキヨカキキヨク

キヨク(曲書)【書】異常の手段でかく畫。髮・爪・紙・給紙・布片・玉子・德利等を筆に代用し又筆を左手・口・頭等に支持してかく等種々の方法がある。北齋最もこれに長じてゐた。指頭畫もこの一種である。

キヨク(局外中立)【法】一國が數國間に起れる交戦に對し、無關係の地位に立つこと。通常戰時に限るが又永久にその義務を有するものもある。例へば「スウイス」・「ベルギー」・「ルクセンベルグ」等の如きはその例であるが、「ベルギー」は遂に歐洲大亂に參戰した。

キヨク(極距)【數】球に於て或圓周上の一點と兩極を過ぐる大圓を作るとき、最も近き極とその點との距離に相應する弧を、その圓の極距といふ。

キヨク(曲藝)【國】獨樂廻・曲馬。

病である。原因は價廉質劣・微毒・痛風結核・腺病月經障害その他不明の原因に依つて起る鞏膜組織の炎症で上層を浸するものは局限的充血及び青紫色の結節を生じ、時には角膜を一周する事があり、壓痛はあるが合併症を伴はない。深層へ來るものはすべて重く葡萄酒を發し、虹彩炎・脈絡膜炎・硬化性角膜炎を續發して、視力障害又は失明する。上鞏膜炎には温巻法を施し「デオニン」・「アトロピン」等を點眼し「撒曹」・「アスピリン」等と併へ、鞏膜炎には沃度加里・肝油・鐵劑等を服用せしめ「エゼリン」點眼を行う。

キヨウミ(興味)【數】これに二様の意義がある。一は所動的で面白味をいひ、他は能動的で類化即ち新舊觀念の融合をいふ。従つて之を教授の手段とする者と、目的とする者となる。

キヨウメイ(共鳴)【Resonance】【物】發音體が自己と同一の振動數を有する他の發音體の發する音波に感じて響出す現象。振動數等しい二個の音又を並べてその一を鳴らしたならば音が鳴出して容易に之を實驗することが出来る。この音が發音體を刺激し、その振動に應じて常にこれを發する。

キヨウ(漁具)【漁】水産物採捕の用に直接使用する器具と器械。學術上では銜・積類・釣具類・地具類・爬貝類・羅網類・陷網類・屏網類の七部に分類されてゐる。

キヨクガ(曲畫)【畫】異常の手段でかく畫。髮・爪・紙・給紙・布片・玉子・德利等を筆に代用し又筆を左手・口・頭等に支持してかく等種々の方法がある。北齋最もこれに長じてゐた。指頭畫もこの一種である。

キヨクガイチウリツ(局外中立)【法】一國が數國間に起れる交戦に對し、無關係の地位に立つこと。通常戰時に限るが又永久にその義務を有するものもある。例へば「スウイス」・「ベルギー」・「ルクセンベルグ」等の如きはその例であるが、「ベルギー」は遂に歐洲大亂に參戰した。

キヨク(極距)【數】球に於て或圓周上の一點と兩極を過ぐる大圓を作るとき、最も近き極とその點との距離に相應する弧を、その圓の極距といふ。

キヨク(曲藝)【國】獨樂廻・曲馬。

大にならざる如くに作用する故に、恰も小舟に乗つた人が舟の振り方に應じて體を左右に動かさしつゝ、舟の振動を次第に激烈にし得ると同様に、右の意義から近來強度の同感又は賛成の意味で一般に用ひられる語である。

キヨウモウジユウ(兇猛獸) 近世代産象の如き動物で、その大きな物は現存象に勝る。下顎は伸長し



て下方に曲り、その端には下垂せる一對の門歯を有して恰も牙狀をなす上顎は門歯がない。歐洲及び印度の鮮新統中より發掘せられたるもの。キヨウヤキ(京焼)【器】京都で産出する陶磁器。粟田焼・清水焼・樂焼・乾山焼等の總稱のこと。

キヨウヤクシヨウテン(共傾焦點)【Optical Focus】【物】球面鏡又はレンズに於て、一點から來る光線が反射又は屈折して、略々一點に集る時、その二點を互に共傾焦點なりといふ。蓋しこの二點はその鏡の中心と曲率中心とを結ぶ線の中点である。

キヨク(極限)【數】二の量A・Pがあつて、Pはある測定に従つてその大さを變じ常に漸々Aに近づきAとPとの差を何程でも小さくすることが出来れば、終にPはAに等しくなる。この場合に於てAをPの極限といふのである。

キヨク(極光)【Aurora borealis】【物】地球磁氣極に當り空中に起る發光現象で、天の一半を照し美麗な色を呈することがある。恐らく電氣の放電作用であらうといふ。その起るや地球磁氣及び空中電氣に變動を生ずる。

キヨク(玉座) 天皇皇后兩陛下の御座席。行幸啓の時は豫め特に設ける。式場等では御幕を掲げた中に一段高く御座を設けて、御椅子を置くのを常とする。

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

光點となるも、反射又は屈折光線は必ず他に集まるからである。キヨウユウ(共有)【法】一個の所有權を數人で所有すること。即ち所有權の變體。何所有權以外の權利が數人に屬する時は民法は共有の規定を準用するものとしてある。そして共有者は共有物の全部に對してその持分に應じた使用をする權利をもつてゐるが、各共有者は他の共有者の同意が無ければ共有物に變更を加へることは得られない。又共有者は何時でも特約のない限りは共有物の分割を請求されるのである。

キヨウユウリン(供用林)【林】木材その他の林産物の利益を目的として經營する森林。經濟林ともいふ。國土保安のため經營する森林即ち保安林に對していふのである。

キヨウラクシユキ(享樂主義) 樂を享け美を求め快樂を追うてゆく主義。又それを以て人生の目的人間の眞の生活とする主義。

キヨウオウトウ(漁翁島)【地】臺灣澎湖列島中の一島。澎湖・白沙の二島と相對して内に馬公灣を抱く。周圍十里八町。島の西南角吃仔尾に燈臺がある。西四等不動白燈。晴天光遠十五里と云ふ。

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と

キヨク(極坐標)【物】一平面上の點の極坐標。その面上の任意の點と今設けたる定直線上の定點とを結附けたる時線分OP(ρとせん)と角AOP(θとせん)と



キヨク

撃のこと。平射に對していふ。主に臼砲・榴弾砲を用ふ。故にこれ等の火砲を曲射砲といふ。兵學「殺敵」より算出して放射するのである。

キヨクシヤク(曲尺) カネジヤクの條を見よ。

キヨクシヤホウ(曲射砲) 【軍】キヨクシヤの條を見よ。

キヨクシヨウ(極小) 【數】キヨクダイの條を見よ。

キヨクズイ(玉髓) 【Chalcedony】 【礦】佛頂石ともいふ。石英の一種。極めて微小な結晶から成り、肉眼的には非晶體である。白・黄・緑・赤等の諸色がある。佐渡・越後・羽後等から産する。

キヨクスイノエシ(曲水宴) 【漢】昔三月三日の節句に行はれる公事。詩などを御前で作り、宴を賜はること。もと支那の詩人川上より孟を流し、その孟己の前を流し過ぎぬ間に詩を賦し、これを取り上げて酒を飲んだ遊から起る。「ごくすのえん」に「まがり水の宴」といふ。

キヨクセン(曲線) 【數】絶えず方向の變る線のこと。解析幾何學では一定の規約に従つて運動する點の軌跡をいふ。平面上の曲線は一つの方程式で表はされ、空間の曲線は二つの方程式で表はれる。

キヨクラン(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨクリツハンケイ(曲率半径) 【Radius of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の半径。

キヨクリユウ(極流) 【Polar Current】 【地】地球の兩極地方に流れる海流。北極流に二ある、その北極海流は北極海を西流し、その「ラブラドル」海流は北「アフリカ」の東岸に沿つて南下する。南極海に於ける海流は即ち西風流で南極州に沿つて環流する。

キヨクリヨウ(極量) 【藥】生物重に人體に與へる藥品の量に就ての事で劇毒藥の普通用量の最大量を極量と云ふのでこの量を越すと中毒を起す危険がある。特種の場合以外には醫師も極量以上を處方する事は出来ないのである。

キヨケイルイ(魚形類) 【動物】兩棲類有尾目の一亞目。水中に棲息し、概ね終生鰓を存す。その數三對で頸側に突出し、或はこれを一種の鰓房に收容する。サンショウウウは此屬である。

キヨコウ(許衡) 【歴】程朱の道を祖述せし學者。字は仲齋、戰亂の際獨り道を以て任とし、學を修めた。至元十八年に歿した。

キヨコウ(魚膠) 【水】テフザメ屬の魚の鰓から取つた白色滑澤強韌可燒性で半透明角質様の膜片。成分は膠素、緩和藥として内用し、又英法絆創膏を作るに用ひられる。

キヨコウ(漁港) 【漁】漁業を行ふために便利な設備をなした港。商港に對して區別する。設備の主なものには防波堤・棧橋・船渠・魚市場・鐵道・電信・魚類貯藏所等がある。

キヨコウ(距骨) 【生】距骨の一、脛骨の下端は距骨に連り距骨は大小七個の短骨から成り、距骨・跟骨はその重なる骨である。後列の上部にあつて足跗關節を成す。

キヨジ(御靈) インの條を見よ。

キヨシガイ(巨齒介) 【Megalodon】 古生代中泥盆紀に産し、葉鰓類に屬す。殼は卵形で殼頂曲つてゐる各瓣二ヶ

キヨク(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨクリツハンケイ(曲率半径) 【Radius of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の半径。

キヨクリユウ(極流) 【Polar Current】 【地】地球の兩極地方に流れる海流。北極流に二ある、その北極海流は北極海を西流し、その「ラブラドル」海流は北「アフリカ」の東岸に沿つて南下する。南極海に於ける海流は即ち西風流で南極州に沿つて環流する。

キヨクリヨウ(極量) 【藥】生物重に人體に與へる藥品の量に就ての事で劇毒藥の普通用量の最大量を極量と云ふのでこの量を越すと中毒を起す危険がある。特種の場合以外には醫師も極量以上を處方する事は出来ないのである。

キヨケイルイ(魚形類) 【動物】兩棲類有尾目の一亞目。水中に棲息し、概ね終生鰓を存す。その數三對で頸側に突出し、或はこれを一種の鰓房に收容する。サンショウウウは此屬である。

キヨコウ(許衡) 【歴】程朱の道を祖述せし學者。字は仲齋、戰亂の際獨り道を以て任とし、學を修めた。至元十八年に歿した。

キヨコウ(魚膠) 【水】テフザメ屬の魚の鰓から取つた白色滑澤強韌可燒性で半透明角質様の膜片。成分は膠素、緩和藥として内用し、又英法絆創膏を作るに用ひられる。

キヨコウ(漁港) 【漁】漁業を行ふために便利な設備をなした港。商港に對して區別する。設備の主なものには防波堤・棧橋・船渠・魚市場・鐵道・電信・魚類貯藏所等がある。

キヨコウ(距骨) 【生】距骨の一、脛骨の下端は距骨に連り距骨は大小七個の短骨から成り、距骨・跟骨はその重なる骨である。後列の上部にあつて足跗關節を成す。

キヨジ(御靈) インの條を見よ。

キヨシガイ(巨齒介) 【Megalodon】 古生代中泥盆紀に産し、葉鰓類に屬す。殼は卵形で殼頂曲つてゐる各瓣二ヶ

キヨク(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨクリツハンケイ(曲率半径) 【Radius of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の半径。

キヨクリユウ(極流) 【Polar Current】 【地】地球の兩極地方に流れる海流。北極流に二ある、その北極海流は北極海を西流し、その「ラブラドル」海流は北「アフリカ」の東岸に沿つて南下する。南極海に於ける海流は即ち西風流で南極州に沿つて環流する。

キヨクリヨウ(極量) 【藥】生物重に人體に與へる藥品の量に就ての事で劇毒藥の普通用量の最大量を極量と云ふのでこの量を越すと中毒を起す危険がある。特種の場合以外には醫師も極量以上を處方する事は出来ないのである。

キヨケイルイ(魚形類) 【動物】兩棲類有尾目の一亞目。水中に棲息し、概ね終生鰓を存す。その數三對で頸側に突出し、或はこれを一種の鰓房に收容する。サンショウウウは此屬である。

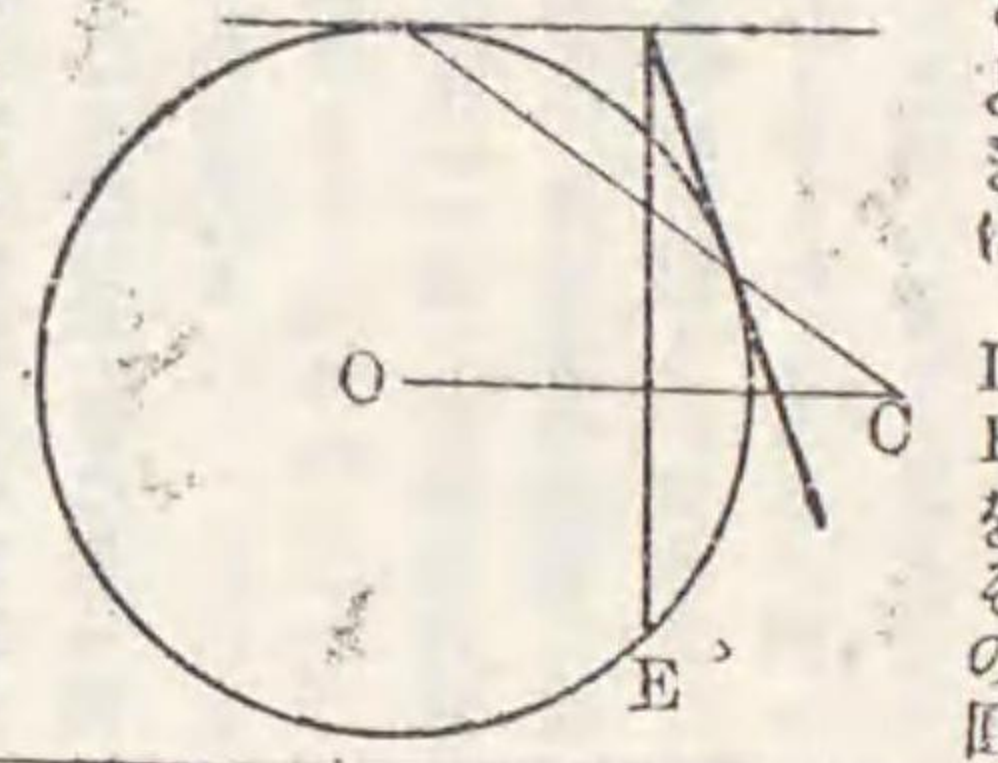
キヨコウ(許衡) 【歴】程朱の道を祖述せし學者。字は仲齋、戰亂の際獨り道を以て任とし、學を修めた。至元十八年に歿した。

キヨコウ(魚膠) 【水】テフザメ屬の魚の鰓から取つた白色滑澤強韌可燒性で半透明角質様の膜片。成分は膠素、緩和藥として内用し、又英法絆創膏を作るに用ひられる。

キヨク

程式で表はれる。すべて代数方程式で表はされる曲線を代数曲線といひ、超越方程式で表はされるものを超越曲線といふ。

キヨクセン(極線) 【Tolar】 【數】C D を一つの圓の直径の兩端A及びBに就ての調和共轭點とする。Dを過りA及びBに於ての切線に平行に、直線DEを引くときは、DEをその圓に就てCの極線と稱し、C DをD Eの極點(Polar)と稱する。極點が圓の内であれば極線は外にある。極點が圓の外にあれば極線は内にある。又Oが圓の中心Oに近づけば、其極線はOより遠ざかり、OがOより遠ざかれば、極線は之に近づく、Oの極線は無窮遠にあり、而して圓周上にあ



る一點の極線は、その點に於ての切線である。

キヨクセンジ(玉泉寺) 【地】群馬縣(上野)利根郡古馬牧村にある曹洞宗の寺。寛正二年僧一州が開基したものと

傳「朝比奈遠島記」格説弓張月。を出すに至つて筆硯漸く馴れ、文想益々圓熟し、博識妙文人を醉せたが、遂に過勞のため兩眼を失し妻子をも失つたが、尙與經(死せる長男)遺妻みち女に代筆させて居た。嘉永元年十一月六日歿した。行年八十二歳。實に筆を執ること六十餘年、著作二百五十餘種である。

キヨクテキセキ(玉瀾石) 【Hyalite】 【礦】蛋白石の一種。葡萄狀・腎臟狀・水滴狀をなし無色透明である。成分は珪酸・非晶質なれど固結の時起れる張力を受けた結果重屈折をなすものがある。越中立山から産すれど日用上有要でない。

キヨクバ(曲馬) 【國】馬を巧に御し種々な曲藝を演じ又演劇等をする事。もと馬術の餘興から出て後には曲馬師がある。文化・文政の頃馬上の演劇盛であつた由見え、天保・弘化の際には名手も出て淨瑠璃段物狂言を演じその趣向歌舞伎に異つてゐない。東京淺草には曲馬の常設館がある。西洋にはこの技藝に行はれ「サーカス」・「ポドルム」等宏大な興行が各都市に多い。

キヨク(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨクリツハンケイ(曲率半径) 【Radius of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の半径。

キヨクリユウ(極流) 【Polar Current】 【地】地球の兩極地方に流れる海流。北極流に二ある、その北極海流は北極海を西流し、その「ラブラドル」海流は北「アフリカ」の東岸に沿つて南下する。南極海に於ける海流は即ち西風流で南極州に沿つて環流する。

キヨクリヨウ(極量) 【藥】生物重に人體に與へる藥品の量に就ての事で劇毒藥の普通用量の最大量を極量と云ふのでこの量を越すと中毒を起す危険がある。特種の場合以外には醫師も極量以上を處方する事は出来ないのである。

キヨケイルイ(魚形類) 【動物】兩棲類有尾目の一亞目。水中に棲息し、概ね終生鰓を存す。その數三對で頸側に突出し、或はこれを一種の鰓房に收容する。サンショウウウは此屬である。

キヨコウ(許衡) 【歴】程朱の道を祖述せし學者。字は仲齋、戰亂の際獨り道を以て任とし、學を修めた。至元十八年に歿した。

キヨコウ(魚膠) 【水】テフザメ屬の魚の鰓から取つた白色滑澤強韌可燒性で半透明角質様の膜片。成分は膠素、緩和藥として内用し、又英法絆創膏を作るに用ひられる。

キヨコウ(漁港) 【漁】漁業を行ふために便利な設備をなした港。商港に對して區別する。設備の主なものには防波堤・棧橋・船渠・魚市場・鐵道・電信・魚類貯藏所等がある。

キヨコウ(距骨) 【生】距骨の一、脛骨の下端は距骨に連り距骨は大小七個の短骨から成り、距骨・跟骨はその重なる骨である。後列の上部にあつて足跗關節を成す。

キヨジ(御靈) インの條を見よ。

キヨシガイ(巨齒介) 【Megalodon】 古生代中泥盆紀に産し、葉鰓類に屬す。殼は卵形で殼頂曲つてゐる各瓣二ヶ

キヨク(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨクリツハンケイ(曲率半径) 【Radius of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の半径。

キヨクリユウ(極流) 【Polar Current】 【地】地球の兩極地方に流れる海流。北極流に二ある、その北極海流は北極海を西流し、その「ラブラドル」海流は北「アフリカ」の東岸に沿つて南下する。南極海に於ける海流は即ち西風流で南極州に沿つて環流する。

キヨクリヨウ(極量) 【藥】生物重に人體に與へる藥品の量に就ての事で劇毒藥の普通用量の最大量を極量と云ふのでこの量を越すと中毒を起す危険がある。特種の場合以外には醫師も極量以上を處方する事は出来ないのである。

キヨケイルイ(魚形類) 【動物】兩棲類有尾目の一亞目。水中に棲息し、概ね終生鰓を存す。その數三對で頸側に突出し、或はこれを一種の鰓房に收容する。サンショウウウは此屬である。

キヨコウ(許衡) 【歴】程朱の道を祖述せし學者。字は仲齋、戰亂の際獨り道を以て任とし、學を修めた。至元十八年に歿した。

キヨコウ(魚膠) 【水】テフザメ屬の魚の鰓から取つた白色滑澤強韌可燒性で半透明角質様の膜片。成分は膠素、緩和藥として内用し、又英法絆創膏を作るに用ひられる。

キヨコウ(漁港) 【漁】漁業を行ふために便利な設備をなした港。商港に對して區別する。設備の主なものには防波堤・棧橋・船渠・魚市場・鐵道・電信・魚類貯藏所等がある。

キヨコウ(距骨) 【生】距骨の一、脛骨の下端は距骨に連り距骨は大小七個の短骨から成り、距骨・跟骨はその重なる骨である。後列の上部にあつて足跗關節を成す。

キヨジ(御靈) インの條を見よ。

キヨシガイ(巨齒介) 【Megalodon】 古生代中泥盆紀に産し、葉鰓類に屬す。殼は卵形で殼頂曲つてゐる各瓣二ヶ

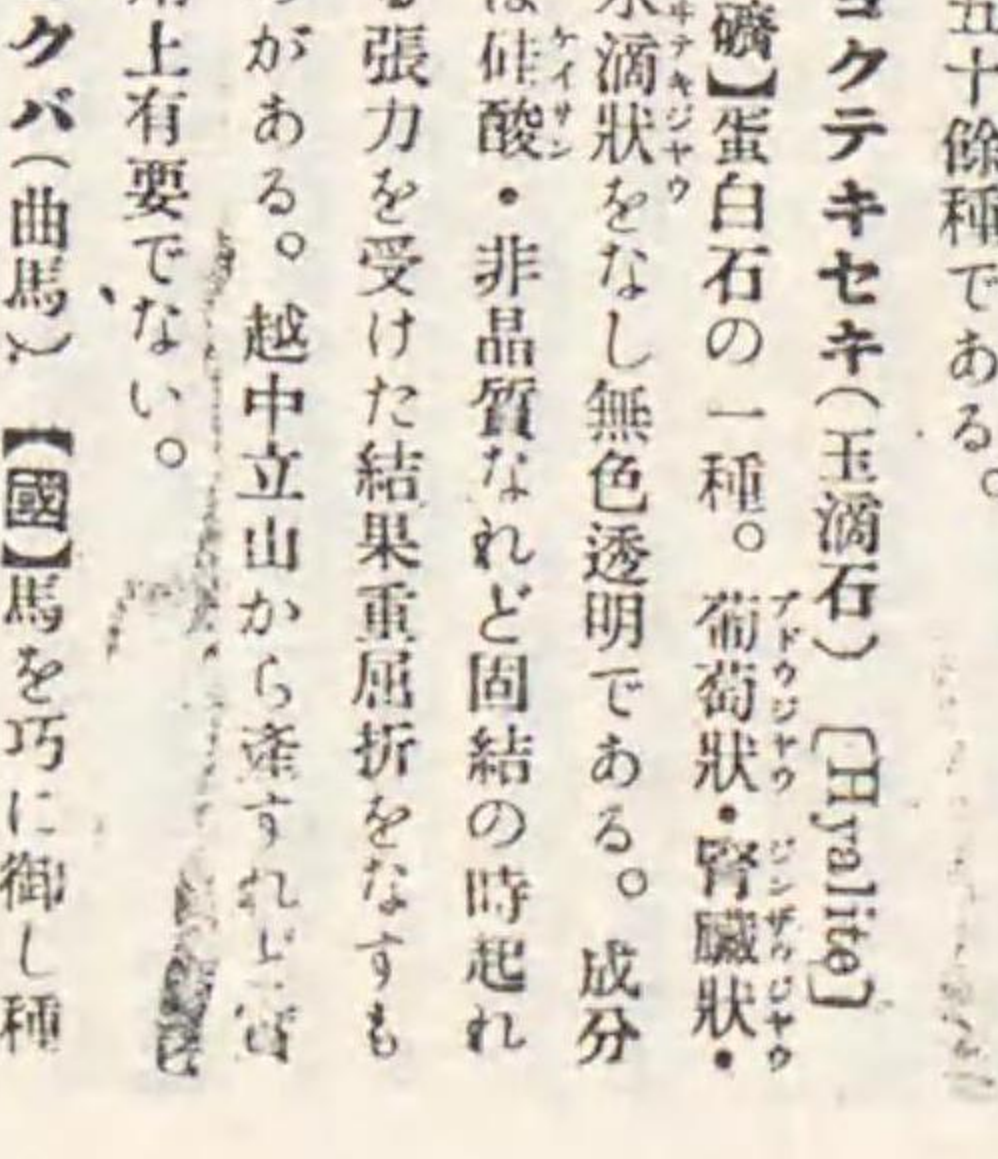
キヨク(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨク

傳「朝比奈遠島記」格説弓張月。を出すに至つて筆硯漸く馴れ、文想益々圓熟し、博識妙文人を醉せたが、遂に過勞のため兩眼を失し妻子をも失つたが、尙與經(死せる長男)遺妻みち女に代筆させて居た。嘉永元年十一月六日歿した。行年八十二歳。實に筆を執ること六十餘年、著作二百五十餘種である。

キヨクテキセキ(玉瀾石) 【Hyalite】 【礦】蛋白石の一種。葡萄狀・腎臟狀・水滴狀をなし無色透明である。成分は珪酸・非晶質なれど固結の時起れる張力を受けた結果重屈折をなすものがある。越中立山から産すれど日用上有要でない。



キヨクバ(曲馬) 【國】馬を巧に御し種々な曲藝を演じ又演劇等をする事。もと馬術の餘興から出て後には曲馬師がある。文化・文政の頃馬上の演劇盛であつた由見え、天保・弘化の際には名手も出て淨瑠璃段物狂言を演じその趣向歌舞伎に異つてゐない。東京淺草には曲馬の常設館がある。西洋にはこの技藝に行はれ「サーカス」・「ポドルム」等宏大な興行が各都市に多い。

キヨク(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨクリツハンケイ(曲率半径) 【Radius of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の半径。

キヨクリユウ(極流) 【Polar Current】 【地】地球の兩極地方に流れる海流。北極流に二ある、その北極海流は北極海を西流し、その「ラブラドル」海流は北「アフリカ」の東岸に沿つて南下する。南極海に於ける海流は即ち西風流で南極州に沿つて環流する。

キヨクリヨウ(極量) 【藥】生物重に人體に與へる藥品の量に就ての事で劇毒藥の普通用量の最大量を極量と云ふのでこの量を越すと中毒を起す危険がある。特種の場合以外には醫師も極量以上を處方する事は出来ないのである。

キヨケイルイ(魚形類) 【動物】兩棲類有尾目の一亞目。水中に棲息し、概ね終生鰓を存す。その數三對で頸側に突出し、或はこれを一種の鰓房に收容する。サンショウウウは此屬である。

キヨコウ(許衡) 【歴】程朱の道を祖述せし學者。字は仲齋、戰亂の際獨り道を以て任とし、學を修めた。至元十八年に歿した。

キヨコウ(魚膠) 【水】テフザメ屬の魚の鰓から取つた白色滑澤強韌可燒性で半透明角質様の膜片。成分は膠素、緩和藥として内用し、又英法絆創膏を作るに用ひられる。

キヨコウ(漁港) 【漁】漁業を行ふために便利な設備をなした港。商港に對して區別する。設備の主なものには防波堤・棧橋・船渠・魚市場・鐵道・電信・魚類貯藏所等がある。

キヨコウ(距骨) 【生】距骨の一、脛骨の下端は距骨に連り距骨は大小七個の短骨から成り、距骨・跟骨はその重なる骨である。後列の上部にあつて足跗關節を成す。

キヨジ(御靈) インの條を見よ。

キヨシガイ(巨齒介) 【Megalodon】 古生代中泥盆紀に産し、葉鰓類に屬す。殼は卵形で殼頂曲つてゐる各瓣二ヶ

キヨク(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨクリツハンケイ(曲率半径) 【Radius of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の半径。

キヨクリユウ(極流) 【Polar Current】 【地】地球の兩極地方に流れる海流。北極流に二ある、その北極海流は北極海を西流し、その「ラブラドル」海流は北「アフリカ」の東岸に沿つて南下する。南極海に於ける海流は即ち西風流で南極州に沿つて環流する。

キヨクリヨウ(極量) 【藥】生物重に人體に與へる藥品の量に就ての事で劇毒藥の普通用量の最大量を極量と云ふのでこの量を越すと中毒を起す危険がある。特種の場合以外には醫師も極量以上を處方する事は出来ないのである。

キヨケイルイ(魚形類) 【動物】兩棲類有尾目の一亞目。水中に棲息し、概ね終生鰓を存す。その數三對で頸側に突出し、或はこれを一種の鰓房に收容する。サンショウウウは此屬である。

キヨコウ(許衡) 【歴】程朱の道を祖述せし學者。字は仲齋、戰亂の際獨り道を以て任とし、學を修めた。至元十八年に歿した。

キヨコウ(魚膠) 【水】テフザメ屬の魚の鰓から取つた白色滑澤強韌可燒性で半透明角質様の膜片。成分は膠素、緩和藥として内用し、又英法絆創膏を作るに用ひられる。

キヨコウ(漁港) 【漁】漁業を行ふために便利な設備をなした港。商港に對して區別する。設備の主なものには防波堤・棧橋・船渠・魚市場・鐵道・電信・魚類貯藏所等がある。

キヨコウ(距骨) 【生】距骨の一、脛骨の下端は距骨に連り距骨は大小七個の短骨から成り、距骨・跟骨はその重なる骨である。後列の上部にあつて足跗關節を成す。

キヨジ(御靈) インの條を見よ。

キヨシガイ(巨齒介) 【Megalodon】 古生代中泥盆紀に産し、葉鰓類に屬す。殼は卵形で殼頂曲つてゐる各瓣二ヶ

キヨク(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨクリツハンケイ(曲率半径) 【Radius of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の半径。

キヨクリユウ(極流) 【Polar Current】 【地】地球の兩極地方に流れる海流。北極流に二ある、その北極海流は北極海を西流し、その「ラブラドル」海流は北「アフリカ」の東岸に沿つて南下する。南極海に於ける海流は即ち西風流で南極州に沿つて環流する。

キヨクリヨウ(極量) 【藥】生物重に人體に與へる藥品の量に就ての事で劇毒藥の普通用量の最大量を極量と云ふのでこの量を越すと中毒を起す危険がある。特種の場合以外には醫師も極量以上を處方する事は出来ないのである。

キヨケイルイ(魚形類) 【動物】兩棲類有尾目の一亞目。水中に棲息し、概ね終生鰓を存す。その數三對で頸側に突出し、或はこれを一種の鰓房に收容する。サンショウウウは此屬である。

キヨク

兼状同形をなし、その體壁中に石灰質の骨片を有する動物の總稱。棘皮動物 海腔類 カウニ 海星類 ヒトデ 海百合類 ウミユリ、海鼠類 ナマコ

キヨクペンリユウ(局部電流) 【Local current】 【物】電池に用ふる亜鉛は通常不純で、鐵・鉛・砒素等を含むから、その不純物と亜鉛と稀硫酸とで、電池と同様の働きをなし、局部に電流起りて、爲めに輪道に於ける電流を弱くし、且つ亜鉛の損耗が甚だし、これを局部作用といひ、その電流を局部電流といふ。これを防ぐには純粹の亜鉛を用ふるか、又は通常

の亜鉛を水銀漬にする。

キヨクヘン(玉篇) 【漢】字書。支那の梁の大同年間、顧野王之著。二十卷ある。和訓を施して本邦にも行はれる。

キヨクメン(曲面) 【數】何れの部分も平面でない表面をいふ。その簡單なものに球面・錐形曲面・楕形曲面の三種がある。

キヨクメンタイ(曲面體) 【數】表面の一部又は全部の曲面な立體。最も簡單なもの三種。球は球面で境し、圓錐體は圓錐曲面と一の平面とで境し、圓筒體は圓筒曲面と一の平行平面と

キヨク

キヨク

キヨク

キヨク

キヨクセンジヨウキ(曲線定規) 【畫】薄い板の縁を種々の曲度に削つたもので、曲線を引くに用ふる。雲形定規ともいふ。

キヨクセンビ(曲線美) 婦人の肉色のふくよかな美を云ふ。

キヨクダイ(極大) 【Maximum】 【數】直線・角或は面積の如き幾何學的量が或る條件に従つて、連続性變化をなすに當り、その一つの値がこれに隣接する前後の値より大なるときはこれをその量の極大といふ。これに反して、一つの値がこれに隣接する前後の値より小なるときは、これをその量の極小といふ。

キヨクテイバキン(曲亭馬琴) 【文】徳川時代の有名な小説家。姓瀧澤。初名與邦。後解と改めた。字は預吉。號の曲亭は支那の山の名に取り、馬琴は小野篁が「才非馬郷彈琴未能」の句に取るといはれてゐる。十二歳の頃より學を好み、盛んに諸書を讀した。初め幕臣數人に歴任したが性驕悍にして合はず、思ひを仕官に絶ち、去つて醫及び儒を學んで成らず、文章を以て立たんとし、寛政二年山東京傳の門に入り續々其作を公にし世人の譽り讃む所となつた。前編見八十八

キヨク(玉瀾) 【畫】池大雅の妻。舊姓徳山氏。名は町、別號葛原居といふ。祇園の百合女の私子である。書を夫及び柳里恭に學び、殊に山水及び四君子に長ずる。又和歌を冷泉家に修めて妙境に達した。天明四年歿。

キヨクリツチュウシン(曲率中心) 【Curve of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の中心をその面の曲率中心といふ。

キヨクリツハンケイ(曲率半径) 【Radius of Curvature】 【物】球面鏡又は「レンズ」の面をなせる球の半径。

キヨクリユウ(極流) 【Polar Current】 【地】地球の兩極地方に流れる海流。北極流に二ある、その北極海流は北極海を西流し、その「ラブラドル」海流は北「アフリカ」の東岸に沿つて南下する。南極海に於ける海流は即ち西風流で南極州に沿つて環流する。

キヨクリヨウ(極量) 【藥】生物重に人體に與へる藥品の量に就ての事で劇毒藥の普通用量の最大量を極量と云ふのでこの量を越すと中毒を起す危険がある。特種の場合以外には醫師も極量以上を處方する事は出来ないのである。

キヨケイルイ(魚形類) 【動物】兩棲類有尾目の一亞目。水中に棲息し、概ね終生鰓を存す。その數三對で頸側に突出し、或はこれを一種の鰓房に收容する。サンショウウウは此屬である。



キヨシキヨス

を採集して漁業をなすものはこれ亦漁場である。

キヨシヨウテン(虚焦点) 【物】凸面鏡又は凹「レンズ」で一点から放射し來りて、反射又は屈折した光線は發散して一点に集らない。これを反對の側に延長して焦点を得、斯くの如き點を虚焦点といふ。凹面鏡又は凸「レンズ」で發光點が正焦点以内にある場合も、又虚焦点を生ずる。

キヨスウ(虚数) 【數】凡ての數の平方は正數なるが故に、負數の平方根は整數・分數・不盡數中にあることはない。然れどもこれを新なる數となし虚數と名ける。即ち(aを正數とせば)√-aは平方すれば-aとなる數なりと解釋し、且この新なる數は、從來の數と同じ規則に従ふべしと規約する。1-aの平方根は√-a及び√-1-aである。√-1を「i」と表はす、而して通常「i」を以て「i」を表はす、即ち√-1=iである。虚數に對して從來の數を實數といふ。

キヨスジヨウ(清州城) 【歴】キヨスマチの條を見よ。

キヨスマチ(清洲町) 【地】愛知縣(尾張)西春日井郡の一邑、名古屋市の西北二里餘。人口三、七九八。東海道線井川に注ぐ。歌枕に「石はしる水の白五數見えて清洲川にすめる月かげ」。

キヨチヨウヒ(魚腸肥) 魚類の腸腔から製した肥料。從來はそのまゝ、樽詰めにして販賣したが、腐敗し易いので惡臭を放つ爲め、近來は原料を煮沸して固形物と潤液とを分け、更に木灰・石灰・鋸屑等を混じて再び煮沸し水分を蒸發させ泥狀に變化したものである。三要素を適當に含み有効なる肥料である。

キヨハラエ(清祓) 神事を行ふ前に齋場を祓ひ、又は新造の神殿、新調の神器、剛様の穢所を祓ひ清めること。後世大祓といふ。「某量郷記」元祿四年に始まつたものであるといふ。

キヨパン(魚板) 【佛】齋堂前の飯御。魚の形に造り、時を報するに用ふ。



【板魚】

キヨチキヨヒ

キヨスキヨセ

の一驛。城址は町の北方五條河岸にある。城は應永年間斯波義重が築いたもので、臣織田氏その守護代から起つて天下に覇となつた。信長の歿後信雄これを領し、慶長五年家康の子忠吉を封じ、次で義直これに代つたが、同十五年名古屋に移つて廢城となり、今は僅かに數本の老松があつてその城址を示すのみである。

キヨスマミヤ(清澄山) 【地】千葉縣安房郡天津町の北に聳え房總境界にある。高峯妙高山の高さ一、二五四尺。山中に清澄寺がある。

キヨセ(季寄) 俳諧の約束によつて四季の下に種々の題目・雜事を類集した書。馬琴の「俳諧歳時記」の様なものもこの例である。

キヨセイ(去勢) 【農】種畜に供せざる家畜の牡の睾丸、牝の卵巣を割去すること。手術頗る困難である。その目的は性質を柔順にし肉量を増加善良ならしむるに在る。家畜の若きものには春秋二季に行ふのが普通である。キヨセイカン(居西干) 【歴】新羅の始祖。

キヨセントウ(巨文島) 【地】朝鮮全羅南道に屬する島。西島・東島・古島の三島を主とし、近傍に數島の小嶼がある。三島相擁して「ハミルトン」灣を圍み好錨地を造る。明治十八年英國の艦隊これを占領した事がある。の名高い。近海は鱈・柔魚・鯛・鯽等の漁獲が盛に行はれる。

キヨマサ(加藤清正) 【歴】豊臣時代の武將。清忠の子。母は秀吉の母と従父姉妹。小字は夜叉若、後虎之助と改めた。幼にして秀吉に仕へ、諸所の戰に従ひ武勇を顯はし殊功を立てた。賤ヶ嶽七本槍の第一である。天正十三年主計頭に任じ、後肥後半園二十五萬石を受け、征韓役には先鋒となつて、王子を擒にし、蔚山に籠城し、前後兩度の征韓に従ふこと七年、攻城野戰到處に勇名を轟かし、鬼上官の威名を揚げた。秀吉薨後兵を遣はし、慶長五年石田三成舉兵に際し家康の爲に西海を鎮撫した。役後肥後全州に封せられ五十五萬石を食む。

キヨヒキヨマ

キヨセ

祖。朴赫の居世君となりて號せし稱。新羅當時の方言にて大王の義。我國史に朝鮮古代の王を「コニキシ」又は「コキシ」等と訓じた。居西干も亦これ等に似通ひしものだらうといふ。

キヨセイトウ(巨濟島) 【地】朝鮮慶尚南道に屬する島。周圍八十里、面積二〇方里七、全島山岳で蔽はれ、その最高峯羅漢山は、標高二、〇四一米に及んでゐる。海岸は出入に富み、良錨地少くない。首府を巨濟府といふ。近海は鱈・鯛・鯽等の好漁場で、漁季には漁業者の來集するものが多い。

キヨセツ(魚屑) 【農】生魚を食用にした殘滓及び鱈節製造の際に生ずる屑であつて、磷酸及び窒素に富むから、多く肥料に用ひられる。

キヨゼツシヨウシヨ(拒絶證書) 【法】又拒證書。手形の支拂又は引受を拒絶せられた時、手形上の権利者がその權利保全に必要な行爲をなした事實を證明する爲に作る要式の證書。即ち手形所持人の請求に因て公證人又は執達吏が作成するのである。その記載事項は商法上法定せられてある。引受拒絶證書・支拂拒絶證書の二種ある。商法は爲替手形に就て専ら規定を設けられてゐるけれども、物束同十六年病の爲め年五十五。清正が治政の功績は肥後人の忘るゝ能はざる所だ。錦山神社として祀られ、明治四十二年從三位を追贈された。

キヨミガセキ(清見ヶ關) 【地】靜岡縣(駿河)庵原郡與津町にあつた關。清見ヶ關は天武天皇の時蝦夷を防ぐ爲めに設けられたもので、初は薩摩峠附近にあつたのを後此處に移したが長元中まで存したといふ。

キヨミカタ(清見瀧) 【地】靜岡縣(駿河)庵原郡與津町の南方の海濱。古此處に關を置た。址は與津の西なる清見寺の邊であらう。風光明媚、詩歌の名所である。

キヨミズテラ(清水寺) 【地】京都洛東清水にある法相宗の寺。延暦中阪上田村磨の創建。本尊十一面千手千眼觀世音で京都名所の一。本堂は特別保護物となつて居る。兵庫縣(播磨)加東郡鴨川村にある天台宗の寺。御嶽山と號す。本尊千手觀音。法道上人の開基。寛永五年光善上人中興。西國第二十五番の札所である。

キヨミ

キヨセキヨタ

手形・小切手にも準用するものとす。キヨセン(虚線) 【畫】短線を少しづつ離して連ねた線。點線ともいふ。

キヨセン(漁船) 【漁】河海等で漁獵に従事する船。汽船・帆船・漕船・補助機及び速力は漁業の種類・漁場の状況・沿岸の地勢・氣候によつて異なる。遠く海洋で漁獵に従事するを遠洋漁船、近海でのものを沿岸漁船といふ。鯨獵船・獵虎・獵胆・獵鯨・旋網漁船・打網漁船・流網漁船・延繩漁船・立繩漁船・鰹釣漁船等の種類がある。

キヨソク(虚足) 【動】原始動物の體から處を定めないうで、突出する所の足。これ等動物はこれに依りて運動し、或は食物を捕ふるのである。

キヨタイ(漁袋) 昔束帯の時石帯にかけて、腰に下げた具。長さ三寸幅一寸、厚さ五分許の箱を白紙で張り金又は銀の魚形を附ける。もと唐制の魚符に倣つたもの。



【袋漁】

キヨムシユキ(虛無主義) 哲學上では外界一切の存在を否定する説。即ち「唯心論の一傾向についていふ。但し一般には政治上的の意味に用ひられる。即ち現在の社會的の制度は人類の生活發展を妨害するものなりとの立脚地からあらゆる社會的の制度習慣を破壊して、自由意志の命する生活に歸らんとする主義。その極端なものは無政府主義となる。露國人「バックニン」及び「クロボトキン」はその首唱者。

キヨムトウ(虛無黨) 【歴】ロシアの虛無主義者の秘密結社のこと。現在の社會組織を一切滅却して新社會を組織しやうとの目的である。西紀一八六六年「カラコゾフ」が「アレクサンドル」二世の暗殺を企てたのが始めで、同六九年に「オホヤイエフ」秘密結社が組織され愈々勢力強く今日の様な状態にまでなつたのである。且つ最初は上流の一部だけにあつた政治理論觀念であつたのであるが、後には女子・學生も多くこの運動に加はつた。

キヨモト



キヨモーキヨユ

清元延壽太夫から始まる。太夫初の富本豊前の門人齋宮太夫に學び、文政八年暗殺されたので子巳三次郎名を繼いで延壽太夫といひ名手のきこえ高く、今尚盛に行はれてゐる。



〔紋魚〕

キヨモン(魚紋) 【人相】人の手の紋理の名。圖の如き形をなす手を有する人は清貴の相であるといふ。

キヨユ(魚油) 【油】魚類の皮・肉・内臓・骨等から取つた油。薬用又は工業用として價値がある。無色無臭なるものを最良とする。鮫・鮫の油は肝臓から鮫・鮫等の魚體を壓搾して採る。通常原料に加熱して後壓搾して得た油を濾過して清浄にするのである。キヨユウ(許由) 【歴】支那堯舜時代の人。堯天下を譲らんとした。許由乃ちこれを友人巢父に謀る。巢父曰く、汝が影を隠し汝が光を蔽すべしと。許由堯に報じて曰く、鶴鶴深林に巢ふ一枝に過ぎず。巖泉河に飲む、滿腹に過ぎず。我歸休せんのみと。かくて箕山に隠れ、手を以て水を掬した。或る人一瓢を贈る。由飲み畢つて樹に掛く。風吹けば巖落たるの音がした。

キヨラーキヨリ

由以て煩はしとなしこれを棄て去つたと云ふ。

キヨランカンノン(魚籃觀音) 【佛】觀音十三身の一。



〔音觀籃魚〕

惡鬼の害を除くことを司る。その像は大魚に乗つたものと諸魚を籃に入れて手に持つてゐるものとある。

キヨリ(距離) 【Distance】【數】一つ場所から他の場所までに至る道の長のこと。殊にその最も短い道の長さで測る。蓋し二點を連ねる線の最短なものは直線であるからである。その他一點と直線との距離はその點から直線に至る垂線の長さ、平行二直線への垂線の各々の間に含まれる部分相交はらない二直線間の距離は各々に垂直な唯々一つの直線の各々の間に含まれる部分。一點と一平面との距離は一點よりその平面に至る垂線の長さで測る。測地學上表面上の二點間の距離は表面に沿つてその二點間に引いた線のうち、その長さの最短なものに測る。球面では二點を連

キヨリ

ねる大圓弧の長さである。天文學上二恒星間の距離は天球上でこの二星間の大圓弧度、即ち天球の中心と二星とを結ぶ二直線の角度で測るのである。

キヨリユウ(御柳・種柳) 【種】種柳科の庭園に栽培する觀賞用木本。落葉樹で莖の高さ一丈餘に達し、枝は密生し細長で小形、葉は披針形で鋭頭、夏日枝梢に花莖を抽き淡紅色の小花を開く。

キヨリニウ(魚龍) 【地】イヒチオサウルスといふ。



魚(イ)ス 龍(イ)ス 幼(イ)ス 石(イ)ス 六(イ)ス 分(イ)ス 一(イ)ス 溝(イ)ス 同(イ)ス 中(イ)ス 五(イ)ス 十(イ)ス 分(イ)ス 存(イ)ス 在(イ)ス 同(イ)ス 状(イ)ス

類の魚龍類に屬する。中生代の動物。獨逸「ウエルランベルグ」英國「ドゥルセツト」州の地層(侏羅系)からこの化石が出る。キヨリユウ(魚龍) 龍科の化石

キヨリーキヨル

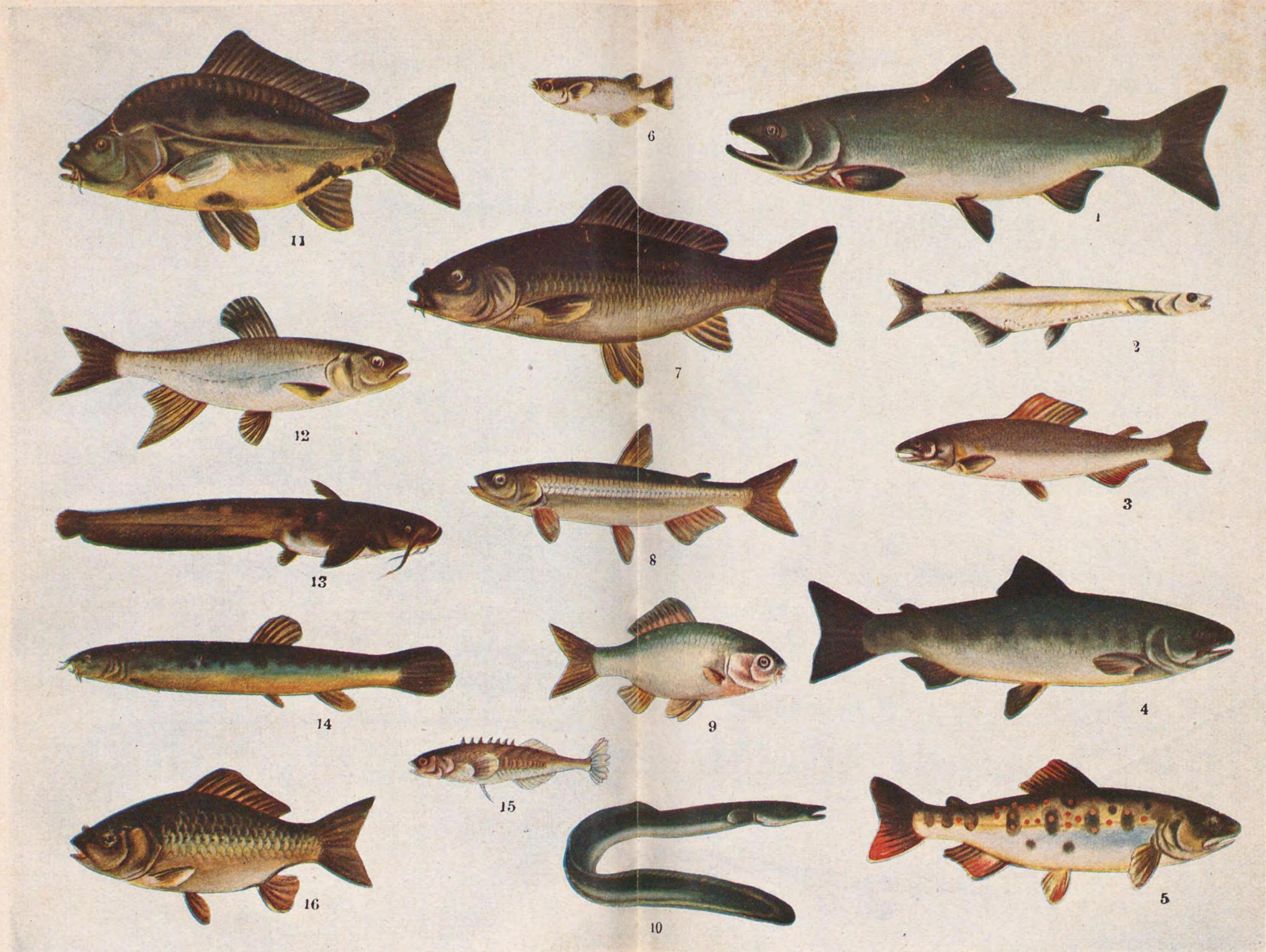
て外人のために或土地を特定して永久貸與した居住區域のこと。長崎では萬延元年、横浜では元治元年、東京大阪兵庫函館・新潟は慶應三年から施した。明治三十二年改正條約によつて外人内地雜居が行はれる様になり居留地制は消滅し、舊來の居留地に於ける外人の居住權は永代信地權と改められた。

キヨリンセン(魚鱗鱗) 【醫】遺傳的に一二歳の頃から全身皮膚殊に四肢の伸屈面膝蓋又は肘關節部著しく粗糙となり、輕微なものには批練様の鱗屑を附け、重きは蛇皮狀・鱗皮或は魚鱗の如きものあつて春期發動機に最も烈しいのが多い。患部の疼痛又は癢痒殆んどなく生命に關係ない様だが難治である。微温浴・石鹼塗擦・電光浴等を施す。

キヨルイ(魚類) 【動】脊推動物の一綱。體は水中の生活に適し、概ね圓錐形で多少側扁なるを常とし、頭胴尾の三部からなり、皮膚は通常鱗にて覆はれ、鰭を有して水中を游泳する。骨格は硬骨性のもので軟骨性のものである。咽頭の兩側には鳃孔ありて鳃を有し以て空気を呼吸す。



(一 其) 圖 類 魚



1. シヤケ 2. シラウヲ 3. アユ 4. マス 5. ヤマメ 6. メダカ 7. コヒ 8. ワカサギ 9. タナゴ  
 10. ウナギ 11. カハゴヒ 12. ハヤ 13. ナマズ 14. ドサヤウ 15. トゲウヲ 16. フナ



ハタヒ、フナ。軟骨類(ナメ)。硬骨類(チヨウザメ)。肺魚類(セラトダス)。  
開口類(ヤツメウナギ)。  
キヨロウ(魚鱗) 鱗。鱗等の油を冷却して油分を蒸し去り、殘留する同體脂肪の事。蠟燭。石鹼等の製造に用ふ。

キヨロク(許六) 【併】併人姓は森川、蕉門十哲の一人。名は百仲。字は羽宮。號五老并又菊阿佛。彦根伊井家の給人である。畫を狩野安信に學び後芭蕉に教へた。晩年癩病に罹り正徳五年歿した。

キヨロク(鉅鹿) 支那直隸省順德府平郷縣にある地名。秦の末秦章邯の趙王をこの地に圍むや、項羽楚王の命によつて赴援し、上將軍宋義を殺し自ら代りて九度秦軍を破り章邯を走らした所。  
キヨワラノイエヒラ(清原家衡) 【歴】武則の孫。武貞の二子。永保三年源義家奥羽を征するや、眞衡獨り降り、家衡、清衡、武衡等義家に抗して金澤柵に據る。寛治元年糧盡きて城陥り、皆斬に處せられた。

キヨワラノタケノリ(清原武則) 出羽の土豪。前九年の戦に源頼義を扶け一萬餘人を率ひて、安倍貞任を伐ち、偉功ありて従五位鎮守府將軍となる。

キヨロキヨロ

キヨワラノタケヒラ(清原武衡) 鎮守府將軍武則の子。將軍三郎と稱す。永保三年その族人家衡に黨して宗族眞衡と争つた。寛治元年義家及び義光金澤の柵を來り攻め、持久之策を施して敢て迫らず。既にして城中食盡き降を請ふて許されず、城を燒き逃れ捕へられて殺された。

キラズ(雪花菜) 【園】豆腐のシボリカス、俗にカラ又は卵の花といふ。大豆中に含まる、貴重なる成分は豆腐に移るを以て粕は滋養分を含むこと少なければも家畜の飼料として價値多い。又料理に用ひらる。煎卵花は普通の料理である。豆腐のカラを搗鉢に入れてすり、これに輕節の煮出と砂糖と醬油を加へて味を付け、細かく刻める。葱又は山椒の實を加へて煎り上げて食する。  
キラヨシナカ(吉良吉史) 【歴】徳川幕府の高家。上野介に任せられ、父祖の後を承け高家の職にあつて、公家・武家の禮典・故實に詳しく、諸大名皆その教を受けた。性貪欲。元祿十四年三月勅使饗應に際し、赤穂城主淺野内匠頭が賄を贈らざるを嘲み、長短を殿中に恥かして死に處せられた。長短の罪によつて死に處せられた。

キヨワキヨロ

の臣大石良雄。始め四十七七、主君の怒みを報せんと十五年十二月義央を本所松坂町の邸に襲ひ、その首を得て鬻を復し、爲に吉良家斷絶した。時に義央六十二歳。  
キララ(雲母) 【礦】ウソモの條を見よ。  
キララエ(雲母繪) 浮世繪の類。似顔繪の餘白を雲母にて摺り埋めたもの。安永中齋藤寫樂が五代目白猿、半四郎、蘭之丞等の半身寫生像を作りしに始る。歌麿・北齋・英山等之に慣ふ。餘り流行しなかつた。

キラレヨサプロウ(切られ與三郎) 【演】長唄の三味線引伊三郎といふものが上總の博徒の妾阿富に通じ顯はれて捕へられ、庭の松の太木に二人共縛られ、斃殺にされる所を、女は夜中隙を覗ひ逃げ出し江戸に走り、伊三郎は死んで翌朝海に捨てられたのが蘇生して江戸で再會して夫婦となるといふ筋のものをいろ／＼に脚色して演劇及講談に上せてゐる。興話情「浮名横櫛」と題し嘉永六年江戸中村座に上演して好評を博した。作者は瀬川如雪である。  
キラランガイ(宜蘭街) 【地】臺灣臺北州に在る都。東方は海に面して居る。臺北の東南二八里餘。人口約二萬。

キララキララ

キラソウ(樺) 樺形科の落葉樹に自生する草本一名、デコクノカマノフタしといふ。莖は地に敷きて、葉生し直立しない。葉は對生深綠色で紫色を帯ぶ、初春葉腋に濃深紫色唇形で美麗なる花を開く。  
キリ(桐) 【植】玄參科の本邦各地に栽培せらる、落葉喬木。高さ三丈に達する。葉は對生する大形の掌狀複葉で長柄を有し表面に粘毛を密生する。五月頃紫色の花を開く。材は箆筒・琴・箱類・下駄等を造るに費用せらる。又桐炭は火藥の合劑に用ひる。  
キリ(霧) 【氣】地面に生じた雲。山腹に生ずる雲と同一である。濕氣を含める空氣の寒冷なる地面に觸れる時その水蒸氣は霧となるのである。夏期朝夕河川の附近、暖流と寒流と衝突する海上等多濕の空氣は時に霧を生ずる。

キリ(錐) 【工】穿孔用に供する工具。總身鋼鐵で造り木柄又は回轉に便なる装置を付けられ、三ツ目錐・四ツ目錐・坪錐・三ツ又錐・鼠齒錐・舞錐・回錐等がある。  
キリ(切) 【能】一番の能の終りの文句又は形をいふ。例へば「切り」を諸ふ切りを舞ふ等、一日の能の終りの

キラランキリ



キリアーキリカ

一曲。【演】淨瑠璃の一段の中最後の場のこと、「大切」又は「切狂言」と同じである。

キリアナ(切穴) 【演】舞臺で幽霊・變化・間者等の出入する爲めに切り設けられた穴。花道の中程にあるは特に「スツボン」といふ。

キリアアラ(桐油) アブラギリの條を見よ。

キリイシ(研石、切石) 【土】規則正しき形状に切りたる石。體裁又は強さを要する場所に使用せらる。

キリエズ(切繪圖) 全體の内マ部分を示せし繪圖。例へば東京は關東の一切繪圖であると云ふ如きである。江戸切繪圖に始まつた。

キリオトシ(切落し) 【演】劇場觀客席の一。土間の前通り舞臺の直ぐ前である。京阪にては「普落間」といつた。

キリカエシ(切返) 製麵上操作の名稱。床返とも稱する。普通床返と稱する。操作から十四五時間乃至十八九時間後に行はる。その法は床返操作と大差ない。要は米塊を碎き、廻のはせ落を防ぐに在る。

キリカエバタ(切替畑) 【農】森林を伐採しその跡地を開墾して數年間畑地とし、その肥料が前年未だ残つた畑地

東岸に「ユナイ」灣西岸に「コリント」灣深く灣入する。近海又島嶼が頗る多い。氣候は高地を除く外一般に地中海的氣候を有し夏季は降雨稀少に炎熱を感じ、冬季は温暖で降雨が多い。産業、農業は主なる産業で耕地は全面積の二割に達し、葡萄・葡萄酒・柑橘を産し、麻・煙草・桑等の栽培行はれる。工業は石炭・水力・資本の缺乏せる爲著しい發達がない。織物・造船はその主なるものである。住民は地中海種族で「イタリヤ」人「イスパニヤ」人と系統を同じくする。宗教は信教の自由を有するが一般に「ギリシヤ」教を奉じてゐる。都會の主なるもの「アテネ」(人口三〇〇千)「サロニカ」(人口一七〇千)「ピレウス」(人口一三三万)等とする。沿岸「ギリシヤ」の住民はその位置の關係上風に航海商業に長じ、地中海沿岸各地に植民市を起した。しかしそれ等はまた統一的国家を成さなかつたが「ギリシヤ」人の一派なる「スパルタ」は異民族の國にあつて自衛の必要上極端な國家主義を行ひ、剛健を奨め文弱を排した。されば勢力次第に加はり連りに四隣の地を併せ紀元前六世紀末「ペロポネサス」半島に覇權を振

キリシ

キリカーキリユ

に再び造林をなし、一定の年限の後これを伐採して再び畑地とする。

キリガネ(切金) 【畫】金箔を細く切つたもので、屢々極彩色の金色線として貼用される。

キリカミ(切髪) 婦女の髪形の一種。古は主に諸侯の後室又は旗本の未亡人などが既に比丘尼になりたる意にて結びしものである。

キリギリス(蝨斯) 【動】直翅目に屬す。その體小さく緑色或は褐色で、外界の色に同化する。翅に發音器、脚に聽器がある。その鳴聲受するに足る。

キリクミドウロウ(切組燈籠) 【國】玩具の一種。人物景色等を切抜にして舞臺の如く組立て燈を點し見る。寛政頃上方に始り蕙齋・政美・北齋等も之を書いたことがある。燈を點せざる物もある此は單に切組繪ともいふ。

キリコドウロウ(切子燈籠) 【國】四角の四隅を斜に切落した形に枠を作り紙を張りたる燈籠。紙の總造花等を附け飾とし、夏期軒頭に釣り或は盆燈籠ともなる。承應の頃から見えたる事古書にある。

キリコミ(切込) 【土】山土と砂とを適當なる割合に混合したるもの、道路の敷設に用いられ、或は砂利敷入をなすに

つた「ギリシヤ」人の他の一派なる「イオニヤ」民族は「アテネ」市を代表して「スパルタ」と對立した。その國風優美を尚び力を學藝に用ひたからその主義「スパルタ」と相反した。紀元前六世紀末には執政官「ソロン」出て、從來政權貴族の手にのみあつたのを平民にも參與せしめたが、その後民權益々伸びて遂に民主政治となり、力も東方海上に伸ぶるに至り、遂に「ペルシヤ」と衝突し、これを撃破して國威大に揚り、沿岸諸市を糾合して「デルス」同盟を造り、自らその盟主となり、又大に「ペルシヤ」海軍を破り次で「ペリクレス」民望を負ひて政を執つたから「アテネ」の國力最も振ひ學藝大に發達し「ギリシヤ」文物の盛此時に極まつた。「ギリシヤ」は氣候溫和風光明媚、其人民は性美感に富み文學大に發達し、詩人「ホーマー」叙事詩の範を垂れ、その後「ペリクレス」時代には劇詩盛に、その前後史學亦大に興つて雄篇大作の今に残れるものが多い。美術も古今に獨歩し、建築には「イクテヌス」彫刻には「ナイテヤス」等の大家出てその作つた神殿、神像何れも後世の模範である。哲學には「ソクラテス」「プラ

キリシ

キリコーキリシ

あたり、その上部に散布し、割栗又は砂利の落付を確實ならしむるの意である。

キリコミタン(切込炭) 【礦】塊狀及び粉狀の混合せる石炭。礦山に於て採別せず、採掘せしその儘を市場に出すのである。

キリサゲガミ(切下髪) 【國】キリカミの條を見よ。

キリシマ(石巖・霧島) 【植】石南科の山地に自生する灌木高さ通常二三尺乃至四五尺に達する。葉は長倒卵形で小さく互生すれども多く梢頭に集合する。春日紅色の花を繖形に排列する。大小・單複・紫白等の變種がある。

キリシマカザンミヤク(霧島火山脈) 【地】霧島山を主峯とし西南に延びた火山脈。本火山脈は日向・大隅の境上なる霧島山に起り、鹿兒島灣中の櫻島・薩摩半島の開閉岳を起し、遂に南海中に出で、川邊七島を噴起し、沖縄島西南の久米島に及び、臺灣北部の大屯火山脈に及んでゐる。

キリシマジンゴウ(霧島神宮) 【地】鹿兒島縣(大隅)始良郡東嶽山村大字田口にある官幣大社。瓊々杵尊を祀る。祭日九月十九日。創祀未詳。後村上帝の降臨に由ると傳へられてゐる。

トール「アリストートル」等の大家出て西洋哲學の基を開いた。現今西洋文明の淵源は實に之に基いてゐる然るに「スパルタ」は「アテネ」の隆盛を嫉みて之と開戦し、連年戦を交へ、兩者大に疲弊した。この時七隣「マケドニア」王「フィリップ」が「ギリシヤ」の内亂に干渉して遂に「ギリシヤ」の覇權を握りその子「アレキサンデル」父王の志を繼いで「ペルシヤ」を征し紀元前三三〇年遂に之を滅し、更に歐洲の融合を圖らんとしたがその業未だ成らずして病歿した。大王歿して子なくその帝國忽ち瓦解し後數多の獨立國を生じたが「エジプト」「ギリシヤ」「マケドニア」の三國最盛であつた。「マケドニア」は「ギリシヤ」と共に「カサンドル」之を領したが後皆「ローマ」に併せられた。

キリシ

キリン

ある。昔時錫杖寺と稱する社坊があつたが明治維新の際撤去された。

キリシマヤマ(霧島山) 【地】日向大隅の境に跨る山。二峯ある。東峯は高千穂峯或は矛ヶ峯と稱し、山上常に烟を吐いて居る。高五千五百尺。西峯は韓國嶽といひ高五千八百尺。天孫降臨の地と傳へられる。四十八箇所の池沼と霧島温泉等がある。西方霧島神社は霧島六社の一であつて、東嶽山にある。祭神は瓊々杵尊・彥火々出見尊・神武天皇等。神武天皇であり俗に西御在所神と稱する。

キリシヤ(魯薩) 【Geographical】【地】「ヨーロッパ」の南部にある王國。「バルカン」半島の南端を占め東に多島海西に「イオニヤ」海を控へてゐる。面積約七千方里、人口二百六十四萬七千餘(一九二〇年)。地勢國の西北部から來れる「ビンドス」山脈は國内を貫いて「コリント」灣岸に達し、その西なる「ヂナル」山脈は「イオニヤ」諸島「モシヤ」の大部に亙り、多島海の南邊に列島を造り小「アジャ」半島に及ぶ。故に國内到處山岳起伏するが山間には肥沃の平野處々にある。中等の平野は古代「ギリシヤ」文化の中心であつた。

有せる家庭。我國神社の多くはこの制に則り伊勢の大神の如きも亦是てある。

キリスミオンセン(霧積温泉) 【地】群馬縣(上野)碓氷にある。阪本より二里半、熊野平より三里の冷泉。交通不便の爲め浴客少い。土地幽邃避暑に適する。

キリチン(切貨) 【國】大なる貨幣を小なる貨幣と交換する時の手数料を云ふ。往時量目一定の金銀貨なかりし故に金の延棒を切斷して秤量して用ひしよりこの名ありと云ふ。

キリツギ(切接) 【農】フギの條を見よ。

キリツケモン(切附紋) 【裁】切附の一。着物・羽織・被布等紋の見にくくなつた時、切地と同じ布に紋をかいて附け、其廻りを糸で極めて細かにまつりつけるのである。

キリノトシアキ(桐野利秋) 【歴】舊稱中村半次郎。鹿兒島の人。維新の諸役に殊功があつた。陸軍少將に任ぜられ、明治六年陸軍裁判所長となつた。西郷隆盛の征韓論に與して辭職し十年西郷に從ひ兵を鹿兒島に擧げ、遂に城山に自及した。

キリチーキリハ



キリフーキリマ

キリフキ(霧吹き) 【物】液中に小さい管を立てその上口に接近して、管と直角の方向に他の小管口を開き、之から風を吹出して、液を吹上げ飛散して霧を出す器である。

キリフリノタキ(霧降流) 【地】栃木縣下野日光山中にある。日光町の北一里半。高三十四丈幅十七間。奔水岩に激し飛沫霧を生じ壯觀である。

キリモガリ(切虎落) 【國】興行物などにて見物人の周圍に結んだ竹矢來。竹の先を切り揃へあるによりかく云ふ。

キリヨウキヨウカイガン(輝綠凝灰岩) 【Dianthidite】輝綠岩質の火山灰よりなる凝灰岩で、赤又は綠・灰などの色をなし多少片状をなす。屢々粘板岩の破片や、輝綠岩の塊を含むことがある。この岩石は古生代の成生で、輝綠岩に伴ふて各所に産出する。我國では埼玉縣秩父郡から群馬縣甘樂郡地方にかけて最もよく露出して居る岩石である。

キリン(麒麟) 【動】シラフといふ、有蹄類中の反芻類で多く「アフリカ」に産する。常に森林に近い廣野に棲み、樹皮又は嫩葉を食すとす。體は黃褐色又は赤褐色の地に褐色の斑紋がある。體長は陸棲動物中最も高く二丈に達するものもある。小群をして徘徊するときは必ず番兵を置いて警戒するといふ。

キリンケツ(麒麟竭) 棕櫚科の植物で東亞細亞熱帶地方。「スマトラ」・「ボルネオ」等に産する纏絡性木本である。本植物の果實は球形で、深赤色の樹脂を含んでゐる。この果實より採取した樹脂を「キリンケツ」と稱し薬用に供す。工業用としてはその莖を取つて机その他の器具を作り、樹脂は顔料として塗料に混じ、又は齒磨製造の色付けなどに使用し、最近時本邦にても盛んに行はるゝ、亞鉛凸版製版作業中必要缺くべからざる材料とせられてゐる。

キリンソウ(貴菜) 【植】景天科に屬する植物で、山野に自生する宿根草本だが又庭園に培養せられる。毎春宿根より叢生し高さ一尺許、葉の形ベシケインソウより狭小で尖披針形、微鋸齒を有し、その色帯黄色で多肉である。夏日莖頭に多枝を分ちて傘狀の花序をなして黄色花を著く。

キリマ(切米) 【國】徳川幕府の時扶持米を金銭に替へて給したるを云ふ。すべて萬石以下の領地を有せざる諸士及び諸職員の俸録・役料米等は春夏冬の三季に分ちて給せしが、時には米の時價に換算してその幾分を金銭にて支給せるものがあつた。

キリマ(切米) 【國】徳川幕府の時扶持米を金銭に替へて給したるを云ふ。すべて萬石以下の領地を有せざる諸士及び諸職員の俸録・役料米等は春夏冬の三季に分ちて給せしが、時には米の時價に換算してその幾分を金銭にて支給せるものがあつた。

キリン(麒麟) 【動】シラフといふ、有蹄類中の反芻類で多く「アフリカ」に産する。常に森林に近い廣野に棲み、樹皮又は嫩葉を食すとす。體は黃褐色又は赤褐色の地に褐色の斑紋がある。體長は陸棲動物中最も高く二丈に達するものもある。小群をして徘徊するときは必ず番兵を置いて警戒するといふ。

キリンケツ(麒麟竭) 棕櫚科の植物で東亞細亞熱帶地方。「スマトラ」・「ボルネオ」等に産する纏絡性木本である。本植物の果實は球形で、深赤色の樹脂を含んでゐる。この果實より採取した樹脂を「キリンケツ」と稱し薬用に供す。工業用としてはその莖を取つて机その他の器具を作り、樹脂は顔料として塗料に混じ、又は齒磨製造の色付けなどに使用し、最近時本邦にても盛んに行はるゝ、亞鉛凸版製版作業中必要缺くべからざる材料とせられてゐる。

キリンソウ(貴菜) 【植】景天科に屬する植物で、山野に自生する宿根草本だが又庭園に培養せられる。毎春宿根より叢生し高さ一尺許、葉の形ベシケインソウより狭小で尖披針形、微鋸齒を有し、その色帯黄色で多肉である。夏日莖頭に多枝を分ちて傘狀の花序をなして黄色花を著く。

キリン(麒麟) 【動】シラフといふ、有蹄類中の反芻類で多く「アフリカ」に産する。常に森林に近い廣野に棲み、樹皮又は嫩葉を食すとす。體は黃褐色又は赤褐色の地に褐色の斑紋がある。體長は陸棲動物中最も高く二丈に達するものもある。小群をして徘徊するときは必ず番兵を置いて警戒するといふ。

キリマ(切米) 【國】徳川幕府の時扶持米を金銭に替へて給したるを云ふ。すべて萬石以下の領地を有せざる諸士及び諸職員の俸録・役料米等は春夏冬の三季に分ちて給せしが、時には米の時價に換算してその幾分を金銭にて支給せるものがあつた。

キリマ(切米) 【國】徳川幕府の時扶持米を金銭に替へて給したるを云ふ。すべて萬石以下の領地を有せざる諸士及び諸職員の俸録・役料米等は春夏冬の三季に分ちて給せしが、時には米の時價に換算してその幾分を金銭にて支給せるものがあつた。

キリン(麒麟) 【動】シラフといふ、有蹄類中の反芻類で多く「アフリカ」に産する。常に森林に近い廣野に棲み、樹皮又は嫩葉を食すとす。體は黃褐色又は赤褐色の地に褐色の斑紋がある。體長は陸棲動物中最も高く二丈に達するものもある。小群をして徘徊するときは必ず番兵を置いて警戒するといふ。

キリンケツ(麒麟竭) 棕櫚科の植物で東亞細亞熱帶地方。「スマトラ」・「ボルネオ」等に産する纏絡性木本である。本植物の果實は球形で、深赤色の樹脂を含んでゐる。この果實より採取した樹脂を「キリンケツ」と稱し薬用に供す。工業用としてはその莖を取つて机その他の器具を作り、樹脂は顔料として塗料に混じ、又は齒磨製造の色付けなどに使用し、最近時本邦にても盛んに行はるゝ、亞鉛凸版製版作業中必要缺くべからざる材料とせられてゐる。

キリンソウ(貴菜) 【植】景天科に屬する植物で、山野に自生する宿根草本だが又庭園に培養せられる。毎春宿根より叢生し高さ一尺許、葉の形ベシケインソウより狭小で尖披針形、微鋸齒を有し、その色帯黄色で多肉である。夏日莖頭に多枝を分ちて傘狀の花序をなして黄色花を著く。

キリン(麒麟) 【動】シラフといふ、有蹄類中の反芻類で多く「アフリカ」に産する。常に森林に近い廣野に棲み、樹皮又は嫩葉を食すとす。體は黃褐色又は赤褐色の地に褐色の斑紋がある。體長は陸棲動物中最も高く二丈に達するものもある。小群をして徘徊するときは必ず番兵を置いて警戒するといふ。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。

キルギス(キルギス) 【地】支那の西部「コブト」地方にある湖。「コブト」城の東北にあつて周圍五十一里、附近一帶雨少なく湖邊雜草、灌木多く牧畜が盛んに行はれてゐる。



キロケーキロス

伯父に詰問される滑稽を作る。

キログラム(斤、基) [Kilogram] 【数】

我國目方の原器、即白金「イリヂエツ」合金製の分銅の目方で、攝氏四度の温度に於ける蒸餾水「リットル」の目方に等しい。

1斤=100瓦=286.5567瓦

「**グレン**」 15492.348 (英)  
「**重アツ**」 32.150726 (英)  
「**重アツ**」 35.274067 (英)  
「**重量アツ**」 2.2046292 (英)

キログラムカロリー(斤一) [Kilogram calorie] 【物】大「カロリー」といふ「カロリー」の條を見よ。

キログラムメートル(斤) [Kilogramme] 【物】仕事を量る單位で、質量一斤のものを重力に逆つて、一米上ぐるに要する仕事である。

キヌメ [Oyus] 【歴】「ルンヤ」の王「アレクサン」王「カンピセス」の子でその先は「ハカマニ」といふものから出たといふ。近世研究の結果「ハカマニ」は假説だといつてゐる。西紀前五三九年、前古無比の大帝國を建てた。しかも寛大な仁慈の心に富んでた。のて「ルンヤ」王を「キヌメ」王と稱した。

キヌ(斤) 【數】百六十瓦を一斤とする。明治二十四年法律第三號で定められたもの。往時は二百五十瓦を斤となし(山目斤)或は二百三十瓦を斤となし(白目斤)二百十瓦を斤となし(沈香目斤)二百瓦を斤となし(大目斤)百八十瓦を斤となし(大和目斤)百二十瓦を斤となし(英斤)或は百瓦を一斤とした。而して今日尙一部には行はれてゐるものがある。

キヌ(斤) 廣義に百六十瓦一斤ではあるが、この場合は狹義の意味である。「レン」即ち大版西洋紙「巾二尺一寸、長三尺一寸」五百枚を目方にかけて斤數を以つて表示する。従て目方の多い方が紙が厚く値段も高い譯となる。「この紙は八十斤だ」といへば大版全紙五百枚で八十斤の目方があるといふ事である。

キヌ(金) [GoldAu=19.75] 【化】比重 19.36-19.38 重に單體として太古

キロチーキワタ

大いにその徳に敬服し父とまで呼ばれた。キロス大王の墓は宮殿と共に「ベルシヤ」の「パサルガデ」に蹟趾を存し廣大なるものである。

キロチン [Guilotine] 【歴】斬首の器具。死刑の執行に使用されるものでその装置は上部に鋭利な斜の刃がある斧様のものを懸下し、その下に受刑者を坐らせ、死刑執行者が繩を引くと同時にその斧が忽ち落ちて受刑者の頭を中斷するのであるが、これは我國にて使用されたことがない。

キロワット [Kilowatt] 【電】電力量の實用單位。「一ワット」をいふ。七百四十六ワットは一馬力に當り、「キロワット」は一馬力の三分四厘に當る。

キローン [Gaelone] 【地】オーストラリア「西」グイクトリアの南岸にある都會。「コロ」灣に臨み「メルボルン」の西南四十五哩、毛織業盛に、又農産物を集散する、人口約三萬六千。キワズミ(際墨) 婦女化粧の一種。「オキズミ」といふ、髪を生際に用墨を塗るをいふ。

キワダ(黄藥・藥木・黄柏) 芸香料に屬する樹木。大なるは高さ七八間、直径二三尺、樹皮の黄褐色である。直徑

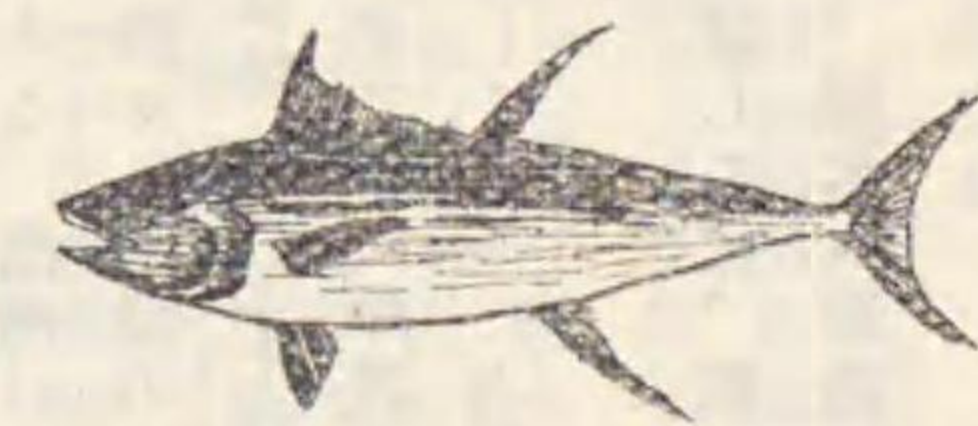
の岩石中に存し、又はその破片の砂中に含まれてゐるが、産出は多くな。先づ金銀を搗き碎き、水中に動搖して器底に沈澱させ、砂質中から金銀を分別する。その不純なるものは水銀に溶かして雜物を去り、「レトルト」に入れて水銀を蒸餾する。又粉砕した金銀に「シヤン」化加里の稀薄液を加へ、空氣に觸れしめて金を溶解し、これに亞鉛を投じて金を遊離させる法もある。これは金を含む事の少ない礦物に適用する場合が多い。純金の性質は鮮明なる光澤を有する黄色の金屬で、最も展性、延性に富み、酸素と化合せず普通の酸に溶解することはないが唯、王水にのみ溶けて鹽化金(AuCl<sub>3</sub>)を生ず、その質柔軟なる爲め金貨・裝飾品等を造るには多少の銅を混するを常とする。金の純、不純を検せんとするには試金石に擦痕を附し、その痕が硝酸に溶けねば金である、又硫酸第一鐵に處して摩擦して鮮明な金屬光澤を呈すれば金の化合物である。

キヌ(筋) 【生】動物の運動器關の稱。筋肉ともいふ、その條を見よ。

キヌ(琴) 【樂】七弦の琴。箏の琴に對

キワターキワト

色の染料を製し、又藥品とする。材は盆碗等を製し、子質は殺蟲の效ある。キワダマダロ(黄肌筋) 【動】硬鱗類、體形マダロに似てゐるが胸鰭稍長く後背鰭及び臀鰭も共に長くて相對してゐる、體長は六七尺、色背部は蒼黒で腹部は白。酒の肴にはさしみとして最も味がよい。



〔鮪肌黄〕

キワダン(義和團) 【歴】支那清末に於ける政治上の結社であつた。又拳匪ともいつた。これは拳法を信奉するを名とし、明治二十七八年戦役の後、清朝の衰勢に乘じ、歐洲諸國の壓迫最甚しかりしため民間にこれを憤慨する者續出し、これ等の徒相結合し、明治三十三年山東省に蜂起し北京に入り各國公使館を圍むに至つたが各國聯合軍を組織し、北京を攻陥するに及び悉く平定せられた。それが爲清國は各國に償金をとられて今に至るも皆済されてゐない。

キワド(銀) [White Silver] 【化】比重 10.47 稀には單體で天然に産することもあるが、多く硫銀(As<sub>2</sub>S<sub>3</sub>)となつて硫銀と相伴ふて産する。銀を礦石より採取するには先づ硫銀より銀を取り、かくして鉛中に含まる銀を探るのである。先づ銀を熔融して少量の亞鉛を混じ、これに由りて生ずる亞鉛と銀の合金を鉛液面から掘り取り、蒸餾して亞鉛を分ち去るのである。されどこの銀は多少の鉛を混するから、灰吹法又は「アマルガム」法でこれを精練するのであるがその方法は各その條に就て見よ。

銀は鮮明な光澤ある白色の金屬で頗る展性、延性に富み、熱及び電氣の最良導體である。空氣中では酸化しないが、硫化水素に逢へば硫化銀の黒錆を生ずる、硝酸の外稀酸に溶けぬが熱した濃酸には溶解する、質柔軟なれば貨幣・裝飾品等を造るには多少銅を混する。銀の化合物としては硝酸銀(AgNO<sub>3</sub>)、鹽化物(AgCl)臭化物(AgBr) 沃化物(AgI) 等がある。銀鹽は食鹽溶液で白色、臭化加里溶液で淡黄色、沃化加里溶液で黄色

キヌ

キワトキワリ

上にありては、如何なる強壓を受けても液化することが出来ぬ。その液化し得ると得ざるの界の温度をキワドキ温度といふ、炭酸瓦斯に於ては30.9である。

キワドキカク(一角) [Critical angle] 【物】光が球體から密體に進むとき、投射角が或角度以上に達すれば全反射を起す、その全反射を起すと否との境の角度をキワドキ角といふ。換言すれば90度の屈折角を生ずる投射角はその値水と空氣に於ては85°。硝子と空氣とでは60°等である。

キワドキシヨウタイ(一状態) [Critical state] 【物】液化したる炭酸瓦斯を硝子管中に封じて、これを熱して「キワドキ」温度(30.9)に至れば、液と蒸氣との境界不明瞭となり、氣液何れに屬するやを見分け難いやうになる、斯の如き状態をキワドキ状態といふ。

キワモノ(際物) 【國】時機に投ずるを目的として製作したる一時限りのもの。正月の風、寶船、三月の雛人形、五月の武者人形、七月の魂祭用の物品十二月の注連繩・飾林等。これを買ふ者を際物師といふ。

キヌ(吟) 【漢】漢詩の一體。古詩から出たもの、古詞の體、諸葛孔明の「梁甫吟」、卓文君の「白頭吟」等最も有名。【演】三味線のつばの名。【能】強く語ふか弱く語ふかをいふ語、つよぎん、よわぎん等をいふ。

キヌイオウ(金硫黄) 五硫化「アンチモン」。橙赤色無臭の粉末で、發汗、祛痰薬とし、又獸畜の疾患に實用する。

キヌイコウシ(金衣公子) 【漢】魯の異名。開元遺事に明皇禁苑中に於て黃鳥を見る、呼んで金衣公子とすとある。

キヌイロインサツ(金色印刷) 【印】紙の上に金色の印刷をすること。二方法ある。一は金粉を用ひ一は金箔を用ふ。その方法は先づ所要の文字又は模様を石版及び凸版に作り金下「インキ」にて印刷し、未だ其乾かざる中にその上を刷毛で撫で、金粉を附着せしむる。他は金下肉にて印刷後金箔を薄く延ばし利刀にて適宜に切りて靜かに「インキ」の附きたる上に置くのである。

キヌエンカスイソウサン(金鹽化水素酸)

キヌーキンエ 六七九







キンク

多といふ。高さ二三尺乃至五六尺、葉は對生して卵形を呈する。初夏白色(後黄色)の花を並び開く。果實は漿果で熟すれば紅色となる。果實に液毒を含む。

キングストン

【Kingston】【地】北「アメリカ」洲西印度の「ジャマイカ」島の首府。同島の東南岸に臨み、砂糖・珈琲・染料等を産する。近郊は天然の風景に富んでゐる。【アメリカ】合衆國「ニューヨーク」洲にある都邑。「ニューヨーク」洲の北三十里。「バドゥン」河中流の石岸に臨み、交通の便よろしく、石灰・石炭・石材・木材・セメントの市場である。【カナダ】の「オンタリオ」洲にある都邑。運河鑿道の要地に位し造船その他の工業行はる。一時「カナダ」の首府であつた。

キングスレー

【Charles Kingsley】【僧】英國の僧で文學家。西紀一八五九年以後十ヶ年間「ケンブリッジ」大學の歴史科教授であつた。又社會制度の改革について著書多し。所多く文學上その他の著作が多い。一八七五年歿。

キングン

【銀行】(銀行)の略。右銀行の營業特色を分類すれば、商業銀行(短期の信用貸借を受授するもの)、不動産銀行(土地並びにその他の不動産を抵當として長期の貸付をなすもの)、勸業銀行(會社の株式・各種債券の引受及び諸種の有價證券の買入を營むもの)等がある。特殊銀行の中兌換券を發行するものは日本銀行・臺灣銀行・朝鮮銀行の三つで(ダカンケン及びシヘイ参照)。債券を發行するものは勸業銀行である。キンコウカワセ(銀行爲替)【商】ナイコカワセの條を見よ。

キンゴウキン

【金】【銀】を主とした合金。その硬度を増し、黄色を失はない限り廉價の合金を製するのを目的とする。銅・銀又は「アルミニウム」等を用ひる。金貨幣は各國とも金の混合を用ひてゐる。

キンゴウキン

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコウシユウ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンケ

顯はる。宋の時にこれを増し、邊城の警備に充てたことがある。キンケイキク(錦雞)【植】菊科で合衆國産の二年生或は一年生草本。莖の高さ一二尺に達する。葉は羽状複葉で三乃至七箇の卵形をなした小葉より成る。六七月頃長柄を有する頭狀花序を生じ、その周囲の花は黄色色の舌狀花冠を有し、その中部の花は紫褐色の筒狀花冠より成る。

キンケイチヨウ

【動】鴉類に屬する鳥。形雉に似て雄は極めて美、頭上に黄金色の冠羽を戴き、頸は橙黄にして天鷲様様の黒色の横條があつて、脊は金黄色、胸及び腹は深紅色を呈し、尾は栗色に黒斑があつて長い。雌は羽色雄に劣り、茶褐色にして暗色の斑紋がある。尾は短い。支那の原産でアカキジ・ニシキドリとも異名される。



【鳥 雞 錦】

キンケイノマ

【動】(蠶)の一種。宮中御殿の御用として飼育され、絹糸を吐く。

キンコウシユウカイジヨ

【銀行】(銀行)の略。右銀行の營業特色を分類すれば、商業銀行(短期の信用貸借を受授するもの)、不動産銀行(土地並びにその他の不動産を抵當として長期の貸付をなすもの)、勸業銀行(會社の株式・各種債券の引受及び諸種の有價證券の買入を營むもの)等がある。特殊銀行の中兌換券を發行するものは日本銀行・臺灣銀行・朝鮮銀行の三つで(ダカンケン及びシヘイ参照)。債券を發行するものは勸業銀行である。キンコウカワセ(銀行爲替)【商】ナイコカワセの條を見よ。

キンコウシユウ

【金】【銀】を主とした合金。その硬度を増し、黄色を失はない限り廉價の合金を製するのを目的とする。銅・銀又は「アルミニウム」等を用ひる。金貨幣は各國とも金の混合を用ひてゐる。

キンゴウキン

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンケーキン

などは、その御間に敬みて侍り居るのをいふ。キンケムシ【動】(蠶)の一種。幼蟲は蓇葖科植物を食害する。體一寸五分許黒褐色で背に黒帯、腹側に黄赤色の縦條がある。蛾は小形體、翅共に白色にして尾端には黄色の毛簇がある。この蛾をキンケムシテフといふ。

キンケン

【金券】政府又は銀行が發行する紙幣で金貨と引換へられるもの。【アメリカ】合衆國政府が正貨を國庫に納納するものに對して交付する證券で、請求によつて金貨と引換へられるものをいふ。

キンコ(光參)

【動】(蠶)の一種。宮中御殿の御用として飼育され、絹糸を吐く。

キンコウシユウ

【金】【銀】を主とした合金。その硬度を増し、黄色を失はない限り廉價の合金を製するのを目的とする。銅・銀又は「アルミニウム」等を用ひる。金貨幣は各國とも金の混合を用ひてゐる。

キンゴウキン

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

(東京、日本銀行)地方支金庫(各府縣銀行)の別がある。キンコウ(金工)【美】諸種の金属に技巧を施した美術工藝の總稱。すべて金工はその材料の何であるに關せず加工の方法によつてその名目を異にする。鑄物・打物・彫物・鋳・鍛冶等の種類が多い。

キンコウ(錦江)

【地】朝鮮忠清南道にある川。源を金羅・慶尙兩道の境の雲梯山に發し、忠清南道を貫流して黄海に注ぐ。江口を鎮江といふ。川は餘り長くは無いが水運の便大に農業の發達した地方を流るゝのでその名が高い。

キンゴウ(銀行)

【Bank】【商】資金の餘裕ある人から金貨を預り、これを需要者に貸與融通するを主たる職分とする經濟機關。現金の貸借、證券及び手形の割引、及び爲替事業等を營むもの。我國に於ける銀行の種類には普通銀行・貯蓄銀行・及び特別銀行の三つある。普通銀行は一般の銀行法規則も銀行條例により設定せられ、貯蓄銀行は貯蓄銀行條例に準據するもの。特別銀行は日本銀行・日本農業銀行・農工銀行・日本商業銀行・北海道銀行・朝鮮銀行・朝鮮銀行の如き。

キンコウシユウ

【金】【銀】を主とした合金。その硬度を増し、黄色を失はない限り廉價の合金を製するのを目的とする。銅・銀又は「アルミニウム」等を用ひる。金貨幣は各國とも金の混合を用ひてゐる。

キンゴウキン

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。

キンコ

【金】【銀】を主とする合金。これを製する目的はその硬度を増し、廉價で銀色をしてゐる合金を得るためである。混加する金属は銅・亜鉛・カドミウム・ニッケル等である。銀貨幣は各國とも銅の合金を用ひてゐる。



キンサーキンシ

一突起を有し、雌と區別すること  
が出来る。  
キンサー(南華) 【植】菌體の上部傘狀  
をなす所の部分である。

キンザンジミソ(經山寺味噌) 【食】大  
豆(一斗)を炒熟し割つて外皮を去り  
麥(一斗)と共に水に浸して蒸し少し  
冷却し、「モヤシ」を以て麴とし別に  
白瓜(約三十個)を割り、鹽を散布し  
壓して汁を去り、前二者と混ぜ之に  
食鹽(三升)と瓜汁を加へ桶に入れ  
石で壓し時々攪拌し、生薑・麻實・茄  
子・牛蒡等を入れるのである。普通夏  
製するもの。

キンシ(菌類) 【植】菌類の發育機關。錯  
綜せる絲狀體で中に埋没し、これ  
から生殖體たる菌草を生ずる。  
キンシガン(近視眼) 【醫】キンガンに  
同じ。

キンシガンヨボウホウ(近視眼豫防法)  
【醫】暗い燈火を用ひぬこと。【目】小  
物の眼に接近させて見ぬこと。【目】小  
字の印刷物又は細密煩雜なものは成  
るべく見ぬこと。若之を見たときは、  
天いで遠方の景色を眺むること。【目】  
傾斜ある机を用ひぬこと。  
キンシキ(禁色) 朝廷の特許なくしては  
着ることの出来ぬ紫・赤の色合。

キンシヨウクジ(錦織寺) 【地】滋賀縣近  
江・野洲郡中里村大字木部にある寺。  
眞宗木邊派の本山。天安二年慈覺大  
師圓仁の創立。後親鸞此處に阿彌陀  
の像を安置してから眞宗念佛の道場  
となつた。

キンシン(謹慎) 【江】江戸時代の刑の名。  
慎ともいふ。士分以上に科する刑で  
一定の住所を定め、公用の外外出を  
許さず、急度慎、一生慎とあつて後者  
は犯罪の重い刑で隠居、知行石上げ  
を伴ふのが例である。後年赦免の時  
は將軍が出格の思召による。【海】海軍  
及び陸軍の懲罰令による罰目の一。  
海軍では准士官以上に科し、陸軍で  
は將校、將校に準ずる者と高等官と  
高等官待遇の軍屬その他俘虜將校に  
科するのである。

キンシンモン(金仁門) 【歴】新羅太宗  
王の第二子。學問に通じた人。七度唐  
に入り在唐宿衛二十餘年。唐將と共に  
百濟・高句麗征討軍に従つて功が  
あつた。唐は嘗て新羅文武王を廢し  
仁門を王たらしめんとした。輔國大  
將軍となつて唐に卒し、新羅太宗大角  
干を贈られた。

キンセイ(金星) 【天】太陽より二番目  
の惑星。記號は♁、球狀で直徑三二二  
キンシーキンセ

キンシ

キンシクンシヨウ(金鶏勳章) 金鶏は  
金色のトビである。神武天皇九州を  
制定された時その弓に止つたといふ  
鳥。それを記念に形も取つた勳章で  
明治二十三年二月十一日紀元節を以  
て制定され、武功拔群な者に叙賜さ  
れ、功一級から七級までである。クンシ  
ヨウを見よ。

キンジチ(近似値) 【數】數學上の語。眞  
の値に極めて近い値。即ち眞の値より  
小さいものを、その不足なる近似値  
大きいものを、その過剰なる近似値  
といふ。例へば直徑一尺の圓の周の  
長の寸位迄の不足な近似値は三尺一  
寸、過剰な近似値は三尺二寸、又厘位  
迄の不足な近似値は三尺一寸四分、  
過剰なる近似値は三尺一寸五分であ  
る。

キンシチヨウ(禁止鳥) 【動】農産物を  
食害する動物を捕食する鳥類及び學  
術研究上利益ある鳥類は、法律で捕  
獲することを禁止する。其種類を禁  
止鳥といふ。本邦の禁止鳥は次の如  
くである。ツル・ツバメ・ヒガラ・コガ  
ラ・シジュウカラ・ゴジュウカラ・エ  
ナガ・ミンソサザエ・ホトトギス・カク  
コウ・サンコウチョウ・ムクドリ等。  
キンシツテン(近日點) 【天】地球が

〇里、質量地球の〇・八一倍、平均密  
度水の四・九倍、太陽より平均距離二  
七五〇萬里。二二・七日を以て太陽  
を一周し自轉の週期は公轉の週期に  
等しく、約二二・五日だといつてゐる  
太氣を有して盈縮の現象を呈し地球  
から見れば光輝最燦爛としてゐる。  
太陽西方にある時は之に先つて出で  
(曉の明星)東方にある時は後れて没  
し(宵の明星)太白・啓明・長庚等とい  
ふ。

キンセイイカガク(近世幾何學) 【數】  
幾何學には大きさに關すると位置に關  
する点とある。例へば圓の内接邊形の  
相對する角の和は二直角に等しいとい  
ふ定理は角の大きさに關係し、任意の  
四邊形の二の對角線の中點と對邊の  
交點は、一直線上に在るといふ定  
理は點の位置に關係するものである  
近世幾何學は圓形に關し専ら後者に  
關する性質を研究してゐる。これに  
對し大きさに關するを計量幾何學とい  
ふ。

キンセイイカガク(金星經過) 【天】金星  
の太陽地球間に來て太陽面を經過す  
ること。この觀測に因つて太陽の距  
離を測定することが出来る。  
キンセイセキ(重晶石) 【Crystal】  
キンセ

キンセ

キンシ

の軌道を運行して太陽に最近き位置  
にある時、即ち一月二日頃。  
キンシバイ(金絲梅) 【植】山地に自生  
する小灌木で又庭園に栽培せらる。  
莖の高さ三四尺で通常叢生し、葉は  
對生した無柄の卵形で長さ七八分よ  
り一寸餘、夏日梢上に黄色の五瓣花  
を開く。花は倒卵形、光澤ありて美し  
く、雄蕊は五體をなす。

キンシヤ(金紗) 【織】染めたる絹絲で  
紗織又は手織組織として金絲・銀絲・  
箔・色絲を以つて紋様を織出した清  
涼美麗な織物。夏の袷袢地に用ひる。  
紗金も亦この一種である。京都西陣  
の産。  
キンシユウ(菌褶) 【植】菌傘の内面に  
存するエラの如き褶襞である。これ  
に胞子を着生する。  
キンシユウ(金州) 【地】支那滿洲關東  
州内にある郡邑。金州半島の旅順に  
對する咽喉に當り、南滿洲鐵道の要  
驛。金州政廳のある所で、人口約二萬  
市街は周圍に城壁を廻らす。日清・日  
露の兩戰役に我が軍の占領した所。  
その南にある小丘南山は日露戰役の  
劇戰地として名高い。  
キンシユウフ(錦州府) 【地】支那滿洲  
奉天省の郡邑。遼東省の西方小凌河

【礦】斜方晶系に屬するも常に二晶相  
合して、恰も六角柱をなしてゐる。完  
全な結晶はその色や方向に見れば  
燭黄色又は紫色又は青色を示す。こ  
れ所謂多色性であるから、その光澤  
はヤニ又ガラスのやうで、透明乃至  
半透明である。硬度は七乃至八、斷面  
は不平坦又は介の裏面のやうである  
花崗岩或は片麻岩の副成分となる。  
或は古生層粘板岩が花崗岩の熱に依  
り、變質して生ずることがある。淺間  
山及び上野國渡良瀬川等に産する。  
キンセイイ(近世代) 【地】地質時代  
の四大別中最も新しい時代、現時の  
陸地の形は略々この時代に於て成つ  
た。生物もこの時代に入つて大に發  
達し、植物には雙子葉のもの動物に  
は哺乳類大に發達した、この時代に  
成つた地層は即ち近世層で砂岩・礫  
岩・泥板岩・凝灰岩・褐炭・粘土等が  
ある。

キンセンイ(筋纖維) 【生】キンニクの  
條を見よ。  
キンセンイシヨウ(筋纖維鞘) 【生】筋  
纖維を被覆する結締組織のこと。滑  
液膜の様に粘液を分泌して筋の運動  
を補助するもの。  
キンセンカ(金盞草) 【植】菊科の庭園

キンセ

キンセ

キンセ

キンシ

に沿うた郡邑。鐵道京奉線の一驛。人  
口凡そ七萬、京奉線中の主要郡邑で  
ある。  
キンシヨウ(焮衝) 【醫】炎症に同じ、そ  
の條を見よ。  
キンシヨウ(近稱) 文典の語、指示代名  
詞の中自己に最も近い者を指すする  
もの。「こ」「こち」「こなた」「こ  
れ」などである。  
キンジヨウ(太田錦城) 【學】儒者であ  
る、名を元貞、字を公幹といひ、通稱  
才佐と呼び加賀の人。皆川淇園に學  
び、又山本北山にも師事して折衷學  
を唱へた。加賀侯に召聘されて、斑上  
士に列した。文政八年江戸に歿。著書  
頗る多い。  
キンジヨウ(金城) 【地】朝鮮江原道の  
都會。京城の東北二十里、京城元山間  
の要驛である。  
キンジヨウオリ(錦上織) 【織】絹織の  
發達した嶄新な美術織物。紋様は平  
綾縹子等様々な組織で織り又縫取模  
様をも入れる。布面は均整で光澤が  
在る。西陣の産が特許品である。  
キンシヨウコウ(近肖古王) 【歴】百  
濟王眞王之嗣で比流王の第二子。も  
と百濟は開國以來文字がなかつたが  
王の時に始めて書記があつた。

に栽培する一年生草本。莖の高さ一  
尺許、長橢圓形の葉を互生する。花期  
は春時と秋時とによりて異なる。通常  
黄褐色の美花を開く。  
キンソウシヨクブツ(菌藻植物) 【植】  
隱花植物の一大部門。植物界の中  
下級に位置するものである。單細胞體  
又は複細胞體で、莖と葉との二部の  
區別なく、且全體は管束組織系を有  
せずして、單に柔組織より成る。顯花  
植物の如く雌雄兩蕊を具ふる花なく  
して、胞子を生ずる。菌藻植物は菌類  
藻類・地衣類等の最下等なる植物の  
部類を總括してゐる。又通長植物と  
もいふ。

キンゾク(金屬) 【金】金・銀・  
銅・鐵の如き元素で八十餘の既知の  
元素中約六十種は金屬元素である。  
通性は不透明で所謂金屬光澤を有し  
延性展性が熱及電氣をよく傳達  
する。酸素・硫酸・ハロゲン等の非金屬  
元素と化合して酸化物硫化物「ハロ  
ゲン」化物を作る。酸化物水酸化物は  
主に鹽基性で酸類と化合し鹽類を作  
る。高級の酸化物には酸性のもの  
は少く無い。金屬相互には定まれる化  
合物をなすことが少く二三金屬を混  
融すると合金を作る。この性質も金

キンソ

キンソ

キンソ

六八五







キンニキケン

キンニキケン(筋肉便麻質)
【醫】關節を侵されるの筋肉を侵さ

キンノデント(金の電鍍)
【化】鹽化金を水に溶解し之に「アンモニヤ」を加

キンノデント(銀の電鍍)
【化】硝酸銀の溶液に青化加里の溶液を加へて得

キンハ

キンバイソウ(金梅草)
【植】毛茛科の高山に生ずる多年生平滑の草本。高

キンバインウ(銀梅草)
【植】虎耳草科の山地に自生する多年生草本。高

キンバク(金箔)
【動】ハエの條を見よ
キンバエ(青蠅)
【動】ハエの條を見よ



【器】金箔箱

キンハ

キンバト(金鳩)
【動】鳩類の一種。小形で雄は背部美なる金綠色



【鳩】金

キンバラアキヨシ(金原明善)
【實】農業者。遠江の人。初久平。夙に天龍川

キンハーキンヒ

キンハーキンヒ
を投じて公共事業に盡くした。二十五年藍綬章を受け、三十五年勳六等に叙し瑞寶章を授けられた。大正十二年一月歿。

キンバレー(Earl of Kimberley)
【政】本名を「ジョンクオードハウス」と云ふ。キンバレー侯爵を授けらる。

キンビカモノ(金光物)
【演】大時代の義太夫物の稱。この種の狂言では登場人物が必ず錦襦袢など燦爛とした衣裳を付ける。

キンブセン(金峯山)
【地】奈良縣(大和)吉野山の高峯。吉野村の東南に聳え、南は大峯に連り山谷重疊、巒々として熊野那智に互る。「萬葉集」に「三吉野の御金峯と見え、「文徳實錄」に金峯嶽、三代實錄に高山と記し今金峯・金峯山・黄金峯ともいふ。修驗道者の第一の靈場として古來の名が現はれてゐる。山梨縣の北東部關東山脈中に聳える高峯。

キンブ(銀座漫歩)
銀座の街をぶらぶら歩く事。
キンブ(金浮羅)
【料】てんぷらの一種。餛飩粉の代りに蕎麥粉を用ひるもので、てんぷらに對して新らしく名をつけたものにはすぎない。

キンヘイ(菌柄)
【植】菌體發育するときは、破開して上下の二部となる。その軸柄となる部分を菌柄といふ。
キンボ(銀寶、銀魚)
【動】キンボ科に屬する魚。體は狭くして長く、形ウナギに似てゐる。全體細鱗を被り、赤褐色で黒色の斑點があつて、腹は赤黄色をなす。脊鰭及び臀鰭の棘は短く共に長く連つて



【ほんぎ】

キンフーキンホ

キンボウチ(毛茸)
【植】毛茛科に屬する有毛草本。葉は掌狀に分裂し單葉である。花は黄色を呈し八重である。その一重なのをウマノアシガタといふ。瘦果を結ぶ。有毒である。
キンボクザン(金北山)
【地】新潟縣佐渡島に在る山。俗に越の高峯。雪の高峯等といふ。海拔三八五八尺。犬佐渡山脈の道峰で全島の最高山である。附近の連山と共に冬季西北風の拉し奈る多量の積雪を戴き、山容峻々蒼海上に崛起して壯麗である。山頂に一祠があつて迦具土神と大彦の命を祀り、島民の男兒七八歳になれば初登山といつてこれに參拜するのを常としてゐる。

キンマヌリ(金間塗)
【塗】漆器の一種。中塗した上に金箔を貼り墨畫を描き透明漆を塗布せるもの。銀箔を以てせるを銀間塗といふ。
キンミスヒキ(龍芽菜)
【植】山野路傍に自生する多年生草本。高さ二三尺に達する。葉は羽狀複葉で小葉は大

キンホーキンヒ

キンメツキ(金鍍金)
【化】無性磷酸鹽達八〇分を温湯百分に溶解し、これに鹽化金二分を加へたもの。少量の青化加里を加へて煮沸し、これに全量一千分となるまで水を加へて鍍金液とする。被鍍物は研磨し清洗して全く脂肪分の附着し居らざる様に浸漬する。銅・真鍮等に鍍金するに用ひられる。電氣鍍金による物に比べると保存が僅少であるが使用の目的によつて必要が少く無い。
キンメツキ(銀鍍金)
【化】苛性カリ二十瓦を蒸溜水五十瓦中に溶解した液中に硝酸銀二十二瓦を投入すると水酸化銀の沈澱を生ずる。それを濾過し濾したものを青化「カリ」百瓦と蒸溜水半「リットル」との溶液の中に入れて全く溶解した時再び濾過し、此濾液の全量一「リットル」に達するまで蒸溜水を加へ重湯煎で加熱しつゝ被鍍物を浸漬する。鍍銀された物は鍍液中に入れて乾し白墨製の磨粉で仕上げる。被鍍物は脂肪分無き様に清

キンモウコウ(金毛織)
【織】六方晶系に屬する金屬織物であつて、成分は硫化ニッケルである。針狀・網狀・毛狀をしてゐて脆い。硬度三・五。銀・銅・鐵等と一緒に鑛脈中から出る。ニッケルに製造の原鑛として有用である。本邦には殆ど産出はない。
キンモン(金門)
【地】支那福建省泉州府に屬する島。厦門の東北に位す明の遺臣鄭成功が義兵を擧げた所。往年船舶の出入があつたが今や繁榮を厦門に譲り寂寥を極めてゐる。
キンユウ(金融)
資金の融通状態。資金とは放下の途を求むる通貨のこと。資金の滞滯を金融逼迫といひ、放下の途を求むる事難きを緩慢といふ。
キンヨクシキ(禁慾主義)
人間の感覺的方面から來る欲望を悉く不淨不潔なものとしてこれを固く禁する主義。

キンラン(金蘭)
【植】蘭科の山林に自生する。
キンモーキンラ
六八九



キンラーキンリ

生する宿根草本。高さ一二尺。葉は無柄長楕圓形で、基脚は稍々莖を包む。四月黄色上向の花を數箇擧げする。キンラン(金蘭) 【植】蘭科の山野に自生する多年生草本。概形キンランに似てゐるが全體短小で高さ尺に足らない。四五月の頃莖頭に白色の小形花を開く。

キンランデ(金蘭手) 【器】染附の磁器。赤・瑠璃等の無地釉薬を施した後金で模様を描いたものである。

キンリユウ(禽籠) 【動】中世紀時代の白蠶紀に生存した爬蟲類の一種。化石として「ベルギー」から出た、後肢及び尾は強大で骨盤が大に鳥類に似てゐる。

キンリユウジ(金龍寺) 【地】群馬縣(上野)太田町にある寺。太田山と號し、横瀬貞氏開創。應永廿四年新田義貞の遺骨を此處に改葬したといつてゐる。東丘に高山彦九郎を祭る高山神社がある。

キンリヨウソウ(水晶蘭) 【植】鹿蹄草科の山地自生の寄生植物。高さ四五寸。葉は鱗片状で莖に互生し全體銀白色を呈する。夏秋の候花を莖の頂端に單生し多少傾斜する。

キンリーキンル

るにより出する力、筋肉の長さに関係なく唯その筋纖維の數に正比例する。故に筋纖維の横斷面の大なる程筋力が強い。通常人の握力、牽引力などは數種の筋肉の連合して働くものこれ等の筋力を測定するには檢力計を用ふ。

キンリン(菌輪) 【植】菌體發育して菌傘の開いた後。菌柄上に存する輪の如き痕跡をいふ。

キンルイ(菌類) 【植】植物學上菌類を眞菌類・細菌類・地衣類の三種に分つ眞菌類は凡そ二大別ありて、一は細長く連つた細胞即ち筋類より成るもの、他は球形・卵形或は橢圓形の單細胞より成り、蕃殖するに芽状突起を

するものである。前者はマツタケ等で後者は酵母菌である。細菌類は根瘤「バクテリア」及び「コレラ」・「チブス」・結核病等の病原をなす「バクテリア」等でその體は細微の單細胞より成り、細胞の分裂によりて蕃殖するのである。地衣類は菌類がその體内に藻類を含有し、これと共生するもので、イハタケ・サルヲガセ等はこれに屬するものである。

キンルイチユウドク(菌類中毒) 【醫】キノコルイチユウドクを見よ。

キンク

キンレイカ(地花菜) 【植】敗醬科の高山に自生する植物。莖の高さ一尺許、葉は長柄があつて對生し、葉片は五岐乃至三岐して城の葉の如く粗鋸齒を有する。夏日稍頭に枝を分ちて黄色の細花を擧げする。一名ハクサンオシナヘンともいふ。

キンロウシユキ(勤勞主義) 兒童生徒を勤勞させることに由つて授けたる智識を確實にし、進んで實行の習慣を養ひ、獨立不撓の奮闘的精神を高めんとする教育上の新主義。

キンロクコウサイ(金祿公債) 明治維新後從來の武士等に給與した家祿知行賞典祿を全廢しこれに代へて發行した公債のこと。

ク

ク 五十音圖中、加行第三の音。ク字は久の草體。片假名「ク」は漢字久の削字である。

ク(句) 【國】纏まつた意味を有してない語の集合をいふ。即ち一文中、其の要素である主或は説明語の一部。若

クークアテ 六九〇

クは全部を含まないもの。例へば美麗に開く、梅の幹などは各句である。ク(區) 自治體内に於ける行政區劃東京市の十五區、大阪市の四區の類。明治三十年勅令第一五八號北海道區制によつて北海道に設置せられた自治體札幌區の類。又明治二十九年勅令第一九號沖繩縣區制によつて沖繩縣内に行はるゝ自治體那覇區の類で、何れも内地の市に相當する。

クアケルナク [Jakob Jorg Quaker-na-so] 【歴】慶長五年「クイリアム・アダムス」即ち三浦安針と共に渡來せる「オランダ」の船長。後、本邦を去り「オランダ」と「ポルトガル」との交戦中に戦死した。

グアダルキビル [Guadalquivir] 【地】「スペイン」の河であつて「アンダルシヤ」を貫流し、大西洋に入る。長さ三百七十四哩。

グアテマラ [Guatemala] 【地】中央アメリカの共和國。中央「アメリカ」の西北部を占め、土地高潮で平低。大高原をなし、南方は海拔五百米内外。北方は稍々高く千三百米乃至千九百米に達する。住民の六割は「インディア」である。首都を新グアテマラといひ、人口約十二萬。中央「アンリョル





1 シヒタケ 2 マツダケ 3 シカウバウ 4 アシタカベニタケ 5 シヨウロ 6 ハツダケ 7 ハヘコロシ 8 ツチガキ 9 アサタケ 10 ドクベニタケ  
 11 オホベニタケ 12 ツクリタケ 13 シイシ 14 タマゴダケ 15 サワコシカケ 16 スツボンタケ 17 シメジ 18 キツネノエカキフデ



最大の都會である。製造は首府から  
「サンヨセ」迄通じてゐる。物産には  
綿産の他、陶器・織物・指物等を出す。  
グアノ(鳥糞層) [Guano] 水禽の群棲  
する島に於てその糞が年々堆積し途  
に厚層を作つたもの。磷酸石灰を多  
く含む故、人造肥料の原料として甚  
だ有用である。本邦では小笠原列島  
中の南鳥島に産する。

グアム [Guam] 【地】太平洋中「マリア  
ナ」群島中の一島。面積約二百方里。  
人口約九千。北米合衆國に屬し、海底  
電信の中継地である。

クワイアイ(喰合ひ) 【相】買り玉と買ひ  
玉が取組んだ状態をいふ。

クワイアワセ(食合) 【食】同時に食すれ  
ば身體に害ありといふ食品。古來傳  
ふるものは極めて多い。醫師の中に  
はこれ一種の迷信であるといふ者も  
あるが一概に排斥は出来ない。食ひ  
合せに異つた物質が胃の中で化學變  
化を起し有害の毒物を形成する事な  
いとはいへぬから、注意するが肝要  
である。例へば鰻に生梅・馬鈴薯にハ  
ツカ・蕎麥にドクケン等。

クワイキリ(喰切) 【工】釘抜の釘を抜む  
所が及になつて居て鉄切りに適する  
様になつて居るもので、針金を切る

クアノークワイキ

時に用ふ。【權】生兒の百二十日  
目に初めて食物を食ふ儀式。地方に  
よつて種々の習慣があるが、普通に  
は松竹梅鶴龜などの模様の膳碗で汁  
平・猪口・焼物等を用ひるが、小笠原  
流では飯は大飯といつて高盛、汁は  
鯉か鯛を用ひ、右の方に金頭・名吉、  
左の方に梅干五つ、又産石といつて  
青い小石を置き、齒固とて小さい餅  
五つを据えるのである。

クワイチガイ(喰達) 【鑛】鑛脈及び鑛層  
の斷層に出逢ひ、在來の接續を失ひ  
斷層の前後で位置を轉倒した場合を  
いふ。

クイナ(水鶏・秧雞) 【動】涉禽目に屬す  
る小禽。夏  
の夜田畝の  
間で鳴く、  
その聲門を  
叩くやうで  
ある。

クイナ(水鶏・秧雞) 【動】涉禽目に屬す  
る小禽。夏  
の夜田畝の  
間で鳴く、  
その聲門を  
叩くやうで  
ある。



水 鷄

クイナ(水鶏・秧雞) 【動】涉禽目に屬す  
る小禽。夏  
の夜田畝の  
間で鳴く、  
その聲門を  
叩くやうで  
ある。

クイシヤ(喰切) 【工】釘抜の釘を抜む  
所が及になつて居て鉄切りに適する  
様になつて居るもので、針金を切る

クイソククイ

クワイグアール島の北方に位する。  
「ブリチッシュ・コロネビア」州に屬し、  
面積約八五〇方里、氣候割合に温暖  
である。金・銅・鐵・石炭の産がある、  
人口凡そ三千。

クイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會

クイン  
クワイグアール島の北方に位する。  
「ブリチッシュ・コロネビア」州に屬し、  
面積約八五〇方里、氣候割合に温暖  
である。金・銅・鐵・石炭の産がある、  
人口凡そ三千。

クワイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會

クワイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會

クイン

クワイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會

クワイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會

クワイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會

クワイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會

クワイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會

クワイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會

クワイニスランド [Queen Land] 【地】  
「オーストラリア」洲の東北部を占む  
る「イギリス」の一植民地。東北は太  
平洋に臨み西北は「カーペンタリヤ」  
灣に瀕する。南は「ニューサウスウェ  
ールズ」に連り、西南の一隅は南「オー  
ストラリア」洲に、南は北部地方に續  
いてゐる。地勢東岸には「オーストラ  
リアアルプス」山脈の餘勢連互し、西  
南に向ひ傾斜し遂に大平原を開く。  
河川の主なものは「マルレイ」河の  
支流「ダーリング」のみ。面積一一・  
七五〇方里。人口七五七・六三四。一  
方里の人口僅に十五人を算するのみ  
農業牧畜を主業とし、小麦・玉蜀黍・  
甘蔗の外「バナナ」・「パイナップル」  
「オレンジ」等の果實を産し、牧畜亦  
盛にして一九一九年には牛五百九十  
萬頭・羊千七百三十七萬頭・馬七十三  
萬頭。鑛産には銅・石炭・錫の産ある。  
海外との貿易も盛大に行はれ主なる  
輸出品は金・銀・銅・錫・石炭・凍肉・皮  
革・羊毛・砂糖等である。主なる都會







クウチ

信電話装置の空中中に高く懸垂せらるる導線、アンテナともいふ。送信用に使用するときには送波線と稱し、その一端を發振器の一端に接続して置く。發振器を働かすとこの送波線電路に電氣振動を生じて周圍に電波を起すのである。受信用に使用する時は受波線と稱して檢波器に連なる電波を受けると、此電路に電氣振動を起し檢波器によつて受信装置を働かすのである。空中線は多くの場合送信用受信用に兼用する。形は數條の導線を並列或は扇形或は傘形、圓錐形、漏斗形等種々ある。

クウチニウデン空(空中電氣)

【電】空中に起る電氣。靜穩な天氣では大抵空氣中の電氣は正電氣であり、雨天では概して負の電氣である。風があるとか降雪のある際は一定しない。この空中電氣の原因に就ては種々の説があるが單一の原因でなく數種の原因から來るであらう。最近の學説は空氣の「イオン」説である。太陽の光線(特紫外線)は空氣を電離するその内陰イオンは速度大で消散し易いから空氣は陽に帯電することになる。又陰イオンは水蒸氣凝結の核になり易いから雨滴は陰電氣を帯びる。

クウリヨク(偶力)

【物】一物體に作用してその大き等しく、方向相反する二つの平行な力をいふ。如斯き力は合成力を生ぜず、唯物體を廻さうとする性がある。

クウリヨクノウチ(偶力の臂)

【Arm of couple】【物】偶力をなす二力の方向を示す平行線間の距離をいふ。

クウリヨクノウリツ(偶力の能率)

【Moment of couple】【物】偶力の臂即平行な二力間の距離に、その一を乗じたものをいふ。恰も二力の各が其同の一點を中心として、その物體を廻さうとする能率の代數差に相當する。

クエイダツ(孔穎達)

【歷】唐の儒者、唐太宗の時文學館學士を授けられ、尋で國子博士に遷はれた。源州十八學士の一、貞觀二十二年歿。

クエスター(Orkney)

【地】アジャ、洲、ペルチスタンに於ける軍事上の要地。「ボラン」岬の西北約八里、海拔一五〇五米に位し、印度に對し兵路上要害の地であるから堅固な防備が施してある。人口約二萬五千。

クウリークエタ

クウチークウチ

て雨天の際は空氣が陰に帯電されるのである。その他水の蒸發、氷と水滴との摩擦、砂塵を含んだ空氣の流動して地上の物と摩擦する等の場合にも電氣を起し大氣中の電氣の原因をなすと稱せられる。

クウチニウヒコウキ(空中飛行器)

空中を飛行する器。原理の上から二種類ある空氣の浮力を利用して水素の如き輕き氣體を氣囊に充して空中に浮び、發動機によつて推進機を廻轉して進歩するもの(飛行船)と翼を有する機體を發動機によつて「プロペラー」を廻轉して滑走し、翼に當る風壓を利用して飛翔する物(飛行機)とである(各その條参照)。

クウチニウヒコウキ(空中郵便)

航空機、即ち飛行機、飛行船を利用して郵便物の輸送を爲すこと。我國でもすでに數回これを行つて好成績を得た。クウチヨウ(空腸)【生】小腸の一部で、十二指腸に續ける部分。小指腸を除いた殘餘の約五分の二を空腸とする。クウチイルイ(偶蹄類)【動】哺乳類の一日、毎脚四趾(指)を具ふ。中央の二趾はよく發育し、地を踏み、兩側の二趾は甚不完全である。この日を分つて、不反蹄類(馬)及び反蹄類(牛)と稱する。

クエベック(Quebec)

【地】北アメリカ(カナダ)の州。カナダの東部に位し、面積五七、八九二方里。セントローレンス(河)内を貫流する。本流は水量に富み船運の便大河口から六百哩を距る「モントリオール」まで航洋汽船が溯江することを得る。河の南部は「アラバチヤ」山脈の餘脈。蠕蠕し、河北は「ローレンシヤ」山脈。横はが河谷は地味肥沃、農業、牧畜、林業發達し、近海には鱈の漁利が多い。【カナダ】の「クエベック」州の首府。カナダ陸軍の要地で「アメリカ」カジブラルタルの稱がある。「カナダ」最舊の都會で商業盛に行はれる。又製材、製鐵、製革、造船等の工業も盛である。この市は一六〇八年「フランス」の建てた所、一七五九年以來英領となつた。

クエンサン(枸橼酸)

【Citric acid C<sub>6</sub>H<sub>8</sub>O<sub>7</sub>】【化】レモン、青梅、橙等の果實中にある、三鹽基酸で、水に溶け易い結晶體である。爽快な酸味がある。

クエンサンテツ(枸橼酸鐵)

【Fe(C<sub>6</sub>H<sub>5</sub>O<sub>7</sub>)<sub>2</sub>·XH<sub>2</sub>O】【化】硫酸第二鐵若くは鹽化第二鐵と「アンモニヤ」を混和して生じた沈澱に枸橼酸を加へて得た枸橼酸鐵液を蒸發乾燥して製する。

クエハークエン

クウチークウチ

亞目とする。

クウチンベルヒ(Johann Gutenberg)

【印】獨逸の人。活版印刷術の發明家。西紀一四五〇年「マインツ」市の富豪「フスト」と結び、その資本の供給を受け、活版を以て聖書を印刷した。是の故を以て、活版印刷發明者の名譽は久しく「フスト」に在つたが、近年歴史研究の結果「グーテンベルヒ」の功業に歸するに至つた。西紀一四六七年歿。

クウトウヒコウ(空頭病)

【癡】ナンカビョウの條を見よ。

クウトウヒキ(空取引)

【相】實際に物品買賣移轉を爲すことなく單に投機的目的を以て取引をなしその差額を授受する取引。普通相場といふものにてこれが爲債權者は過急破産として所罰される。

クウハツキヨウクン(偶發敎訓)

【敎】學校又は社會に一事變が起つたならばその機を失はないで兒童を會集して、これに道德上の批判を與へ、直に彼等の鑑戒とすることである。

クウヤ(空也)

【僧】天台宗の僧。京都の人。夙に諸國を歴遊し、諸寺を禮拜し、後京都に居住し往來の人に念佛を勧め居た。時人市遊又は市上人と呼ん

クエンヒ(枸橼皮)

【植】蒸したるレモン油。芳香苦味、成分「リモネン」等。比重〇・八五八乃至〇・八六一。矯味、矯臭藥として用ひらる。

クオンジ(久遠寺)

【地】山梨縣(甲斐)南巨摩郡身延山の南面にある日蓮宗の總本山。日蓮納骨の廟寺である。文永十一年日蓮上人この山中に草庵を設けて、弘安四年身後壽藏の地としてこの寺を建てた。堂宇莊麗、參詣者常に絶えない。

クカイ(區會)

【法】北海道及び沖縄縣に於てその地方の自治機關として設けたる區の議決機關。その組織、職權等は市會・町村會に概ね等しく區の重要行政事項等議決する。【市】町村所務上便宜の爲分ちたる區に於てその區が特に財産を所有し、又は營造物を設け費用を區限り負擔するときは市の區は府縣參事會。町村内の區は郡參事會か市會又は町村會の意

クエンークカイ

クウヤークウラ

だ。天曆二年叡山にて大乘戒を受け應仁三年鴨川の東に西光寺を建てて供養した今の六波羅密寺である。年七十七で天曆三年歿した。

クウヤキ(空也忌)

【佛】空也上人の正忌に修する法會。毎年十一月十一日より三日間歡喜踊躍の念佛誦を行ふによりて有名である。

クウヤシニウ(空也宗)

【佛】天台宗の一派、空也上人の創めた宗である。

クウヤドウ(空也堂)

【地】京都下京區四條坊門堀川の東にある空也念佛の本寺。紫雲山極樂院光勝寺といふ。天慶元年空也上人が開創して極樂院空也堂といつた。京師に疫病が流行した時、空也佛に供へた茶を諸人に頒つた。その弟子定盛遺風を傳へて茶釜を造つて世に弘めた。空也念佛はこの定盛の子孫から行はれるといふ。クウヤネンブツ(空也念佛)【佛】空也上人が始めたといふ阿彌陀念佛及びその踊。念佛の功積つて極樂淨土に往生することが出来る喜を表し、和歌・和讃及び念佛を節面白く唱へて拍子に合せて踊る。天台宗空也派を根據として、開祖の命日及び社中の佛事供養に行ふのである。

クカイ(苦艾)

【藥】ニガヨモギを帶花期に採集乾燥したもので、成分は揮發油及び苦味質「アブシンチン」。驅蟲藥であつて少量に飲用すれば食欲を増す。

クカイギイン(區會議員)

區會を組織する議員。(クカイ参照)

クガイゾウ(草本威靈仙)

【植】玄參科に屬する草本。葉は輪生し、花は紫碧色、長い穗狀花序に排列する。觀賞用として栽培する。

クカイデン(公藤田)

【歷】中世以後、官司に附屬して雑用の料に充てしめたる田。諸司田と稱するもの此なり。在外諸司の俗せる職分田をもいつた。

クガタチ(探湯)

【國】上古、訴人の是非曲直を判するため、熱湯中に手を挿入せしめし法。若し非理のものである時は、その手は爛れるといつた。允恭天皇の朝、姓氏を糺す爲めにこれを行つた。

クガマチ(久賀町)

【地】山口縣周防大島郡の町。大島の北岸にあつて安藝

クカイークカマ



クカンクキカ

灘と相對しゐる。人口六、四八九。  
クカンコツ(軀幹骨) 【生】人體の軀幹を支持する所の骨。脊柱・肋骨・胸骨及び舌骨より出來て居る。  
クカンシヨウ(愚管抄) 【文】書名。七卷ある。著者不明。吾妻鏡と共に鎌倉時代の歴史料である。

クキ(莖) 【植】植物の上昇軸。常に葉及び花を握つて居る。胚の幼芽の伸長したものである。  
クキ(釘) 一端尖つて物を固着させるに用ふるもの。種類に竹釘・木釘・金釘の別がある。且その形に折釘・合釘・合折釘・切釘・サツバ釘・貝折釘・ガタノ釘・頭巻釘・蟹目釘・三角釘・二五延・逆目釘・島田釘・大五寸等がある。又用途によつて橋釘・枕木釘・竹梯子釘・家根釘・スレート釘・瓦釘等がある。竹釘は女竹を削つて鍋で炒つて用ひ、木釘はワツギを用ひ、金釘は鐵・銅・亜鉛その他の合金を用ひる。

クキ(眞姬) 【歴】項羽の妾。項羽が劉邦の爲に大軍を以て垓下を包圍された時、自及して死んだ。離嬰粟の花は虞姫の愛したものだともいひ、又はその死處に生じたともいひ、虞美人草の名を與へられたる。  
クキカク(釘隠) 【國】なげしに打ち

クキヌクキヨ

たる釘をかくす爲めに打つ飾物である。  
クキヌキ(釘貫) 今いふ忍返。徳川時代の町々の城戸、(もと板塀の一種)の上縁の板に釘を打ち貫いて、先端を外に出して人が乗り超へない様にしたもの。  
クキノウミ(洞海) 【地】福岡縣(筑前)遠賀郡の東部にある海灣。門口狹隆で湖沼のやうである。東西一里二十四町。南北約十町。西岸に若松港、東港に戸畑町がある。海底甚だ浅く、殊に近來海面の埋立工事を行ひ、市街地を造つた。沿岸に若松・八幡・黒崎等の市邑を有してゐる。

クキマチ(久喜町) 【地】埼玉縣(武蔵)南埼玉郡にある町。東北本線及び東武鐵道の交叉點。穀類・木綿・茶・重要産物とする。町の西方に足利成氏築ける久喜城址がある。人口三、四三二。  
クキヨウ(公卿) 【國】公とは攝政・關白・大臣をいひ、卿とは大・中・納言、三位以上(參議は四位以上)をいふ。後すへての殿上人をいふやうになつた。

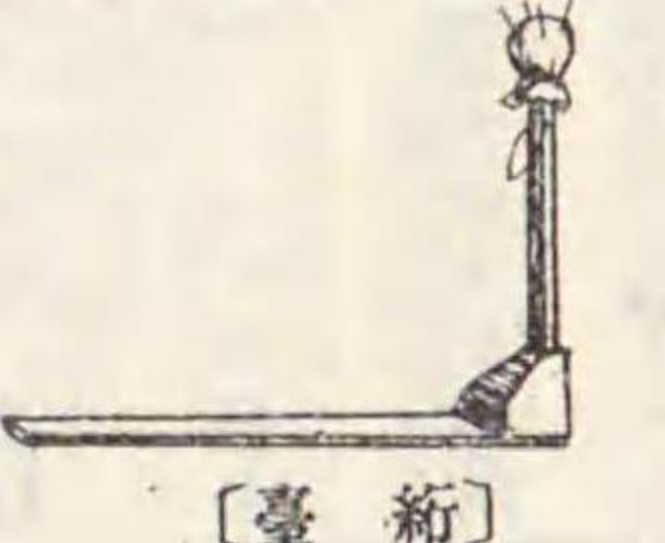
クキヨウ(公院) 【歴】源賴家の第二子幼名善哉。鶴岡八幡宮寺の別當定院の門に入り公院と改めた。後關白寺に入り、公胤の門弟となつたが建保五年定院の示寂によつてその跡をつぐ。公院深く實朝及び北條義時を恨み、これを殺さんとし、遂に承久元年正月實朝が右大臣拜賀の儀を鶴岡社頭に行ふ時、銀杏の大樹の蔭に隠れ、突然覗ひ寄つてこれを殺し、首を携へて三浦義村の許に至り、將軍の後継者とならんとしたが、義村に謀られて殺された。年十九。  
クキヨウ(弘經寺) 【地】茨城縣(下總)結城郡豊岡村にある淨土宗の寺。開東十八椽林の一。應永二十一年羽生氏の開基で、開山は嘆譽良筆である。元祿十三年祐天住持となつて累の怨靈を解脱せしめたといふ。茨城縣(下總)結城郡結城町にある淨土宗の寺。檀譽存把の開基。文祿年中十八椽林の一に列す。茨城縣(常陸)北相馬郡取手町にある淨土宗の寺。開東十八椽林の一。

クキヨシタカ(九鬼嘉隆) 【歴】織豊時代の武將。初め織田信長に降り。天正年間一向宗門徒を長島に攻め戰艦を率ひて熊野に難賀の賊を破つた。信長薨じ豊臣秀吉に屬し、同十二年志摩に封せらる。九州・小田原その他の役に功があつた。征韓の役水軍を督

クキヨシ(草毒) 【植】薔薇科の山野に自生する多年生草本。一名ヤブイチゴといふ。莖は稍々蔓状を呈し、葉は一帯三葉を出し、圓形で缺刻を有す。春日、枝梢に白花五瓣を有し、花後實を結ぶ。實は食用として賞味せらる。(オランダイチゴの條参照)

クサイバンシヨ(區裁判所) 【法】最下級の通常裁判所。稍々輕易な民事、及び非訟事件を取扱ひ、普通單獨判事が之に當るが司法行政事務のためには二人以上の判事を置くことを得る。この場合には一人を監督判事としてその裁判所の一切の行政事務を掌ら

クサイクサイ 【毒】 草 毒 葉と莖果とは、これを用ひに供せらる。  
クゴ(供御) 【國】天子の御膳部をいふ。  
クサアジサイ(草紫陽花) 【植】虎耳草科の山地に自生する多年生草本。高さ二尺餘、葉は長橢圓形又は廣披針形で縁邊に鋸齒がある。夏日梢上分枝して淡紅紫色の花を擡簇す。觀賞用として栽培せらる。  
クサイチゴ(草苺) 【植】薔薇科の山野に自生する多年生草本。一名ヤブイチゴといふ。莖は稍々蔓状を呈し、葉は一帯三葉を出し、圓形で缺刻を有す。春日、枝梢に白花五瓣を有し、花後實を結ぶ。實は食用として賞味せらる。(オランダイチゴの條参照)



縫



草



蜻蛉

クサイクサイ

クサイクサイ 【毒】 草 毒 葉と莖果とは、これを用ひに供せらる。  
クゴ(供御) 【國】天子の御膳部をいふ。  
クサアジサイ(草紫陽花) 【植】虎耳草科の山地に自生する多年生草本。高さ二尺餘、葉は長橢圓形又は廣披針形で縁邊に鋸齒がある。夏日梢上分枝して淡紅紫色の花を擡簇す。觀賞用として栽培せらる。  
クサイチゴ(草苺) 【植】薔薇科の山野に自生する多年生草本。一名ヤブイチゴといふ。莖は稍々蔓状を呈し、葉は一帯三葉を出し、圓形で缺刻を有す。春日、枝梢に白花五瓣を有し、花後實を結ぶ。實は食用として賞味せらる。(オランダイチゴの條参照)

クサイクサイ

クサイクサイ 【毒】 草 毒 葉と莖果とは、これを用ひに供せらる。  
クゴ(供御) 【國】天子の御膳部をいふ。  
クサアジサイ(草紫陽花) 【植】虎耳草科の山地に自生する多年生草本。高さ二尺餘、葉は長橢圓形又は廣披針形で縁邊に鋸齒がある。夏日梢上分枝して淡紅紫色の花を擡簇す。觀賞用として栽培せらる。  
クサイチゴ(草苺) 【植】薔薇科の山野に自生する多年生草本。一名ヤブイチゴといふ。莖は稍々蔓状を呈し、葉は一帯三葉を出し、圓形で缺刻を有す。春日、枝梢に白花五瓣を有し、花後實を結ぶ。實は食用として賞味せらる。(オランダイチゴの條参照)

クキンククリ

クキンククリ 【農】 雞の一種。コウチンに同じ。ニワトリの條を見よ。  
クグ(管笈) 【國】クゴともいふ。樂器の名。クダラゴトのこと。  
ククスハイフエン [Orkhaven Kuxhaf.] 【地】ドイツ聯邦「ハンブルヒ」市の外港。世界屈指の大埠頭を有し、その延長六里船渠の面積百五十餘萬坪「ドイツ」國內は勿論遠く中部東部「ヨーロッパ」移民の發着地となつてゐる。

クグツ(傀儡) 【國】古、人形を歌に合せ舞はした演技の一種。轉じて人形つかひ、舞妓・遊女などをもいふ。  
ククノヒヨウ(九々の表) 【數】「ピタゴラス」の表ともいふ。基数、即ち「一」より「十」までの數に、基数を掛けた積を表にしたものである。  
クダラグチ(龍口) 【農】 雞の一種。ク

クサイリスイシヨウ(草入水晶) 【礦】水晶の結晶中に陽起石(綠)・電氣石(褐色又は黒)等を含むものである。  
クサイロ(草色) 【顏】帶青緑色の稱。草葉色のこと。  
クサカキ(草掻) 【農】農具の一種。草削りともいふ。除草用とす。主なるものは油揚萬能・角萬能・「ホー」の如きものである。  
クサカゲロウ(草蜻蛉) 【動】脈翅目に屬してゐる。體は綠色で胸角の間にX字形の黒紋がある。幼蟲は刺蟲を食するの有名な益蟲である。その卵を優曇華といふ。  
クサカゲンスイ(久坂玄瑞) 【歴】徳川末期の志士。初名は誠。後義助と改めた。諱は通武。醫を以て毛利氏に仕へた。吉田松陰に學ぶ。高杉晋作。入江彬藏と並んで松下村塾の三秀と稱せられた。夙に勤王の大義を唱へ、志士と往復して攘夷の國是を定めんとしたが成らず。騎兵隊の長となり、馬關碇泊

クサイクサイ

クサイクサイ 【毒】 草 毒 葉と莖果とは、これを用ひに供せらる。  
クゴ(供御) 【國】天子の御膳部をいふ。  
クサアジサイ(草紫陽花) 【植】虎耳草科の山地に自生する多年生草本。高さ二尺餘、葉は長橢圓形又は廣披針形で縁邊に鋸齒がある。夏日梢上分枝して淡紅紫色の花を擡簇す。觀賞用として栽培せらる。  
クサイチゴ(草苺) 【植】薔薇科の山野に自生する多年生草本。一名ヤブイチゴといふ。莖は稍々蔓状を呈し、葉は一帯三葉を出し、圓形で缺刻を有す。春日、枝梢に白花五瓣を有し、花後實を結ぶ。實は食用として賞味せらる。(オランダイチゴの條参照)



クサカ

の洋艦を撃つた。元治元年會・柔薩の兵と蛤門に戦ひ、傷を負ふて遂に割腹して死す。年二十六。明治二十四年正四位を贈られた。

クサカノハタヒヒオ (草香綺姫)

【歴】雄略天皇の皇后。初め履仲天皇の皇后となり、天皇崩後母兄大草香皇子(同條参照)により、大草香皇子が安楽天皇に殺されてから大泊瀬皇子(雄略天皇)の妃となり、大泊瀬皇子即位するに及んで皇后となつた。

クサカベイツウジ (日下部伊三次)

徳川幕末に於ける薩摩藩の志士。名は信政。安政五年攘夷決行の内勅水戸に下つた時、伊三次も亦捕へられ拷問されたが遂に言はず、幕府命じて藩に囚禁せしめ、十二月獄中に歿した。明治二十四年正四位を贈らる。

クサカベノオウジ (草壁皇子)

武天皇の皇子。御母は持統天皇。文武天皇の九年二月皇太子となり、天皇崩後皇后持統天皇と共に萬機を攝した。同三年薨せらる。年二十八。

クサガメ (椿象)

【動】有物目に属する。その種類多く、概ね悪臭を放つ。植物の液汁を吸収し枯らすので有害。

クサギ (海州常山)

【植】馬鞭草科の山野に自生する落葉灌木。幹は五六尺



〔うわのさく〕

クサナギノツルギ (草薙劍) 【歴】ムラタモノツルギの條を見よ。  
クサノオウ (白屈菜) 【植】罂粟科の路傍石垣の間に多き草本。莖軟くその高さ一二尺に達する。葉は一回又は二回羽状に分裂し、その上面緑色、下面は帯白色で微毛がある。初夏黄色四瓣花を開く。有毒植物であるが、この莖より製した白屈「エキス」は胃腸に効があるといふ。

クサビ (楔)

【物】木又は金の二面角角をして尖つてゐるもので、木の割目に挟み叩いて割るとき等に用ふ。その角小さい程、能率大で打込み易い。  
クサビコウ (檜礦) 【礦】單斜晶系に属する礦物。成分はカルシウム及び「チタン」の硫酸鹽類である。硬度五以上で、金剛又は脂光澤ある。色は褐・灰・黄・緑・黒等で火成岩特に深造岩、例、花崗岩・正長岩閃綠岩等の副成分礦物として存する。



〔楔〕

クサナ

クサナギ (草薙劍) 【歴】ムラタモノツルギの條を見よ。  
クサノオウ (白屈菜) 【植】罂粟科の路傍石垣の間に多き草本。莖軟くその高さ一二尺に達する。葉は一回又は二回羽状に分裂し、その上面緑色、下面は帯白色で微毛がある。初夏黄色四瓣花を開く。有毒植物であるが、この莖より製した白屈「エキス」は胃腸に効があるといふ。



〔うわのさく〕

クサキ

より二丈許に達し、葉は廣卵形をなして先端尖り、短毛を密生し、長柄によりて對生す莖葉には悪臭がある。八月頃枝梢上に白色帯紅色の花を多数指簇する。果實は褐色、嫩葉食用に供せらる。

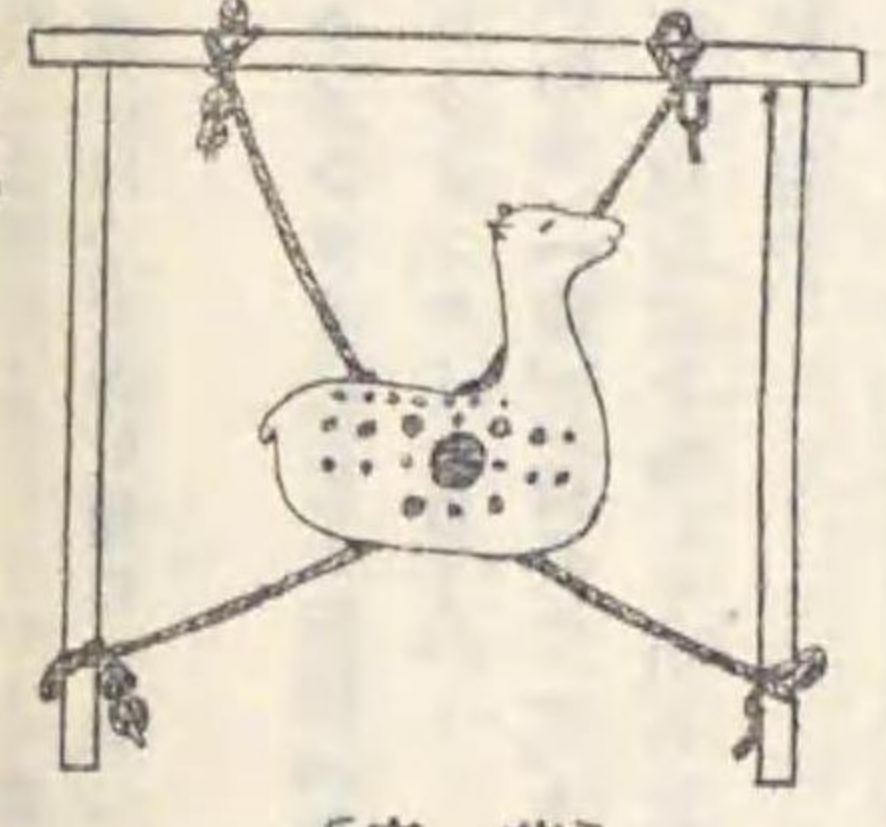
クサキヨウチクトウ (草夾竹桃)

【植】花荵科の多年性草本。莖の高さ四五尺に達し全邊なる長橢圓形又は卵状披針形の葉を對生する。夏秋の候莖頭に淡紅色又は白色の美花を簇生する。

クサゴエ (草肥)

【養】リョクヒの條を見よ。  
クサジシ (草鹿)

【國】近古武人が射的の演技に用ひた的の草又は張板で張板は鹿或は獸の形を作つたものである。



〔鹿草〕

クサヒバリ (動) 直翅類中の蟋蟀科に属する小形の昆蟲。體圓筒形で長さ約三分、淡黄灰色。觸角は細長く體長に四倍する。雄は翅長く翅脈波紋状なれど、雌の翅は短く翅脈の半を被ひ脈も簡單である。八九月頃樹枝・枯葉の裡に止つて黄昏美聲を發する。  
クサビライシ (石芝)

【動】珊瑚蟲類多放線目に屬してゐる。單立であるが、共同骨路があつて海中に産する。  
クサフジ (蘆)

【植】蘆科の原野に自生する多年生草本。莖性の莖は長く伸びて數尺に達し、羽状葉の先端にある卷鬚を以て、他物に巻きつき五月淡紫色の蝶形花を多数指簇して穂をなし頗る美しい。牧草に供する。  
クサボケ (樺子)

【植】薔薇科の山野に自生する落葉の小灌木。高さ一尺餘。枝に刺を有し、葉は倒卵形をなして圓き宿存性の托葉を有する。早春葉に次で黄色の美花を開く。花後圓實を結ぶ。  
クサボタン (草牡丹)

【植】毛茛科の山地に自生する多年生草本。稍々木質をなした直立莖を有し、毛茸が多い。

クサス

の海邊に自生する多年生草本。莖は蔓性で他物に纏繞し、葉は鱗片状で小さく、その葉腋より曲れる針の如き綠色の枝を生ずる。夏日淡黄色の小花を通常二三個づつ、叢生する。花後小豆大の紅實を結ぶ。地下に塊根を接簇し、これを藥用とし又砂糖とす。

クサズリ (草酒)

【國】鏡の一部、ヨロイの條を見よ。  
クサズリビキ (草摺引)

【演】外題に二三あるが、最も古きを「根元草摺引」とする。曾我時政の着たる道津海鏡を朝比奈が引留むるもの、寶曆九年市村座で演じたのを初めとする。  
クサゾウシ (草雙紙)

【國】徳川時代に行はれたる小説の一種。輸入女文字の草子をいひ、文化・文政から明治初年頃迄は専ら合巻物を指していつた貼外題を錦繪表紙に改めたのは文化六年に始まつた。  
クサタチバナ (草橘)

【植】羅漢科の山地に自生する多年性草本。莖は略々直立し、高さ一二尺に達す。葉は卵形又は廣披針形で對生、夏日梢葉腋に白色五瓣花を着く。花後長さ一二寸の角狀蒴を結ぶ。

クサマクラ (草枕) 【國】旅籠に同じ。草を枕として宿の意味から「旅」にかゝる枕詞として用ひる。  
クサメ (嘘)

【生】呼吸の變態。鼻茸・鼻加答兒・肥厚性鼻炎・刺激性瓦斯・藥粉の吸入・異物等に因つて起る。又神經性のものがある。病原あればその治癒と共に消失し、神經性のものは臭素加里(一日三瓦)の内服効がある。  
クサモネ (草餅・艾糰)

【食】蓬草をに入れて搗いた餅のこと。これに二種ある。一つは糯米と蒸した蓬とを搗き泥せて製したもの、一つは並粉を捏ね、それを蒸籠内で蒸し、別に糠で、細く刺んだ蓬草を混ぜて臼で搗き普通の餅を作るやうにし、砂糖をつけ或は餡を入れて食ふ。三月の雛祭には多くこれを供へる。東北地方で賣存婦をくさもちといふ。  
クサリカタバシ (鎖帷子)

【武】甲冑の一種。細小な鐵製の鎖で編み作つた帷子様の下着。戦陣の時用ひて護身としたものである。  
クサリガマ (鎖鎌)

【武】武器の一種。鎖

クサナ

野)吾妻郡にある町。信濃國境白根山の東麓。輕井澤驛・瀨野まで草津輕道鐵道の便がある。古來温泉を以て著る泉質酸性、多少遊離硫酸・硫酸鹽土を含む。痔疾・瘰癧質斯・微毒諸症に効がある。人口二七二二。國滋賀縣(近江)栗太郡の首都。大津市東北三里餘。東海・中山兩街道の分岐點で鐵道驛。姥ヶ餅古來名物にして又竹藪を産する。郡役所・警察署等がある。人口五四七二。

クサナギ

【動】ヤウジ魚科に屬する魚形海馬に似て體に十一の環紋があつて頭上にある冠狀物はあまり高くない。脊鰭に十七乃至十八の刺がある。九州地方に産する。  
クサナギカズラ

【植】百合科の落葉蔓草。アフリカ・州の南部・グールドホープの岬の原産であるが今は廣く栽培して觀賞する。莖は頗る纖長で纏繞性をなし平滑である。葉狀枝は互生し披針形。兩面共に綠色。六月頃頂に白色又淡綠色の香氣ある一花を懸垂する。果實は漿果で成熟すれば暗紅色となる。



〔ラヅカギナサク〕

の一方には鎌を掛け、他の方には鎌を結びつけたもの、鐵丸を投げかけて敵の武器を絡み取り、鎌を以て相手の得物を受け止め又は拂ひ除け、手許へ入り込み來りたる時は敵の首を掻切るに用ふこれを使用する流派數多あれど、最も廣く行はれたのは大草流である。  
クサリサンゴ (鎖珊瑚)

【地質年代】「ミルリア」系の時代にはあらはれた珊瑚の一種。その群體は稍々扁平な管狀をなして兩側が互に連つて錠鎖狀を呈して居る。  
クサレダマ (櫻草科の觀賞用として培養せらるゝが又山地に自生する多年性草本。高さ三尺餘、葉は廣披針形又は披針形で、對生或は輪生する。夏秋の候梢上に圓錐花叢をなし、黄色五裂の合瓣花冠ありて美しき花を開く。



〔珊瑚鎖〕

クシ (串) 【國測】Pに上端に環を具へ、他端は尖つた鐵製のもので、その

クサリ

クサリクシ

クサマ



クシ

長さは一尺である。通常十本を一組とする。これを地面に立て、鎖の一端を環の凹所に符む。...

クシ(公事) 往古朝廷で行はれた年中行事。恒例の公事と臨時の公事とあつた。...

クシークシキ

りたる厄害を免るといふ。その他種々の法がある。クシ(籠・籠) 一から十或は百に至る番数を紙巻の端又は竹串に記し、...

クシウラ(櫛占) 國昔の辻占。黄楊櫛を持つて辻に立ち、道祖神を念じて通行人の語をとつて、判断する一種の占である。...

クシガキ(串柿) 食竹串に貫きて乾した柿。釣柿の一種。一月の飾。贈物などに用ふ。...

クシ(九字) 一種の呪呪として真言宗の僧侶・修験者等に用ひらる護身呪法。臨兵闘者皆陣列在前の九字一字づつ、唱へながら、各字に對する印相を結び終りて、空に向ひ縦五線を切りて、臨兵闘者を唱へ、次に横五線を切りて、皆陣列在前と唱ふ。...



王明雀孔

クシモトマチ(串本町) 地和歌山縣(紀伊)西牟婁郡の南端にある町。海を隔て、大島に對してゐる。...

クシヤク(孔雀) 勳鳥類。體大にして雄は三尺五寸、雌は三尺位に達する。雄は頭上に紅青色毛冠を頂き、...

クシヤクセキ(孔雀石) Malachite 鑛結晶は單斜晶系に屬して、纖維狀或は塊狀をしてゐる。...

クシヤクノウ(孔雀草) 植菊科の庭園に培養する舶來草本。高さ一二尺、多く枝を分ちて一箇の頭狀花を着く。...

クシヤククシヤク 試む。また「アルコール」を布片に浸して關節に貼るのもよい。...

クシククシタ

クシク(櫛) 櫛水母類。動物の一綱。體面に櫛齒狀の纖毛板を排列した縱帯八列を具へ、その振動により、能く水中を移動する。...

クシゲ(櫛筒) 國婦人の化粧道具を入る箱。即ちくしはこである。...

クシザシ(串刺) 屋室町幕府末葉に行はれたる酷刑の名。磔殺の一種で頭を絞り尖木で體を貫き張付にしたもの。...

クシダガワ(櫛田川) 地三重縣(伊勢)の南部にある川。源を高見山に發し、上流は飯南郡の西を貫流し、中流は飯南・多氣兩郡を劃し、下流は南北に及んだ。...

クシユウ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシユウ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシユウ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシユウ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシユウ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシユウ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシナクシマ

の二流に分れ、北流は彎曲して伊勢に入り南の靄川に直流し、大淀浦に至り海に注ぐ。長さ十七里。下流は舟を通じる。...

クシナカラ(狗戸那伽羅) 地印度の「カシアト」。「アムルドワ」との間にある舊城市。...

クシマキ(櫛巻) 國寶曆年中江戸淺草寺内お福茶屋お六が始めたもので櫛の齒を上へ巻き込んで結んだ女の髪形である。...

クシマチ(久慈町) 地茨城縣(常陸)久慈郡久慈河北岸にある町。久慈濱又久慈浦といふ。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...

クシラ(鯨) 動物の一種。體は長く、背は高く、尾は水平に横張し、耳殻を有せず。...



クシロークス

白糠、釧路、厚岸の六郡がある。鐵道根室本線はその海岸を通じて居る。

クシロガワ(釧路川)【地】一名東の母川といふ、北海道釧路國の大河。源を屈斜路湖に發して、釧路市街の北端を経て釧路灣に入る。流程三十八里。

クシロゲンヤ(釧路原野)【地】北海道釧路川の流域にある原野。北端は雄略阿寒山、東は釧路河原の丘陵地に限られてゐるが、西は阿寒川の沿岸に連なり、廣袤七十八里に達する所がある。南部は低溫で、河水氾濫の虞があり、北部は表土薄くして全部農業地とするに適してゐない。



【市】路 釧 市を距る東南鐵路一九二哩、國館を東方に距る水路二

一〇哩。明治二十三年の開港。木材、大豆、練漚粉、紙等を輸出する。釧路支廳の所在地である。根室本線鐵道驛。最近市制を布かれた。人口六一、三一九。

クシロコ(蕪粉)【製】蕪の根を搗りつぶして、その滓を除いた液汁を水洗沈澱せしめ、これを乾かした白粉、種々の食品の原料となる。畿内・丹波地方で多く産し、吉野蕪は昔から名高い。成分は重に澱粉である。蕪の根からとるからその名があるが、今では甘藷その他の根から採つた澱粉を一般に蕪粉といつてゐる。

クシロカマチ(蕪塚町)【地】新潟縣(越後)北蒲原郡の町。新井の東に四里。蕪の堆積の町。新井の東に四里。

クスタ

福島灣の下流にある阿賀川の岸。北海及び新潟との航路である。人口七、〇三四。

グスタフ(Gustaf)【歴】スウェーデンの王。同名前後數人ある。一世。(Gustaf I)同志と共に「スウェーデン」の獨立を圖り、西紀一五二三年選まれて王位に上つた。一五六〇年歿。二世(Gustaf Adolfus)資性寛大、政治に通じ戰術に長じてゐた。「バルト」海の主權を握り、丁・露・波諸國を破り、來いて獨軍を擊破し北方獅子王の名を得たが、一六三二年獨軍と戦ひ、これに勝つたが遂に重傷を受けて倒れた。三世。露國と戦つて互に勝敗があつたが、西紀一七九〇年これと和し憲法を改め王權を張つたが、遂に一七九二年遂に貴族の爲に弑された。四世。一七九二年王位に即いた。「ナポレオン」に抵抗して遂に領土を縮少され。王位を廢せられ、一八三七年歿。

クスタマ(藥玉)【國】室内裝飾品の一種。古くは種々の香料を籠めた飾玉を、いろ／＼の造花に結びつけ、八尺許な五色の飾絲を垂れて柱などにかけたもので、五月にこれをすれば邪氣を拂ふといつたものである。昔天

クスノ

那でこの日彩絲を臂にかけて、災を免れたといふ古事に起つたものであるといふ。

クスノキ(樟)【植】樟科の温帶地に自生する常綠喬木。幹の高き二丈に達する。枝極密生し樹冠大抵半球狀をなす。細き枝はみな綠色を帯びて平滑光澤がある。葉は互生、葉柄は長く五月下旬開花し、材質硬くして中に特有の樟腦を含むが故に、その香氣を放ち、よく蟲害を被らず。又水中に於て久しきに耐ふるが故に種々の用途がある。家内或は船室内の諸種の裝飾材とし又器具材・函材とし或はその木理の極めて美麗なるものは樂器及び諸種の小道具に使用せられるが樟の最大用途は樟腦を製造するにある。

クスノキマサカツ(楠正勝)【歴】南朝の忠臣。通稱二郎左衛門。正儀の子。南朝の勢日に盛るに當り尙屈せず。足利氏と戦ふ。元中九年南北の和成るや志を得ず、應永六年大内義弘の義藩に叛くに及び應じて兵を擧げ、義弘敗れ因て大和に歸る、その終るが知られない。

クスの(蕪)【植】豆科に屬してゐる蔓生植物。秋の七月の「この根より蕪粉

蕪粉に降つたが弘和の初再び南朝に歸した。クスの山野に自生する落葉喬木。葉は對生で長柄を具ふ。平滑で卵形、全縁で上面は綠色、下面は白色を帯ぶ。花は淡綠色の小花で枝頭に擡簇す。翅果を結ぶ。

クスの(蕪布)【織】もと兩具などに用ひた、蕪の莖の纖維で織つたもの、近頃では絹・綿絲を經とし、又葛絲の代りに經木を以て擬製する經木織などがある。遠州掛川附近から出る、重に襪などを張るに用ひられてゐる。

グリスベリー【植】虎耳草科の落葉灌木。歐洲の各地に野生し又栽培せらる。主幹なく根際より簇生し、幹は高さ三四尺に達し、分枝甚だ多く、多數の刺を被る。葉は小で圓形。花は綠色である。果實は生食し、又「ジャム」及び「パイ」を作るに用ふ。

クスの(暗色) 油繪又は水彩畫で黒み勝の色の出たのをいふ。或は繪具を重ね用ひ過ぎたとき或は新に畫いた畫を日光に曬したときなどに多く出

クスの(藥子)【國】古正月元日供御

クスの(藥子)【國】古正月元日供御

クスの(藥子)【國】古正月元日供御

クスの(藥子)【國】古正月元日供御

クスの(藥子)【國】古正月元日供御

クスの(藥子)【國】古正月元日供御

クスの(藥子)【國】古正月元日供御

クスの(藥子)【國】古正月元日供御

クスの(藥子)【國】古正月元日供御



クセイクセノ

【目】郷。同府久世郡にある。今は久津川村といふ。久世神社がある。日本武尊の靈白鳥となつて久世の鷺坂に飛來つたといふ傳説がある。

クセイ(弘誓) 【佛】佛菩薩の弘く衆生を濟はふとの誓ひ、又弘願ともいつて、その誓ひの深さを海に喩へて「弘誓の海」又は「弘誓の舟」などともいふ。彌陀如來の因地を法藏菩薩といつて、四十八の大誓願を起し、無量壽經にその意が示してある。又菩薩は通じて四弘誓願を發した。

クゼンジンヤ(久世神社) 【地】京都府(山城)久世郡久津川村にある神社。祭神は日本武尊。口碑の傳ふる所によると天正以前の建立だといふ。本殿は明治三十九年特別保護建造物に指定された。

クセノフォン [Xanphon] 【歴】古代「ギリシヤ」の歴史家。初め「ソトラテス」に從ひて哲學を學ぶ。「ベルシヤ」王「アルタクセルクセス」の弟。キロス」の叛するや、「ギリシヤ」傭兵を率ゐてこれに從ひ、その敗北するや、萬難を嘗めて「ヘレスポント」に歸つた。この大節を叙述せし名著を「アナバシス」といふ。叙述の平易明瞭なるを以て有名である。

クセマクソウ

クセマイ(曲舞) 【能】足利時代に行はれた舞。起原は詳らかでない。一名大頭といふ。尤の草紙に幸若の曲と併せて舞の頭といはれる。謡曲「山姥」の中にこの舞の型がある。

クセルクセス [Kerkess] 【歴】「ベルシヤ」の王「ダリオス」一世の子。紀元前四八六年位に即く。四七八年「ギリシヤ」を親征したが、「サラミス」の海戦で全滅され、己は本國に逃げ歸つた。四六五年禁衛隊長の爲に弑された。

クゼン(口宣) 詔勅の一形式。叙位・任官及び賜號等に當りての勅命・天皇口づから宣したまふによりて口宣といふ。職事たる職人勅命を受けて、これを上卿に傳宣する文書を口宣案といふ。上卿これを受取りて案となし、別に下知狀を認めて外記に下すゆゑに斯くいふ。

クゼンアン(口宣案) クゼンの條を見よ。  
クソウ(矩相) 【天】地球から見ると天體の黄經が九十度の差である状態。太陽に對する月の場合は特に弦といつて、更に上弦・下弦の二つに分つ。遊星も普通太陽に對しての位置をいふ。クソウズ(泉木) 石油の原油のこと。

クソククソト

くさみづの音便で、臭氣があるからいふ。越後七不思議の中の「くさうづ(火井)」といふのは石油井戸のことである。

クソク(具足) 【武】物の具はり足りた意味から出たもの。【甲冑】の附屬品まで揃つたもの。【甲冑】の一種。後世に出來たもの。【諸道】その重要な調度の稱。つまり射手の具足は弓矢で、法師の具足は經文・念珠のやうなものである。

クソクニ(具足煮) 【料】料理の名。伊勢海老を水にてよく洗ひ適宜の大きさの筒切りとなし、鍋に入れ酒と味噌とを四分六に混じた汁を加へ煮立つて待つて、砂糖と醤油を注ぎ充分に煮上ぐるのである。

クソクビツ(具足櫃) 【國】具足を入る櫃、もとは唐櫃に納めたものである。別に式法はなく、寸法は鏡の大小によつて種々ある。櫃の角々はさちやうめんに取り、赤又は黒漆で塗り、家紋をつけるのと、付けないものがある。前の方に「前」の字を漆又は金泥等で表はしたものである。  
クソトビ(鷺) 【動】鷺の一種。「ノスリ」といふ。鷺よりは小さけれど體肥大。顔に藍色の條紋があつて、背も藍色。

クソニクタク

色、腹部白色である。保護鳥の一。クソニンジン(黄花蒿) 【植】菊科の河邊砂地に生する草本。カハラニンジンに似た草。高さ二三尺、葉は甚だ細く分裂する。秋日、枝梢毎に細分して緑黄色の小頭狀花を穗狀に綴る。

クソバエ(動) ハエの條を見よ。  
クダクラゲルイ(管水母類) 【動】「ポリプ」水母類の一目である。多形群體をなして、これを組成する數個體は諸作用を分掌してゐる。その諸個體は共肉で相連絡する。カツヲノエボシ・カツヲノカムリ等はこれに屬してゐる。

クダサンゴ(管珊瑚) 【動】珊瑚類八放線目に屬してゐる。濃紅色直立管の群集である。水平板があつてこれを連絡する。管中に「ポリプ」體を収める。

クダタマ(管玉) 【國】玉の一種。上代の裝飾品でその形筒の様である。一に竹玉ともいふ。竹筒に似てゐるからである。何れも寶石で作り、色は赤黄・緑など一定しない。中央の孔に紐を通して帯びたものである。  
クダツナギ(管接) 【電】電線を接続する一方法。二つの電線の各端に管を嵌め、これを互に旋回せしめて接合する。

クダナガシ(管流) 又たバラガリともいふ。木材運搬の爲め一本づゝ河川に投じて流下せしむることである。小な河川に行はれる。

クダニヤキ(九谷焼) 【窯】磁器。石川縣(加賀)江沼・能美の二郡及び金澤の産出。赤繪・青繪・錦繪手・青華の四種ある。繪畫美麗にして品質高雅。慶安中大聖寺の藩主前田利治藩士に命じ江沼郡九谷村に陶窯を起せしに始る。後肥前有田の法を採知し精巧を加へた。

クダバシラ(管柱) 【建】下から上までの間中途に切れてゐる柱。土臺から胴差まで一本と胴差から軒桁まで一本と都合二本で通柱と同じ長さとなる。

クダマキ(管巻) 【織】杆に入れる管に緯絲を巻き附ける工程。手で行ふのと機械で行ふのと二種ある。又「ズック」或は「カーベット」のやうに太い緯絲のものは杆に入れる緯絲の量を多くするため「スピンドル」に巻付けておいてぬき取り、管を用ひず緯ばかりで使ふこともある。

クダモノ(果物) 果實類の中果樹類の果實の總稱。例へば、梨・柿・林檎・蜜柑・クダナークダモ

クダヤリ(管槍) 【武】槍の一種。適當な金屬で造つた管を柄に貫き、穂先に近い所に鐔があつて管を止めるのである。左手に管を握り右手で自由自在に槍を出入する。慶長年間近江國佐和山の城主大谷刑部が創製したものだといふ。

クダラ(百濟) 【地】舊朝鮮三國の一で我國では三韓の一、今の忠清・全羅兩道を領した。西紀前一八八年に南走し、今の朝鮮の中部に國を建つた。之を百濟國とした。

クダラジ(百濟寺) 【地】奈良縣大和(北葛城郡百濟村)にある寺。欽明天皇の十一年に建立し百濟大寺といつた。火災後皇極天皇これを再興せしめ、孝徳天皇の時工成り僧惠妙を寺主とした。天智天皇の七年大に修營し、丈六の佛像を置いた。天武天皇二年これを大和高市郡夜倚村に移し、高市大寺といつた。弘仁十四年弘法大師三層塔を建て、餘現六坊を起し百濟寺と名けた。延寶年間に修繕を加へたが、維新後衰頹甚しく遂に廢寺となつた。堂塔は明治三十九年特別保護建造物に指定せられた。滋賀縣(近江)愛知郡角井村にある天台

クダヤークダラ

クダラノカワナリ(百濟河成) 【畫】古代の畫家。祖先が百濟の人であるので承和年中に姓を百濟朝臣と賜はつた。武藝に長じよく強弓を挽き又圖畫を善くして度々召見された。寫生が巧みであつた。美作權少目に任せられ、從五位下を授かり、仁壽三年七十二歳で歿した。

クダリアメ(下り飾) 【食】飾の一種で茶色のもの。江戸飴賣のいふた言葉で上方から下つたとのことであらふと、昔江戸の飴賣りが人の背丈けより一二寸高いものを兩掛けにして、下り／＼と呼んで市中を行商したものである。

クダリムネ(降棟) 【建】屋根勾配に沿ひ大棟から軒に向つて降つた棟。  
クダロニア [Ordalonia] 【地】英領印度「マドラス」州の海港。氣候良好にして附近諸國人の遊散地である。人口約五二、三〇〇。藍・油・砂糖・穀類等の商業盛である。

クチ(口) 【生】消化管の前端に位する門

クダラークチ

クチ(口) 【生】消化管の前端に位する門

クチアケ(口明) 【能】の始に狂言師出て發言する詞又はその役者をいふ。【國】。通俗に何事も最初の意味に用ふる。即其日最初商ひあつたのを口明といふ如き例。【演】昔時歌舞伎狂言では第一を指して口明といふ中人・小暮・世話場・大切を以て終りとした。

クチイレ(口入) 【國】此方のいふことを先方へ傳ふる人、即ち仲人をいふ。クチウチ(口打) 【能】從來座仕込には始め親補一本ではかり仕込む所もあるが、多くは親補の外に枝補を一本か

クチアークチウ

七〇五



クチエークチ

敷本を使用する。それへ仕込んだ後、醗酵の経過により醗の状態を加減して適當な時期と認められた時、順次にその枝桶の醗を親桶に打込むものである。その終りの時を口打といふのである。クチエ(口給)【書】雑誌や書冊の初めに挿入する繪畫、今では雑誌は勿論單行本にも入れるが、その初めは天明二年發句集歳の且に鳥山石燕の繪を描いたのが始で、雙紙に似顔繪を入れたのは文化四年豊國に初まつたといふ。

クチガキ(口書) 口上書と同じ。

クチキリ(口切)【鹽】清酒の火入貯藏後初めて其呑口を開いて貯藏酒の第一回検査を行ふこと。「初呑」ともいふ。清酒を火入して貯藏した後約二箇月以上経過して略々實温に近くなつて「ひさめ」といふ時、口切を行ふ物である。【茶】茶式の一。舊十月頃から催す會。四月頃宇治から送つた茶葉を圍ひ置いて、その封切をなす式。【相】買収成立の最初。クチカク(驅逐艦)【軍】敵水雷艇を驅逐・破壊・捕獲する目的を主とし、時に敵艦根拠地攻撃にも用ふる軍艦の一。敵門の小口徑砲並びに水雷艇を駆逐する。吾邦には高尾力三

クチクークチ

五以下二九迄排水量一三四五以下である。

クチグサレ(口腐)【水】鯉・金魚等に發する病氣。口中が糜爛して頸を脱する。病因は細菌で水質の不潔から生ずることが多い、水の流通をよくして投餌の量に注意して豫防せねばならぬ。

クチケタイ(驅逐隊)【軍】水雷驅逐艦二隻以上の集合をいふ。普通四隻を以て一隊を編成し第一驅逐隊第二驅逐隊といふ。司令官は大佐、又は中佐を以てこれに任ずる。

クチザ(口座)【商】元帳に於て、勘定科目の一を記す部分のことである、或は口取ともいふ。

クチトリ(口取)【料】料理の一種。饗膳の初めに座附吸物と共に出すもの。本來は廣蓋に盛つて出した肴を破蓋に取り分けて備めるものであるから「スバリブタモノ」といふのである。れ共、當今は略して淺い皿に盛つて出すものを口取といふ。その肴は蒲鉾・さんどん・卵焼・甘露煮等のやうなものを用ひ、三色乃至九色の數で盛る。その他使用する場合によつていろ／＼の菓子等を使ふ時もある。クチツケの條を見よ。

クチトクチ

クチトリザカナ(口取肴)【料】クチトリと同じ、同條を見よ。

クチナン(出帆)【植】茜草科の暖國に自生する常綠灌木。高さ六七尺、葉は對生橢圓形で全邊光澤がある。夏は日白色香氣ある大形の花を開く。果實は長橢圓形で熟すれば黄色となる。染料又は藥用に供せらる。

クチノウコウ(口の津港)【地】長崎縣(肥前)南高來郡津浦にある。前に甲崎海峡を控へてゐる一小港で特別輸出港である。

クチバイロ(朽葉色)【染】染色の名。朽葉の色で黄に少し赤味のある茶色をいふ。

クチバシ(嘴)【動】鳥類の頸角質の外鞘を備へて齒を缺き、上嘴・下嘴の別がある。

クチパン(口番) 演劇用語。劇場俳優。狂言方の出入する裏入口。

クチビダイ(口火鯛)【動】鯉科の魚、口中絳色をなすによりこの名がある。體長一尺餘、形鯛に似て稍長く、黄綠色をなし、脊鰭の前面と臀鰭とは赤い。我國南海に産するフエフキダヒ・クチミダヒともいふ。

クチビル(唇)【生】口の入口にある、全(唇)より出來てゐる。皮膚で被は

クチマクチ

れ、感覺鋭敏である。

クチマイ(口米)【國】所定の租米の外にその納額に應じて加徴した一種の稅米。鎌倉幕府の末葉以來口粗の稱があつた。錢で納めたのを口錢といつた。口銀・口銅・口永等といつていろ／＼のもので納めたものである。

クチユウザイ(驅蟲劑)【醫】寄生蟲驅除に用ふる藥劑。主として内臟殊に腸等の寄生蟲を驅除するのである。一種の藥劑は總ての寄生蟲に同効あるものならず、各々特殊の寄生蟲に効があるのである。驅蟲藥の主なるものは支那花・サントニーネ・苦蘇花・加麻刺・綿馬根・知母根等。【農】農業上害虫の驅除に用ふる藥劑。その主なるものは、除蟲菊劑・石油乳劑・煙草煎汁合劑・魚油合劑等である。

クチユウヤク(驅蟲藥)【藥】クチユウザイの條を見よ。

クチユクカイナルジヨウヤク(Kuchiyukukai naru jōyaku)【歴】西紀一七七四年七月、露國とトルコとの間に結ばれし條約。クチユクカイナルヂは「ブルガリヤ」に在り。此條約により露國はトルコの數市を得、「トルコ」領海航行の權を許され「ギリヤ」を奪はる。「トルコ」領海航行の權を許され「ギリヤ」を奪はる。

クツセツセン(屈折線)【物】音光等が屈折した後、取るべき進路を示す直線である。

クツセツノテイリツ(屈折の定律)【物】【射】投射角と屈折角とは同一の平面上にある。【同】同様の媒介物間での投射角の正弦と屈折角の正弦との比は一定である。この定律は音、光等凡ての波の屈折に適合する。

クツセツボウエンキヨウ(屈折望遠鏡)【物】ボウエンキヨウの條を見よ。

クツセツメン(屈折面)【物】音、光等が屈折を起す所の二媒介物間の境面をいふ。

クツセツリツ(屈折率)【物】音、光等の屈折で投射角の正弦の屈折角の正弦に於ける比をいふ。空氣と水の間の光の屈折率は3/4で、空氣と硝子との間の光の屈折率は3/2である。

クツツカ(苦蘇花)【藥】アピニニヤ地方産の喬木。苦蘇の雌花の凋萎したのを乾かした藥劑である。成分は「ゴニン」糖、驅蟲除に特効があるのである。

クツセークツツ

七〇七

【國】乃蠻の王子。元太祖に逐はれて西遼により、遂に花刺子模と連合して、西遼を奪つた。(西紀二二一年)。

クチヨウ(區長)地方自治行政及び臺灣に於ける行政吏員の名。【市制】町制。【北海道區制】。【沖繩縣區制】。【沖繩縣及び島嶼町村制に依る區長并に臺灣街・庄・社の區長の六種ある。

クチヨセ(口寄)【國】死人の魂を呼び寄せる術。これを行ふ巫女を俗に市子といふ。梓の弓を鳴らし、神佛の名を唱へ死者に代りて物言ふ。既に「榮花物語」にも見えてある。

クツ(査)足に穿つ歩行用具。甲と底とで足を被ふたもので上古時代用ひた。深沓・皮沓・毛沓等種類あつて東帯の時、軍馬に乗る時等に用ふる時によつてそれ／＼に具したのである。【靴】現今の靴は歐洲の制に倣へるもので主に革にて製し、底に踵を着け、靴下を着けてこれを穿く。日本にて製造に着手したのは明治三年である。靴の甲の上端が脚に達するを長靴といひ、踝部に終るを短靴と

クツ(査)足に穿つ歩行用具。甲と底とで足を被ふたもので上古時代用ひた。深沓・皮沓・毛沓等種類あつて東帯の時、軍馬に乗る時等に用ふる時によつてそれ／＼に具したのである。【靴】現今の靴は歐洲の制に倣へるもので主に革にて製し、底に踵を着け、靴下を着けてこれを穿く。日本にて製造に着手したのは明治三年である。靴の甲の上端が脚に達するを長靴といひ、踝部に終るを短靴と

クツ(査)足に穿つ歩行用具。甲と底とで足を被ふたもので上古時代用ひた。深沓・皮沓・毛沓等種類あつて東帯の時、軍馬に乗る時等に用ふる時によつてそれ／＼に具したのである。【靴】現今の靴は歐洲の制に倣へるもので主に革にて製し、底に踵を着け、靴下を着けてこれを穿く。日本にて製造に着手したのは明治三年である。靴の甲の上端が脚に達するを長靴といひ、踝部に終るを短靴と

クツ(査)足に穿つ歩行用具。甲と底とで足を被ふたもので上古時代用ひた。深沓・皮沓・毛沓等種類あつて東帯の時、軍馬に乗る時等に用ふる時によつてそれ／＼に具したのである。【靴】現今の靴は歐洲の制に倣へるもので主に革にて製し、底に踵を着け、靴下を着けてこれを穿く。日本にて製造に着手したのは明治三年である。靴の甲の上端が脚に達するを長靴といひ、踝部に終るを短靴と

クツ(査)足に穿つ歩行用具。甲と底とで足を被ふたもので上古時代用ひた。深沓・皮沓・毛沓等種類あつて東帯の時、軍馬に乗る時等に用ふる時によつてそれ／＼に具したのである。【靴】現今の靴は歐洲の制に倣へるもので主に革にて製し、底に踵を着け、靴下を着けてこれを穿く。日本にて製造に着手したのは明治三年である。靴の甲の上端が脚に達するを長靴といひ、踝部に終るを短靴と

クチユークツ

クチユークツ

いひ、その他種々の名稱がある。材料は皮革・ツツク・藤蓆等で、色は黒と茶と白とがある。

クツイシ(杏石)【建】柱下の石をいふ。クツカケエキ(杏掛石)【地】長野縣信濃・北佐久郡にある驛。輕井澤の西方約一里、中仙街道道の一驛で淺間登山者は多くこの驛から道を取る。

クツカタ(杏形)【建】宮殿寺院等の屋根大棟の端に取附ける飾瓦。形杏に似たるより名けた。本邦にては奈良唐招提寺・金堂・法隆寺・玉皇廟・京都大極殿、支那にて最も古きは白馬寺にある。甲は玉蟲厨子にある物にて推古式、乙は唐招提寺にある物にて天平式である。後世の蟻・鬼瓦はこれの變化したものである。

クツク(Tamsu Coole)【歴】有名な「イギリス」の航海者。「ノーストラリヤ」に「ニウジーランド」等を探見し、更に南氷洋に向ひ、後、太平洋探検の途につき、數多の島嶼を發見した。遂に西紀一七七九年「ハワイ」島で土人に殺された。

クツク(Cool) 俗に「コック」と呼んでゐる。料理番・板前・板番といふ。

クツゲン(屈原)【歴】支那戰國時代の賦家。名は平、楚の人。懷王に仕へ三

クツク(Cool) 俗に「コック」と呼んでゐる。料理番・板前・板番といふ。

クツゲン(屈原)【歴】支那戰國時代の賦家。名は平、楚の人。懷王に仕へ三

クツクークツク

クツクークツク

間大夫であつた。上官大夫に讒せられ「離騷」を作つて志を述べた。王素に拘へられ襄王立つつや亦用ひられず去つて澤畔を行吟し、煩悶の餘石を抱いて汨羅に投じて死した。

クツサケキ(掘鑿機)【機】陸上で土砂を多量に掘取るに用ふる機械。主に蒸氣力を利用する。軌道の上を動く臺車の端に梯子をつけ、これに沿つて十數個の鐵桶を回轉せしめ、汲み揚げた土砂を梯頂で運搬車に移す仕掛、河溝等の土砂を浚ふに多く用ひてゐる。

クツズミ(靴墨) 靴を磨くに用ふる墨。【普通】の練靴墨は「グリセリン」又は「アラビヤゴム」・糖蜜・オレオフの三種を適宜に所理混合せるもの。【早磨用】は「セルラック」・樟腦・ニグロシン(色素)・アルコールを以て製す。【赤革用】は「ワセリン」と黄蠟又は黄蠟・石鹼・テレピン油より製する。【靴】出墨は、骨炭・明礬・木醋酸「デキストリン」・糖蜜より作る。

クツセツ(屈折)【Refraction】【物】音、光等が異つた媒介物の境で方向を變する現象をいふ。屈折の定律に従ふ。

クツセツカク(屈折角)【物】音光等の屈折で投射點に於ける屈折面への垂

クツセツカク(屈折角)【物】音光等の屈折で投射點に於ける屈折面への垂

クツセツカク(屈折角)【物】音光等の屈折で投射點に於ける屈折面への垂

クツセツカク(屈折角)【物】音光等の屈折で投射點に於ける屈折面への垂

クツサークツセ

クツサークツセ



クツワ

クツワケルイ(掘足類) 【動】軟體動物の一綱。管状の單殻を有して、頭部を有してゐない、外套腔中に一種の觸絲數條を収め、自在にこれを伸出することが出来る。その足は伸出した時は、長く海底の沙泥を掘り、匍匐する事が出来る。ツノガヒこれに屬する。グツタヘルカ(個答百兒加) 【植】南洋「ボルネオ」及び「シンガポール」の海岸に産する一植物。「イツナンドラ、グツタ」の乳汁液を乾燥したもので製法は「カチユーク」と同じである。酸「アルカリ」及び濕氣に對して不變に電氣不導體である。これ等の諸良性を利用して電氣絶緣塗料、その他百般の器具製造材料に供し、又固定縛帯として骨折・脱臼等に用ふ。クツナジマ(忽那島) 【地】愛媛縣(伊豫)温泉郡に屬する一群島、東中島・西中島・睦月・野忽那・怒和・津和地・二神の七個の島嶼から成る。主邑は東中島の大浦である。人口一四・三一一。クツヌキイシ(香脱石) 椽の降口又は玄關の上り口等に据え置く石。略して香脱ともいふ。クツワ(響) 衝といふ、馬口に衝ませ兩端に鋼を附けて、馬の前進力の制御、方向の變換、緊張の姿勢等を要する。

クツワケテン

る爲に騎士又は馬子に必要なものである。クツワムシ(話々兒・樽蟲) 【動】直翅目に屬す、蟋蟀科中の最大なもので體細長で後翅長い。觸角基部の兩側は黒褐色。夏時數中であつて、終夜露聲を放つ。雌は茶褐色の體で、雄は綠色で雌よりも小さい。前翅は脊上に於て厚くなり、翅脈の波状隆起は互に相摩して發音することを得るのである。クテシフオン(Oceanion) 【地】往時「アジヤ」洲の西部「バビロニア」にあつた市「チダリス」河の左岸にあり、「バルチャ」歴代諸王の離宮あつてその避寒地であつた。西紀六三七年「サラセン」の「ハリファアーマル」の爲に破壊された。クテン(句點) 【國】文章を讀み易くさせるが爲に、句の終りに付けた點をいふ。點の符號には一定せるものがない、或は、或は、などをを用ひてゐる。クテン(巧田) 【國】古、功勞あつたものに上より賜はつた田畑である。クテン(口傳) 【國】クテツタへ、又技藝の奧義などの秘密を口授すること、即ち傳授の意に用ひる。

クド

クド(苦土) 【化】サンカンゲネシウムを見よ。クトウ(句讀) 【國・漢】くどく「の音便。文章の言葉の切れた所を句といひ、句の中、更に點をうつて、讀み易くしたのを讀といふ。即ち句點と讀點とのことである。クドウスケツネ(工藤祐經) 【歴】伊藤祐次の子。源頼朝に寵された。初め祐經叔父伊東祐親と隙あつて祐親を殺さんとて果さずその子河津三郎祐泰を殺した。建久四年頼朝富士の卷狩を爲した時、從て出獵したが、祐泰の遺子祐成・時致の爲に復讐された。クトウホウ(句讀法) 【國】句點、讀點を附けるのに一定の法則を設けるのをいふ。クドク(口説) 【能】連懐・懐懐・懺悔等黒雲母とも稱す。その色は黒褐色又は淡黄なるによつて名付けられる、ウソモの條を見よ。クドキ(口説) 【能】連懐・懺悔・懺悔等で心中を述ぶる下音の一段をいふ。クドキブシ(口説節) 俚曲の一。鈴木水・八百屋お七などの事蹟を三味線は合せて節哀れげに替女のうたつたもの。クドク(口説) 【地】印度、パン

クートクナイ

七〇八 ジャブ「洲デリー」市の南部にある塔。印度第一の回教塔、塔の建設は明かでないが西紀一九六六年から一三三五年までの間であらうといふ。三角形と弧形とを交番に組立てた二十四瓣の花形をなし、直徑四十八尺。中央に心柱がある。第二層の「プラン」は二十四瓣の菊花形第三層は二十四稜の星形。第四及び第五の層は圓形である。その構造頗る奇で變化に富んでゐる。第六層は缺けたゆゑに新に補つたといふ。グードリツチ(Chanooy Allen Goodri) 【アメリカ】合衆國の語學者で神學者「エール」大學を卒業し、その教授となり、修辭學・神學等の講座を擔任する。「ウエプスター」の米國大辭書出版に與つて大功あつた。西紀一八六〇年歿。グドン(習曇) 【佛】釋迦在俗の時の姓で梵語「喬答摩」と譯する。當時佛以外の信徒は釋迦成道の後にも佛を呼ぶに尙ほこの姓を以てし、「ビルマ」人は尙ほ喬答摩佛陀、或は單に喬答摩といつてゐる。クナイカ(宮内官) 帝室諸官署に奉職する官吏。宮内省・内大臣府・皇后宮・東御所・西御所・皇太后御所・皇太后御所・皇太后御所・皇太后御所

帝室林野管理局・學藝院等の官吏。宮内勅令を以て任命し、一定の資格を要し、親任式を以て任ぜらるゝもの。即ち宮中顧問官・侍從長・侍從・職幹事・式部長官等はこれを要せない。而して法律規定・懲戒の處分又は宮内省分限令によるに非れば免官又は休職を命ぜられる事はない。クナイキヨウ(宮内卿) 【歌】歌人。藤原師光の女。鳥羽天皇の侍女であつた。又文畫をよくした。クナイシヨウ(宮内省) 宮内大臣の事務を取扱ふ官署。侍從職・式部職・皇太后宮職・皇后宮職・内藏寮・御料局・御位局・大膳職・主殿寮・圖書寮・内匠寮・内苑寮・主馬寮・諸陵寮・侍醫局・主獵寮・調度寮・帝室會計審査局等に分る。クナイゼナウ(Quisenau) 【歴】プロシヤの將軍「ナポレオン」一世の「プロシヤ」侵入の際、大尉として處々に防戦し、「プロシヤ」大敗の後その再興の業を計畫し、一八一三年の「ライプチヒ」戰役には參謀長として功を立て伯爵を授けらる。一八一五年六月「ワーテルロー」の戰には「プロシヤ」軍をして英將「ウェリントン」を援け、「ナポレオン」を追撃し、一敗

復た起したむべからざるに至らしめたる。一八三二年歿。クナイダイジン(宮内大臣) 帝室に關する一切の事務を總轄し、所部を統督し、兼て華族を監督する等、帝室の内政を行ふ官廳である。國家行政に關係はない。クナジリジマ(國後島) 【地】北海道千島列島最南の島。近く根室國と相對する。長さは三十里に及ぶが幅は三里に過ぎない。面積九十餘方里、根室支廳下にあつて六村に分る。島の中央に山脈連なり爺々岳・羅臼岳等登えてゐる。住民は概ね漁業に従事し、結氷期を除いて根室へ交通の便がある。沿海は水産に富み、鮭・鱈・鱈・鰯等を漁獲する。人口六・五三〇。泊村は主邑で人口一・三九ある。クニ(國) 一區劃の地域の稱。廣くは日本全國を大八洲國、大日本帝國といひ、狭くは郡と同義に使用し州縣にも適用する。神武天皇建國の際大倭國・葛城國等に國造を置き、次で縣に縣主を定められたが、未だ國縣の制は明かでない。その後成務天皇のとき山河を界して國縣を分ち、孝德天皇に至り國郡の制度を立て、大寶二年に畿内七道五十八國三島とし

たがまた分合あつて、淳和天皇の天長元年に六十六國二島となつて明治維新に至つた。明治二年蝦夷地を北海道として十一國、陸奥出羽を七國として總計八十四國となつた。今は郵便制度上の外行政上國は認めてゐないのである。クニカカスジクウ(國縣神宮) 【地】和歌山縣(紀伊)海部郡宮村大字秋月にある官幣大社。祭神は國縣大神。祭日九月二十六日。崇神帝の時祀られたといふ。延喜式に名神大社であつた。クニサキハントウ(國東半島) 【國】大分縣(豊後)東北隅の半島。今東國東・西國東の二郡に分れてゐる。面積四十二方里。双子火山その中央に屹立する。半島の西北岸には高田・竹田津の錨地がある。舊内藤氏の領。又壘表の産が頗る多い。クニサダ(國貞) 【刀工】初代は日向の人。出京し細川國廣に入門し、大阪に住みて、和泉守藤原國貞と稱した。慶長慶安頃の人。元祿頃新刀の刀工。井上真政の子。初住大阪、後日向の飯肥に住し井上和泉守と稱した。クニサダチユウジ(國定忠次) 弘化嘉永頃の博徒。上野國佐波郡國定村百

姓五右衛門の子。百々の故の號を引受け、事により博徒島村伊三郎を殺して赤城山に住し名遠近に振つた。後幕吏の逐ふ所となり、嘉永三年捕へられる。忠次性仁俠、好點を懲罰し貧孤を救恤したので村民及び遠近の衆與官に助命を乞ふ者甚だ多かつたが許されず、遂に同年磔刑に處せられた年、四十一。クニシゲ(國重) 【山城の刀工】長谷部の國重といふ。元應の頃正宗の門に入り十哲の一人である。鎌倉の刀工。二代國光の子。嘉慶頃の人。備中永田の刀工。慶長頃より數代ある。二代大目與五郎國重は寛永頃で世に有名である。四刀劍小道具の彫工。肥前平戸の人。或は京都とも云ふ。眞鍮その他の地に西洋畫を彫刻して一流をなした。クニス(Karl Gustav Adolf Knies) 【學】ドイツの經濟學者。西紀一八五五年「フライベルヒ」大學の教授となり、一六六五年「ノイデルベルヒ」の教授となつた。經濟學界に於ける史學派の大家。一八九九年歿。クニダユウフシ(國太夫節) 【演】淨瑠璃の一派。都國太夫半中が祖で、中節を變化させたもの。又宮古路節・豊

クナイ

クナイケ

クニカクニサ

クニシクニダ



クニツクニ

後節ともいふ。クニツク(國次)山城の刀工。來國俊の女婿。正應の頃鎌倉に赴きて正宗の門に入り、十哲中の首位となつた。世に鎌倉來といふ。嘉曆二年八十一歳にて歿。

クニツナ(粟田口國綱)粟田口の刀工。國家の六男。藤六左近將監といふ。有國の弟。後鳥羽院御番鍛冶の一人。建長七年九十三歳にて歿。粟田口一門名工中の棟梁である。八十六歳北條時頼の爲に名刀鬼丸を作つた。

クニトシ(來國俊)山城の刀工。來太郎國行の子。出藍の譽あつて古今の名工といはれた。老後國行と稱した。康永三年百五歳を以て歿すと傳へられる。二世。初代の子。永仁頃の人。老後の作に根本中堂來國俊と銘した。クニトモ(粟田口國友)山城粟田口の刀工。林彌九郎國家の子。後鳥羽院の御番鍛冶に選まれ左衛門尉を受領した。乙丸の名剣を鍛へた。建保元年六十七歳を以て歿。

クニトコタチノミト(國常立尊)【歴】神代に於ける獨化の神。日本書紀では最初に現れた神とし、「古事記」では別天神五柱の次に列してある。

クニノクニヤ

クニノミヤ(久遠宮)伏見宮から分れた宮家。朝彦親王を祖とする。(コウゾク)の條参照。

クニヒロ(國弘)相模山内の刀工。永正・正和頃の人。藤源次助眞の子。父と共に正宗と相對して鎌倉に門戸を張り世に喧傳せらる。初銘國廣とある。筑前刀工。康永頃の人。國廣の鎌倉の刀工。新藤五國光の子。元徳頃の人。四山城の刀工。文祿より慶長の人。京にあつて多くの門下を養成し、新刀鍛冶の祖として古正宗と並稱せらる。

クニミツ(粟田口國光)鎌倉の刀工。通稱新藤五、二代國光にて粟田口國綱の子。正和元年歿。三代國光も亦名工である。粟田口の刀工。則國の子時代は建長頃。越中宇多の刀工。文保頃の人。四山城の刀工。來國俊の子。正慶四年七十二にして歿。因但馬の刀工。貞治頃の人。

クニヤス(國安)山城粟田口の刀工。彌九郎國家の子。一門中の名工で、兄弟並びて後鳥羽院の御番鍛冶であつて、御劍吹毛劍もその作である。越前の刀工。貞和頃の人。山城來國安の門人。越前來といふ。寛永頃の刀工。細川國廣の弟。

クニユクネ

クニユキ(國行)山城の刀工。正元頃の人。來國吉の子。名工である。大和當摩の刀工。

クニヨシ(國吉)山城粟田口の刀工。藤右馬允則國の子。左兵衛尉藤原國吉といふ。一門中の名工である。文永四年五十八歳にて歿。肥後の刀工。元徳頃の人。延壽國村の子。一門中の名手であつた。

クニヨリ(粟田口國頼)京粟田口の刀工。康治頃の人。粟田口刀匠の祖と稱せられた。

クヌギ(桐)【植】殼斗科の林野自生の落葉喬木。幹高さ數十尺に達し、葉は長橢圓形披針状をなし、側脈著しくして縁邊に鋸齒を有し、稍栗の葉に似てゐる。春日黄褐色の穗状花を擧げする。果實は球状、材は頗る堅く薪炭の料に供する。



【母年九】

クノウクハラ

蜜柑よりも果皮香氣高く、厚くして平滑でない、食用となる。

クノウザン(久能山)【地】靜岡縣(駿河)安倍郡の海岸にある丘陵。又有度山ともいふ。靜岡を距る二里二十七町。山上に東照宮がある。別格官幣社で徳川家康を祀る。元和二年家廟の薨じた時、此處に葬り墓前に廟社を建つ。三年十二月社殿落成、同年二月權現號を賜ひ、後遺骸を日光山に移した。然れど徳川家の廟は舊の如く正保二年宮號宣下ありて東照宮と稱した。社殿、壯麗精美を極めてゐる。

クバー(Cooper)【文】アメリカの小説家。同國の小説界に傳奇小説の新體を開く。非常に健筆で、英國の「スコット」と比して遜色がない。本國よりも歐洲諸國特に佛國に名聲博かつた。一八五一年歿。

クバエキ(秋波驛)【地】廣島縣(安藝)佐伯郡にある。廣島市西方約八里。山陽線鐵道驛。

クハラフサノスケ(久原房之助)【實】東京の人。夙に實業に従事し、嶺山業者としては、實に斯業界の双壁である。久原鐵業會社、久原商會社の社長である。

クビカ(具備花)【植】雄雌兩莖を一花中に備へた花である。

クビカセ(首枷・盤枷)刑具の名。主に支那で用ひられる。木製で頸に施すもので、罪の輕重によつて重量に差がある。

クビサガリビヨウ(首下り病)【醫】原因は詳でないが、牛・馬等の厩屋に接近して住む人に多い。發作性に視力減退・眼眩下垂・項筋不全麻痺がある患者は項筋の力が減弱するので頭部が下に垂れる。難治症であるが沃度加里・亞硫酸等の内服効がある。我國では東北地方に多い。

クビツケン(首實験)戰爭中に獲た敵の首を主將に示すこと。戰國時代中の一大故實として嚴格なる式を行つたものである。首を清め整へ、白木のそば打敷に載せ、著具裝束凡て戰場の作法に依つて行ふ。首の主の資格によつて種々次第を異にする。

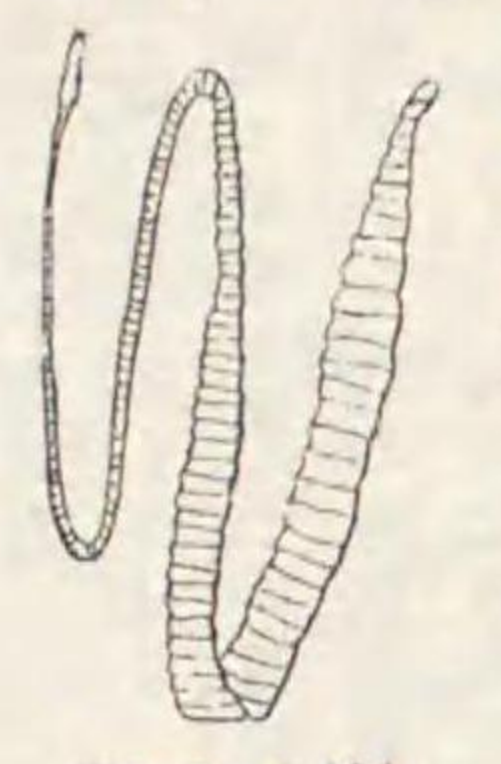
クヒカクシ

首輪は高さ一尺三寸、口徑八寸の曲物のかよせ蓋である。

クビジンツウ(虞美人草)【植】ヒナゲシの條を見よ。

クビナゲ(首投)【角】相撲四十八手の一。スモウシジユウハツラの條を見よ。

クビブトサナダ(頸太織蟲)【動】織蟲目に屬してゐる。猫腸に多く生ずるもので、その幼蟲は鼠の肝臓にある。



【蟲織太頸】

クビライ(忽必烈)【Khulija】【歴】元、憲宗の弟。皇紀千九百二十年大洋の位に昇る。之を世祖と云ふ。宋を滅ぼし、高麗を降し、更に我九州を襲つたが成らなかつたので、更に緬甸・交趾・占城を降し、南洋諸島をも服した。是に於て、東歐及び「アジャ」の大部分は、皆その版圖となる。同千九百五十四年歿。

クフウ(颶風)低氣壓急に生じて、その四周の高氣壓部より、氣流集中する爲猛烈に螺旋狀に進む風を云ふ。(カゼ)の條参照。

クフウガ

【畫】臨本に依らず

クフククホタ

【畫】臨本に依らず

グフクジ(弘福寺)【地】奈良縣(大和)高市郡にある眞言宗の寺。川原寺といふ。齊明天皇の建立でその皇居の地であつた。

クブンデン(口分田)大化の新政に班田收授の法を設け、人毎に一定して給與された田畑である。

クヘイウロクメンタイ(短平行六面體)【數】その底が矩形な直平行六面體をいふ。

クヘントウ(苦扁桃)【植】ヘントウの條を見よ。

クヘントウユ(苦扁桃油)【C<sub>10</sub>H<sub>16</sub>CHO】【化】苦扁桃中に存する「ヘンザアルデヒド」の俗名。芳香を持つてゐる無色油状液で、醫藥・香料及び色素製造の原料として用ひられる。

グホウジ(弘法寺)【地】千葉縣(下總)東葛飾郡市川町大字眞間村にある日蓮宗の寺。四十四本山の一で眞間寺。眞間法華堂とも云ひ、弘法大師空海の舊蹟で眞言宗なりしが後建長年間日頂上人によりて日蓮宗となる。樓門二王尊は運慶の作と傳ふ。

クボタジヨウ(窪田城)【地】秋田縣(羽後)秋田市の東北丘陵に在りし城。慶

長年間佐竹義宣常陸より移りて築きしもの。明治四年廢城し、本丸は公園となり千歳岡といふ。

クボタニズル(久保田讓)【政】政治家。明治四年慶應義塾に入學し。五年以後文部省に奉職すること多年。遂に次官に上り、二十六年辭職、尋で貴族院議員に勅選せられ、三十六年菊池氏に代り桂内閣の文部大臣に任せられ三十八年辭任した。四十年男爵を授けられた。

クボン(Outpost)新聞雜誌の廣告にその一隅を劃して「この券を切抜き御送附の方には何々の割引をなす」類の文句を刷込んだもの。

クボンジ(九品寺)【地】京都府(丹波)船井郡摩氣村大字船坂にある眞言宗の古寺。弘仁元年弘法大師の開創と傳ふ。永保中六坊伽藍を創立せしが後火災に罹り焼亡し只樓門丈猶修造して今日迄残存し特別保護建築物となつてゐる。【京都市(山城)紀伊郡東九條村に在る淨土宗の古寺。法然上人の弟子覺明氏に住し、一流の念佛義を唱へ九品派と云つた。今はない。

クマ(熊)【動】食肉目に屬する大形のクマタケマ 七一



クマ

動物。指趾各五ある。全蹠地を踏む。その尾は短くて、難食する。よく物を握み又樹木に昇り得。深山に棲み。冬季は洞穴に冬眠する。多く肉食せず。木の實を常食とする。我本州に産するは普通餘り大きくなく、毛色純黒唯喉下に月の輪と云ふ新月形の白毛ある。アカクマ、熊は北海道に産し、體形大で力最も強い。シロクマは北極熊ともいひ千島地方より北極地方に産する。皮は敷物となり。肉は食用となり、掌は特に美味で膽は健胃剤として重用せられる。



熊

クマ(限) すみ。かげになつてくら所、又色と色と、或は光と影との相接する所をいふ。【演】熊鷹紛に類し、熊鷹を移る種々の熊。クマヤリ

クマカ

ともいふ。紅限、藍限、墨限等ある。クマガイソウ(熊谷草) 【植】蘭花に屬する草本。葉は大で潤い。花を着けることが少く、唇瓣大で膨脹し頗奇形である。山麓、竹林に生じて初夏に花を結ぶ。



草 熊

クマガイマチ(熊谷町) 【地】埼玉縣(武蔵)大里郡の町。浦和の西北十里。人口二二、二八二。中仙道街道驛の一。信越線の分岐高崎線の鐵道驛。上武鐵道はこゝに起り西方秩父に至る。上武交通の要路に當り市況盛んにして米穀、布帛、繭の取引多く行はる。中學校、農學校、高等女學校、原蠶種製造所、測候所がある。町の南熊谷堤は櫻花を以て知らる。町の北方熊谷寺は熊谷蓮生坊の後年草庵を結びし地なりと傳ふ。寺内にその墓がある。クマガイナオザネ(熊谷直實) 【歴】源頼朝の臣にして次郎といふ。武蔵の人。一の谷の戦に平敦盛を得て勇名を顯せしが、後無常を感じて源空に學び僧となり後生と號した。承元三年歿。

クマカークマサ

クマガワ(球磨川) 【地】熊本縣(肥後)國の南部に在る巨川で水源が二ある。一は球磨郡の北境片尾山に發して一は八代郡の東隅樺木村に出で、川村に至り二水相合し、遂に海に注ぐ。流程二十五里。日本三急流の一と稱せられてゐる。

クマガワムネオ(隈川宗雄) 【學】醫學博士。舊三河重原藩士。明治八年東京大學醫學部に入學、十五年卒業。十七年、ベルリンに留學、二十三年歸朝、東京駒込病院院長となる。二十四年以來東京大學教授であつた。クマゲラ(熊鷹木) 【動】啄木鳥の一。我國では北海道のみに産する。體形鳩よりも大で黒色。雄は頭上と後頸、雌は後頸のみ紅色である。クマサカ(熊坂) 【能】曲名。東國の僧赤坂の松陰に宿り、熊坂の亡靈に遇ひ、牛若に討たれたる物語を聞くことを作る。クマサカチヨウハン(熊坂長範) 【歴】平安朝末期の強賊。一に張契に作る。承安年中陸奥の豪商金賣吉次、牛若丸を伴ひ歸國せんとし美濃國鏡の宿に泊りたる時、押入り遂に牛若丸の爲に討たれた。

クマサークマセ

クマサークマセ 七二二 和國吉野郡の中央の山上嶽に發して南流して十津といひ、熊野浦に注ぐ。長さ三十五里ある。クマノジンジャ(熊野神社) 【地】島根縣(出雲)八東郡熊野村大字宮下に在る國幣中社。祭日十月十四日。(クマノ參照) 【山梨縣(甲斐)東八代郡北八代村にある社。祭神家津御子神。創立未詳なれど鳥羽、白河の朝と傳へられる。祭は三月。クマノタイラエキ(熊の平驛) 【地】群馬縣(上野)碓氷郡碓氷峠山中一小邑。信越本線鐵道驛。満山楓樹、輕井澤驛迄秋色美事である。霧積温泉へ三里。クマノナダ(熊野灘) 【地】和歌山縣野地方(クマノ參照)に沿へる海面。古來風浪高く、舟人の大に恐れる所である。蓋し東南洋上から暴風を受けるときは波浪、潮流と混じて海岸に向つて高浪を起し船舶これが爲めに陸岸に向つて押流され遂に針路を誤る。古來此處に難破沈没せる船舶甚だ多い。クマノニマスジンジャ(熊野座神社) 【地】和歌山縣(紀伊)東牟婁郡本宮村にある國幣中社。祭神家津御子神。祭日四月十五日。同郡新宮村なる熊野速王神社を世に熊野新宮といふに對

に屬する。葉に白色の縁ある故に、クマザサと云ひ、その白縁は恰も刀鋸の焼刃に似てゐるので、ヤキバザサとも云ふ。山野に自生する。クマザワバンザン(熊澤菴山) 【學】名は伯繼、通稱は了介、番山はその號、京都の人。中江藤樹の學風を慕つて、入門し、王陽明學を受けた。備前侯池田光政に聘せられて、歳三千石を賜はつた。貧民救助、教育奨励、土木修治等治績頗る多い。元祿四年七十三で歿した。著書數十種ある。クマシデ【植】樺木科の山地に自生する落葉喬木。高さ十尺に及ぶ。葉は長橢圓形若くは長卵形で先端尖り縁邊に鋭鋸齒を有する。春日白色花を雌雄同株に生じて穗状をなすことイヌシデに同じ。花後小堅果を結ぶ。材質硬く、薪材に適し或は農具の柄又椎蕈育生の用材とす。クマゼミ(蚌蟬) 【動】有物類中蟬科の昆蟲。我國の蟬類中大形なるもので體長一寸五分。頭胸兩部黒色、腹部黒褐、翅は透明その脈綠色又脈色也。



蟬

クマツ(熊鷹) 【歴】上古、喙の國、即ち日向大隅及び薩摩の地に在つた種族。性強悍、朝命を奉じないで、爲めに七百年代景行天皇及び日本武尊の征討を蒙り、後、神功皇后の征韓に及んで叛亂が自ら平いだ。

クマタカ(角鷹) 【動】猛禽類の一種。鷹に似たれど體甚だ大きく、後頭に冠羽が有る。翼及び脚は強大且つ脚には趾根に至る迄毛を生じ、性質甚だ猛く、狐・猿・兔の類をつかみ去る。



カタマク

クマタケラン【植】蓼科の支那原産の多年生草本。觀賞用として栽培する。その形ノウガに類し、高さ三四尺に至る。葉は長橢圓形で平行脈を有する。春日白色帯紅色の斑點を有する花を開く。花は不整齊花で、雄蕊は長き花絲を有する。クマツヅラ(馬鞭草) 【植】馬鞭草科の原野路傍に自生する多年生草本。高さ三尺に達する。多く枝を分ち、葉は

クマツークマツ

クマデ(熊手) 【武】鐵鈎數個を並列し長柄を着け敵を抓捕ふるに用ふ。【農】細き竹片の端を鈎状とし數個を扇狀に列べ長柄を着く竹熊手といふ。又兎熊手とて木杆に竹の齒を植えたものがある。【東京で西の市に賣るもの。竹熊手の柄の短かきものに種々の目出度品を飾り付けたる縁起物で、十一月大鳥神社の祭禮に賣る。

クマドリ(隈取) 【畫】彩色するに當り繪具を疊かすことを云ふ。【演】クマの條を見よ。クマドリアダカノマツ(隈取安宅松) 【演】長唄の舞踊。略して安宅ともいふ。鞍馬山僧正坊假に武藏坊辨慶となり、源義經奥州下向の案内として安宅の關前にて里の童子に扇を與へて新關の様子を問ひ、末に義經主従の安泰を守らんと誓ひ、僧正坊の姿を現はして去るといふ筋である。元來市村家の化身物である。クマドリフデ(隈取筆) 【畫】ぼかし筆ともいふ。稍大で手短く、毛先が揃

クマテークマト

クマノ(熊野) 【地】和歌山縣牟婁郡の一名。南北朝の頃熊野八庄司の名がある。地勢、後に山岳を負ひ山林に富み、南は太平洋に面し、漁獵の利がある。此地有名神佛あるから古來賽詣者甚だ多く、伊勢と熊野とは巡禮第一に位し往年屢々上皇、女院の行幸があつた。されば道路も文化も夙に開けた本宮、新宮、那智を熊野三山といふ。新宮、那智を中心とした熊野街道は東北伊勢に西北和歌山に通じ、北は十津川を経て吉野に通ず。山中杉、檜に富み木材は専ら熊野川によつて新宮に下し各地に輸送する。【石川縣(能登)羽咋郡の村、人口一、二五九。【富山縣(越中)上新川郡の村、人口二、六四三。【富山縣(越中)婦負郡の村、人口一、四〇一。【島根縣(出雲)八東郡の村。國幣中社熊野神社あり。素盞鳴尊を祀り、古來杵築と相並びて出雲の兩大社といふ。人口一、五八三。【廣島縣(備後)沼隈郡の村。人口三、三六二。【廣島縣(安藝)安藝郡の町。人口六、五六〇。

クマノガワ(熊野川) 【地】一名新宮川といふ。和歌山縣(紀伊)東牟婁郡、及び南牟婁郡との間を流れる。源を大

クマノ 七二三



クマモト

クマモト(久萬町) 【地】愛媛縣(伊豫)上浮穴郡に在る町。松山市の南方七里餘。人口二、一六五。

クマツリ(熊祭り) アイヌ人の儀式中最も盛んな祭。この熊祭りはアイヌ種族中で最も古くより行はれたる祭であるが、現時に於ては時代の變遷によつた結果、餘り行はれない。

クマモトケン(熊本縣) 【地】九州の中南部を占める縣。熊本縣本部を以て、鹿兒島縣と連絡し、別に三角



【城本熊】

クマモト(熊本) (肥後) 市に熊本、古長、年中、加藤、清正、の築の築の所、日本一の堅城と唱ふ。明治十年の役谷少將龍城して薩軍の東上を阻止せるは史上有名である。

管し北・東・南の三境は福岡・大分・宮崎・鹿兒島の四縣に接し、西は有明海八代海及び天草灘に面す。面積四八四方里、人口一、二二三、一九九。行政上熊本府及び阿蘇、宇土、玉名、鹿本、菊池、阿蘇、上益城、下益城、八代、華北、球磨、天草の十二郡に分たれてある。地勢は本陸部と島嶼部とに分たれ本陸部は略々長方形をなし、南北三十里に及べど東西は其半に過ぎない。東境には九州南部山脈連り、内大

クマモ

で上島・下島の二大島及び大矢野島・本郷島・牧島・下須島より成り山嶽性にして平地極めて乏しく、倉岳・老岳等が最も高い。海岸線は稍々發達すれど、大船碇泊に適する所がない。温泉の主なるは山鹿、朽木、湯山、日奈久、林等。産業は南部大半の地味は硯

クミアイ(組合) 【法】組合契約の各當事者、契約に従つて出資して、共同事業を営む義務を負ひ、業務を執行し、配當を受ける権利を有し、法律を以て定められてある。

クマモ

線宇土より三角港に通ずる。又宮地輕便鐵道線は熊本より宮地迄通じてゐる。海運は有明海沿岸に長洲・百貫名・三角及び八代海沿岸に佐敷・水俣天草諸島に富岡・本渡・牛深の諸港がある。



クミアイ(組合) 【法】組合契約の各當事者、契約に従つて出資して、共同事業を営む義務を負ひ、業務を執行し、配當を受ける権利を有し、法律を以て定められてある。

クミアイ(組合) 【法】二人以上の當事者出資し、共同の事業を営むこと。其各當事者を組合員と云ふ。法人の資格ないのは會社に異なる所とする。

クミアイ(組合) 【法】二人以上の當事者出資し、共同の事業を営むこと。其各當事者を組合員と云ふ。法人の資格ないのは會社に異なる所とする。











クラシックラス

十七八世紀の佛國を中心とした歐洲文藝、ギリシヤ、ローマの古文學の風格に則り作れる一種の體式に名くる。建築に於ては伊太利人「ピラネジ」、ミケランゼロ、シモネツチー、英人「ケント」、「チャンバース」等、佛では「セルヴァードニー」、繪畫に於ては「フイエン」、「ダビード」、「マドラン」等がある。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

グラーズ

佛國の畫家、風俗畫肖像畫をよくし。「ダビード」に對し、僞に一家をなした西紀一八〇五歿。

グラスゴウ

スコットランドの最大都府。クライド、河岸「エデンバラ」の西南四三哩。人口八十萬餘。商工業の中心で、鐵器、汽織、化學工業品の製造工業、就中造船業最も盛んである。

グラスゴウダイガク

一大學。「イギリス」國「スコットランド」の「グラスゴウ」市にある大學。「エデンバラ」大學と共に有数の大學である。一四五年創立。中世紀時代の遺風を今も

グラーズ

佛國の畫家、風俗畫肖像畫をよくし。「ダビード」に對し、僞に一家をなした西紀一八〇五歿。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

二千圖書の蔵書二十一萬卷。附屬の天文臺、博物館、植物園等がある。クラスノヤルスク(Krasnoyarsk)【地】「アジア」州「シベリヤ」の「イェニセイ」川の首府。「イェニセイ」河の上流に臨み「シベリヤ」鐵道に沿ふ。各種の學校、博物館、圖書館等がある。煉瓦・石鹼・鞣皮の製造、茶の取引行はれる。此市は一六二八年に創立された。人口凡そ三萬三千。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

グラーズ

佛國の畫家、風俗畫肖像畫をよくし。「ダビード」に對し、僞に一家をなした西紀一八〇五歿。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

だが未だ成功を見ない。グラーツ(Graz)【地】「オーストリア」國の東南にあり、スチリア地方の首府。この國の首府「ウィーン」から西南鐵路一四一哩に位す。製鐵業は「レール」車輪、鐵器、器械、皮革紙等の製造行はれ、又各種の學校があつて教育並に出版業の中心である。グラーツカス(Tiberius Sempronius Gracchus)【歴】古代「ローマ」の有名な一族。西紀前二一五年執政官となり、第二「ピエタ」ニク「戦」にも參與した。西紀前一八一年「スペイン」太守となり、反徒を鎮めた同一七七年執政官に擧げられた。前者の子、同名「ガイウス」と共に有名なり。兄は西紀前一三三年弟は同一二三年共に護民官に選ばれ、大に貴族階級の專横を制し、貧中階級の爲に盡せるも共に敵手に斃れた。(兄、前一三三年歿。弟同一二一年歿)

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

グラーズ

佛國の畫家、風俗畫肖像畫をよくし。「ダビード」に對し、僞に一家をなした西紀一八〇五歿。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

敗れ西紀前五三年、廢殺せられた。クラツシヤ(廢碎機) アツサイキの條を見よ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

グラーズ

佛國の畫家、風俗畫肖像畫をよくし。「ダビード」に對し、僞に一家をなした西紀一八〇五歿。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。

クラシック

藝上の作品が一つの權威として永久性を持つに至つたものをいふ。



クラホークラマ

みにこゆれどしるくもあるかな(紀貫之)。クラホウシ(織法師) 足利時代に米庫のこを預つたもの。クラブギョウの條を見よ。徳川時代に倉庫に他人の荷物を預り、若干の倉敷料を取つて保管したもの。昔は剃髪したものをこれに當てたのから始まつたのであると。維新前本所・深川の川邊にまだ一戸の家を設けて住まはせてあつた。

クラマイ(蔵米・廩米) 徳川幕府の時、淺草米廩その他幕府の米庫に貯蔵せる米の通稱。旗下諸士その他幕府の職員等に給する俸米・扶持米等はみなこれを以て支給したのである。給米は玄米で、之を受けたものは札差といふ市人に託して金に代へたのである。

ラマエフウ(蔵前風) 【國】昔江戸時代の淺草蔵前の札差の風。安永年中この仲間に十八大通といふものがあつて互に豪者を競ひ遊樂を極め一種の風俗をしたのでこの稱が始まつたのである。クラマゴケ(翠雲草) 【植】卷柏科の山地陰濕の地に生ずる繊弱なる草本。葉は短葉をなして地に臥し、所々に

クラマークラム

細い根を生じ、鱗片状の小葉を有する。子葉を生ずる部分は稍々方形で大小二種の胞子を生ずる。クラマデラ(鞍馬寺) 【地】京都府(山城)愛宕郡鞍馬山の中腹にある。天台宗の寺。松尾山と號す。延暦十六年藤原伊勢人の創設。僧鑑眞の開基で、本尊毘沙門天を安置する。延喜年間東寺の僧隆延の中興。中古朝家の崇敬深く、寺門隆盛を極む。大治以來屢焼け、觀音堂を存するのみ、本堂の西二町空也上人の舊跡がある。

クラマヤマ(鞍馬山) 【地】京都府(山城)愛宕郡。丹波の國境に在る山。京都市の北約三里。昔源義経幼時武を練りし地として有名で、後その僧正ヶ谷には天狗に剣法を學びたりと傳ふる古蹟がある。鞍馬寺は其半腹にある。古名關部山。クラマリユウ(鞍馬流) 【劍】劍道の一。流。將監鞍馬流、小天狗鞍馬流ともいふ。大野將監を流祖とする、九郎判官源義経の傳であるといふ。クラマワリ(藏廻) 【國】古物を賣買する賤商のこと。室町幕府時代からあつた、七十一番歌合にこの名が見えてゐる。グラム(元) 【Gram】 一立方厘米の蒸氣

グラム

水の攝氏四度に於ける質量をいふ。液量器に「グラム」の目盛りをしたものは、其容積の水の目方を指示したものである。(ドリョウウウの條参照) グラムカロリー(Gramme Calorie) 【物】小「カロリー」とも云ふ。カロリーの條を見よ。グラムカン(一環) (Gramme ring) 【物】輪狀軟鐵板を數多合せて心となし、これに導線を巻いて數多の「ワイル」を形成し、各「ワイル」の兩端を中央の軸の周にあつて個々絶縁された金屬片に連結したもので、「グラム」氏の「ダイナモ」の要部をなして、磁極間に回轉して電氣を生ずる本源である。

グラムブレンシ(瓦分子) 【化】物質の一分子量を瓦を單位として表はしたものの例へば酸素の三十二、炭酸瓦斯の四十四瓦は各其一瓦分子であるといふが如くである、氣體は其種を問はず、一瓦分子の容積皆一定で二・二四立である。グラムホウ(一法) 【醫】細菌の識別法。一旦染色せる細菌の「ヨード」液に遇ふて脱出する否とによりて二種に區別する法である。初め標本を「ブレンシ」

クラモークラヨ

リン「水」・ゲンチアナ、グイオレット」液に浸すこと一分間の後、無水「アルコール」にて二分時間洗滌すれば、脱色せざる細菌は暗黒紫色を呈し、又脱色する細菌は全然紫色を止めない。「ピスマルク」・「ブラウン」或ば「フクシン」を用ひ復染色法を以て鑑識に便にする。グラモン(Antoine Alfred Agener Gramon) 【政】佛國の政治家。「ローマ」・「ウキenna」に駐在大使となり、西紀一八七〇年外務卿となる。常に「プロシヤ」に悪感を抱き、普佛國交破裂の機を早からしめたと云はれてある。西紀一八八〇年歿。

クラヤシキ(蔵屋敷) 徳川幕府のとき幕府及び諸侯がその領地から輸送して來た玄米を入れておく庫のある所で、士人の給料又は拂下米等をするは多く此處で取扱つたのである、諸侯の庫は便宜上大阪と江戸深川とに置いた。クラヨシマチ(倉吉町) 【地】鳥取縣(伯耆)東伯郡の首都。鳥取市の西方十三里の備中街道の要驛で山陰線鐵道驛があり生絲・倉吉飛白を産する。警察署・裁判所・稅務署・農學校等あり。維新前田田氏の被殺地であつた。

た。人口一、五一八。クララ(苦參) 【植】豆科の山野自生の多年生草本。一名クサエンジユ。高さ三四尺、葉は羽狀複葉橢圓形で互生す。六月頃淡黄色の花を開く。この葉の煎汁は害蟲の驅除に用ひらる。クラリオン(Clarian) 大ラツパの一種にも用ひる。クラリネット(Clarnet) 【音】西洋豎笛の一種で非常に高い音が出る。クラリヨウ(内藏寮) 昔中務省に屬して、皇室の御用物ををさめるのを掌る役所。現今、宮内省に屬してゐる。クラレンスガワ(Clarence河) 【地】オーストラリヤの東部にある河。源を「マクフアーソン」山脈に發し「ニュー・サウスウエールズ」州の「シヨール」灣に注ぐ長さ九十五里、河口から三十七里の上流まで舟運の便がある。クラワタシ(倉渡) 【商】普通倉庫又は保税倉庫に於ける貨物の引渡。倉庫渡ともいふ、單に引渡の義にのみ用ふる。この外賣買取引上商業上の成語として代價を表はす一意味となる。克蘭ウイール(George Leveson-Gower, Earl of Granville) 【政】英國自由黨政治家。西紀一八三六年下院議員とな

ら。伯爵家を襲ぎ上院に列した。同六年「グラッドストーン」内閣に殖民省長官となり、後外相の任にありし事前後二回一十一年間、西紀一八九一年歿。克蘭ク(曲柄) (Crank) 【機】動力傳達の目的で回轉軸を回し、或はこれで回される柄「克蘭ク」に附屬して「克蘭クシャフト」・「克蘭クアーム」・「克蘭クピン」がある。克蘭チヤイ(Gran Chaco) 【地】南「アメリカ」洲の南部にある疎林草地「アルゼンチン」・「ボリウヰヤ」・「パラグワイ」の三國に亘る。アラタラ河の上流「ベルコマヨ」河の流域を占め、南回歸線その中央を貫いてゐる、廣漠たる草地で、處々に樹木が生育してゐる。氣候は炎暑で多雨、人煙極めて稀である。グラント(Ulyses Simpson Grant) 【政】「アメリカ」合衆國第十八代の大統領。夙に軍隊に入り、南北戦争始まるや、北軍に従ひ、その總指揮官となり、頻に南軍を破り、その將「リー」を降した。戦後名譽大に高く、西紀一八六八年大統領に選舉せられ、一八七二年重任した。任終るや世界各地を巡歴し、明治十二年我國にも來たことが

ある。一八八五年歿。グランビヤサンニヤク(Granbian 山脈) 【地】イギリス「スコットランド」の中部にある山脈。東北から西南に走り、平均高度六百米から九百米の間であり、西海岸に近き「ベン、ネグイス」は脈中の最高峯で「一三四三米」ある。克蘭プソルエロー(Cranpsall yellow) 【染】染料の一種。酸性媒染染料で黄色の粉末である、毛を黄色に染める時用ふ。克蘭マー(Thomas Cranmer) 【宗】英國の宗教家。「ハンリー」八世の朝、「カンタベリー」大僧正であつた。王の歿後その遺命により、嗣子「エドワード」六世を輔佐し、英國宗教の儀式典禮を改正し全國に普及した。一五五三年に歿し、その姉「マリア」即位するに及び法敵として火刑に處せられた。グリ(庫裡) 寺の臺所のことをいふ。クリ(栗) 【植】殼斗科の木本。葉は長橢圓形をして花は單性で雌雄同株である、堅果を結び、總苞によつて被包される、その種子を食用にする、味は甘味である。栗には品種が多い。即ち丹波栗・中栗・栗栗三度栗・ハコ栗。

シダレ栗等である。又調理法にも種々ある。栗栗・温栗・煮栗栗・埋栗・栗羊羹・栗飯・栗の剛飯・搗栗・栗の金團栗の合せ煮・栗青和へ・押栗煎餅・クリノクク等種々ある。その中二三を擧ぐれば。クリキントン 搗栗一升を微温湯に入れ少し燻で、その澁皮を去り、これを煮立つた湯の中に入れ暫時煮てその湯を切りてこれに熱湯を加へ、これを繰り返へすと三回程の後、弱火で煮るときは栗は柔となる故に湯を切りてこれに四百匁の砂糖と盃一杯の食鹽とを加へ弱火で煮、その中半分をその儘に置き、残り半分を摺鉢で摺り潰ふして餡の様にし、右の丸粒の物と共にあへるのである。但し搗栗を用ひざるときは右の如き手数は少なくたゞ栗の皮の儘湯煮してこれを剥ぎ更に水少し入れ鹽と砂糖とを混じて造る。又甘露を裏漙して衣となし加ふことがある。クリヤウカン 栗粉三百目、砂糖二百五十匁、寒天一本の割で製する。先づ栗の皮を剥き煮潰し、裏漙にかけ、木綿の袋に入れて搾り砂糖寒天を煮て粉を漙込こと羊羹と同じであるが搗栗を用ふるときは前夜より水に浸

クララークク

克蘭

克蘭ークリ

クリ



クリ

しおき、澱皮を去り煤で摺り潰して製す。

クリアケメ 栗を柔かに煮て、栗一斗につき味醂の煮切り二合五勺と鹽並一杯とを合せたる汁を加へ、火に掛け栗の透明體の如くなりたるとき、大皿に移し置きて後皿に盛るのである。

クリ【能】 露の節。調子を一段高く上げて更にゆり上る節をいふ。下掛りではシホリといふ。

クリ(苦力) 植民地などで勞力を賣つて出稼する人。多くは支那労働者にいふ。

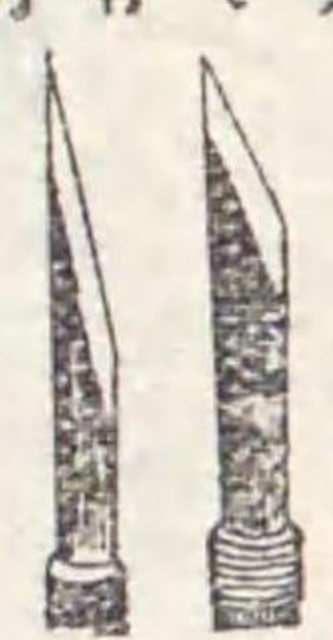
クリ(屈輪) 【彫】 彫繪漆器の一種。一種以上の色漆で數層の厚き上漆をなし、後彫刻を施して内部の色漆を様々に現はせるもの。

クリアミルイ(線網類) 【漁】 漁業に使用する網具分類上の古い名稱。今は引網類の中に加へてこの名は無い。漁船を錨で留めて繰り上げる網の類のこと。

クリアマリアシトウ【Kuria Murata 諸島】 【地】 アラビヤ海にある諸島。「イギリス」國に屬す、五島から成り、面積約五万里、島嶼の産品名高く、西暦一八五四年にイギリスの海軍に併合された。

クリガ(栗毛) 【鬣】 馬の毛色の名。鬣及び尾は赤褐色で地色の淡きものをいふ。數種に別け地色稍黄色なるを白栗毛、淡赤色の光澤あるを赤栗毛、赤栗毛の如くで鬣稍淡きものを紅梅栗毛、暗赤色で鬣實の如きものを桜栗毛、最も黒きものを黒栗毛、鬣と尾の白いものを尾花栗毛といふ。

クリコガタナ(刺小刀) 【工】 長い切刃を有して、先端鋭く尖つて木製の柄を有してある小刀。欄間の透彫等をする時、その輪廓の屈曲した部分を削り浚ふに用ひる。



クリコゲン【Glycogen(C<sub>6</sub>H<sub>10</sub>O<sub>5</sub>)<sub>n</sub>】 【化】 動物澱粉とも稱する。肝臓に殊に多く、筋肉白血球にも少量存在する。軟體動物はこれに富んで居る。白色無味の粉狀物で、水に溶けて乳光性液を作り「アルコール」で沈澱する。澱粉と異なつて沃素に逢つて赤褐色を呈する。「デアスターゼ」によつて糊精・麥芽糖・葡萄糖に變じ、稀酸によつて遂に葡萄糖に變ずる。動物の消化吸収した糖質の一部は「グリコゲ

クリケークリコ

クリーケークリ

電線中継所である、今「アデン」の管下にある。

クリーアランス(筒隙) 【Clearance】 【機】 蒸氣機關に於て嚮子の最極端部に在る時嚮子の面と瓣の面との間に存する間隙の容積をいふ。又線筒隙とは嚮子面と筒蓋間の間隔で、鑄物の不整、その他接合部摩滅より生ずる餘裕をいひ、十六分の三乃至二分の一である。

クリアン(栗餡) 【食】 餡の一種。さらめ糖・水飴・白小豆・澱粉を火に掛けよく攪拌し出来上らんとするとき蜜漬の栗を入れ板上にて冷却するのである。

クリイシ(栗石) 【土】 徑五寸内外の丸石又は粗石の稱。龍蛇の塊石・裏込石・及び貯石等に用ひる。

クリヴランド(Stephen Grover Cleveland) 【歴】 北米合衆國第二十二代並に第二十四代の大統領。十七歳で父を喪ひ、獨力を以て辯護士となり、一八八一年「バッファロー」市知事に選舉せられ、次に「ニューヨーク」知事に擧げられ、一八八四年大多數を以て大統領に當選した。一八九二年再選せられた。内務外交上の功勞多大、特に合衆國の外交は「クリヴランド」の

クリンと成つて肝臓中に貯藏される。し。食物を缺けは速に排泄される。グリコル【Glycol】 NH<sub>2</sub> CH<sub>2</sub> COOH 【化】 膠を稀硫酸と共に煮て得らる。甘き結晶體である。「グリシン」ともいふ。水に甚だ溶け易い。化學構造はアミド酸で主に「クロル」酸に「アンモニヤ」を働かして製する。この化合物と見做される。「グリコル」酸の「ナトリウム」鹽は膽汁中に、馬尿酸は馬尿その他草食獸の尿中に存在する。クリコシン(線越金) 【商】 會計年度に於て後期に繰越す殘餘金。會社の後期繰越金及び會計法の定期繰越金は主なるものである。前者は會社の組織に於て半期決算にて純益中より普通積立金・配當・賞與等を控除したる殘金を後期に繰越すをいひ、後者は各省大臣が或年度に於て豫算定額に餘を生したる時、それを國庫に返納せずして翌年度に繰越し、同一費途に充つるものをいふ。

クリコヤマ(栗駒山) 【地】 陸前・陸中・羽後境界に聳立する山。高さ約五四〇〇尺。齋整せる圓錐形で舊噴火口あり、山間山麓に新鶴・駒湯・酢川等の温泉多く別稱。酢川・駒湯・駒ヶ嶽といふ。

クリコ

クリーケークリ

時より積極的活動を見るに至つた。

クリーヴランド【Cleveland】 【地】 米國「オハイオ」州の最大都府。「イリノイ」湖の南岸「シカゴ」の東約三五〇哩。各種學校の設備整ひ、鐵器・石油・木材業盛で、鐵礦の取引多く、街路樹に楡・櫟多く森林市の別名がある。英國「ヨーク」州の東北地方。鐵礦の産出多く製鐵業盛である。

クリオゲンセンリヨウ【Cryogenolite】 【染料】 【染】 獨逸馬獅子染料會社製造に係る硫化染料。木綿を染めるに用ひられる。

クリカエバライ(線替拂) 【商】 甲の支出に充つ可き現金を、一時乙の支出に線替支拂をいふ。

クリガタ(栗形) 【刀】 脇差の鞘の鐔口に近く着けたる半圓形のもの。孔あり下格を貫く。金屬又は角にて造る。形實に似てゐるので此名がある。

クリガタ(線形) 英語「モルチン」の譯語。裝飾に用ふ。蛇腹の額縁等はその例である。泰西建築上には非常に發達し、裝飾の主要素をなせど、吾國ではその發達を見るべきものがない。禮宗の須彌欄等に用ひられる。手法甚だ拙劣である。クリカラトウ(クリカラトウ) 【地】 富山

グリコル【Glycol】 【化】 エチレン「グリコール」(Ethyleneglycol, CH<sub>2</sub>OH, CH<sub>2</sub>OH) のことを單に「グリコール」と稱する。無色の稍粘稠性ある甘き液體で、水酒精とは好く混和する。臭化「エチレン」を稀薄な「アルカリ」液(炭酸加里の水溶液最良)と共に煮て製する。二價「アルコール」類を「グリコール」と稱する一般式 R(OH)<sub>2</sub> (R は二價の炭水基) で表される。性質「エチレングリコール」に類似す。「オレフィン」に臭素を加へて臭化「オレフィン」(RBr<sub>2</sub>) を作り「アルコール」液と共に煮て製する。「アルカリ」液と共に煮て製する。クリサキリニウ(栗崎流) 【醫】 南蠻流外科の一派。栗崎道喜その祖である。天正二年九歳にて番船に乗じ、呂宋に入り、十四歳より外療に志し學ぶ事八年、金創の術に長じ、三十歳にて歸朝し長崎に宅地を賜はり、長崎奉行所員及び外國人の治療に従事す。慶長四年歿時に八十四歳。子道有、孫正羽に術を傳へ正羽に到り、幕府醫官に擧げられた。後御番外科となるその子正堅又襲職した。斯くして長崎と江戸にありて遂に南蠻流外科の一派をなした。

クリコトクリサ

クリク

山縣(越中)西礪波郡の中央西境に位し、北磐谷村大字石阪の西方に聳えてゐる。源義仲が平維盛を破つた所である。今陸道を通し鐵道が敷かれた。

グリグナードエン【Grignard's Salt】 【化】 有機金屬化合物の一種。グリグナード化合物ともいふ。沃化「メチル」沃化「エチル」等「ハロゲン」化「アルキル」を「エーテル」に溶し置き「マグネシウム」金屬末を加へて得らる。無色の鹽で組成は「ハロゲン」化「マグネシウム」。「アルキル」(R) である。「アルキル」基が「マグネシウム」から分離して他と結合し易い性質があるので、有機化合物合成に應用が廣い。「フランス」で近時「グリグナード」が発見したのである。

グリクワランド【Griguanland】 【地】 アフリカ「洲」ケープ植民地の一地方。東西の二部に分る。西「グリクワランド」は「ケープ」植民地の一部で「オレンジ」河の北にあり「ヴァール」河に跨る。域内農牧業行はれ、又「キンバリー」を中心として金剛石の産が多い。人口約十萬、内白人四割を占む。東「グリクワランド」は「ケープ」植民地の東部でその東にあり。人口

製「ゴア」木。南木の「ゴア」樹の幹當中から折出す。黄色結晶性粉末。成分は純「クリサロビン」及其酸化主生體「クリソファン」酸である。皮膚藥として鱗癬・禿髮・疔疹・濕疹に實用される。グリリス(希臘) 【地】 キリシヤの條を見よ。

グリスタンジヨウヤク【Gristan Treaty】 【歴】 西紀一八一三年、露國と「ヘルシヤ」の間に締結せられし平和條約。西紀一七九五年以來兩國の間に兵戈結びて解けざりしが「ベルシヤ」軍途に最後の利を失ひ、「ゲオルギヤ」。「デルベンド」等の地を露國に割き、「カスピ」海に軍艦を浮ぶる權を與へ、これと和した。

クリスチアニア【Christiana】 【地】 ノルウェーの首府。「クリスチアニア」峽江の頭、高山峨々たる嶮崖に位して灣内を瞰下す。輸出の主なるものは、材木である。人口二十萬餘。

クリスチナ【Christina】 【歴】 スウェーデン「女王」。有名なる「グスタフアス・アドルフアス」王の皇女。西紀一六三二年父王が「リュッツェン」に戰殺せし後を承け女王となる。時に年七歳。宰相「オクセンシエルナ」善くこれを

クリーケークリス



クリス

幅、一六四八年「ウエストフアラ」條約に獨逸北部の敷地を占領するを得た。女王又學術を尊重し、佛伊諸國を旅行せしこともあつた。一六九九年歿。

クリスチヤン【Christian】**【歴】**第一世。西紀一四四八年運まれて「デンマルク」王となり、尋で「ノルウェー、スウェーデン」の王位を兼たりしが幾もなくして「スウェーデン」を逐はれ、同五九年「シュレスヴィヒ、ホルスタイン」侯國を繼承した。コッペンヘーゲン」大學の創設者。西紀一五五九歿。**【二世】**西紀一五二三年「デンマルク、ノルウェー」の王位を繼承。同二〇年「スウェーデン」王を兼たが「スウェーデン」獨立せる爲廢せられ、後又「デンマルク」人に追はれ、同三一年恢復を圖りしも生擒されて一五五九年獄裡に歿。**【三世】**瑞典國帝「チャールス」五世と兵を構へて大に「デンマルク」の利權を擴張した。宗教改革の實行せられたはこの時代である。一五五九年歿。**【四世】**「デンマルク」王。一五八八年王位に上り、後新教徒に推されてその同盟を統へ、獨逸と戦つたが遂に講和し、爾後内政の改良に苦心し、衆望を得た。一六〇九年の政治家。西紀一八八四年革命を

クリス

ウエ【首都】クリスチヤンの創設者。一六四八年歿。**【五世】**「デンマルク」ノルウェー」の王。クリスチヤン」法典を出版した。一六九九年歿。**【六世】**一八六三年王位を繼承した。同六四年「シュレスヴィヒ、ホルスタイン」を併さんとて「オーストリア、ドイツ諸邦」「プロシヤ」と交戦してその望を斷れた。一九〇六年歿。

クリステネス【Christenes】**【歴】**古代「ギリシヤ」「アテネ」の大政治家。西紀前五〇〇年「アテネ」の執政官に任せられ、全國の行政區劃を改定して、これを十州に分ち、各州より五十人の代議士を選出せしめ、五百人會議を開きて國政を議せしめ、「アテネ」民主政の基礎を確立した。**【クリスト(基督)】**キリストを見よ。**【クリストキョウ(基督教)】**キリストキョウを見よ。**【クリストフアー(St. Christopher)】**「シリア」の人。紀元第三世紀頃に出でたる「キリスト」教の著名なる殉教者として傳へらる。彼が熱烈なる信者なりし事實は種々の奇蹟によつて知られてゐる。**【クリスビー(Francoeur Crisp)】**「歴」伊國の政治家。西紀一八八四年革命を

クリス

謀りて成らず、英國に逃れ、同六〇年故國「シシリー」に「ガルバルジー」と共に歸り、伊太利統一を謀つた。同八七年以來首相たること二回。法王黨に反對して伊國を列強に伍せしめんと努め、獨及び奥國と三國同盟を結んだが、軍備擴張の爲財政難に陥り遂に第一回内閣倒れた。又同九六年「アビシニヤ」に於ける敗戦の爲第二回の内閣を辭した。一九〇一年歿。

クリスマス【Christmas】**【所】**基督、耶穌の誕生の紀念の祝日である。耶穌の誕生は紀元前四年二月某日であるが、紀元二三世紀の頃、假に定めた十二月廿五日といふ便宜的の時日が後世祝日として基督教を奉ずる國々に於て定められて了つた。基督教國に於ては我國の正月の如く休業安息して七日島の肉を食して此日を祝ふ。**【クリスマスカロル(Christmas Carol)】**「クリスマス」の時に歌ふ讚美歌。「デイクンヌス」の小説に有名な「クリスマスカロル」がある。**【クリスマスツリー(Christmas tree)】**「クリスマス」の夜、室内に常盤木を立てその梢に紅白のろうそくをつけ、なほ各所に小供に與へる人形、菓子などを用いたることである。

クリスークリー 七二六

クリスマストウ【Christmas Island】**【地】**印度洋中にある島。「ツヤツア」島の西南海上にある。今「イギリス」國に屬す。全島森林を以て掩はれてゐる。**【太平洋中北緯一度五十七分、西經百五十七度二十六分に位し「イギリス」に屬する小島、廣大な珊瑚環礁を有し良好の錨地である。】****【クリスマスプレゼント(Christmas present)】**「クリスマス」の當日祝意を表するための贈答。**【クリセリル(Glycerol) C<sub>3</sub>H<sub>8</sub>O<sub>3</sub>】**「グリセロール」はこの水酸化物と見ること出来る。**【グリセリン(Glycerine)】**「グリセロール」の俗名である。**【グリセロール(Glycerol) C<sub>3</sub>H<sub>8</sub>O<sub>3</sub>】**「グリセリン」ともいふ。脂肪酸より製取する無色粘稠の液で、甘味あり水に溶け易い。三價の「アルコール」である。**【クリソフエニン(Chrysothemine)】**「染」直接染料の一。木綿・絹・毛・麻等を鮮明な黄色に染め、需要は非常に多い。**【グリーンズ(Greens)】**「地」スウイス國の一州。國の東部「ライン」河流域の地を占め、面積四百六十二方里、首都「グレン」。

クリタヒロシ(栗田寛)【學】國學者。初名八十吉、後利三郎、水戸の油商雅文の子。豊田松岡に學び、藩校彰考館に入り、維新後弘道館訓導、大教院教部省出仕等を経て明治十七年元老院准奏任御用編、二十五年文科大學教授となり、三十二年歿した。從四位文學博士を賜はる。

クリツケツト【Cricket】**【遊】**戶外遊技の一。地上に球の受け棒を立て、リケット「用、バット」を以て球を打つて競技する。脛當を着け、打方用手袋を穿つ、球の散失を防ぐため、高さ六尺、長さ三間許りの網を張り置くのである。

クリツドアイアン【Cricket Iron】**【船】**滿潮の時には船體がその上に浮動され、干潮の時にはその上へ露出する丈の深さの木製枠架を裝置する臺。船體の検査をしたり、少計りの修繕をする時に用ひる。

クリート【Crate】**【天】**又は壁等に沿ひ電線を布設する時に用ふる電線押である。木・陶器・「エポナイト」等の絶縁體にて造られる。

クリニチ【Greenwich】**【地】**イングラ

クリタークリニ

クリノメーター【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノモト(栗之本) 滑稽體の連歌の

クリニークリノ



象鼻蟲科に屬する小形の甲蟲

クリノメーター【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリノメーター(傾斜儀)【Climometer】**【機】**地盤傾斜の度を測るために用ひる器械。「クリノメーター」ともいふ。二個の木片からなり、端を蝶番で結合し、一片を水平に保ち、一片を地盤に接觸させその兩端の間の角度は即ち地盤の傾斜を表はすものである。又地質學用の「クリノメーター」は普通の羅針盤に小さい下げ振りを加へたものである。

クリハシマチ(栗橋町)【地】埼玉縣(武蔵)北葛飾郡利根川の西岸にある町。大宮町を距る東北約七里、陸羽街道驛の一、東北本線鐵道驛、河魚を産するの有名である。人口三二三五。

クリハマムラ(久里濱村)【地】神奈川縣(相模)三浦郡東海岸の一漁村。浦賀町の西南約半里の所にある。嘉永六年米國水師提督「ペルリ」の浦賀に來た時、幕府「」に應接所を設けた。今「ペルリ」上陸紀念碑が建てられてゐる。

クリバヤシコウエン(栗林公園)【地】香川縣(讃岐)高松市の南郊栗林村にある。紫雲山の東麓に接し園外は田野で面積凡そ五萬坪、舊藩主松平氏の別墅たりしもの。林泉の美、敷石の奇海内に比ぶるものがない。今縣立物産陳列所が園内にある。

グリフェイス【William Eliot Griffin】**【教】**北米合衆國の僧侶で教育家。我國で「アメリカ」式の學校を編成するため一八七〇年聘して東京帝國大學の物理學の講師となつて四年傍ら故

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリハークリフ

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリミア【Crimea】**【地】**「ヨーロッパ」洲「ウクライナ」國南部の半島。黒海と「アゾフ」海との間なる「ヘルコッブ」地峽によつて本土に接続し、東西約八十里、南北約四十五里、面積一六三〇方里。農業よく行はれて穀物・煙草等を産し牧畜も行はれる。住民は頗る雜多で、「ロシア」「人」「タル」人「ユダヤ」人等ある。「セバストポリ」は要塞及び海軍根據地として名高く一八五四年「イギリス」「フランス」等の聯合軍が「ロシア」軍と戦ひ、こ

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。

クリフトン【Krypton Kr=81.8】**【化】**「アルゴン」族に屬する氣狀元素。全く化學的不活性で攝氏零下一二二度で液化し特有の輝線及黄線の「スペクトル」を與へる。一八九八年「ラムゼー」が液體空氣の蒸發殘留物から發見した。空氣中の含有量は僅かに二十萬分の一と推算せられる。



クリミークリーム

を陥る「クリーム」戦争である。(クリムセンソウ参照)

クリミヤセンソウ(一戦争) 【歴】クリムセンソウの條を見よ。

クリーム【Cream】 【農】牛乳より製出した脂肪。乳皮のことをいふ。製法は新鮮なる牛乳を浅い器に盛り、涼しい所に二十四時間放置すると表面に凝固する。これを孔ある杓子で掬ひ取り置く水気を滴らし置けば得られる「バター」の製造その他種々の西洋料理に用ひらる。

クリーム【Cream】 【粧】化粧品の一。多くオシロイ下として用ふ。普通同量の軟水を滴して適度とし、これを顔面一體に塗抹して、その上に粉オシロイを平かに打ちて化粧をなす。美顔術用として「クリーム」を指頭にて顔面一體にすり込み、これを拭き取り再三繰返す時は毛孔・皺の間に附着せる汚物を取り去ると同時に皮膚のキメを細かにし血色を良くする。種類は種々あれどその主なる製法を示せば、扁桃油一〇〇瓦・白蠟・鯨鯊各七瓦・「グリスリン」二〇瓦。「レモン」油・「グラニウム」油・ベルガモット油各二瓦・橙花油・桂皮油各一瓦・番香水五〇瓦を混じて製す。

クリム

る。これ有名なる「グリセリン、クリーム」と呼ばる、乳劑化粧品である。クリム【Crimm】 【文】獨逸の文學者。兄弟二人ある。「グッチャングン」及び「ペルリン」大學の教授であつた。諸國の傳説を集め御伽噺を編纂したるによりて著名である。西紀一八五八弟歿し、一八六三兄歿した。

クリムカン(克里汗)【Krimkan】 【歴】拔都の欽察汗の弟。脱哈帖木兒の子孫が、西紀十三世の末「アンフ」沿岸に創めた汗國である。

クリームケーキ【Cream-Cake】 【食】西洋菓子の一。種々「メックン」粉と「バター」をよく混ぜて水で捏ね交せ、棒で薄く伸ばし、細い棒に巻いて繼目をよく合せ「ランビー」にのせ蒸し焼きにして、棒を取り冷して、泡立てた砂糖を混ぜた「クリーム」を穴に詰め込み二寸位に切り、両面に「ザラメ」をふりかける。

クリムセンソウ【Krim-Senau】 【ロシヤ】の「ニコラス」一世が「トルコ」露食を企てた戦。西紀一八五六年「パリ」の和約により局を結んだ。一八五三年露土戦争の破裂するや、英佛二國は土耳古を助け一八五四年九月其艦隊は黒海に進出して「セバストポリ」

クリムクレーヤ

ル」の海面に通り、陸軍は北方「ユーバトリア」に上陸し、露軍を「アルバ」に破りて「セバストポリ」の要塞を攻撃し、包圍十二箇月。この間露國の援軍屢々至り「バラクラバ」「インケルマン」等にて激戦行はれたが「サルドニヤ」軍來りて英佛軍と力を併せ、遂に小「レダン」を占領して城漸く陥る。この役に於て、糧食の缺乏、疾病の流行等にて聯合軍の困苦は實に甚だしく、英佛兩軍の將帥多く病歿した。

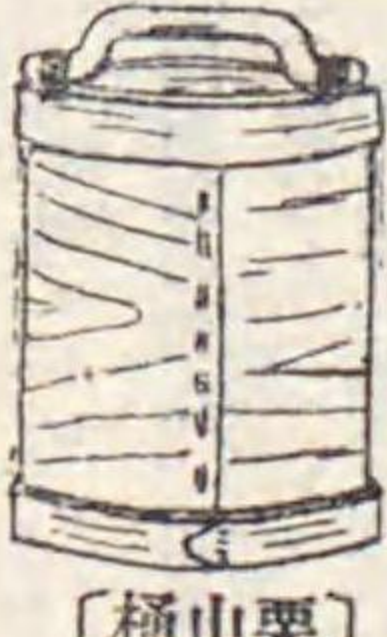
クリムソース【Cream-Sauce】 【料】西洋料理に用ひる掛汁の一種。「クリーム」合、牛乳合を弱い火で煮立て鹽・胡椒で味をつけ「メックン」粉を適宜に混ぜてよく練り「レモン」汁を絞り込んで製す、蒸した魚肉等にかける。

クリムソンレーキ【Crimson Lake】 【類】紅色透明の繪具で洋紅ともいふ。「クリヤ」(厨) 臺所のこと。竈の煙で黒くなるので「くろや」といつたのが「くりや」と轉じたのである。

クリヤガワ【厨川】 【地】村。巖手縣(陸中)巖手郡にある。盛岡市の西北約一里。東に北上川、南に雪下川あり。最要の地である。上下二部に分た

クリヤークリ

る。人口五、二四二。郵便電信局・警察署等あり。東北本線鐵道驛。柵。その址下厨川にある安倍館と呼ばれる。康平五年安倍貞任・宗任の柵によりて源義家を拒ぎし所。後久治五年藤原泰衡此所に隠れ、源頼朝に捕はれた所。



桶山栗

クリルタイ【歴】蒙古種族の大會の稱。大汗を立て師を興す等の大事は、皆此會で議定された。

クリルバルツエル【Franz Grillparzer】 【詩】奧國の作家。その作悲劇が多い。「ゲーテ」「シラレル」に次で唱せられた。西紀一八七二年歿。

クリン(九輪) 【遺】又は相輪。塔の屋頂に在る。鐵製の飾である。水煙と稱花との中



輪九

クリン【Green Thomas Hill】英國「オックスフォード」大學の教授。その著「倫理學緒論」は實現派の名著で「理性的、自覺的能力を最調和的に、最完全に發達するであらう」ことを以て、目的としてある。(西紀一八三六一一八八二年)

クリンソウ(九輪草・旌節花) 【植】櫻草科の山地自生若しくは園養せらる、宿根植物。櫻草に似て大きい。葉は長橢圓形をなして根生す。五月頃葉間

クリン

に紅色の花を著く。

クリンハウス【Green-House】 【農】温室のこと。オシロイの條を見よ。

グリーンランド【Greenland】 【地】北「アメリカ」洲の東北方にある大島。デヴィス「海峡」「バフィン」灣を隔て、「カナダ」に對し、大部は北極洋に入る。長さ六百四十里、幅二百八十里、面積約一三、〇〇〇方里あり、内部は一般に高臺をなし永世不滅の雪で掩はれて、高さ三十里内外に及ぶ。海岸は峽江に富み長さ七十里に及ぶものがある。氣候は寒氣極めて峻烈で南部にあつても年平均氣温華氏零下七度乃至二十度を示す。主要産業は漁業で南部の海岸には馬鈴薯・麥類を産する所がある。主要輸出品は海豹皮・狐皮・魚油・水晶石等である。住民は「デンマルク」人を主とし土人「エスキモー」人等がある。人口は一萬二千内外に過ぎない。今「デンマルク」の植民地である。

クルークス【Sir William Crookes】 【化】「イギリス」の化學者物理學者。「ナトリウム、アマルガム」法と稱する金銀の新冶金法を發明した。又物理學者としては「スペクトル」の研究に従ひ日光「スペクトル」その他諸種の物質

クリンククルク

の「スペクトル」を研究して西紀一八六一年元素「タリウム」を發見した。更に真空管内の放電を研究して陰極線を發見し、その性質を明にした。後に斯かる真空管に氏の名を附するに至つた。

クルークスカン(一管) 【物】硝子管中の氣體を「ガイッセル」管よりも一層稀薄として、壓力數百分の附近少し光るばかりで、中央は暗く「カソード」に對する硝子壁薄緑色の燐光を放つ、如斯き管を「クルークス」管といふ。「カソード」線及びX光線の實驗に用ふ。

クルコ【Joseph Vladimirovitch Gourko】 【歴】露國の將軍。西紀一八七六年中將に進み、翌年「トルコ」と戦端開かると、露軍の先鋒として功を立た。役後總督となり、一八九四年元帥となつた。一九〇一年歿。

グロシー【Marquis de Emmanuel Grouchy】佛國の將軍。「ナポレオン」一世に從ひ、「ワーヘンゲン」の役に功あり。帝の信任篤く、重職に任せられた。西紀一八一三年「ロシヤ」征伐の際重傷を負ふ。「ナポレオン」の「エルク」島から歸るや、第一にその麾下

クルククルシ

に馳せ元帥に任せらる。ワーヘンゲン」の役、戰機を失ひ全軍の大敗を來さしめた。後外國に流され、米國に留りしが、一八三二年再び名譽元帥に任せられた。一八四七年歿。

クルジスタン【Kurdistan】 【地】アッヤ「洲」の西部。「アルメニヤ」の南に連る地方。南は「チグリス」河、西は「マラチヤ」附近に及ぶ、面積約九、七〇〇方里、一般に山岳重疊し氣候は寒暑酷烈であるが「チグリス」河畔は平原で地味肥え、穀物果實を産する。クルシマカイキヨウ(來島海峡) 【地】愛媛縣(伊豫)越智郡北端と同郡大島との間をいふ。暗礁多く航海の難路である。

クルスノ(栗栖野) 【地】京都府(山城)宇治郡にあり。昔氷室を置た所。歌枕に出てゐる。同愛宕郡にある。中古朝家の牧場ありしと傳ふ。今櫻木村及び宮村大字西賀茂に當るといふ。

グルタミンサン(一酸)【CO2H.C2H4.OH.OH(NH2).CO2H】 【化】蛋白質が加水分解をなした際に生ずる物質の一。無色の結晶體、熱水に溶け「アルコール」「エーテル」に不溶、液の味はまづいがその鹽は美味である、味の素

クルシクルタ



クルチークルツ

はその「ナトリウム」鹽で麥中の蛋白質「グルタン」から製せられる。昆布・鯨節・魚肉・醤油等の旨味の一部は「グルタミン」酸の鹽によるならんと稱せらる。

クルチユース [Quintus] 【學】獨逸の言語學者「フレデリック」三世の師傳となり、後「ゲッチンゲン」大學の言語學教授に任せられた。一八六八年「ベルリン」大學に轉じ上古史の講座を擔當せられた。一八九六年歿。獨逸の言語學者。前者の弟「ブラーグ」キール「ライプチヒ」諸大學の教授に歴任された。比較言語學の泰斗と稱せられる。一八八五年歿。

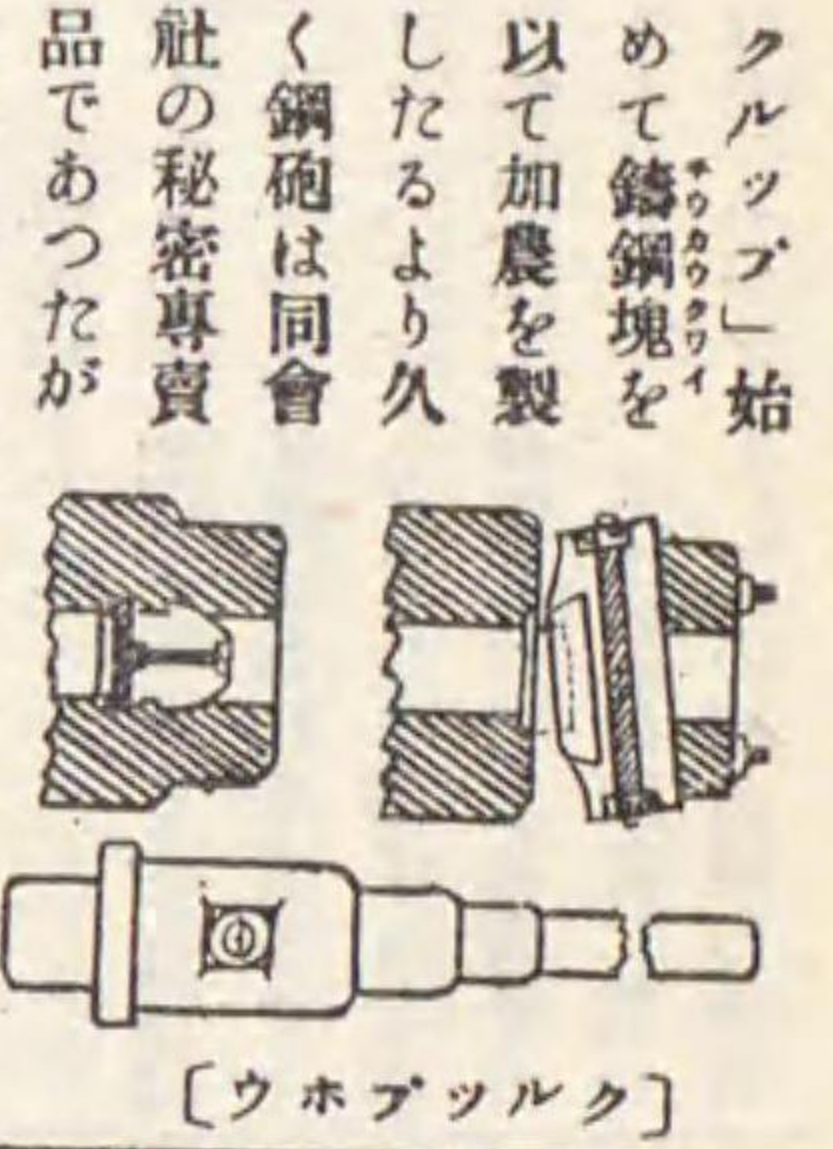
クルツプ [Alfred Krupp] 【軍】獨逸の製鋼家。その父「フレデリック」の遺志を受け「エッセン」市の工場を擴張し、西紀一八四七年始めて三斤砲を製造し、一八五一年「ロンドン」大博覽會に六斤砲並二千「ポンド」の鑄塊を出品した。一八八〇年「デュッセルドルフ」市の博覽會には百噸の巨砲を出し、世界を驚かした。一八八七年歿。

クルツプホウ (一砲) 【軍】獨逸「クルツプ」會社特製の砲。略してクルツともいふ。西紀一八四五年「ブライデンブルク」に於ける長州藩の勤王家。通稱は良藏、本姓は福原。來原良右衛門の長子となる。原に對する義親の稱を傳へた。前頭褐色にして紫色を帯び四個の濃褐色條線がある。後翅は暗黒裏は黄褐色。幼蟲は葡萄の葉及び花を食害する。

クルマゼンシチ (車善七) 【歴】佐竹義宣の臣車猛虎の弟。兄猛虎徳川氏の爲に誅せらるゝや、善七兄の仇を復さんとし將軍秀忠を視ひ、園丁となつて忍びしが、事露はれ捕へられた。秀忠その志を壯とし節を屈げて仕へしめんとしたが従はず、容されて乞食の頭首となつた。

クルマエビ (車蝦) 【動】十脚類に屬す。殼は平滑で毛なく硬い、内海或は港灣等の波濤靜穩な近海に産して、雌は一年を経て成熟し、雄は二年を経て成熟する。採つて食用に供する。クルマガイ (車貝) 【動】腹足類に屬する貝。介殼は短かき圓錐形で車輪のやうな狀がある。この名がある。我國の暖地海岸に産する。クルマガカリ (車懸) 【軍】戦法の名稱。各流その解釋を異にしてゐる、初め上杉謙信が武田信玄を破つた時用ひたと傳へてゐるが、畢竟後人の作爲に過ぎない。クルマサ (車座) 【國】多人數圓形に向ひあひ座すること。クルマズメ (動) 天蛾科に屬する大形の蛾。體長一寸乃至一寸三分、體の前半は濃褐色、腹部の背面は黒く、腹面は黄褐色、體の全背面を通して一

クルテークリハ



クルツプ 始めて鑄鋼塊を以て加農を製したるより久しく鋼砲は同會社の秘密專賣品であつたが後益々研査を究め盛に用ひられる。クルテン (穀質) [Grain] 【化】蛋白質類の一種。穀粒・玉蜀黍等に存する小麥粉を金巾に包み水中で攪拌して澱粉を洗ひ去ると「グルテン」は灰褐色の粘着力ある塊となつて殘留する。是れこれから製する「グルタン」の榮養價は高いものである。

クルハラモリヨシ (來原盛功) 【歴】徳川末期に於ける長州藩の勤王家。通稱は良藏、本姓は福原。來原良右衛門の長子となる。原に對する義親の稱を傳へた。前頭褐色にして紫色を帯び四個の濃褐色條線がある。後翅は暗黒裏は黄褐色。幼蟲は葡萄の葉及び花を食害する。

クルマゼンシチ (車善七) 【歴】佐竹義宣の臣車猛虎の弟。兄猛虎徳川氏の爲に誅せらるゝや、善七兄の仇を復さんとし將軍秀忠を視ひ、園丁となつて忍びしが、事露はれ捕へられた。秀忠その志を壯とし節を屈げて仕へしめんとしたが従はず、容されて乞食の頭首となつた。

クルマゾウ (車僧) 【能】能の曲名。車僧といへる禪僧雪中に車を停めて眺め居たるに、愛宕山の天狗太郎坊來りて問答し敗北して遂に合掌して尊敬するに至ることを作る。

クルマダメ (車止) 軌條の終端に於て車輪の軌條より脱出するを防ぐ爲め設けたもの。水壓と彈機との二種ある。クルマバナ (風輪菜) 【植】唇形科の草

クルヒークルフ

唱へ、文久二年横濱の夷館を焼かんと欲し、藩侯世子元徳に止められ、遂に割腹して死す。明治二十四年從四位を贈られた。

クルビヨウ (拘攣病) 【醫】化骨作用の障害を來す小兒の全身病。主因は生活上衛生的關係の不完全に基き歐米諸國に多い。初め腸胃症より瘦弱・憂鬱・知覺過敏等を來し、次で骨の變形を來す。即ち後頭部の柔軟非薄・頭蓋の四角形・脊柱及び上下肢の彎曲・骨盤の變形を來し、又肋軟骨端珠狀に膨隆するを以て胸部に念珠狀隆起を見る。その他全身の發育障害せらるゝも大抵育成を遂ぐるものである。療法は住居・飲食の改良・適宜の運動・肝油及び磷の内用等とする。近時吾邦にても富山縣越中の一村小兒殆どこの病に罹れるを發見したることがある。

クループ (格魯布) 【醫】喉頭に「デフテリヤ」菌が傳染することによつて起る病。喉頭の「デフテリヤ」と同一のものである。喉頭・氣管等に生ずる義膜唯々上皮を失つた粘膜上に在つて容易に剝奪することの出来るのを「クループ」といひ、義膜の多少深く粘膜に侵襲するを「デフテリヤ」病と稱する。

クルマムシロイ (輪蟲類) 【動】蠕形動物の一綱。その體軀至つて微小で、前端に纖毛を環生せる盤狀の體部がある。多く淡水に産する。ヒゲチナの如きものは之に屬する。

クルマユリ (車百合) 【植】百合科の高山に自生する多年生草本。又觀賞用として培養せらる。毎年地下の鱗形より高さ二三尺の莖を出す。葉は披針形で下部のものは必ず輪生す。夏日黄赤色で暗紫色の斑點を有する花を擧げする。

クルミ (胡桃) 【植】胡桃科の喬木。樹皮に香氣あつて、葉は奇數の羽狀複葉で小葉片は無柄である。果實は核果で、球形又は卵形をなし、その種子を食用に供する。北半球の温帶諸地に産する。

クルフークルヘ

クルフークルヘ 七三〇

クルフークルヘ 七三〇

クルフークルヘ 七三〇

クルフークルヘ 七三〇

クルフークルヘ 七三〇

クルフークルヘ 七三〇



【合百車】



【標米留久】

クルミ (胡桃) 【植】胡桃科の喬木。樹皮に香氣あつて、葉は奇數の羽狀複葉で小葉片は無柄である。果實は核果で、球形又は卵形をなし、その種子を食用に供する。北半球の温帶諸地に産する。

クルミークルラ 七三一



クルリ

「系統の「エストニヤ」人南部に「レ」...

クルリカイヤウ(久留里海峡) 【地】

千島群島の最東北端占守島と露領

「カムチャツカ」との間の海峡。幅二

十二哩ある。

クルリマチ(久留里町) 【地】千葉縣上

總(君津郡)にある町。小櫃川の上流に

臨む。大多喜町の西方五里。水更津町

の東南六里。人口四、五五六。戦國時

代里見氏この地に築城し、天正十六

年里見義康、北條氏政を防ぎし地。徳

川幕府以後土屋・酒井・黒田(三萬石)

の領となり維新に至つた。

クルリヤ(帆) 水鳥を射るに用ひる矢

の矢。

先に

小

い

る

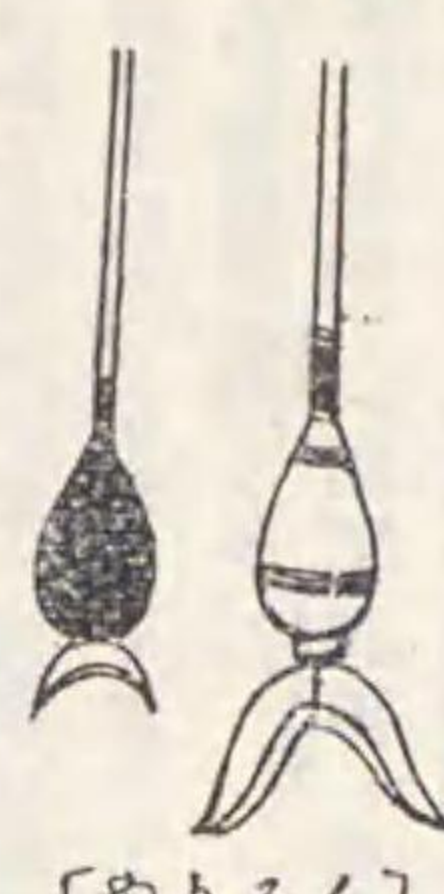
目なし鋼を附けて浮となし、水上を

射流して水禽の脚を射るに用ひる。

羽も漆糊として水に耐へるやうにし

てある。鋼の圓いものを小飛、稜角の

ものを小飛、稜角の



【や】 【るく】

クルルークレ

保・小平根等を用ひる。

クルル(樞) 【國】戸の棧おとしをいふ

「とばそ」同じ。

クレ(塊) 【國】かたまりをいふ。「石」

「土」。

クレイ(Henry Clay) 【政】米國政治家。

雄辯家として有名。西紀一八一一年

國會議員となり又議長に選ばれるや

屢々大統領候補を争つたが遂に當選

しなかつた。西紀一八五二年歿。

クレイ(Thomas Gray) 【文】英國詩人西

紀一七五七年欽定詩宗に推されしが

固辭した。尋で「ケンブリッヂ」大學

に近世史の教授に擧げられたが病の

爲教鞭を取ることが出来なかつた。

一七七一一年歿。

グレイ(Grey) 【歴】Lady Jane G. 英

王「ヘンリー」七世の曾孫。「エドワー

ド」六世の歿後王位に即き、九日にし

て廢せらる。一五五四年始父「ノーザ

ンブランド」公の反に座して所刑せ

られた。【Charles G.】英國自由黨政

治家。一八三〇年首相となり、極力反

對黨と争つて選挙法改正を主張し、一

八三二年兩院を通過せしめて改正法

を發布した。一八四五年歿。【G. H. D.】

【G. H. D.】英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

クレイクレオ

後「アスキス」内閣に外務大臣となつ

た。

グレイン【數】ドリョウコウの條を見

よ。

クレウチ(塊打) 【農】にて働き起し

た後、土塊の生じたるを塊割などで

打ち砕くこと。殊に稻田は多少の濕

氣を含み、土塊は堅く塊まるゆる、充

分にこれを砕く必要がある。

クレオソート(結列阿曹篤) 【Kreosol】

【藥】薬品。樹樹より製出せる透明微

黄色油状の液。質透臭を有し、味灼く

やうで。主成分は「クレオソール」C.

H(OH)(OCH)(OH)及び「タフヤ

コール」C<sub>2</sub>H<sub>4</sub>(OCH)(OH)の混合

より成る。古く防腐薬に用られ、作用

石炭酸に似てゐる。主要醫治應用は

慢性呼吸器病・種々の結核病殊に肺

結核及び腸胃疾患に對し効がある。

通常丸薬又は膠囊劑とし内服せしめ

又芳香水に和し又は散劑に混和して

用ふ外用としては、齶齒鎮痛劑とし、

又寄生性皮膚病に軟膏として用ふ。

吸入劑にも時に用ひられる。

クレオソート(木材の防腐法として「クレオ

ソート」又はその混和液を注入する

方法) 【Creosote】 【歴】古代「エ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

クレオ

國の發明に係る、自然に乾燥せしめ

たる木を鐵製汽罐中に入れ密閉し、

汽罐内の鐵管に過熱せる蒸氣を通じ

て木材を充分熱し、猶木材中に殘留

せる樹液を蒸發せしめたる後、特種

の排氣「ポンプ」を用ひて殆ど真空に

近きまで汽罐内空氣を排出し、その

後華氏五六十度に熱したる「クレオ

ソート」又はその混和液を該汽罐内

に導き、一方に壓搾「ポンプ」を用ひ

て一平方吋につき百磅内外の壓力に

達するまで液體を壓搾し、十分に木

材の氣孔中に入らしむるのである。

クレオソート(油) 【化】石炭木材

等の乾溜に依つて生ずる「タール」の

分溜物の中で、「フェノール」(石炭

酸)及び類似の物質を含んで居る油

狀の部分。木「タール」クレオソール

ト」油は少量の石炭酸と多量の類似

體から成り、防腐劑として費用され

る、又これから精製「クレオソート」

を分離して醫藥に供する。「石炭、ター

ル」の「クレオソート」は石炭酸の外

に數種の炭化水素を含む。防腐力強

く木材の防腐劑として廣く使用され

る。

クレオソート(木材の防腐法として「クレオ

ソート」又はその混和液を注入する

方法) 【Creosote】 【歴】古代「エ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ

ラ」の英國政治家。一八九二年「ダ



製鐵所・海兵團あり又西二里の海中

クレオ

一世の長女。西紀前五一年父王冠し...



クレソール

二十六日「イギリス」の「エドワード」三世この地に於て、大に「フランス」國「フィリップ」の軍を破つた。クレソール水「Creosol Water」【薬】クレソール石鹼液六分、水九四分を混和して製した液。その百分中に三分の粗製「クレソール」を含有する。而して治療用には蒸留水を以て製した淡黄色澄明の液體を用ひ、消毒用には常水を用ふ。産科、婦人科その他出産の際などに身體を洗淨するに用ひ、又傳染病消毒薬として石炭酸水と同様に使用せられ、消毒力は一層強大である。

クレタケ(吳竹) 【植】初め吳の國より渡つた故にその名がある。ハチグの類で小さく、その葉は細い、多く庭園に植える、杖とし或は格子などに用ふる。

クレツセンド(漸次高聲) 【Crescendo】【音】音楽上の語。發想記號。樂曲の一部次第に強聲となるべきを示す。略して「Cres」又は「Cresc」。

クレテトウ(Heke島) 【地】カンジャ島に同じ、その條を見よ。

グレートバリアリーフ(Great Barrier Reef) 【地】オーストラリアの東部の新

クレト

グレートブリテン(大不列顛) 【Great Britain】 【地】イギリス國を形成する二大島の一。東は北海を隔て、大陸諸國に、南は「イギリス」水道を以て「フランス」と隔たり、西は「アイリッシュ」海を隔て、「アイルランド」島に對する、面積は附近の島嶼を合はせ一四・八四一方里、人口約四千一百万。域内は分ちて「イングランド」、「ウェールズ」、「スコットランド」の三部とす。地勢北部「スコットランド」には「スカンデナヴィヤ」山脈の餘勢域内に互り、「グランビヤ」山脈、「チエヴィオット」丘等あり山脈の間には小低地がある。南部「イングランド」の西部には丘陵性の「ペンニン」山脈斷續して連つてゐる。西南部の「ウエールズ」は殆ど全部「カンブリア」山脈の掩ふ所である。平野の著しいものは「イングランド」の東南部にあり、「テームス」・「ウエズ」・「ハンバ」等の諸川緩流す、その他の河川には西南流して「プリストル」灣に注ぐ「セヴァーン」を著しとする。海岸線の發達は世界稀に見る所である。大小の灣を開き「テームス」・「セヴァーン」・「フリス」諸河の口に於ける。

クレト

灣「ロリン」灣「クライド」灣「ラザアブル」灣等何れも重要なものである。氣候は著しく海洋の影響を蒙ると冬季西南の暖風を受くる爲め緯度の割合に温度で年平均氣温華氏四十八度、最暖六十四度、最寒三十八度雨量は凡そ一千耗であるが、一千五百耗乃至二千耗に及ぶ所もある。産業・農業は麥類・麻・馬鈴薯等を興ふるが國內の需要には著しく不足である。鑛業は石炭・鐵鑛の採掘盛に行はれ、商工業は從來世界に冠絶すと稱せられた「イングランド」の西部は盛大な商工業市相連り製鐵・造船・紡績・織布の業大に行はれ、貿易額の大なること久しく世界第一の稱を得た。輸出品の主なるものは綿布・絹絲・鐵類・石炭・毛織・機械等、輸入品の主なるものには穀物・練綿・肉類・バター・羊毛・砂糖等がある。海上航路には世界船舶の約四割を有して世界到處に航行し、鐵道の延長は二萬三千哩に及んでゐる。都會には大なるもの多く、世界第一の人口を有する「ロンドン」を始とし「グラスゴー」・「リヴァプール」・「マンチエスター」・「バーミンガム」・「ブリスベン」・「エジンバラ」等がある。

クレト

ラ等がある。グレートベア湖(Great Bear湖) 【地】英領「カナダ」の西北にある湖。マッケンジー河、これより流出する。クレナイ(紅) 【國】紅花の古名。その條を見よ。紅花の浸出液で染めた赤い色。クレナイノハカマ(紅袴) 婦人の着く袴。緋の袴ともいふ、中古以後婦人は貴賤とも、袴にも裳にも紅の袴をはくことが常となつて、「女官飾抄」にそのことを載せてある。グレナダ(Grenada) 【地】北「アメリカ」州西印度諸島の一島。「イギリス」に屬す。面積二十二方里、數多の舊火山と温泉とを有し、その間に湖沼を湛へ風光明媚である。氣候暖熱多雨地味膏腴植物の生育旺盛で甘蔗・ココア・香料・綿等を産す。「セントジョージ」を首府とす。住民は主に黑人種で人口約七萬二千ある。クレハ(吳服) 【能】能の曲名。官人西宮に參らんとて吳服の里に至りしに、應神天皇の時に吳の國より渡り來りし吳服・漢服の二人の女、假に里女と現はれ昔を語り機を織る所を見せ、御代を祝ひ奉る事を作つたといふ。

府(福津)池田町にある神社。應神天皇の朝に入朝した吳服を祀る、機織の祖神、織錦五色の絹絲を發箱に納めて渡御に供奉す。祭日は十二月十八日とす。

クレール(Jean Baptiste Kieber) 【歴】佛國の將軍。革命の當時「オーストリア」の侵入を防ぎ、西紀一七九八年「ナポレオン」に從ひて「エジプト」及び「シリア」を征し、留つて「エジプト」を鎮した。「トルコ」の來寇を平定し、「エジプト」土兵を訓練して一大「フランス」植民地を創設せんとせしが、一八〇〇年、回教徒のために刺殺せられた。

クレマンソー(Georges Benjamin Eugene Clemenceau) 【歴】佛國現代の政治家。西紀一八七五年「パリ」府參事會の議長となり、翌年國會議員となる。一九一四年世界大戰役の開始せらるゝや佛國の首相に任せられ一九一九年「ベルサイユ」に講和會議の開かるゝに及び、議長となり佛國をしてその名を成さしめた。現今世界人傑の一人である。

クレムツ(暮六ツ) 【國】アケムツの條を見よ。

クレメル(Gerhard Kremer) 【地】ブラ

クレハークレメ

ンドルの地理學者。普通に「メルケトル」の名で知られてゐる。所置「メルケトル」式地圖はその創作にかゝるものである。(西紀一五一二—一五九四年)

クレメンヌ(Clemens) 【歴】同名數人ある。「ギリシャ」の宗教家。哲學及び文學に精通し、更に神學を研究し、「アレキサンドリア」市に於て宗教學校を經營したが、西紀前二〇二年頃迫害を受け「パレスチナ」に走り、一七七年歿。「ローマ」法王一世から十四世迄ある。その中著名なるを記す。「クレメンヌ」五世。佛國「アグイニオン」の法王廳に於ける最初の法王。佛王「フィリップ」四世の推舉により一三〇五年即位した。法王が威嚴を失墜せしことこの時に始まる。一三二四年歿す。「法王」クレメンヌ七世。一五二三年法王となる。佛王「フランシス」一世と聯合し、獨帝「チャールズ」五世に抗し、皇帝の軍に「ローマ」を占領せられ、一時幽閉せらる。後英王「ヘンリ」八世がその皇后を廢せんとせしを拒みしより、英國教會の統治權を失つた。(在位一五二二—一五三四年)

クレワリ(塊割) 【農】農具の一。土塊

クレメークレワ

を割つし土塊の面を平坦にし、又收

病の場合に脱穀機に用するもので形各種々ある

グロウ(Grouse) 【鳥】鳥類の一種。幼少より父に從ひ繪畫を學び、後「ナポレオン」一世に仕へ處々の戦役に從ひ、その實況を描寫し、賞讃を博した。「ナポレオン」廢位の後、専らその専門の技を以て世に仰がれたが、一八三五年繪畫展覽會に於て彼の作に對する批評は彼を憤激せしめ、遂に「セーヌ」河に投身して自殺した。

クローアゲハ(動) 鱗翅目に屬す。翅は黒色で裏面に赤紋がある。幼蟲は綠色で柑橘の葉を食害する。「アゲハ」の條参照)

クローア(黒蟻) 【動】蟻の一種。形小さく光澤ある黒色で普通樹幹に巢を造れども、亦地中に營巢する事もあ

クロークロー

を割つし土塊の面を平坦にし、又收病の場合に脱穀機に用するもので形各種々ある

グロウ(Grouse) 【鳥】鳥類の一種。幼少より父に從ひ繪畫を學び、後「ナポレオン」一世に仕へ處々の戦役に從ひ、その實況を描寫し、賞讃を博した。「ナポレオン」廢位の後、専らその専門の技を以て世に仰がれたが、一八三五年繪畫展覽會に於て彼の作に對する批評は彼を憤激せしめ、遂に「セーヌ」河に投身して自殺した。

クローアゲハ(動) 鱗翅目に屬す。翅は黒色で裏面に赤紋がある。幼蟲は綠色で柑橘の葉を食害する。「アゲハ」の條参照)

クローア(黒蟻) 【動】蟻の一種。形小さく光澤ある黒色で普通樹幹に巢を造れども、亦地中に營巢する事もあ

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クローインマチ(黒石町) 【地】青森縣(陸奥)南津輕郡の町。弘前市の東二里六町。東北本線川部驛より黒石輕便線を以て通ずる。もと弘前藩の支藩津輕氏(一萬石)の城下で、區裁判所・稅務署・郡役所等がある。人口七、七〇〇

クローインエキ(黒磯驛) 【地】栃木縣(下野)那須郡那須野村にある驛。磐城國境に近く宇都宮市の北方約十三里東北本線の驛。那須温泉に最近く路程四里。薪炭を輸出する。

グロウヴ(Sir William Robert Grove) 【物】「イギリス」の物理學者。始め法律を研究して遂に大審院判事になつた。「方實驗物理學を研究し、後年は専心科學研究に從ひ、熱電氣等所謂自然力は本體的には同一であること即ち「エネルギー」變態論と不滅論とを發表して、當時の學界に貢獻した。「グロウヴ」電池・瓦斯電池等の發明がある。一八九六年歿。

グロウキッド(Glove Kid) 【革】革の名。純良のものは仔山羊皮を原料とし、普通のものには仔綿羊皮を原料とした。薄い軟かな革で、手袋用「キッド」と

グロウキッド

グロウキッド

グロウキッド

グロウキッド

グロウキッド

グロウキッド

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー

クロークロー



クロウ

クロウソコ【植】石南科の山地に自生する落葉小灌木。



【ごすうろく】

形若しくは卵形で無柄、全邊である、七八月頃枝梢上に白色の筒状花を下垂して開く。

クロウソウ(九老僧)【傳】日蓮の法孫中の九人の俊豪。日像・日輪・日善・日傳・日範・日印・日澄・日行・朗慶の九人。いづれも日蓮宗の發展に力めたもの。

クロウド(蔵人)【歴】クラビトの音便。クランド・クラウプともいふ。蔵人所の官人である。

クロウドコロ(蔵人所)【歴】嵯峨天皇の弘仁元年、枕書殿の西廂に置かれ、天皇に咫尺して機密の文書、及び禁中一切の事を掌つた役所である。

クロウメモドキ(鼠李)【植】鼠李科の山野に自生する落葉樹。高さ五六尺より一尺餘、枝に針がある。葉は倒卵状圓形で先端は急尖鋭となり、縁に鋸歯がある。五月頃葉裏に黄斑を散らす。

者。上野樹生の入。黒川春村の養子。國文國史國語を修め、學識該博を以て聞えた。學士會員、御歌所寄人、文科大學教授等を歴任し、帝國大學名譽教授に任せられた。三十九年歿。著書數種ある。



【木】黒

クロキ(黒木)【植】灰木科の常緑喬木。九州に産す。高さ一丈餘り。葉は互生し長橢圓狀卵形短き葉柄を具ふ。夏に花咲く。果實は平滑である。

クロキジシヤ(黒木神社)【地】島根縣隠岐知夫郡黒木村にある神社。大字別府の海岸に黒木と稱する一小丘がある。往年一小島であつたが今陸続きとなる。こゝは後醍醐天皇遷幸の時行在所を設けた所、黒木神社は近年此處に建てられ、後醍醐天皇を祀る。

クロキタメサタ(黒木爲頼)【軍】陸軍大將。舊鹿兒島藩士。戊辰の後奥羽各地に轉戦し、西南の役又た功を立て、日清戦争の際第六師團長として出征旅順を攻略し、功を以て男爵を授けられた。日露の役第一軍司令官として

クロキ

クロウクロエ

緑色の小花を叢生す。クロウリバエ【動】金花蟲科に屬する小形の甲蟲。體長二分乃至二分五厘、黄色にして硬翅は黒青色で光澤がある。瓜類に害をなす。

クロウンモ(黒雲母)【礦】單斜晶系に屬し底面に沿ふて劈開完全である。黒色或は暗綠色で、條痕は白い。異珠光澤を有して、硬度は二、五乃至三比重は二、七乃至三。成分中に苦土を含む。花崗岩、その他岩石の成分礦物である。(ウンモの條参照)

クロウンモカコウガン(黒雲母花崗岩)【Biotite granite】【礦】花崗岩の一種。石英・長石及び黒雲母より成る。

クロウンモヘンガン(黒雲母片岩)【礦】古き時代の岩石で暗色或は黒色の黒雲母が平行して集まり、薄く割れ易い岩石である。岩石の色は暗褐色乃至黒色である。

クロエヌリ(黒江塗)【塗】漆器の一種。紀州黒江町の産物。多く家具類を製す。海外輸出漆器中第一位を占めて居る。寛永年中の創始である。

クロエマチ(黒江町)【地】和歌山縣紀伊・海草郡の町。和歌山市の東南二里。大正三井寺村と坂阪を隔て、相接する。紀伊和歌山間は定期汽船の便がある。

て第一に出征し、鴨綠江・遼南・沙河・奉天の各戦に偉功を樹て、勇名世界に轟く。四十年伯爵に陞進された。大正十二年二月歿。

クロク(九六)【易】易の爻の名。一即ち陽爻を九といつて、二即ち陰爻を六といふ。九は數の極で六は陰の數である。陽は陰を兼ねることを得て故に九の内に六を含み陰は陽を兼ねることを得ない。故に六で終る。又三三を九として、陽二二三を六として陰である。

クロクサガメ(黒梅象)【動】梅象科に屬する昆蟲。體長約三分、黒色にして頭は長方形、前胸は左右に尖つて六角形をなし、體の後部は圓い。稻麥等を害する。

クロクモソウ(黒雲草)【植】虎耳草科の山間の湿地に自生する草本。葉は腎臟形をなし、缺刻狀鋸齒を有し、夏秋の候褐色五瓣花を開く。

クロクワイ(烏芋)【植】莎草科の池沼等の多年生草本。地中に球根を有し、これより圓柱狀の莖を叢生すること二



【芋】烏

クロク

クロカ

がある。漆器黒江塗はこの地の名産にして海外輸出額巨額に上る。警察署・區裁判所出張所等がある。人口九〇六〇。

クロカキ(黒柿)【植】柿科屬のヤマガキ、シナノガキ等諸種の心材の黒き部を呼ぶ俗稱。その色は深黒、材質は緻密・硬重で割れ難き故、裝飾用の建築材として貴重せらる。机案・匣箱その他諸器具に製し、又寄木類を作るに用ふ。

クロカユウガン(黒花崗岩)【礦】一名正長岩といふ。一般の性質は花崗岩に似て、完晶質粒狀構造で、深成岩に屬してゐる。併し成分礦物は異り、石英を欠き、正長石・角閃石を主成分とし副成分として斜長石・黒雲母・輝石等を含むことがある。本邦には殆どない。

クロカシ(櫛)【植】殼斗科の山地に自生する常緑喬木。高さ四五十尺に達す。樹皮帯緑絲黒色、葉は廣披針形又は長橢圓形で尖り鋸齒がある。雌雄同株で兩花共に穗狀花序をなして四月頃開花す。果實は椀狀の殼斗を具ふ。觀賞用とし、又材を器具用に供す(一名アラカシともいふ)。

クロカワ(櫛)【植】殼斗科の山地に自生する常緑喬木。高さ四五十尺に達す。樹皮帯緑絲黒色、葉は廣披針形又は長橢圓形で尖り鋸齒がある。雌雄同株で兩花共に穗狀花序をなして四月頃開花す。果實は椀狀の殼斗を具ふ。觀賞用とし、又材を器具用に供す(一名アラカシともいふ)。

クロカワガシラ(黒鐵頭)【歴】徳川幕府の職名。目付の管下で常に諸閣書の發布に役し、又將軍出獵の際驅使等に役した。定員三名で、黒鐵の者(黒鐵同心)五百餘人各々組をなしてこれに屬した。西丸にも亦この職があつた。俸祿百俵高。

クロコダイル(Crocodile)【動】ガクギョルイの條を見よ。

クロサワオキナマロ(黒澤翁滿)【學】國學者名は重禮。號は菴居、伊勢桑名の人。武藏忍藩に仕へ大坂留守居役であつた。本居官長に學んだ。安政六年大阪に歿した。「言靈集」「萬葉集大全」「蛻姑射秘言」「古今集大全」等の著がある。

クロサワジリマチ(黒澤尻町)【地】巖手縣(陸中)和賀郡の町。北上川に沿へる奥州街道と和賀川に沿ひ羽後に通ずる平和街道との分岐點で、鐵道奥州線の一要驛。和賀河口に出入する貨物は皆この地に集散する故市況繁盛である。郡役所等がある。人口七〇〇二。

クロサンゴ(黒珊瑚)【動】ウミマツの條を見よ。

クロクークロサ

クロカ

カシラ的一種にて黒色なるものである。幽靈のサバケ髪に擬して、善知鳥・阿漕等の後シテに用ひ又田村・天敵などに用ふ。

クロカモ(黒鴨)【動】鴨の一種。クロトリともいひ全身黒色又は暗褐色で、嘴の色は末端と縁とは黒くその他は黄色である。冬季我國の沿海に來る。



【鴨】黒

クロカヤク(黒火藥) 火藥の一種。硝石一二乃至一五、炭素二乃至三、硫黄二の合劑から成る。

クロカワオドン(黒草絨) 黒い熟草でおどした絨をいふ。(ヨロイの條参照)

クロカワハルムラ(黒川春村)【國】通稱を治郎左衛門、後主水と改む。芳蘭と號す。狂歌をよくし三世淺草庵と呼んでゐる。後狂歌を磨して和歌、國學を専修した。著書頗る多い。文學博士黒川真頼はその繼嗣である。慶應二年六月十八日歿した。

クロシオ(黒潮)【地】日本海流。その色藍黒色であるからこの名がある。赤道附近から流れきた暖流は、臺灣の南端から北東流して二つに分れ、一は即ち本流で九州・四國・本州の東南に沿ふて流れ、下總大吠岬附近から東流して北米の西海岸に至る。この本流を一に黒潮川といふ。一は琉球沖から西北に向ひ對馬海峡を経て日本海に入り、裏日本の海岸を洗つて北海道の西岸から北に進む。この海流を對馬海流といふ。福琉球邊では百哩に過ぎぬが本州の南部では約五百哩もある。夏季は攝氏卅度に達するが、冬季には往々十六度位に低下することがある。けれど平均して尙近傍の海水の温度よりも高温であるのは赤道流であるからである。速力一時間平均二乃至四哩である。この暖流の爲め本邦の氣候を溫暖にし、又多量の濕氣を齎すから、陸上生物の繁殖、生育に多大の利あるのみならず、沿海地方の漁業の收穫を益すことが頗る多い。

クロシ

七三七



クロシククロ

クロシヨウジヨウ(黒猩猩) 【動】猿目



【々】猩黒

毛は黒く顔は黄色である。ギニアに産し、樹上に屋根ある巢を營む。

クロイス(Cloth) 製本の表紙布。殊に製本の「タロース」は現在我が國では如何にしても舶來品を待たねばいゝものが得られないので、戦争の影響で一般書籍出版業者は大分苦心してゐる。

クロズ(黒酢) 【料】加減酢の一種。昆布又は椎茸を黒焼にして搗鉢で搗り潰し、絹篩で濾しすぐに生酢と少量の砂糖とよく煮た味噌と醬油とを混和したものである。白肉の魚の刺身・胎着・赤貝・海松食・たひらぎの刺肉・燻でた赤鯉の肉・大根・土着歸連根・櫻鶏卵等に瀧き用ひるものである。

グロス(Gross) 一、二ダースのこと。個數に換算すれば百四十四個。

クロス

クロス(黒塚) 【地】福島縣(岩代)安達郡大平村にある舊蹟。世俗に安達ヶ原といふ。奇岩重疊の下に土窟がある。昔鬼の住んだといふ。傍に觀音寺あり、鬼の飯炊釜、人殺刀などを藏すといふ。寺内に平衆盛の詠める「みちのくのおだちが原の黒塚に鬼こもれりとさくはまことか」を刻せる碑がある。

クロスビネル(Dark Spinel) 【鑲】暗緑又は暗褐色の「スピネル」。酸化鐵に富み石灰岩に伴ふて出る。接觸變質作用で生じたものである。

クロスミキヨウ(黒住教) 【宗】神道教派の一。皇大神の遺訓を守つて、天叙の神倫を勤行し、常に天照大神を禮祭し、天神地祇を崇祀し、息吹の心理を時習して自然の大道を顯揚するにあり。教旨は幽顯一致、神人不二の神理を闡明し、學術を研精し、行爲を獎勵し本教を宣布し、民人を教化すると、毎朝天日を拜し陽徳の光輝を景仰し、快活な陽氣を吸收し、丹田を充實し、諸神を禮拜すべしと教へ、禁厭・神符・神札・神供を授與する。この教は享和年中備前國御郡今村(中野)に於て創始した。

クロヂク(黒竹) 【種】ゴマツケともいふ。ハチクの一種。その桿は初年には緑色であるけれども、次年よりは黒色となる。提燈・傘・傘等の柄とする。グロテニス(Hugo Grotius) 【學】オランダの學者。法律・宗教・歴史。文學の各方面に精通した。ライデン大學を卒業せし後、ロッテルダム大學の法律顧問に擧げられたが、事により幽囚せらる。後佛國に走り、ルイ十三世に仕へ、又スウェーデンに赴き、その公使として佛國に駐劄した。歸るに及び、スウェーデン女王の歓迎を受けしが、その氣候健康に適さないで、一六四五年故國に歸らんとし、途中に歿した。

クロツグミ(黒鷄) 【動】燕雀類中の鷄科の一種。山地に棲み、鷄よりも稍々クロタークロツ

クロスクロツ

鎮座今村宮の神主黒住宗忠の創唱で天保年間に至つて漸く盛になつた。

クロズミムネタダ(黒住宗忠) 【宗】黒住教の教祖。藤原宗繁の子。備前國御津郡今村(中野)の人。世々今村宮の神官。文化九年父母相尋で歿せしより、哀悼措く能はず自らも脚患に罹り、文化十一年正月病革るに及んで豁然大悟して病忽ちに癒えた。以後天照大神の神徳を天下に宣揚するを任とし心身の全力を傾けて布教に當り嘉永三年十月七十五歳を以て歿。

クロセル(植) 術才科の山地に自生する落葉の蔓灌木。葉は卵形縁邊に鋸齒を有す。夏紅葉に白色小花を圓錐花序に排列す。果實は三稜で三翅を附着する。一名アカネカヅラともいふ。

クロセイン(Croceine) 【染】アゾ化合物の一。毛及び絹を赤色に染める酸性染料である。

クロロセインオレンジ(Croceina Orange) 【染】酸性染料の一。赤褐色の粉末で絹及び毛を橙色に染めるに用ひる。クロセカワ(黒瀬川) 【地】クロシオを

クロツケイ(Croquet) 【遊】一種の戶外運動。特に女子の遊戯に適し、演者はこれによつて優雅の風采を養成し、兼ねて自測を正確にすることと筋肉を自由に使用することを練習する。その方法は二人以上(通常八人)の演者各木球を撞撃して、豫めの地上に配置した數個の小鐵門(Wicket)を通過せしめ、續て原位に復させることの迅速によつて勝敗を決するのである。クロツケイはもと佛國語で、物相入り難らないの意義と、相當りて憂々の音あるの意義とを有するものである。

クロツチ(黒土) 【農】色黒き土壌。黒色なるは腐植物質を多く含むためである。

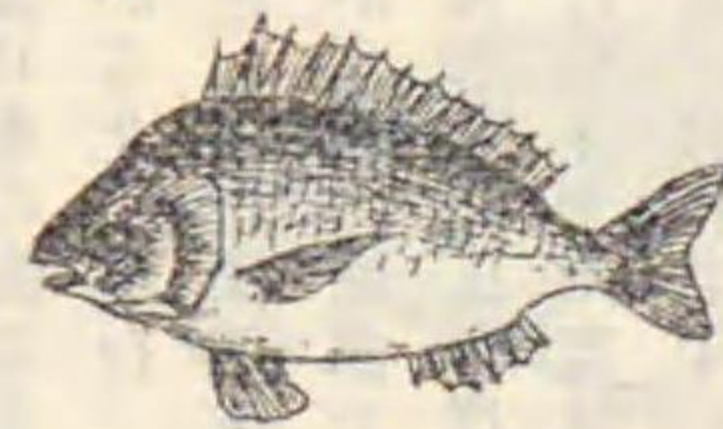
グロテフエント(Georg Friedrich Grotend) 【語】獨逸の言語學者で考古學者「ゲッティング」大學に學び、後「ハンノフェル」の大學豫備學校に長であつた。その學界に對する最大の貢獻は「パピロニヤ」の楔形文學の解釋であつた。一八五三年歿。

クロツククロ

クロタ

七三八 症なのを弱視といふ。生來の不具、或は幼時から或る視障障害があつて網膜の作用休止に馴れてしまつたことによつて起り、病氣としては「ヒステリー」「アルコール」中毒・尿毒症・發作・肺毒・外傷失血等に併發する。

クロダイ(烏鰩魚) 【動】鰩科に屬する魚。形鰩に似たれど、背部若黒色にして銀光がある。又體に淡黒色の斜線があつて腹部灰白色で稍々紅色を帯ぶ。大なるは尺餘、小なるは尺、グといふ。チヌダヒ・チヌ・キナジともいふ。



【魚】鰩烏

クロダイマイ(動) 鱗翅目に屬する昆蟲。アゲハノテフの一種で翅は黒い。クロダキヨカ(黒田清隆) 明治維新の功臣。幼名了介。鹿兒島藩士清行の子。與羽征討には九條總督の參謀、國館征討には清水谷中將の參謀となつた。凱旋後外務權大丞に任じ兵部大丞となつた。明治三年開拓次官となり。樺太千島交換に露國拆衝の任に當り、七年陸軍中將に任じ、十年の役滿後、又征討總督

クロド(黒戸) 謝罪風より、謝罪に及ぶ所に建てたる。光孝帝の舊時を忘れざらん爲の雜事をこの所に行ひ、薪にて煤けし始まる。この所を黒戸廊又は黒戸御所といふ。

クロドローレン(Claud Lorraine) 【畫】佛國の風景畫家。「ローマ」に學び後、伊・獨・佛諸國を歴遊し、「ローマ」に歸り、大に名聲を揚げ、一六八二年この地に歿した。日光の研究に着眼し、その描法に新機軸を開きしを以て有名である。

クロトンスン(Crotonone) (CH<sub>3</sub>CH<sub>2</sub>OH) 【化】有機酸の一種。巴豆酸ともいふ。無色針狀結晶で稍々水に溶ける。その異性體である「イソクロトン」酸と共に往々木醋中に發見される。元來巴豆油から變成發見したのであるが、巴豆油中にはこの酸その物は無い様である。

クローナ(Krona) 【貨】「スクエード」の貨幣單位名稱。純金量〇・四〇三二二五瓦。一「クローナ」は我五十三錢七厘六毛に當る。

クロニクル(Chronicle) 年代記。又は新聞の意味に用ひる。

クロヌリ(黒塗) 【塗】漆器中最も多

クロトククロ

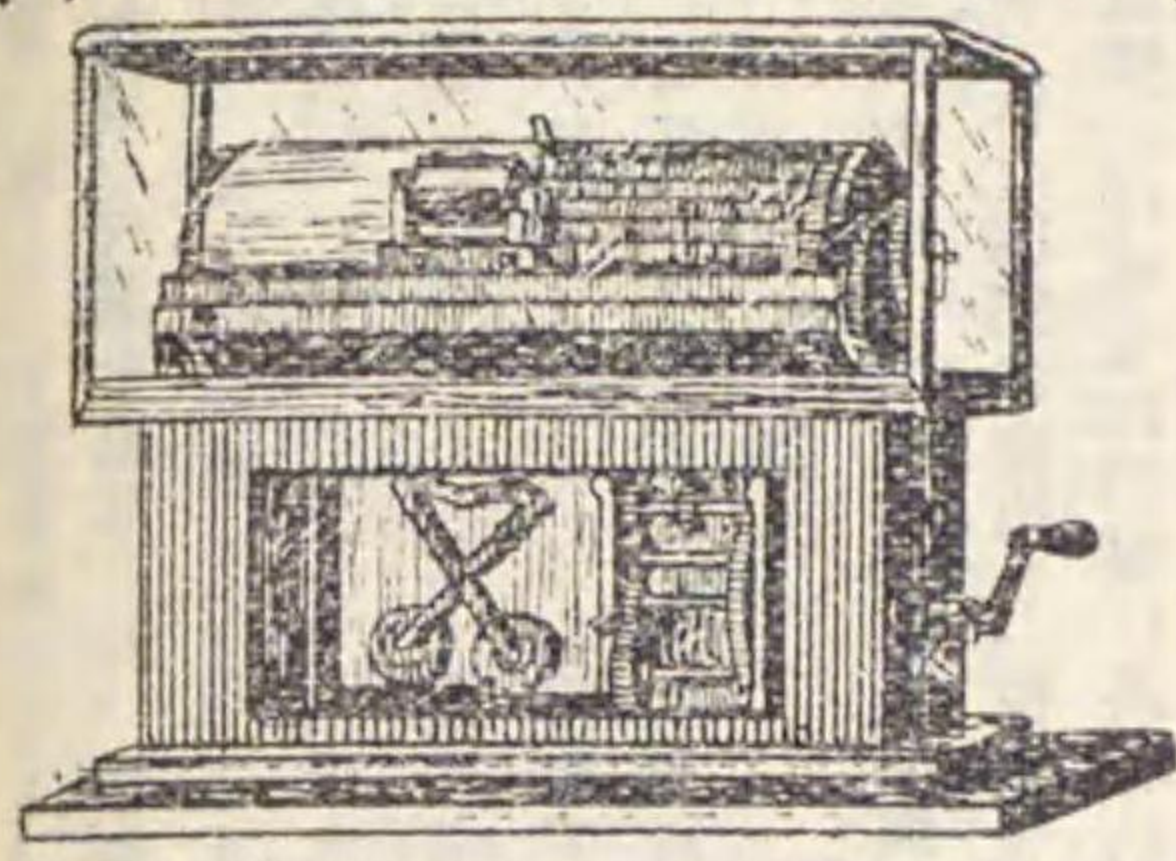


クロネークロノ

く用ひらる、塗色。漆に醋酸鐵を混じて黒漆を作つて塗るのである。クロネ(黒髪)【髪】髪色の黒色を帯びたもの。従来の製法が不完全なため氣候・温度・空気中の状態や、取扱法の不注意から、麴菌以外に他の微生物が發育して製麴の外観を異らせ品質を劣らせたので、外觀でいろくの名稱をつけ黒髪はその一種である。

クローネ[Krone]【貨】オーストラリア貨幣單位の名稱。純金量〇・三〇四八七八瓦。「クローネ」は我四十錢六厘五毛に當る。

クロノグラフ[Chronograph]【機】時間及び時刻を精密に測定する装置。形には種々ある。時計仕掛により一様の速度で一分間に一回轉する様に設計した時計に紙を巻きつけてお



る。この一種である。黒髪色の髪を生成したものが繁殖するのである。

クロビス[Clavis]【機】フランス國王西紀四八一年即位。四八六年「ローマ」の軍を「ツァン」附近に破り、「フランス」國の基礎を固くし、都を「パリ」に奠む。「キリスト」教を國內に弘布するに盡瘁した、五一一年歿。

クロヒメヤマ(黒姫山)【地】長野縣(信濃)上水内郡にあり。越後の國境に對し、東南飯綱山。西南戸隠山に對す。高六、九二四尺。新潟縣(越後)西頭郡今井村の西南にある。高三、六〇〇尺。一に古志峯といふ。山姿秀麗、沼川姫の栖たる靈峯と傳へられる。新潟縣(越後)刈羽郡柏崎町の南方にある。高二、九一七尺。大部分は第三紀層よりなる。

クロビール(黒麥酒)【飲】普通の「ビール」の色の極めて濃厚なもの。一般の性は普通麥酒と大差ない。原料なるモヤシは普通のより高温にて焙爐に乾かし、帆布を入れ糖液を煮沸する時間も普通のに比し稍や長い。黒色麥芽を用ひずして製するには普通の麥酒に「ピャコレヤー」又は「ツッカーコレヤー」と稱する黒色舍利

クロヒ

クロノ

これに軽く觸れて居る「ペン」がありこの「ペン」は一つの接極子と電磁石の「コイル」に連關して居て電流の斷續によつて「ペン」は左右に動き紙上に突起を畫くのである。これを振子時計又は「クロノメートル」と電鐘と同一電路に連結する平常は毎秒の記録をつけ事件を観測して電鐘を打つとその間に特殊の突起を生ずるから容易に時を測り得るのである。「ペン」は圓錐上で少しづつ、一方に移動するから決して記録が重なることは無い。

クロノス[Chronos]【神話】ゼウス「神」の父。「ウラノス」(天)「ゲア」(地)即ち天地の間の子で「ゼウス」前の天地の主宰者であつた。「レア」を妻として「ゼウス」その他の神を生んだが「ゼウス」はこの父を弑して天下を横領した。これ「ウラノス」は「ギリシヤ」の人文極めて幼稚な時代に出了た神で「ゼウス」がこれに代つたのは蓋し「ギリシヤ」の人文進歩せしを吾人に教ゆるものだらうといふ。

クロノセト(黒瀬戸)【地】鹿児島縣(薩摩)出水郡下出水村と長島との間の海峡。八代海に通ずる門戸である。長約十二哩、幅三哩乃至八哩、潮差約一哩。

クロノプ[Chronos]【ペーネギール】遊戯用の革製手袋のこと。形普通の手袋と同じで、これを用ふると否とは競技者の隨意である。

クロプストツク[Friedrich Gottlieb Klopstock]【獨逸】獨逸の詩人、同國に於ける古典派の先驅で宗教・愛國・戀愛等を題材とせる作が多い。傑作を「メッサス」といふ。「ミルトン」と失樂園と併稱せられてゐる。一八〇三年歿。

クロフネ(黒船)【國】黒く塗つた船で徳川時代、西洋より來た大船をいふ。グロフノデンチ(一)の電池[Grove's battery]【物】陽極たる炭素に代ふるに白金板を以てし、た外、構造性質共に「ゼン」電池に似た電池で、白金が高價である故に多く用ひられない。



クロベガワ(黒部川)【地】富山縣(越中)中新川郡にある川。鷺羽山に發し立山の東麓より、新川郡を経て日本海に注ぐ。長二十五里。上流沿岸奇勝に富み、愛本村には奇橋愛本橋が

クロヒークロハ

クロノークロハ

て急である。

クロノメートル[Chronometer]【物】航海用及び天文學用の正確な携帯時計。原動機は懐中時計と同じく鋼製製の發條であるが別に鐵製の鎖が發條の容器の周圍と蝸牛殼狀螺旋の溝に巻付てある。これは發條の巻き初めも巻終りも常にその力を均一に調整させるのである。時計分針秒針の運動は普通の時計と同じく齒車によるのである。切「テンプ」は鋼線線の彈性によつて半秒の週期で振動する。これには温度の影響を受け無い様にし且その針が示す時刻と眞の時刻とを一致せしむるための装置がある。又切「テンプ」とこれに動力を供給する齒輪或は「アングル」との中間に脱進器と稱するものがあつて「テンプ」の一振動毎に齒輪を正確に脱進せしむるのである。「クロノメートル」の正確なのは主として此點にある。此装置を常に水平に保たしむるために稱平環によつて保持されてゐる。

クロバー[Clover]【植】「馬こやし」に類似した植物。庭園の隅や、牧場などの地に匍つて生える「クラブ」形した三つ葉の可愛い、葉をつけた花は花は連華に似た白と紫の二種がある。

クロマツ(黒松)【植】松科の樹に海濱に繁茂する常緑喬木。幹高さ十丈餘。周囲二丈に達することがある。樹形赤松に似てゐるが樹皮は黒色を帯び、葉は強剛で太く新芽は帯白色である。四月頃開花し、莢果は翌年秋に至りて熟し、開裂して種子を飛散す。クロミニム[Chromium] クロムに同じ。

クロム[Chromium Cr=52]【化】主に「クロム」鐵(FeCr<sub>2</sub>O<sub>7</sub>)として存在する。金屬單體は酸化物を木炭で還元し又は鹽化物を電解して得られるけれども、殆んど需用の途がない。その「イオン」は二價若しくは三價で、前者は青色、後者は重色を呈する。従て第一第二の二種の鹽類を造るけれども、第一鹽は多く不安定であるが故に通常は第二鹽である。その他「クロム」又は硫黄の様に「クロム」酸・重「クロム」酸等の酸根を形成し、その鹽類中工業上重要な物が少くない。「クロム」オウ(一黄)【畫】クロムサンナマリに同じ。

クロムサンナマリ

クロハ

七四〇

る。又四つ葉の「クローバー」は往々見出されるがそれは「幸福」の象徴として喜ばれる。クロバエ(蒼蠅)【動】ハエの條を見よ。クロハチジヨウ(黒八丈)【織】黒地で厚い絹布、もと八丈島の特産であつたが、今は武蔵國五日市・八王子地方で産する。一名五日市といふ。原産は原絲を染めるに泥土を利用したのが特色であるが、今は化學藥品が多い。袖口地、襦袢の襟等に用ひる。

クロハトキン[Alexei Nislaevitch Kupatkin]【軍】露國の將軍。千八百七十六年露土戰爭の際、初めて名を揚げ、後陸軍の改造に功があつた。千八百九十八年陸軍大臣に任せらる。千八百九十二年本邦に來遊した。明治三十七八年戰役の際、露軍總司令官であつたが連戦利あらず、その職を、リニエウイッチ將軍に讓つた。

クロバナ(黒花)【釀】溜麴の茶褐色を帯びたもの。溜麴製造は頗る不完全で製造室といつて特別の場所も無いので、氣候温度との他すべての缺點のために外の微生物が發していろいろの色相を呈することがある。其黒褐色のが「くろばな」に細菌學上「クローバ」に屬する。この菌は、其の性質で熱・空氣及水等の作用には耐ゆるが酸素氣に甚ふと弱色する。色には種々ある「クロム」黄が最も普通で「クロム」橙・「クロム」赤・「クロム」赤等がある。

クロムサンナマリ(一酸)【化】Potassium Chromate(K<sub>2</sub>Cr<sub>2</sub>O<sub>7</sub>)【化】重「クロム」酸加里の溶液に苛性加里を加へ、又は「クロム」鐵の粉末に炭酸加里と石炭とを混じて反射爐で強熱するとき出来る。水に溶解し易い黄色粒狀の結晶で、酸に處すれば、赤色の重「クロム」酸加里に變ず。クロムサンナマリ(一酸鉛)【Lead chromate(PbCrO<sub>4</sub>)】【化】醋酸鉛の溶液に「クロム」酸加里の溶液を加へる時生ずる赤色の粉末。普通に「クロム」黄又は「クロム」酸橙といひ原料として多く使用される。これに苛性「アルカリ」を加へるとその色赤變して、鹽基性「クロム」酸鉛(PbCrO<sub>4</sub>・PbO)が出来る。これ「クロム」赤といふ原料である。クロムセキ(一赤)【化】クロムサンナマリを以て見よ。クロムゾク(一族)【化】金屬元素の一族で「クロム」・「モリブデン」等を含む。

クロム

七四一



クロム

クロムチユウドク(中毒)【醫】輕症には口渴・悪心・嘔吐・胃痛・下痢・倦怠・呼吸困難がある。重症は劇烈な吐瀉及び虚脱を起して死す。...

クロムニシトコウ(一鐵鐵)【Chem】【鐵】等軸品系に屬し、八面體をなすことがあるが、粒状塊をなすことが多し。...

クロムトウ(一橙)【化・畫】クロムサンナマリの條を見よ。

クロムトウ(Samuel Crompton) 英國の發明家。幼時父を喪ひ、綿絲紡績場の織工となる。實地の經驗により新に紡績機を新案したが、後その業に失敗し、一八二七年間々の中に歿した。

クロムニシトコウ(一明鑒)【Chem】chromium K<sub>2</sub>(SO<sub>4</sub>)・12H<sub>2</sub>O 【化】重クロム酸加里の溶液に硫酸と「アール」を加へて熱し又は「クロム」酸加里と硫酸との混合液に二酸化硫黄を通じて出来る暗紫色の結晶で、その水溶液は熱すれば褐色となる。...

クローン(庫倫)【地】支那外蒙古の北部にある都會。「ヨーロッパ」人はこれを「ウルガ」と呼ぶ。周圍に丘陵を廻らし冬寒夏暑甚しい。市街は東西の部に分れ、支那人・蒙古人「ロシヤ」人等混在する。...

クローン(Charles Augustin de Coulomb) 【物】「フランス」の物理學者。電氣・磁氣に關する著書多く、振料を發明して所謂「クローン」の法則を證して靜電氣學・磁氣學の基礎を作つた。...

クローン(Coulombs) 【物】電氣量の實用單位。絶對單位の一〇倍に當る。「アンペア」の強さの電流が一秒に付送る電氣量である。「フランス」の物理學者「クローン」の名に因んで名けたのである。

クロム

クロム・クロモ

り、冷せば又暗紫色となる。工業上染色等に用が多い。クロムリヨク(一綠)【化・畫】サンカダイニクロムを見よ。



クロモジ(鉤樟)【植】樟科の山地に自生する落葉灌木。高さ七八尺に達し、樹皮平滑で、緑色及び帯黒色の二部を有し、葉は細長い橢圓形をなし、薄くして柔かである。...

クロモジ(鉤樟)【油】我國の特産の鉤樟樹の葉と皮とを蒸溜して取る油。黄色で芳香がある。香水・石鹼・化粧品等の香料に用ひる。...

クローンウエル(Crowder) 【國】英國の政治家。ロンドンに近しい微賤の家から出て國會議員となり、「ヘンリ」八世に擢用せられ財務大臣、宰相となつたが、酷薄なる所爲多く、且私行にも缺點多かつたので遂に王の寵を失ひ西紀一五四〇年死刑に處せられた。...

クローンウエル(Crowder) 【國】英國の政治家。ロンドンに近しい微賤の家から出て國會議員となり、「ヘンリ」八世に擢用せられ財務大臣、宰相となつたが、酷薄なる所爲多く、且私行にも缺點多かつたので遂に王の寵を失ひ西紀一五四〇年死刑に處せられた。...

クローンウエル(Crowder) 【國】英國の政治家。ロンドンに近しい微賤の家から出て國會議員となり、「ヘンリ」八世に擢用せられ財務大臣、宰相となつたが、酷薄なる所爲多く、且私行にも缺點多かつたので遂に王の寵を失ひ西紀一五四〇年死刑に處せられた。...

クローンウエル(Crowder) 【國】英國の政治家。ロンドンに近しい微賤の家から出て國會議員となり、「ヘンリ」八世に擢用せられ財務大臣、宰相となつたが、酷薄なる所爲多く、且私行にも缺點多かつたので遂に王の寵を失ひ西紀一五四〇年死刑に處せられた。...

クローンウエル(Crowder) 【國】英國の政治家。ロンドンに近しい微賤の家から出て國會議員となり、「ヘンリ」八世に擢用せられ財務大臣、宰相となつたが、酷薄なる所爲多く、且私行にも缺點多かつたので遂に王の寵を失ひ西紀一五四〇年死刑に處せられた。...

クロム

クロヤークロリ

りをして、原圖と同様の模様・色彩を出させる色刷石版である。クロヤキ(黒燒)【藥】動植物を蒸焼にしたもの。近世治病に效能があるとて内服し、中には一種の禁服に過ぎない外用物もある。...

クロリ(黒百合)【植】百合科の高山に自生する多年生草本。高さ尺餘。葉は長卵形又は長橢圓形を有して輪生する。初夏梢頭に暗紫色の鐘狀花を開く。...

クロラール(Chloral)【化】アルデヒドの一種刺激性の強臭を發する無色油狀の液。三鹽素「アルデヒド」の化學構造を有し「アルデヒド」の通有反應を呈する。...

クロラール(Chloral)【化】アルデヒドの一種刺激性の強臭を發する無色油狀の液。三鹽素「アルデヒド」の化學構造を有し「アルデヒド」の通有反應を呈する。...

クロラール(Chloral)【化】アルデヒドの一種刺激性の強臭を發する無色油狀の液。三鹽素「アルデヒド」の化學構造を有し「アルデヒド」の通有反應を呈する。...

クロラール(Chloral)【化】アルデヒドの一種刺激性の強臭を發する無色油狀の液。三鹽素「アルデヒド」の化學構造を有し「アルデヒド」の通有反應を呈する。...

クロラール(Chloral)【化】アルデヒドの一種刺激性の強臭を發する無色油狀の液。三鹽素「アルデヒド」の化學構造を有し「アルデヒド」の通有反應を呈する。...

クロラール(Chloral)【化】アルデヒドの一種刺激性の強臭を發する無色油狀の液。三鹽素「アルデヒド」の化學構造を有し「アルデヒド」の通有反應を呈する。...

クロム

クロル・クロロ

て細い梳毛絲を緯に薄く織つた絹毛交織。洋傘地・婦人洋服地との種類がある。製造家や商人が種々の名をつけて販賣してゐるが最も有名なものは「ランスタウン」。「ラブルナム」。「フアイエテ」。「コリングウッド」。「サブライム」等である。

クロル(葉綠素)【Chlorophyll】【植】葉綠體中に存する緑色の色素のことである。

クロロフォルム(Chloroform)【化】C<sub>2</sub>HCl<sub>3</sub> 【化】稀薄なる「アルコール」に漂白粉を投じて蒸溜する時生ずる無色の液體。揮發し易く稍粘性の臭がある。水に少し溶解する。その蒸氣を...

クロロフォルム(Chloroform)【化】C<sub>2</sub>HCl<sub>3</sub> 【化】稀薄なる「アルコール」に漂白粉を投じて蒸溜する時生ずる無色の液體。揮發し易く稍粘性の臭がある。水に少し溶解する。その蒸氣を...

クロロフォルム(Chloroform)【化】C<sub>2</sub>HCl<sub>3</sub> 【化】稀薄なる「アルコール」に漂白粉を投じて蒸溜する時生ずる無色の液體。揮發し易く稍粘性の臭がある。水に少し溶解する。その蒸氣を...

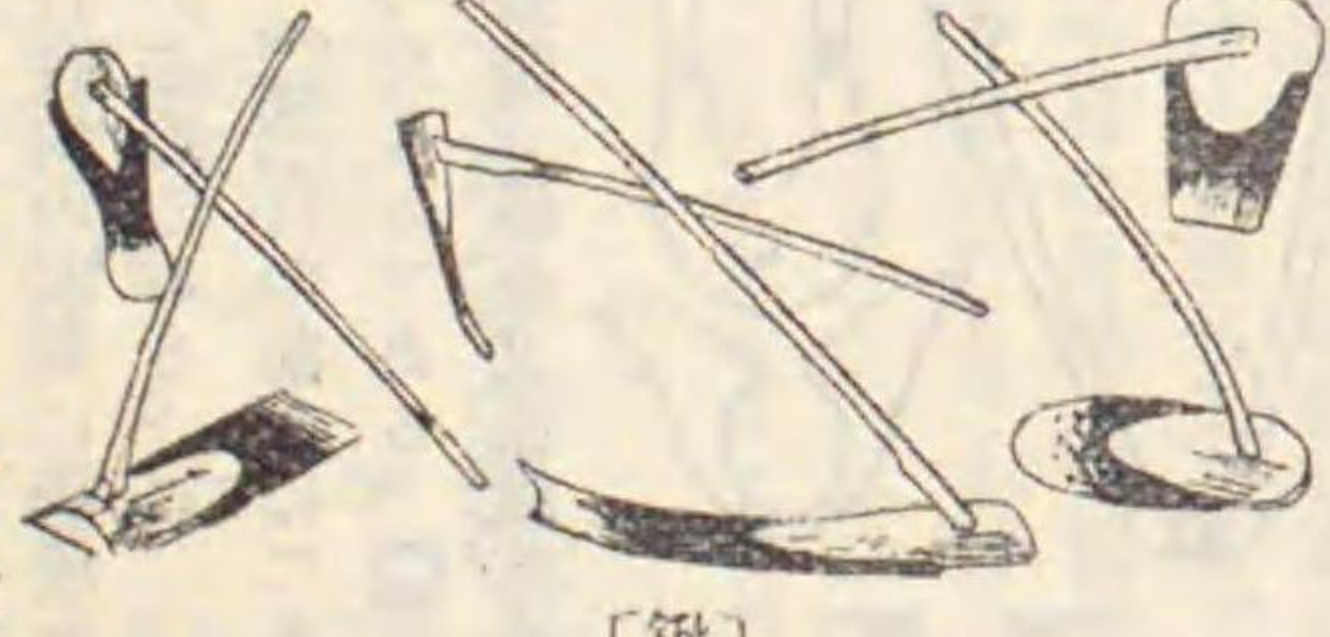
クロロフォルム(Chloroform)【化】C<sub>2</sub>HCl<sub>3</sub> 【化】稀薄なる「アルコール」に漂白粉を投じて蒸溜する時生ずる無色の液體。揮發し易く稍粘性の臭がある。水に少し溶解する。その蒸氣を...

クロロフォルム(Chloroform)【化】C<sub>2</sub>HCl<sub>3</sub> 【化】稀薄なる「アルコール」に漂白粉を投じて蒸溜する時生ずる無色の液體。揮發し易く稍粘性の臭がある。水に少し溶解する。その蒸氣を...

クロロフォルム(Chloroform)【化】C<sub>2</sub>HCl<sub>3</sub> 【化】稀薄なる「アルコール」に漂白粉を投じて蒸溜する時生ずる無色の液體。揮發し易く稍粘性の臭がある。水に少し溶解する。その蒸氣を...

クロム

クロム



【鉄】

クワ(鐵) 【農】農具の一。耕作及び除草に用ふ。木製の柄と鋼鐵の及から成り、唐鏃・備中鏃・普通鏃の種類がある。唐鏃は及幅狭く深耕又は穴掘等に用ひ、備中鏃は及先數本に別れ土塊の掘き起しに適し、犁の代用に使ひ、普通鏃は鐵・木...

クロム



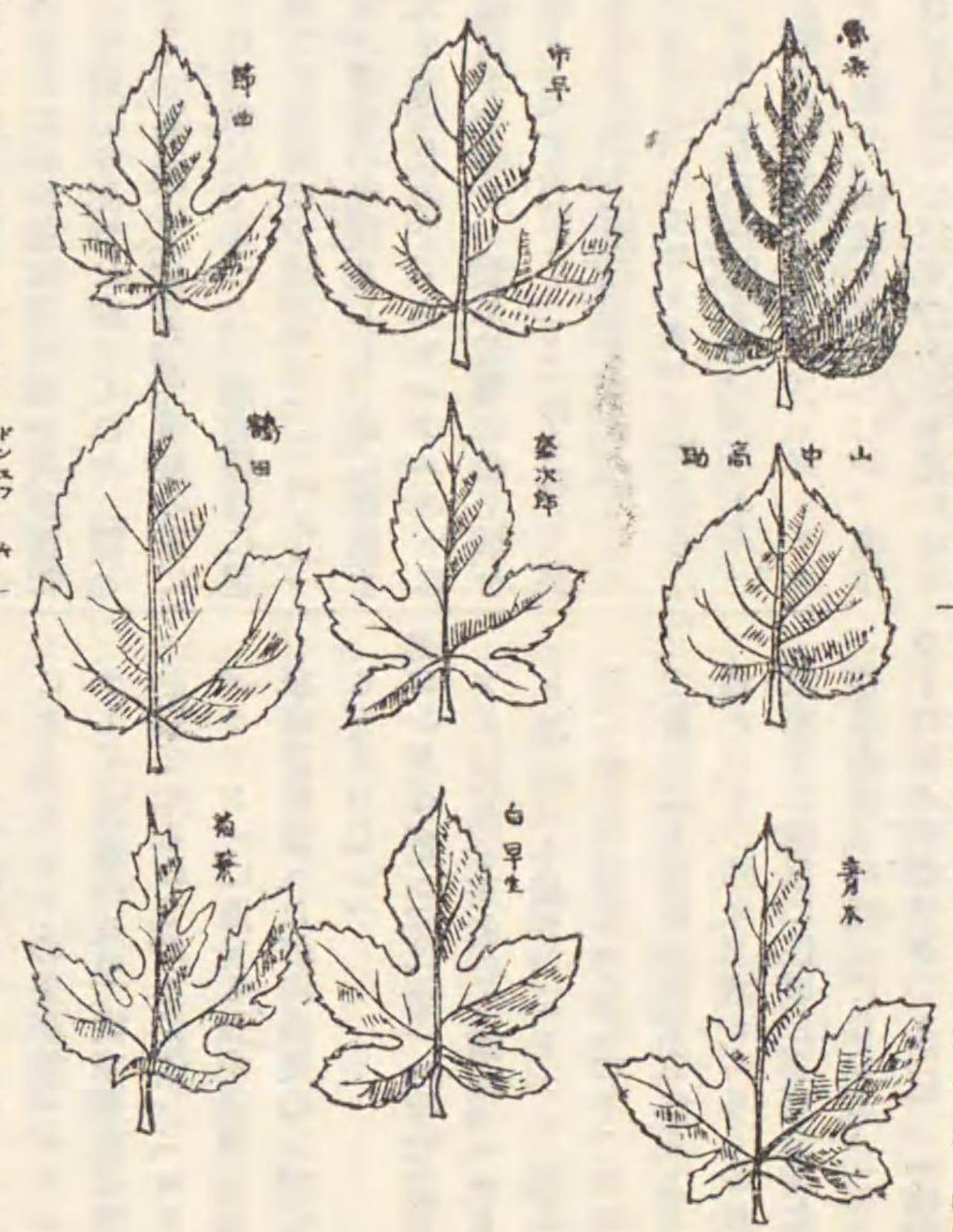
柄の三節から成り、鑿臺と柄とは或る角度をして斜立する。鑿は多く鑿製で前部に鋼鐵の部がある。普通長方形である。柄の長さは三尺乃至五尺位で、その臺床との角度は種々ある。關東地方のは角度大きく、九州地方のは角度が狭い。普通鑿の主な種類は京鑿・尾州鑿・江戸鑿・河内鑿・肥後鑿・久六鑿等である。

クワ(桑) 【種】桑科に属する落葉喬木。田野に多く栽培され葉を蠶の飼料とする。幹は直立し高さ二三丈、周囲五六尺に成長する。材は裝飾用の器具を製し、又た柱・床板などにも用ふ。樹皮からは紙を製し、葉は養蠶に用ひ、果實は食用となり又醸酒用にもなる。養蠶の發達と共に栽培漸く盛大になつてこれがために特に畑地を供す。これを桑園といふ。品種には早生・中生・晩生ありて早生に節曲。市平・柳田。中生に鶴田・九紋龍・青木・魯桑・赤木。晩生に十文字・山中高助・鼠返し等がある。仕立法に根刈・中刈・高刈の三種ある。根刈は收穫時に根際から切断して年々新條を生せしむるのである。中刈は寒國並に水害地にて用ふ。その法は一尺乃至三尺の高さに幹を立立てそれより出た枝を

クワアークワイ

刈取る。高刈は山間の傾斜地、並に寒地に適し三尺以上六尺の所より刈込むのである。桑には種々の病氣あれば注意して豫防すること肝要である(各條参照)

クワアカシブビヨウ(桑赤澁病) 【農】桑樹の葉及び嫩芽に一種の病菌が寄生して發する菌核病。春期嫩葉が畸形に膨らみ彎曲し、表面に無數の微細なる橙黄色の粉末を生じ漸次凋落するのである。他に傳染せざるうち切取つて焼棄する。【醫】葉中のクワイ(糖質) 【種】葉中のクワイ(糖質) 【種】葉中のクワイ(糖質)



クワエ

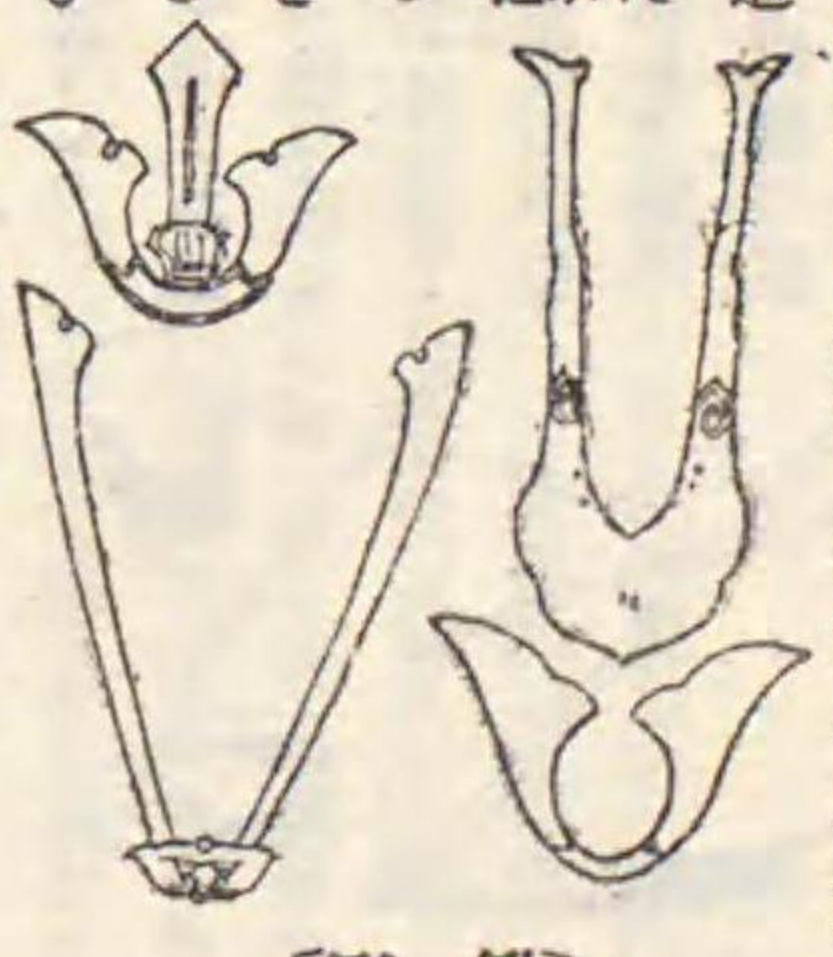
培養せらるる多年生草本。肥大なるは葉柄二尺に及び、葉は末尖り本二つに分れて箭形を呈す。秋日葉間に花軸を抽き白色三瓣の花を總狀又は複總狀に開く。地下の球莖は食用に供せらる。

クワエダガレビヨウ(桑枝枯病) 【農】「スクレロチニヤ、スクレロチオール」と稱する菌類の寄生によつて起る桑の病。この病に罹る時は發病點以上の枝梢にある嫩芽はみな萎れ遂に枯れるのである。豫防法は病枝を剪去し焼却するか、春季嫩葉に「ゼン

クワカークワン

「液」を撒布するを宜しとする。傳染性速かなれば發病の初期に葉液を撒布することが必要である。

クワガタ(鐵形) 【國】胃の前方に二本の角の様に立つたものである。【國】胃の前方に二本の角の様に立つたものである。【國】胃の前方に二本の角の様に立つたものである。【國】胃の前方に二本の角の様に立つたものである。



クワコ(野蠶) 【動】蠶蛾科の一種。桑樹に産し、形家蠶に同じきよりその原種なるべしといふ。幼蟲も家蠶と同じく繭を吐く。繭は黄褐色である。【動】蠶蛾科の一種。桑樹に産し、形家蠶に同じきよりその原種なるべしといふ。幼蟲も家蠶と同じく繭を吐く。繭は黄褐色である。

クワゴマダラチヨウ(動) 燈蛾科に属する中形の蛾。雄は黒色、雌は白色にして翅に黒點散布する。幼蟲は九月頃孵化して桑葉を食す。クハスモン、ゴマツテフ。

クワザケ(桑酒) 【飲】糯米に麴及び燒酎を加へ、次年の夏期桑根を交へて固封し、二年を経て用ふる。芳香甘味色は「アランテ」に類し百分中約十三の「アルコール」を含む。丹波の名産である。

クワシタネンキ(鐵下年期) 【法】地租條例により開墾年期の延長を許可したる年期。開墾地の地價は開墾着手の年から十年目にその成功の部分に對して地價を修正して地租を課すべきものなるゆゑ、この年内に成功の見込なきものは地方廳に願ひ出でてその開墾に要する期間の許可を受け地價修正の延期を請ふ必要がある。この期間を鐵下年期といふ。その年期は普通三十年以内である。

クワジラミ(桑虱) 【動】有翅類中葉虱科の一種。體長一分黄色又は黄綠色で褐色の斑紋がある。翅は白色半透明黒褐の小紋があつて翅縁と脈は黄

クワコークワン

クワシロシブビヨウ(桑白澁病) 【農】棘皮菌類に属する菌類の寄生によつて起る桑の病。被害の状況は葉面に白粉を散したる状になる。この病は氣候温湿なる時は蔓延速かであるが一般に被害は多大でない。豫防法としては硫黄華を散布するがよい。



クワツシユ(Guanchi) 【農】不透明の泥狀繪具。主として圖案に用ひる。

グワテマラ(Guatemala) 【地】北「アメリカ」洲中部「アメリカ」にある國。北は「メキシコ」、東北は「イギリス」領「ホンデユラス」、東南は「ホンデユラス」に接し、西は太平洋に臨む。面積八〇四八方哩、人口約一八五萬。地勢は山岳國內に蟠踞し數多の火山山その間に聳えて地震が多い。土地は一般に地味肥沃で珈琲を第一とし、煙草、バナナ、小麦、玉蜀黍、豆類を産する。住民は「インデア」族多く「ロマ」族行はれる。首府を「グワテマラ」といふ。

クワシークワテ

クワトゲシヤクトリ(動) 尺蠖類の一種。幼蟲は緑色で肥大し第四より第七及び第十一の體節には太き棘狀突起を具え、桑樹を食害する。蛾の翅は灰白色にして黒線がある。



グワドルフ(Gradeloupe) 【地】北「アメリカ」洲西印度諸島の一島。小「アンチル」列島中の最大島。面積一〇三方里。「フランス」に屬す。地勢高峻で火山が多い。氣候は炎熱多湿で健康に適しないが、地味頗る肥沃で甘蔗、珈琲、「ココア」、「グアニラ」、「バナニール」といひ西南端にある。一四九三年「コロンブス」の發見にかゝり一六三五年「フランス」の植民地となりその後「イギリス」の手に移つたが一八二六年以來「フランス」に歸してゐる。人口約十九萬。

グワナファト(Guanafato) 【地】北「アメリカ」洲「メキシコ」國にある都會。「メキシコ」市の西北高原にあつて海拔約一八八〇米に位する。附近から金・銀・水銀・錫等を産する。石鹼・化

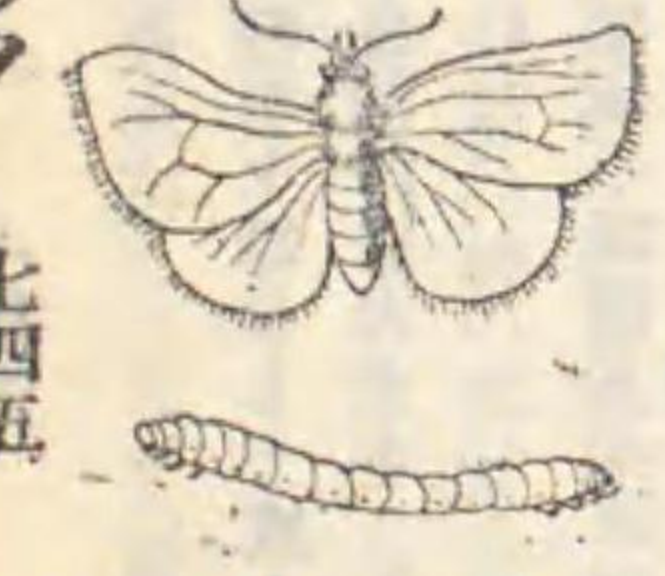
クワトクワン

クワナボン(桑名盆) 【塗】漆器の一種。伊勢桑名の産物。元祿中漆工某の創始。圓形の盆に表裏黒塗をなし、蓋一つを色漆にて描きたるもの。近來金・銀粉を拵布せしものがある。

クワナマテ(桑名町) 【地】三重縣伊勢、桑名郡の町。濃・尾兩國の境に接し根斐川にある。關西本線の鐵道驛又養老鐵道北伊勢鐵道の接續點である。對岸熱田へも汽船の便があつて水陸交通の便よく、米穀の集散場と木材取引亦盛である。塗物・白魚・煉瓦・萬古燒を名産とし、燒蛤は東海道舊驛であつた時から著名である。久松氏十一萬八千石の舊城下で郡役所・警察署・裁判所等がある。人口一八九八。

グワノイ(Guano) カイチョウフン(糞)を見よ。

クワノアオメシ(桑青芽蟲) 【動】蠶類の昆蟲。幼蟲は長さ七分赤褐色で春桑の新芽に喰ひ込み、後葉を

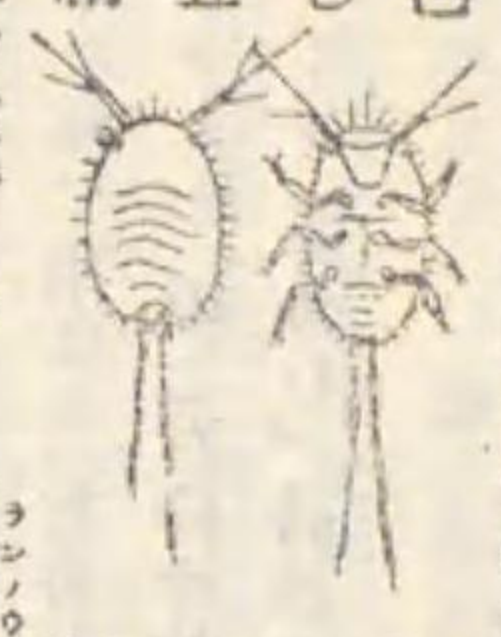


クワナークワン



クワノ

樽きてその中に白色の粗なる繭を造り赤褐色の蛹となる、蛹は六月中旬...



【蠶子の繭】

クワノカイガラムシ(桑介殼蟲) 【動】...

クワノクワハ

クワノハマキムシ(桑葉捲蟲) 【動】...

クワノホシメムシ(桑星芽蟲) 【動】...

クワノロウムシ(桑蠟蟲) 【動】...

クワムクン

つたと言傳へによる。グワム(Guan) 【地】太平洋...

グワヨコバエ(桑横遣) 【動】...



【這横桑】

クン(訓) 【國】...

クンクンイ

ケと讀む如くである。グン(郡) 【法】...

クンイ(勳位) 國家に功勞ある者を表彰する為...

軍にては軍醫、軍醫少尉、軍醫少佐、軍醫中尉、軍醫少尉、軍醫少佐、軍醫中尉...

グンカイ(部會) 【法】...

グンカン(軍艦) 【軍】...

グンカンキ(軍艦旗) 【軍】...

クンイークンカ

グンカ(軍歌) 軍隊で士氣を鼓舞する為の歌...

クンカ

グンカン(軍艦) 【軍】...

クンカ

クンカ(軍艦) 【軍】...

クンカークンキ

クンカークンキ(軍艦旗) 【軍】...



帝國軍艦一覽表

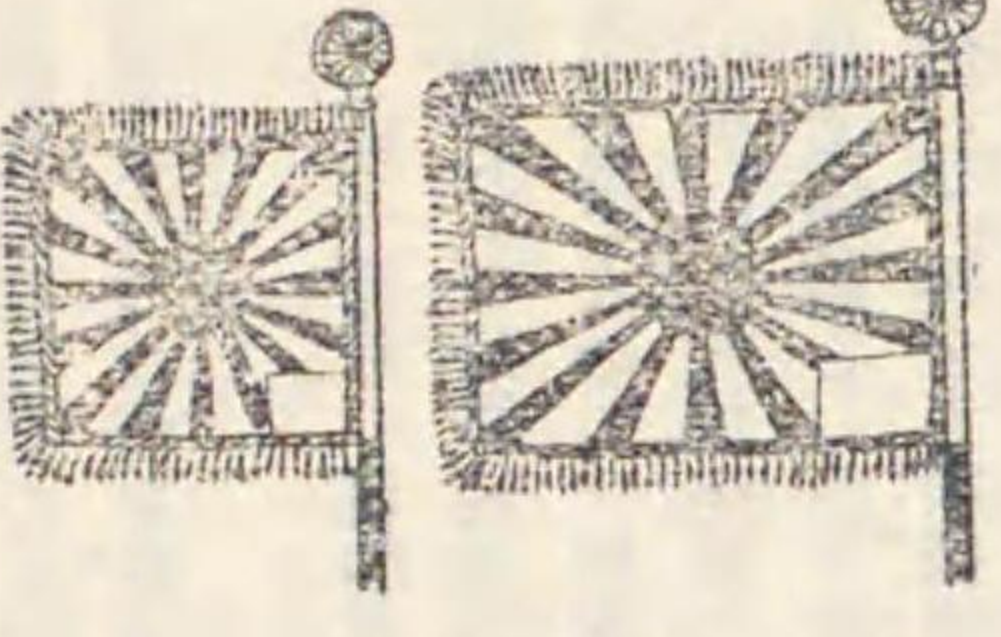
艦名	艦種	進水年	排水量	馬力	艦名	艦種	進水年	排水量	馬力
陸奥	一等巡洋艦	大正九	3,800	6,000	早	一等砲艦	明治三	1,200	8,000
日向	同	同	3,800	6,000	同	同	同	1,200	8,000
伊勢	同	同	3,800	6,000	同	同	同	1,200	8,000
山城	同	同	3,800	6,000	同	同	同	1,200	8,000
扶桑	同	同	3,800	6,000	同	同	同	1,200	8,000
金剛	同	同	3,800	6,000	同	同	同	1,200	8,000
比叻	同	同	3,800	6,000	同	同	同	1,200	8,000
霧島	同	同	3,800	6,000	同	同	同	1,200	8,000
榛名	同	同	3,800	6,000	同	同	同	1,200	8,000
淺間	一等巡洋艦	明治三	2,700	4,000	水雷艦	同	同	同	同
出雲	同	同	2,700	4,000	同	同	同	同	同
磐手	同	同	2,700	4,000	同	同	同	同	同
八雲	同	同	2,700	4,000	同	同	同	同	同
吾妻	同	同	2,700	4,000	同	同	同	同	同
阿蘇	同	同	2,700	4,000	同	同	同	同	同
春日	同	同	2,700	4,000	同	同	同	同	同
日進	同	同	2,700	4,000	同	同	同	同	同
津軽	二等巡洋艦	同	2,000	3,000	同	同	同	同	同
千歳	同	同	2,000	3,000	同	同	同	同	同
筑摩	同	同	2,000	3,000	同	同	同	同	同
平戸	同	同	2,000	3,000	同	同	同	同	同
矢野	同	同	2,000	3,000	同	同	同	同	同

参考  
廣艦トナルベキ艦船  
加賀、土佐(以上未成艦)  
鹿島、香取、薩摩、安藝、攝津、(以上既成艦)  
巡洋戰艦  
天城、赤城、高雄、愛宕、(以上未成艦)  
生駒、伊吹、鞍馬、(以上既成艦)  
海防艦  
富士、石見、敷島、朝日、肥前、三笠、周防、(以上既成艦)  
標的艦、練習艦、敷島、朝日

し、國運を脅し、動四等以下の動記には國運のみを脅すことになつてゐる。

【軍】(軍記) 戦争のことを主として書いたもの。「保元・平治物語」・「源平盛衰記」のやうなものである。

【軍】(軍旗) 陸軍に用ふる旗。陸軍には聯隊旗・大隊旗・海軍に軍艦旗・旗艦



【旗】軍

軍で最も神聖なるもので、常に護衛を附け、出征・行軍には聯隊中の古参少尉これを捧持し、一個中隊の護衛を附ける。これを軍旗中隊といふのである。

【軍】(軍機) 【軍】軍事上の秘密。この漏洩を防ぐ爲軍機保護法が制定してある。

【法】(郡組合) 【法】(特定事務) 共同所理せしむる爲の郡の組合。

クンキークンケ

方を、然るる行政區域に定め、中央政府より、官吏を派遣して行政せしむる制度。秦の始皇が李斯の説を採り全國を三十六郡に、更に又縣に細別し、中央集權を計りしに初る。吾國では大化改新の時國郡の制を立て、文武天皇大寶二年に、國司・郡領を派遣されたが、平家朝以後莊園私領諸國に起しよりこの制衰れ、源平以後は純然たる地方分權となつたが明治維新に至り、再び郡縣制に復せられた。

【地】(海軍鎮守府の所在地) 我國では横須賀・吳・佐世保及び舞鶴の四がある。その境域内に在る人民及び出入の船舶には、準守すべき事項を制定されてある。

【軍】(軍國主義) 列國が軍備を増大して實力上の競争に優者たらんとする主義。その爲に教育・經濟等を犠牲にするに至り、往々專制武斷に傾き民人の自由を害することがある。

【法】(郡の執行機關) 郡長及び名譽職參事會四名より組織されてゐたが、大正十二年四月郡制廢止と共に消滅した。

【地】(朝鮮全羅道) 朝鮮全羅道

クンコウクンサ

にある港。錦江の下流南岸にある。明治三十一年の開港で、急激に發展し、三十九年郡山理事廳を置かれた。クンツ(訓示) 【法】(上級官廳又は上級官吏より下級官廳又は官吏に對してなす職務上の指揮或は注意をいふ。

【軍】(郡司) 昔國司管下にあつてその命を受け郡政を行ひし者。大化二年郡制を定められ國造を廢せられたるより權限確定せられ、賦役・租税戸籍・學事・僧尼・觀農等郡政を掌つた。大寶令制職制を定め、これを大領とし、少領・主政・主帳などの職員があつたが後世各地に莊園の制起りし爲衰微した。

【軍】(軍使) 【軍】(對戰中一方の軍隊から敵の軍隊に意志を通ずるために送る使者。通常白旗を持ち喇叭手及び鼓手を従へる。軍使及びその隨員は不可害の權利を有するのである。

【軍】(軍教育) 【軍】(軍人養成のため精神的・技術的用具事項を練磨教育すること。その事項は術科・學科に分ち、教育總監部その方針を定め監督する。

【軍】(軍外務) 【軍】(内外二種の意味がある。内地で國防事務の爲に行ふ警察事務にして密偵の

クンシ

【軍】(軍事公債) 財政學上の用語としては軍備充實の爲に起債せる公債をいふ。元より生産的事業に關するものなれば將來の收益を以て償還すべきではなく、その整理につきは特に確實な財源で元利金を支拂ふことになつてゐる。

【軍】(軍事參議院) 【軍】(天皇が陸海軍の統帥權を行ひたまふに就ての諮詢機關。明治三十六年末軍事參議院條例を公布され、元帥・陸軍大臣・海軍大臣・參謀總長・海軍軍令部長及特に軍事參議官に親補せられたる將官を以て組織し、猶必要の場合には臨時參議官と稱して會議に列せしめる。議長・參議官・幹事長及び幹事を置きて陸・海軍間に出帥及び防禦計畫の聯絡を採り、その他重

クンシ







クンシ

合戦・武家・釋家・雜の二十五類に部  
門した大冊で、我國の寶典といふ  
ことが出来る。



〔くらしんく〕

クンシラン〔種〕石蒜科の草本。ア  
リカ、グードホープ(神地方の原産。  
今は  
温室  
内に  
培養  
せら  
る。葉は數條相對して生じ、下部は互  
に相抱いてゐる。幅一寸位の帶狀で  
濃綠色。花は一二尺の強大なる花  
梗上に繖形をなし四十乃至五十筒は  
ともある。概ね少しく下垂する。

クンジン(軍神) 武運長久を祈る神  
上古中國を平定し玉ひし武聖神。經  
津主神をいふ。日露大戰に於て廣  
瀬海軍中佐の戦死は國民に至大の感  
念を與へ軍神と稱するに到つた。そ  
の他陸軍中佐・乃木大將も亦軍神  
として追慕せられてゐる。

クンジン(軍人) 現役・豫・後備役にあ  
る陸海軍將校・同相當官・下士卒及び  
諸生徒をいふ。陸海軍の二別あつて  
懲罰・懲戒その他については特別の  
法令に服する。

クンシークン

陸海軍人にして現役を離れたる者の  
終身受く可き恩給に関する法律。軍  
人恩給は退職恩給・免除恩給・増加恩  
給・賑恤金・扶助金・扶助料の六種が  
ある。

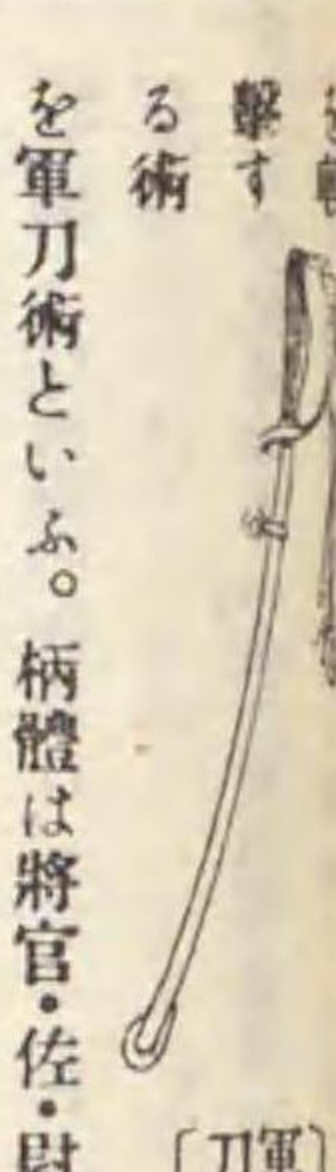
クンシヤク(軍人勸諭) 〔軍〕明  
治十五年一月四日陸海軍軍人に賜り  
し勸諭。忠節・武勇・禮儀・信義・質素  
の五個條を説給へり。即ち軍人の精  
神とするところにて軍人の大教訓で  
ある。

クンセイ(燻製) 〔食〕獸肉・魚類等を  
木屑等で燻乾したもの。燻製には温  
燻法と冷燻法と二つある。

クンセイ(郡制) 郡の自治に関する法  
律。郡を法人とし、行政を自治せしむ  
ることであつたが、大正十二年四月  
廢止され構成・機關・組織・權限・財政  
郡組合・郡行政の監督方法を定む  
るものであつた。

クンセイ(軍制) 兵力の建設・編制・人  
馬の教育・補充の方法等に関する編  
成上の規定と軍需の供給并に保存等  
經理に關する制定をいふ。

クンセン(軍扇) 昔、大將の部下を指  
揮する時用ひた鐵骨製の扇。多くは  
漆の紙に日月を畫いてある。



〔刀軍〕

クンナイ(郡内) 〔地〕山梨縣(甲斐)の  
東部を占むる地方。南北郡留郡に分  
る。古來甲斐絹の産を以て顯はる。

クンナイフトオリ(郡内太織) 〔織〕山  
梨縣郡内地方に産する太織。組織堅  
く品質銘仙に次ぐ。

クンバ(軍馬) 〔軍〕軍用に使役する馬  
現今は軍馬補充部に於て供給・育成・  
購買を掌り且資源を調査する。温順・  
伶俐・強健にて癖疾なく目立たざる  
毛色のものを撰む。役種により乘馬・  
鞍馬・駄馬の別がある。戦時事變の際  
動員の爲徵發令に準據し、師團に於  
て馬匹を徵發する。これを徵發馬と  
いひ軍馬中に入れる。

クンバイ(軍配) 戦のかけひき。即ち  
配陣に同じ、又大將の軍配するに用  
ひた軍配團扇の略である。

クンバイウチワ(軍配團扇) 〔武〕武  
具の一種。戦場で大將これを打振り  
て軍配指揮する。倒卵形で圓く徑八  
クンナークン

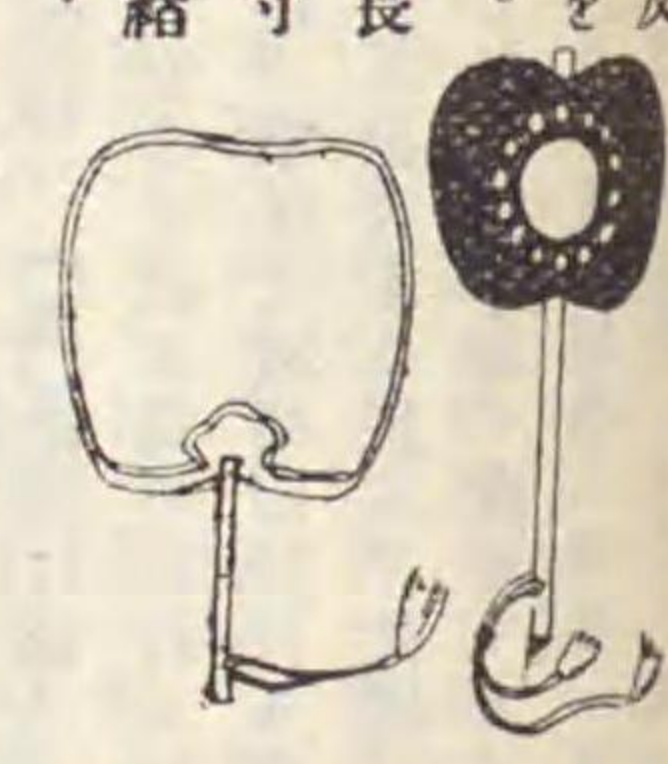
クンソクンタ

〔將校及び同相當官は、軍帽・軍表・  
袴(夏衣袴)・飾結・刀。士官及び準士  
官は以上の外に部隊に列する時は背  
囊・脚絆を用ひ、又乘馬本分の者は長  
靴を穿つ。〕下士卒卒は水筒・雜囊・  
銃彈藥盒・銃剣・喇叭・器具・飯盒・携  
帶天幕・拳銃等各兵科によりて異り  
軍帽・表・袴・夏衣・夏袴を用ふるは同  
じである。軍表をなす場合は諸國神  
社隊伍參拜・觀兵式・儀仗・動員部隊・  
衛戍勤務・軍法會議に參列するとき  
其他特に定められたる時。下士以下  
は將校の正裝禮裝を着用するに相當  
する時及び一般の賀儀・葬祭等であ  
る。

クンソク(軍曹) 〔軍〕陸軍下士の一  
階級。曹長の次伍長の上で憲・步・騎・  
砲・工・輜重兵の六種がある。成績優  
良の伍長より採用する。但し伍長半  
年以上經過したる者なること。

クンソク(軍屬) 〔軍〕陸海軍出身の文  
官その他凡て宣誓若くは讀法の式に  
より陸海軍に勤務する者。陸海軍の  
規律下に服従し、適用の刑法懲罰令  
等は一般官吏と相異り軍律を以てす  
る。

クンタイ(群體) 〔動〕同種動物の數個  
體一所に集合して生存し、或は共同  
す二分、數對、組織、光對にして金糸の  
九曜星及び梵字を  
現はす。  
柄の全長  
一尺三寸  
下端に緒  
を附く、  
長さ一尺二寸ある。〔角〕相撲道で  
行司の用ふる具。戦場にて用ひしも  
のとは制全く異なる。



〔扇團配軍〕

クンビセイゲン(軍備制限) 「ウオン  
ントン」會議で議した條約。大正十  
一年二月六日、日・英・米・佛・伊の五  
ヶ國が調印した條約で要點は左の通  
りである。廢棄すべき主力艦噸數、英  
五十八萬三千三百七十五噸。米、八十  
四萬五千七百四十噸。日、四十四萬八  
千九百二十八噸。存置すべき同噸數。  
英、五十八萬四千五百噸。米、五十萬  
六百五十噸。日、三十萬三千二百二十噸  
代艦建造後に於ける同噸數制限。英・  
米各五十二萬五千噸。日、三十一萬五  
千噸。佛・伊各十七萬五千噸。主力各  
艦噸數制限、三萬五千噸以下。砲十六  
吋以下。航空母艦噸數。英・米各  
十三萬五千噸。日、八萬噸。佛・伊各  
六萬噸。その他補助艦制限。主力艦噸

クンヒ

クンタ

の體部を持てて集合棲息してゐる  
ものである。例へば、アカサナゴの如  
きものがこれである。

クンタリミヨウオウ(軍荼利明王) 佛  
五大明王の一。譯して持蓮といふが、  
古來  
から  
梵名  
を用  
ひて  
譯名  
を用  
ひない。その形は二手根本の印を結  
び、左を内、右を外にし、右の上手に  
五鈷拵を持し、次の手は臂を折つて  
これを擧げ、中指・無名指・小指を以  
て大指を握り、頭指を舒べて少しく  
左方に向け、次の手は五指を舒べて、外  
に向けて垂れ下げ、左の上手は八幅  
輪を持し、次の手には三鈷拵、次の手  
には三鈷拵を持つ。一面三目。左右  
の足に白色の蓮華を踏む。



〔王明利茶軍〕

クンダン(軍團) 〔軍〕大實令に國毎に  
置かれし軍隊。大毅・小毅等の司があ  
つて兵士の檢校・戎具の充實・馬馬の  
練武・陣列の簡便等を掌つた。五人を  
伍・十人を火とし、五十人に隊正・一  
百人に隊副・一人二百人に隊副一人、

クンブク(軍服) 〔軍〕陸海軍人の平常  
服。陸軍服制は初め「フランス」式を  
採り、後に「ドイツ」式を採り、海軍服  
制は英國式を用ひる。而してその服  
制の一定したるは明治十九年で、そ  
の後度々改正ありて現今の服裝とな  
つた。陸軍服裝は正裝・禮裝・通常禮  
裝・軍裝略裝の別がある。正裝及び禮  
裝・通常禮裝は將校・同相當官・準士  
官のみに限る。軍裝略裝は以上の三  
裝の場合の外用ふるもので大體同じ  
海軍服裝は、將校・下士卒を通じて正  
服・禮服・通常禮服・軍服・夏服等より  
なる。下士卒には別に事務服がある。  
又臂章ありて官職區別章・下士卒外  
章・善行章・特技章等を附ける。

クンボウ(軍帽) 〔軍〕陸海軍服制に  
よりて規定せる軍人の冠の帽子。陸  
軍將校・准士官・同相當官には別に正  
クンフクン

クンフクン



クンホトクンマ

装禮装に用ふる正装がある。海軍には正服帽及び通常禮服帽の二種がある。

グンボウカイキ(軍法會議) 【法】軍人の犯した罪及び附帯の私訴を審判する特別裁判所の一。陸海軍に由つて分け、これを構成するのに、判士長・判士・理事若しくは理事補任及び録事を以てする。大正十一年から辯護士を附する事も出来るやうになつた。

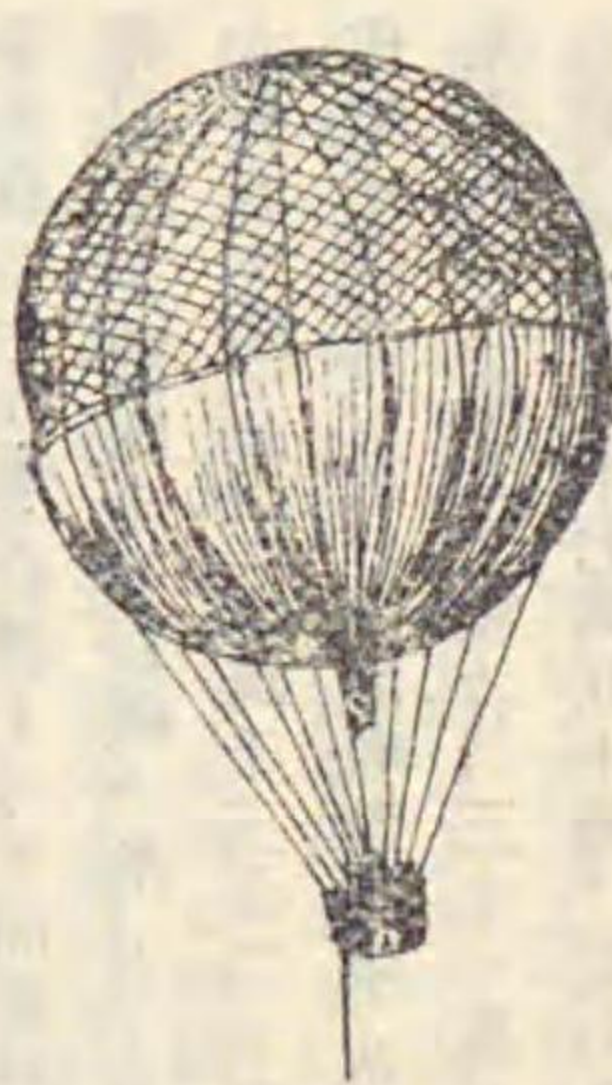
グンマケン(群馬縣) 【地】本州關東地方の一縣。上野全部の地で、關東地方北東の内外に位し、栃木・埼玉・長野・新潟・福島五縣の間に介在する。面積四百九方里四五九。人口百〇五萬二千五百九十四。方里人口二、五六八行政上前橋・高崎・桐生の三市及び勢多・群馬・多野・北甘樂・碓氷・吾妻・利根・山田・新田・邑樂・佐波の十一郡となし、前橋市に縣廳を置いてこれを管轄する。地勢は胴體と肢體となし、胴體の南半及び南東の肢體部は稍々平衍で關東平野の一部に屬すれど以外の地は山嶽重疊し、纔に溪流の流過を許すに過ぎない。即ち南西の肢體部は秩父山嶽の一部及び荒船・妙義の火山地方これを占め、北西は澗・間・白根・吾妻等並立し北東の肢體

クンミークンヨ

部は越後山脈及び白根・袈裟・丸山等これを圍繞してゐる、河流は城内利根川の上流地にあたるを以て利根本流のほかこれに流入する支流少なくない。湖沼は榛名山の上に榛名湖、赤城山上に大沼がある。いづれも風景の絶佳なるを以て有名である。礦泉に伊香保・草津・四萬温泉等がある。産業は佐波・新田二郡に於て米・麥等の農産物に富んでゐるがこの他の地は適してゐない。牧畜は所々の火山裾野に行はれ、赤城牧牛場・吾妻牧馬場がある。林産は新炭材を主とし山田郡より最も多く産する。養蠶業は平野と山間とに論なく到る處大に發達して繭の産額關東の首位を占めてゐる。又製絲業・製織業も盛んで絹織物を最も多く産出す。鐵道の延長六二哩、又利根川の本支流及び渡良瀬川を航行する船舶總數は一千餘隻に達してゐる。

クンミンドウチユク(君民同治國) 【法】君主と人民とが、主權を共有する國體。例へば英國の如きは、即ちこれである。

グンヨウケイキユウ(軍用輕氣球) 【軍】軍用に供せらるる、氣球。三種ある。一、緊留氣球。これは一個所に緊留



の發見、遠來の敵の偵知、包圍裡の脱出、爆發物の投下等にも用ひらる。探測氣球。主として夜間偵察に用ひられる。氣球は羽二重その他に「ゴム」を塗りたるものにて中に水素瓦斯を包みしめ緊留索によりて地上に繋がるものである。

グンヨウレツシヤ(軍用列車) 【鐵】軍隊軍需品輸送の爲め特に運轉する列車。

グンリツ(軍律) 【軍】敵國に進入したる軍隊が安全を謀る爲めに行ふ峻嚴なる刑律。軍法は戰時に於ける内國臣民の犯罪を罰する規定で敵國住民に對しては軍律を以て處罰する。軍中反逆及び電信鐵道の破壊・軍狀を敵に傳ふる事。敵に道路を敷く事等をいひ、軍中謀叛とて直接

クンシ

吾軍に敵對するをいふ。軍律に於ける刑罰は死刑又は罰金であるが元來の目的恐怖心を起さしめ敵對行爲を防止するのにあるから、表面上嚴峻に止つて時に執行を保留することあるのは勿論である。

クンレイ(訓令) 【法】又指揮命令ともいふ。上級官廳が下級官廳に對し、法令の解釋をあたへ、又は行政の方針を示すもので、直接に臣民を拘束することがない。

グンレイ(軍令) 【軍】君主が統帥權を以て陸海軍に向つて發する命令。吾國法にては國務大臣の副署を要しない。従つてこれに對し責任を取るものはないが法律豫算に關係あるものは大臣がその責任を負ふことになつてゐる。この種類の軍令に限り閣議に附せず陸海軍大臣のみの責任を以て執行し、後に首相に報告する事としてゐる。

グイレイ(郡令) 【法】郡長の下す命令で、その行はれる範圍は郡内に限られる。

クンレン(訓練) 【教】教訓ともいふ。訓育の一方、直接に感情を練り意志を陶冶し道德的品性を確立しやうとするものである。

ケ

ケ【國】五十音圖中、加行第四の音。文字の平假名は「計」の草體、片假名は「介」の變體である。

ケ【毛・毛髮】 【生】てのひら・足のうら爪等を除いた全身に生ずる角管總狀の保護機關。硬毛と軟毛又は毳毛との三種ある。その組織は上皮・皮質・髓質の三層より成り、毛根・毛幹・毛囊の三部に區別されて居る。

ケ【卦】 【易】三爻を組合した形象。天地間あらゆる事物の變化を顯したるもの。爻とは一を畫して陽とし、二を畫して陰とし、天地陰陽の象とする。これその象を組合せて成つた卦は天地事物の變化を顯したるものとしてある。八卦とは乾・兌・離・震・巽・坎・艮・坤をいひ、更に上下交互に錯綜して六十四卦とし、支那古代よりあつた。その卦を布くには筮を數へその奇・偶によりて三變して爻を成し、十八變して卦を成すものである。

ケ【筒】物を容れ收むる器具の通稱。形ちはその内に容るる品物によつて

造らるる、ゆる一定しない。筒に入るものを筒筒といふが如きである。

ケ【解】 【國】大寶律令制によると下官が相通信するを移といひ、内外主典以上の諸司に上申するのを縁といひ、内外雜任以下から諸司に上申するを辭といふのである。現に諸官衙等での通信を移牒といつて居る。

ケ【傳】 【佛】梵語。頌と譯する。法理を述ぶ。四種ある。阿耨多羅三藐三菩提を以て一段とし、佛陀は散文を附せずして、直に詩句を以て説き、祇夜は前に散文あるに應じて頌し、編歌南は少言に多義を含め、人に誦習受持せしめたのである。

ケ【京】 【地】東海道大津驛より京に入る間の立場。今京都府に屬する。西の坂の上を日の岡といふ時がある。元和頃の戰場であつた。今京都疏水として有名である。

ケ【系】 【數】或定理の眞であるが知られた上は、亦容易にその眞であることとを推定することの出来る他の定理のこと。

ケ【刑】 【法】刑罰の名稱。これに

主刑【附加刑の別がある。前者は死刑・懲役・禁錮・罰金・拘留及び科料で後者は公權の剝奪又は停止・罰金及び沒收とする。

ケ【佛】 【佛】佛前禮盤の右側の架に掛けて、本尊及び諸天部を警覺せんため、導師これを鳴すもので佛敎儀式用の樂器。もとは一種の硬い石で造つたものだが今は青銅製が多い。昔支那の古樂に用ひられた。

ケ【皇】 【歷】明太祖の孫。懿文太子標高の子、明の第二世。即位一年で叔父燕王棣反し建文四年京師陥り逃れて正統五年即位四年で崩じた。

ケ【野】 【印】活字と共に組合せる與輪製の野線。高さは活字と均しく厚さは活字の格に合せ、種々の厚さに作る。

ケ【徑】 【數】平面圖形の兩端がその圖形に終つてゐるすべての平行直線を二等分する直線をいふ。平行四邊形では、その對角線の交點を通過する直線である。

ケ【京】 【數】數の名。一億の一億倍、兆の一萬倍である。

ケ【能】 【才】能の義で字典には「なは才の如し」とある。普通藝といへば、藝能一般のことをいふ。遊藝とか文藝とか技藝とか演藝とかのやうなものである。

ケ【室】 【藝】室町時代の畫家。中尾氏、名は眞藝、能阿彌の事である。足利義政に仕へ最もよく北畫の骨法を傳へた。

ケ【慶】 【慶】慶應義塾。慶安二年六月武藏國に起れる大地震。死者の數數百に上り、江戸城二の丸石垣塙を破損し、東叡山大佛の頭を落しした。

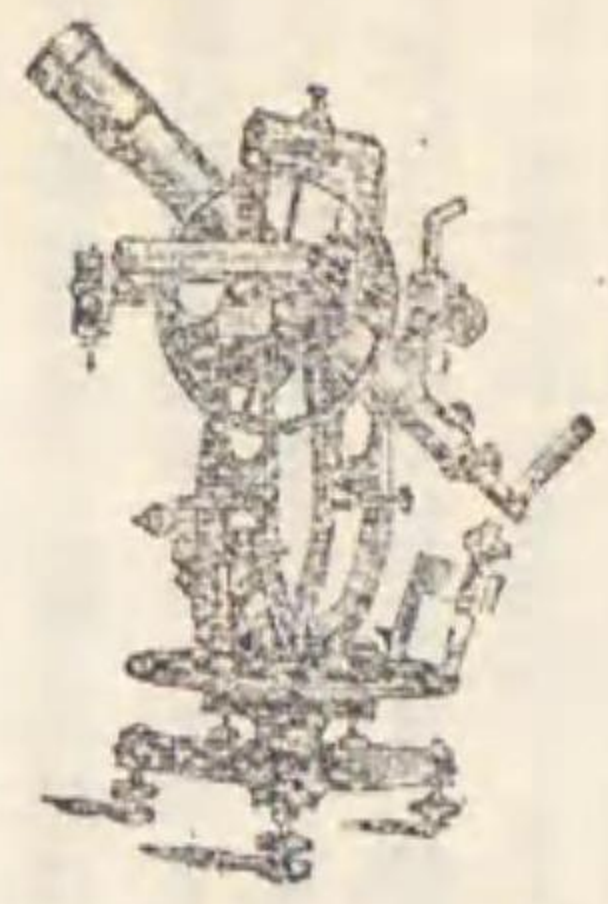
ケ【安】 【慶】慶安の變。【應】由井正雪の亂。初め正雪江戸の私塾で多くの子弟に兵學を教へて私に異國を抱いた。時に九條忠彌自ら長曾我部元親の子孫と稱して共に事を起さんことを謀り、慶安四年正雪駿府に赴いたが會々事露はれ忠彌は幕府に捕はれたが、正雪は事の成らざるを知つて遂に自殺した。

ケ【七五五】



ケイイケイウ

ケイイキ(経緯儀) [Theodolite] 【測】地上にある二直線の水平面上に於ける射影の爲す角を測り、又は總ての直線がその水平面上の射影と爲す角



〔儀 緯 經〕

(勾配或は高度)を測る器械。度量した二間がある。一は方位の圓といつて水平にある。一つは高度の圓といつて垂直に立ち、その兩圓の中心を通る様に望遠鏡を装置する。この器械は先づ三つ足の上に装置し、その中心線を測角の頂點上に在るやうにし、水準器に依つて、その方位圓を水平にさせて後使用する。

ケイオン(契印) 【法】二個以上の紙面を契合する爲めに押す印章。兩面の連結を證するものである。

ケイウガン(研雲器) [Grinder] 【礦】錫を産出する嶺山等に屢々現はれたる花崗岩の變種。石英と淡色の雲母とが主なる成分である。

ケイカクケイオン(柱角海綿) 【動】海綿動物の一種。その體中に珪石質の針骨と角質の纖維とを有するもの。

ケイガケイ(傾臥莖) 【植】地上に平臥し、先端ばかり扛起した莖をいふ。

ケイカホウ(経過法) 【法】法令の改正に際しその新舊二法の關係を明らかにする爲め、法令の施行規則・細則の名を附し發布せられ、又新法令附則中に於て規定する法律。便宜上法學者は経過法といふ。

ケイカボク(珪化木) 【植】木材中に非晶質の珪酸が浸み込みその本質と入り代つた者で種々の色がある。俗に木の化石といふが必ずしも化石に限らない。

ケイカン(繁聲) [Bo] 【鐵材】を以て作つた圓棒で一端に桿頭を作り他端に螺旋を切り「ナット」を捻ぢ込むべく構造したもの。繁釘ともいふ。二箇以上上の物體を結合させる時使用することを主眼とする。

ケイカ

ケイエーケイオ

ケイエイツウ(輕營會) 【軍】エイソウの條を見よ。

ケイエンオウシ(桂園一枝) 【歌】三巻香川景樹の詠歌を四季・戀・雜等の諸部に分つて集輯したもの。

ケイエンフ(慶遠府) 【地】支那廣西省柳州府の西。この地は苗族多く山間に棲み民心一般に殺伐であるが今は自治制が布かれてある。

ケイオウキジク(慶應義塾) 【教】福澤諭吉の創立した私立學校。安政五年江戸鐵砲洲の奥平邸に私塾を開き蘭學を教授したが、後専ら英學を教へ慶應四年芝新錢座に校舎を新築し、年號を取つて慶應義塾と名づけた。

維新の戦亂に際し、生徒僅かに十八名になつたこともあるが、一日も學を廢さなかつた。天下靜平に歸してから、學生の入学頗る多く、校舎狹隘を告ぐるに至つたので、明治四年三田二丁目に移轉した。二十三年大學部を置き、文科、法律、理科の三科に分ち、三十年更に政治科を設け、大正六年醫科をも新設し、九年大學令により、政治學、法學、文學、經濟學、醫學の各部に分つた。大學部の外に普通部及び幼稚舎がある。尚ほ醫學部附屬の病院は同市品川町にある。

ケイカン(鷄筵) オカマの條を見よ。

ケイガン(鷄眼) 【醫】ウオノメの條を見よ。

ケイガン(砒岩) [Quartzite] 【礦】石英粒より成り、その粒細かく肉眼で見分け難い。質も亦甚だ堅い。試金石はこの一種である。

ケイカン(覽寬) 【學】前漢の學者。千乘の人で尙書を治めた。初め家頗る貧なれば賃作にも常に經書を携へて耕したといふ。後武帝の御史大夫となり曆を改めた。太初三年卒。

ケイカンシジン(桂冠詩人) 【文】英國皇帝が詩人に授ける榮號に欽定詩宗なる稱號があるがこの意味と同じ様に詩に卓絶せる詩人を稱する榮號である。

ケイカンセキ(鷄冠石) [Red soil] 【礦】砒素と硫黄との化合物。濃橙黄色の塊で、その質脆く長く空氣中に曝

ケイカ

ケイカ

ケイカ(砒華) 【礦】温度高き噴泉から沈澱する砒素なる蛋白石又は他の砒酸類。もと箱根の火山から出たものを蛇骨といひ、植物の葉の形ちなどが現はれてゐる。

ケイガ(荆軻) 【歴】支那戰國時代の勇士。衛の人。燕太子丹の客となり、荆卿といつた。燕の爲めに刺客となつて秦に赴き始皇を殺さんとしたが果せず反つて殺された。

ケイカイキンム(警戒勤務) 【軍】敵の近傍にある軍隊又は艦隊が敵の奇襲を豫防するための勤務。陸軍では前衛・側衛・後衛を置き駐止の時は歩哨を配置する。警戒の爲め諸所に立つ歩哨の線又は警戒艦艇配備の線を警戒線といふのである。

ケイカインシヨク(警戒色) 【動】保護色に反し、特に鮮明を有する動物がある。その形も小く毒又は刺を持つてゐるか、或は極めて惡い味、又は臭氣がある。これ他の鳥獸に誤食されないので豫防するのである。

ケイカイセイ(警戒性) 【人相】性相學に於ける心性機關の一。その位置は後頭部にあつて、その外面は頭頂結節に當る。その機能は危險を察知し、その心性力を奮起せしめることである。

ケイキ(刑罰) 【法】刑の執行を受ける期間。裁判の確定によつて刑の執行を受けてから執行の満了するまでの期間。新刑法では無期と有期とに分つ。期間の計算は裁判確定の日から起算し、刑期終了の翌日放免を行ふのである。

ケイキ(警校) ゲイシヤに同じ、その條を見よ。

ケイキキユウ(輕氣球) [Balloon] 【物】「ニス」引の絹で造つた大囊に、水素瓦斯のやうな空氣より輕い瓦斯を充たし網で蔽ひ下方に籃を釣りこれに乗つて空中に上昇することの出来る装置である。その上昇には、空氣の浮力に基き球内の瓦斯、人體並に附屬品の質量が、同體積の空氣より小さいことが必要である。

ケイキテツドウ(京義鐵道) 【鐵】朝鮮京城南大門から平壤を経て、新義州に至る鐵道線。延長三二三哩。他に黃州驛から策三浦に至る支線八哩ある。

ケイキドウ(京畿道) 【地】朝鮮中央部の一區劃。北は黃海道・南は忠清道・東は江原道・北は黃海道に接し、西方の一面、京畿灣に瀕してゐる。東西二

ケイキ

ケイカ

ケイカ(砒華) 【礦】温度高き噴泉から沈澱する砒素なる蛋白石又は他の砒酸類。もと箱根の火山から出たものを蛇骨といひ、植物の葉の形ちなどが現はれてゐる。

ケイカイセキ(砒灰石) 【礦】白色、灰色・帶赤・帶黄色の石灰岩と火成岩との接觸礦物として出る輝石類に屬する礦物。主に「カルシウム」の砒酸鹽類で、結晶は通常板狀・短柱狀であるが又放射狀に排列せる纖維狀の疑集せることもある。硬度は四・五乃至五。實用上有用礦物でない。

ケイカイセン(警戒線) 【軍】ケイカイキンムの條を見よ。

ケイカク(傾角) 【物】基準とする平面或は直線に對して他の平面或は直線のなす角である。

ケイガク(經學) 【教】儒教の經典即ち六經・四書を研究し、或ひはこれを實際政治上および修身に應用し或は文章・字句を説明し、新古眞實を考證する學。我國の經學は王朝時代には專に漢唐の古註を用ひ、後醍醐天皇の頃宋學始めて來り、徳川氏に到り林維山・藤原惺窩等これを鼓吹して官學となつた。元祿より伊藤仁齋・中江藤樹・物祖休の徒各書を發し宋學に抗衡した。その後太田鳴鶴・片

十五年前に約四十哩、面積約七九七方里。人口約百八十八萬人。朝鮮全道中人口稠密なる處である。漢城・仁川の二府及び三十七郡に行政上區分さる。道内丘陵起伏し大平原はないが、低阜なる地方比較的多い。東境は山多し、北境・南境とは各一條の山脈あつて東北より西南に走る、又國望峰・龍門山は本道中最高峰である。河は漢江を最大とし、南・北漢江の二流が京城の東七里にて合流し、京城の南を繞つて、臨津江を合せて海に入る。京城以下は吃水六尺以下の舟を通すべきも只潮流急で航路安全でない。廣徳江これに次ぎその河口良灣をなす。農産物は米・麥・大豆・粟・玉蜀黍・煙草・綿及び開城府の入參。水産は鱈・鱒・鯛等で牡蠣その他貝類の養殖も行はれる。河岸は水利甚だ良く、水田數約二十萬町歩。畑十八萬餘町歩ある。交通は全國の首腦地にあたる。故最もよく發達し、京仁線・京城線・京義線鐵道等が通じてゐる。水運は仁川・馬山浦・龍山・島巒・揚花津などがある。都邑は京城・開城・仁川・龍山・水原・安城。永登浦を主なるものとす。

ケイキヨウ(景教) 【歴】西紀四三〇年

ケイキ



ケイキ

頃、東「ローマ」の法子「ネストリク」が創立した基督教の一派である。ケイキヨウ(圭形)【数】三斜形の二斜相等しいもの。二等邊三角形のこと。主に和算にて用ふる語。

ケイキヨクシユウ(環玉集)【歌】下巻鎌倉將軍宗尊親王の歌集。

ケイキワン(京畿灣)【地】朝鮮中部の西岸にある灣。黃海道と忠清南道の間に灣入する支灣。島嶼の主なるものは、北岸に海州灣ありて、海州灣の口にある。東は漢口、臨津江、禮成江の相合して海に注ぐ所で、江華、喬桐等の島が散在してゐる。江華島東側は鹽河の流路でその注ぐ仁川灣には仁川半島、永島、信島、長者島等諸島及び南陽半島等に抱かれる。仁川入港の大船の錨地に適するは唯々鹽河の末流一海里の水路である。南陽半島の南は南陽灣をなし、廣徳江流入し灣の中央に深水路を爲してゐる。はその北側に南陽河口及び馬山浦の良錨地がある。その他いづれの島嶼も風潮を待つに便なれど、潮汐の進退急で港は唯々鹽河の如き一深の水路を有するに過ぎぬ。

ケイキヤクセキ(柱孔雀石)【礦】銅鑛に沿ふ鑛脈から出る玻璃光澤を有する緑、青緑、天青色等の潜晶質の鑛物。鑛業上有用でない。主に含水硫酸銅で硬度は二乃至四である。

ケイキツツ(經穴) 人體に灸を點し又は鍼を刺すべき箇所の名。灸にては灸穴といひ、鍼にては鍼穴といふ。經はスヂの義で、人體を十二經に別ち、その病症によりて鍼灸の穴を定むるのである。

ケイキツツ(契月) 【畫】畫家。姓は菊池長野縣に生れ、菊池芳文に師事して四條派を修め殊に花鳥人物を能くし現に京都美術協會の會員であつて又帝國美術院の審査員である。

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケイケイ

深在頭筋(内列・外列の二種に分つ)との二層より成る。

ケイケイ(警句) 科學上・哲學上の真理を含めた短句。例へば「習慣は第二の天性」といふが如きである。古來警句によりて著述をしたものが少なくない。「ペーコン」「ニーチェ」「エマソン」等の著作は豊富な警句を以て有名である。

ケイケイヤクセキ(柱孔雀石)【礦】銅鑛に沿ふ鑛脈から出る玻璃光澤を有する緑、青緑、天青色等の潜晶質の鑛物。鑛業上有用でない。主に含水硫酸銅で硬度は二乃至四である。

ケイケイツツ(經穴) 人體に灸を點し又は鍼を刺すべき箇所の名。灸にては灸穴といひ、鍼にては鍼穴といふ。經はスヂの義で、人體を十二經に別ち、その病症によりて鍼灸の穴を定むるのである。

ケイケイツツ(契月) 【畫】畫家。姓は菊池長野縣に生れ、菊池芳文に師事して四條派を修め殊に花鳥人物を能くし現に京都美術協會の會員であつて又帝國美術院の審査員である。

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケイケイ

し、對岸支那領で渾春市街を距る僅に三里餘。古へ蘇多考といつたが李朝の始祖が居所であつたので慶源と改めた。現に陸境國境貿易地點である。

ケイケンテキシニリガク(經驗的心理學) 【心理學的】心理學に對して、精神現象及びその理法等を研究する學。汎論(心的現象)各論(智・情・意)に分述するを適當の組織とする。

ケイケンハ(敬虔派) 【宗】信念を以て宗教の神髓となし理論に奔り又は教儀、形式等に因はるゝを排斥する一派。十七世紀の後半期に「ドイツ」の新教が當初の精神を失ひ、個人信仰を束縛するに至つた反動として起つたもので、「スベーンネル」「アントン」「フランク」等の唱へた一派である。

ケイケンロン(經驗論) 唯理論に對して、經驗は知識唯一の根源なりとの説。「ペーコン」の創唱で英國の哲學は概ね經驗的である。

ケイコ(稽古) 【藝】藝を練習すること。劇場で興行前にする稽古は最初は「讀台」といつて白を言合ひ次が「立稽古」次に「附立」次に「稽古」をして興行の前日に終るものである。

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイケン(慶源) 【地】朝鮮咸鏡北道の東北境慶源府に在る郡邑。慶源の西北八里豆満江の右岸浦基江河口に位

ケイコ

ケイコウ(稽康) 竹林七賢人の一。祖は上虞の人、前姓奚、字は叔夜。老莊の學を好み養生爲を著した。後魏に及び景耀五年魏の文帝に斬られたが死に臨んで琴を彈じたといふ。

ケイコウ(惠公) 【歴】周代晉の王。名は夷吾、獻公の子。獻公が少子奚齊を立てんとして太子申生を殺した時、公子重耳と共に難を逃れ、後秦の穆公の助を得て、晉王となつた。前七世紀の八。

ケイコウ(螢光) 【Fluorescence】 【物】石油を日光に曝せば青色に光り、これを去ればその働き止む。斯の如き現象を螢光作用といひ、紫光線又は紫外線を受け、これより波長大なる赤、青等の光を放つのを常とする。螢石、「ウラニウム」硝子・硫酸「キニート」溶液等は皆この性がある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウシヨウセツ(傾向小説) 作者自身の思想を伴中の人物の上に現はして、自身自身の意見を發表する體裁の一種である。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコ

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。

ケイコウ(慶興) 【地】朝鮮咸鏡北道東北端にある郡邑。豆満江の右岸河口より八海里の土流にて、對岸は蘆嶺沿海州である。孔城・匡城・慶城の別名がある。現今は陸境國境貿易地點の一で輸出入行はれつゝある。



ケイサ

ケイザイトウケイ(経済統計) 統計學の一分科。社會の經濟的組織の狀態及びその作用並に結果を統計の方法によつて數量の上から研究する學問。各國を通じて比較的發達せるは交通統計・貿易統計等である。

ケイザイリン(經濟林) 【林】普通林業の性質を有するもので、即ち森林を伐採して家屋橋梁その他の器具を造り、又は薪炭・製紙の用に供する等直接に木材を使用する森林をいふ。

ケイザイロク(經濟録) 書名。十卷。太宰純(春臺)の著。一般經濟に關することを記したもので、支那歴代の事蹟を引證した所が多い。

ケイサツ(警察) 【法】社會の安寧秩序を害し、或は各人、公共の幸福に對し危害を除く爲め直接に一個人の自由を制限し又は必要なる場合にはこれを強制する行爲。職務の便宜上保安行政・司法の三部に分ち、その事務を取扱ふ官署を警察署といふのである。(ケイサツシヨ参照)

ケイサツイ(警察醫) 衛生警察・衛生事務に關する醫師。警視廳及び各府縣に置かれてある。

ケイサンソウダ(硫酸曹達) 【化】硫酸鹽の一。水硝子ともいふ。燈石を粉にし苛性ソーダと共に溶解して熱湯と共に蒸溜するか、又は炭酸ソーダと砂とに少量の木炭粉を混して焙かし、炭酸瓦斯の發散した後熱湯と共に蒸溜して製する。無色半透明である。この溶液は「アルミニウム」鐵及び「クロム」等の固着劑とし「リンネル」木綿・羊毛等の洗濯に用ふる。

ケイシ(警視) 警察官吏の名。奏任高等官にして警視廳にては官房主事・第一部長・第二部長及びこれに屬するもの。警察署長にて北海道及び各府縣にては第四部又は警察部に屬し、又は警察署長にて皆上官の指揮を承

ケイシ(警視) 警察官吏の名。奏任高等官にして警視廳にては官房主事・第一部長・第二部長及びこれに屬するもの。警察署長にて北海道及び各府縣にては第四部又は警察部に屬し、又は警察署長にて皆上官の指揮を承

ケイサ

部・警部補・巡查をいふ。猶統監府に警務總長・臺灣總督府・關東都府に警視總長がある。臺灣には別に巡查補がある。

ケイサツケン(警察權) 【法】警察の目的のために臣民の自由を制限する國家の權力、警察の目的は公共の秩序に對する障害を防止するので、その手段として臣民の自由を制限するものが警察權の作用である。その作用は種々の形式で現はるれど大別して警察法規。法律又は命令の形式で行はる。【警察處分の形式】(一)警察上の作爲令及び不作爲令。(二)警察許可。(ハ)警察罰。警察義務の違反に對して科するもの。(ニ)警察強制。警察目的の爲めに強力を以て特定の状態を發せしむる手段である。

ケイサツシヨ(警察署) 一定區域内に於ける警察事務を處理する官署。警視廳・北海道廳及び各府縣にこれを置く。猶必要に應じ分署を置く北海道及び府縣には各郡・區・市に及び必要に應じてその他にも設置する。署長は警視又は警部にして上官の指揮を受け、その署主警士を掌理し、部下の官吏の指揮監督をする。

ケイシ(柱枝) ニッケイの條を見よ。

ケイシ(啓示) 【宗】神が人の心を啓いてこれにその眞理を示したまふ事。

ケイシ(輿事) 神前に參拜の時又は神事を行ふ前に、息を清め、淨衣或は袴肩衣等を着し、祓串を取つて身を祓ふこと。

ケイシ(刑事) 刑罰法の適用に關する事件。民事に對する語。國家は公安を害し福利の増進を阻止する者には相當制裁を加へ公安秩序の安寧を計る必要あるゆる刑罰法規を定め、且その實行を期する手續法規を設けたのであつて、國家がこの刑罰法規違反者の所罰の爲め行動を開始したるときはその事件を指して刑事又は刑事事件といふのである。

ケイシ(揭示) 或事項を關係者又は一般公衆に知らせるため官公署で設けた場所に書類を貼附すること。

ケイシカガク(形而下學) 天文・地文・動物・植物・礦物等自然の現象を研究する學問現象即ち形あるものの學問といふ意味である。

ケイシキ(惠士奇) 【歴】清朝の學者。江蘇吳縣の人。博く六藝に通じ、凡そ

ケイサ

【法】行政警察の目的を達するため犯罪と刑罰とを規定せる命令の名稱。その名の示す如く所謂警察犯を規定したるもので、内地及び關東州に同一名稱を以て行はる。内地に行はるものは舊刑法の違警罪に關する規定に代つたもので違反者は三十日未満拘留又は二十日未満の科料に處せらる。猶原則として教唆者及び幫助者をも同一の刑を課す事となつてゐる。關東州に行はるものは略内地のものに等しく共に明治四十一年十月一日より施行せられた。

ケイサツバツ(警察罰) 【法】警察法規の違反に對して科する制裁。普通の刑罰は法の保護する利益を侵害し又は危険を及ぼす犯罪に對して課するものであるが、警察罰は利益侵害の如何を問はず單に警察法規違反の事實あれば犯罪者の故意を必要としなない。その他普通刑罰と異なる種々の特色がある。警察罰中にはこれを課する權限裁判所に屬せないで行政官廳に屬し行政處分を以てこれを科するものがある。

ケイサン(硫酸) [Sulfuric Acid H<sub>2</sub>SO<sub>4</sub>] 【化】硫酸鹽に強酸を加へて生ずる白。九折の純度。國語に「硫酸」等語能く開説したといふ。易説に「禮説」春秋説の著書がある。乾隆六年歿。

ケイシキテキ(形式的) 形ばかり整へる態度。

ケイジサイバン(刑事裁判) 【法】刑事事件に關する裁判。或る犯罪に對し適法の刑罰を科するがため司法裁判所に於て行ふ裁判。檢事が國家を代表し原告となり、公訴を提起し犯罪者は被告となり刑事訴訟法及び裁判所構成法の手續により裁判官はその犯罪を證明し判決を言渡すのである。但し軍人軍屬の犯罪に關しては陸海軍治罪法の規定により特別機關に於て裁判するのである。

ケイジジュンサ(刑事巡查) 犯罪の探偵及び犯人の逮捕等に任ずる巡查の俗稱。單に刑事とも稱する。通常半服にてその職務に従ふ。

ケイジヨウガク(形而上學) 現象以上の存在。即ち宇宙の本體、實在等に關する研究をいふ。普通に哲學と同義に解してゐるが天文学・心理學の如きを自然哲學ともいふので、形而上學としての哲學は別に純正哲學と呼んでゐる。

ケイシ 七六一

ケイサ

の弱い化合物と見られる。この物は(H<sub>2</sub>SiO<sub>3</sub>)である組成を有してゐるけれども、暫くにして(H<sub>2</sub>SiO<sub>4</sub>)となり、乾燥等の如何によつて、結晶水の割合一定ではない、甚だ弱い酸である。又硫酸といふ語は無水硫酸の略稱であることもある。

ケイサンエン(硫酸鹽) [Silicate] 【化】無水硫酸と金屬酸化物との結合物と見られるもの。總稱。地殻を構成する岩石の大部分を占めてゐる。けれどもその組成は複雑で、分子式の如きは多くは未知である。

ケイサンキ(計算器) 【機】銀行又は計算を要する諸會社で用ひる加減乗除法を容易にし得られる器械。我國の珠算よりたやすしいもので幾種類もある。加算器ともいふ。ミリオネア・計算器・ジエム・加算器・エンサイン・計算器、等他に數が多い。

ケイサンコウブツ(硫酸鹽物) 【鑛】硫酸化鹽物の總稱。種類甚だ多く、成分も複雑で、金屬光澤のものも殆どなく岩石の成分となれるものも多く、礦物學上興味ある性質に富むものである。例へば長石・雲母・輝石等の如き

ケイソウシヨウ(刑事訴訟) 【法】犯罪の審理・判決をなす訴訟。四箇の大原則を基礎とす、即ち次の如し。【不告不理】檢事の公訴提起あらざれば判事は豫審又は公判に着手し得ない。【眞實發見】裁判は既に存在したる事實の眞相を發見するを本旨とするの謂である。故に手續を以て事實の斷定を強制せしむることを避けたため一切の證據力は判事の自由なる心證を以て判斷することとする。【直接審理】裁判の資料たるべき事實は判事自ら調査し、且檢事・被告その他の訴訟關係人一堂に會して訴訟を審理する。【法廷公開】公衆をして訴訟傍聴するを許すのである。

ケイソウシヨウホウ(刑事訴訟法) 【法】通常裁判所に屬する刑事訴訟の手續を規定したる法律。裁判所に關する事項より犯罪捜査・起訴・豫審・公判・上訴・再審及び裁判の執行手續迄詳細に規定してある。(明治二十三年十月六日公布法律第九十六號)

ケイシ 七六一



ケイシ

の事務を取扱ふ官場。(ケイシツツカ  
ンの條参照)

ケイシチヨウレイ(監視廳令) 【法】警  
視總監の下す命令。

ケイシチン(鏡子枕) 【人相】枕骨の形  
ちに就きてい

ふ名。圓の如  
き形もて、性  
魚烈、多く白  
ら是とするの相。



〔枕子〕

ケイシツ(硯質) 【硯】硯を多く含む  
性質にいふ。

ケイシツワン(迎日灣) 【地】朝鮮慶尙  
北道の東海岸で日本海に面する灣。

灣口東北に向ひて開き、水深七尋乃  
至十二尋北及び北東風を除くの外は  
船舶の風濤を避くるに適す。近海は  
魚族に富む。

ケイシハン(刑事犯) 【法】重大なる  
法益を侵害し又は侵害せんとしたる  
により刑罰を課せらるゝ行爲。警察  
犯に對する語で實質上より罪を觀察  
してなしたる區別の一種。【罪】罪を構  
成する行爲。民事犯に對する語で罪  
又は犯罪といふに同じである。

ケイシヤ(傾斜) 【地】地層の傾斜とは  
傾斜せる地層と假想水平面との間の  
夾角と、その地層の傾斜したる方向とを  
指す。

ケイシ

向に直角なる方向)とを包括した稱  
である。

ケイシヤ(鶏舎) 【養】鶏を飼養する小  
舎。東南に面し西北は閉ちた温暖な  
る位置を擇み、其土地は乾燥して空  
氣の流通を宜しきやう小舎を建て床  
は平面から一二尺高くする。廣さは  
十羽一坪の割合で充分である。室内  
は尤も清潔にし鶏舎に沿ふて運動場  
を設く。その廣さは少くも二坪乃至  
五坪とし、下に礫を置きその上に砂  
を敷き、努めて乾燥するやうにしな  
ければならぬ。

ケイシヤ(藝者) 【古】は役者の稱。【  
杯盤の間を斡旋し絃歌舞踊をして酒  
興を助くるを業とする女。ゲイギ・ゲ  
イコ等といひ、小妓を半玉・オシヤク  
又マイコ等といふ。

ケイシヤシケン(傾斜試験) 【船】船の  
重心點の龍骨上面からの高さを知る  
ため、船を静水に浮べ、甲板に乗せ  
た重量を一方の舷に偏らしめ船を横  
に傾けてその角度を測り、これより  
重心點の高さを算出するために用い  
る試験である。

ケイシユ(駱駝) 【動物】ラクダの條を  
見よ。

ケイシユウ(廣州) 【地】朝鮮慶尙南道  
の南端に在る。

ケイシヤウ(慶尙道) 【地】朝鮮東  
南部の一區劃。所謂三南の一。日本  
海及び對馬海峡に面し、東西約三十  
五里、南北約六十里。北は江原道、西  
北は忠清北道、西は全羅道に接して  
ゐる。面積一、九四四方里、人口二百  
二十五萬餘。全道中慶尙道最も多し。地勢  
東岸は海岸線彎曲で迎日灣と蔚山灣  
あるのみだが、南岸は頗る屈曲に富  
み、鎭海、晉州の二大灣、釜山、馬山、  
統營等の良港がある。山脈は東部を  
南北に走る太白山脈、東北から西南  
に斜走する小白山脈、南海岸に沿ひ  
て東部を走る嶺山脈と三つより成  
り、小白山脈中の知異山(六、四〇八  
尺)がその最高峯である。河流は全部  
洛東江の水系に屬し、他は僅かに蟾  
津江、東岸に細流あるに過ぎない。農  
産では米を第一とし、麥・大豆・粟・稗  
大麻・煙草等を出し、又養蠶・牧羊行  
はれてゐる。森林は島嶼より他に見  
るべきものもなく、鑛産は金・石炭等

ケイシ

東南部の都邑。大邱の東十六里。米・  
大豆の集散市場で迎日灣を一方の門  
戸とす。古代新羅九百年の舊都。東京  
金鷲・蛟川の別名がある。鑛・水晶・瑪  
瑙・石材等を産出する。

ケイシユウフ(惠州府) 【地】支那廣東  
省にある市街。廣州府の東南、象頭山  
の附近にある。この地男子は坐食し  
女子却つて働く風ありといふ。山麓  
に湧出する温泉には古蘇東坡が浴し  
たと謂はれて居る。

ケイシユウフ(荆州府) 【地】支那湖北  
省にあつて武昌・宜昌二府の中間に  
在る。揚子江の北岸に位してゐる。人  
口約十萬。商業は小規模で沙市に及  
ばない。古の鄧・春秋の楚都)及び江  
陵の地であつた。

ケイシユウフ(瓊州府) 【地】支那廣東  
省の海南島(瓊州島)全部を領してゐ  
る。府は島の北岸の海口港附近にあ  
る。廣東を距る二八五海里。一八二一  
年汕頭と共に開港場となつた。風波  
荒く水淺き故良港でない。良材・礦物  
甘蔗・煙草等を産する。島の西南岸に  
榆林港、東南岸に凌水港があつて、兩  
港共に良港である。

ケイシユウ(藝術) 【文】美術・繪畫・  
彫刻・舞臺等々を指す。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(形象文字) 【文字】文字創  
作の時、物體の形に象つた文字をい  
ふ。(シヨウケイモンジと同じ。同條  
を見よ)。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシ

直覺によつて現實の包蔵しつゝ、ある  
眞意義を看破し色彩・音律・言語等を  
通じてこれを表示するものをいふ。

ケイシユウ(藝術) 【文】美術・繪畫・  
彫刻・舞臺等々を指す。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシユウ(頭部) 【生】頭部  
を走る體腔。内外前後の四頭靜脈と  
各箇の合一して造れる總頭靜脈と  
ある。

ケイシユウ(經濟) 【經】臨時費に對す  
る語。この經費は毎年繰返され永續  
的に支出せらるゝ性質の經費で、會  
計年度毎に急激なる増減を生ずるこ  
となきゆる、豫めその金額を見積る  
を得るものである。例へば皇室費・  
俸給費・公債の利子の如きものであ  
る。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。

ケイシ

ケイシヨウ(頸狀) 【礦】熔岩が岩石中  
に存する裂隙を通じて噴出し、圓錐  
形或は扁圓形に固まつたもの。

ケイシヨウイン(桂昌院) 【歴】徳川綱  
吉の生母。名は宗子。阿玉の方といつ  
た。京都の人。實父は明かでない。本  
莊宗利の養女。徳川家光の妾水好姫  
(阿滿の方)の江戸に赴くに從ひ、幕  
府の大奥に入り、春日の局を便り、家  
光の寵を受け綱吉を生んだ。元祿十  
五年従一位に進み、寶永二年薨す。年  
八十二。



ケイスイーケイセ

字ある時は、通常これを最も先に置く。この数字を残りの因数、即ち文字を掛け合せるもの、係数といふ。

ケイスウ(形数) 【林】林業上の語。同一の底面積と高とを有する樹幹と圓柱との容積の比をその樹幹の形数といふ。立木の底面積は通例胸の高さの直径で算出する。この時の形数を胸高形数といふ。形数は樹の種類又生長の状況によつて異つてゐる。

ケイスウキ(計数器) 【數】幼稚の子供に數の基本概念を與へる目的で製出した器具。實物に似た形に作つたものと、全く實物と離れて球、立方形等にて作つたものとの二種ある。

ケイスウボウ(形数法) 【林】林業上立木の幹材積測定に用ひる算法の一。樹幹の胸高断面積と全樹高との相乗積に形数を乗するのである。

ケイセイアワノナルト(傾城阿波鳴門) 【演】浄瑠璃の曲名。近松半二外四人の作。十段十一齣から成る。現今劇に演じ又浄瑠璃に語つて有名なのは第八段目で、阿波の十郎兵衛の内へ娘おつが、順禮衣となつて來り母親お月に會ふ場である。

ケイソクシ(鷓足寺) 【地】栃木縣(下野)足利郡小俣村にある真言宗の寺。佛手山と號し天慶年間の開基であるが、建保三年に慈猛上人これを中興したと云ふ。

ケイソクシ(鷓足寺) 【醫】義齒の一法。殘存せる天然齒根を基礎として、これに人工齒冠を着けて齒牙の働きを完全にするのである。

ケイソクセンユウ(鷓足占有) 【法】前後兩時の間占有成立の要素。物の所持と自己の爲にする意思とが繼續して存在せるとききの占有をいふ。その期間内他人より占有を侵奪せられたる時は一年以内に占有回復の訴を提訴すべきを規定してある。(民法第二〇〇條第二一一條第二三條)

ケイソクケキケン(鷓足地役權) 【法】常に繼續して間斷なく行使せらるゝ地役權。地役權の行使に人の行爲を

ケイ

ケイセ

物莖の維管束の木質部と、韌皮部との中間に位する層である。これを形成する細胞は、分裂して新しい木質部及び韌皮部を成してゐる、故にこの名がある。

ケイセイソシキ(形成組織) 【植】植物學上の語。形成層と同じく絶えず分裂増殖して種々の部分を形成する組織のことである、例へば根の生長點一帶の組織の類である。

ケイセイタイ(型成體) 【化】石の形を天然又は人工で他の物質で造つたもの。

ケイセイハンゴンゴウ(傾城反魂香) 【淨瑠璃の曲名。近松門左衛門の作。全篇三段十五齣から成り、狩野元信・土佐光信・浮世又平等の畫工の事蹟を附會して作つたもの。

ケイセイビ(輕清眉) 【人相】眉の形を秀で鬚長くして尾の疎なるをいふ。兄弟の間睦まじく、友人にも親和するの相。

ケイセキ(砒石) 【礦】花崗岩の成分をなし、化學成分は硫酸で礦物學上石英といふ。陶磁器及び硝子の原料とする。砒石の粉末にしたものを陶磁器業者は俗に「ギヤマン」といひ釉藥及び素地に用ひ、硝子業者は「イシ

ケイソクヒ(鷓足費) 【豫算】中數年に互り支出すべき經費。豫算は原則として毎年これを更新すれど、工事その他の事業につきて數年繼續して經費を支出する必要がある場合には、繼續費として豫め年限を定めこれに要する費用の全額を議決する事がある。

ケイタイ(境内) さかひ、又はかこひの内。多く神社、佛寺の域内をいふ。

ケイタイガク(形態學) 【動・植】生物の形態・構造等を論ずる學科。單に形態のみでなく、その形の起因をも研究する。なほ現世存在の動植物の成體を研究する外過去の生物を化石に徴して研究する。分て解剖學・發生學の二とする。

ケイタイテンノウ(鷓足天皇) 【歴】第

ケイソクケイタ

ケイセ

コいふ。著名な産地は美濃・三河等である。

ケイセキ(礬石) 【礦】黒色堅硬で撃てば鐵々の音を發するから又鳴石とも云つて居る、精巧な建築用又は器物の裝飾又聲と云ふ樂器の製造等に用ひられて居る。

ケイセツノコウ(螢雪の功) 【漢】支那車胤及び孫康の螢と雪とを以て、勉學した故事によつて、辛苦して學をなすことを云ふ。

ケイセン(經線) 【Meridian】 【地】地球の極より極に緯線を直角に切つて劃する線をいふ。英國「グリニッチ」を萬國共通の本初子午線とする。子午線は經線の別名である。(ケイアの條参照)

ケイセン(景川) 【僧】臨濟宗の僧。妙心寺の第十世名は宗隆、伊勢の人。同國の圓明寺にて得度し、文明七年大徳寺の第四十六世となり、尋で妙心寺に入り、明應九年三月入寂す。

ケイセン(頸腺) 【生】頸部淋淋腺部をいふ。部位によりて淺頸淋淋腺・上深頸淋淋腺・下深頸淋淋腺の三種に區別する。

ケイセンガン(緊船岸) 【航】岸壁ともいふ。船隻を停泊せしめて、船客貨物の

ケイセイゴウケンケン(鷓足金銀) 【貨】慶長六年以後凡そ九十四年徳川幕府の發行した貨幣。その種類は小判金・一分判金・大判金・丁銀で兩後の貨幣の悪劣なものに比して遙かに優秀であるので珍重されてゐる。

ケイチヨウザン(鷓足山) 【地】栃木縣(下野)鹽谷郡の中央の高原連山の主峯で高五九一六尺ある、又別に高原山とも云ふ。

ケイチヨウジン(鷓足長地震) 【慶長年間】の二回の大地震。山城・攝津・和泉の諸國に渡つた大震動で、伏見城天主閣の崩壊で有名である、京都大佛殿・方廣寺崩壊し十六丈の盧舎那佛像が國家安泰の爲め立てられたにもかゝらず破砕して自ら倒れたといふので豊臣秀吉が怒て矢で射たといはれてゐる。

ケイチヨウバン(鷓足長版) 【印】慶長中家康の命によつて版行した印刷本。木版・活字版・銅版ある。又駿河本とも云ふ。

ケイツイ(頸椎) 【生】背椎骨は部位に従つて種々の名が附けてある、その最上にある七個は即ち頸椎である。

ケイツイシンケイ(頸椎神經) 【生】頸椎の各側から發して居る八對の脊髓

ケイターケイチ

ケイセイケイソ 七六四

上げ下しを便利にする直立壁装置である。岸頭には船舶の緊留・荷役等の諸設備がしてある。

ケイセンサ(傾船差) 【船】船體傾斜のため羅針に生ずる目差のこと。船が傾斜して羅針に及ぼす水平軟鐵及び垂直軟鐵の感受する磁氣力の變化又は船體磁氣の羅針に及ぼす力の變化によつて起るものである。

ケイセンチュウ(緊船柱) 【船】船舶を緊留するため、岸壁・船渠・周壁・埠頭棧橋に施設する鐵柱・石柱のこと。

ケイツ(珪素) 【Silicon Si=82】 【化】酸素及び他の元素と化合して、廣く土石の主成分をなし、酸素に惡いて最多量に存してゐるけれども、單體として産することがない。單體を得るには弗化珪素を「ナトリウム」と共に熱する。斯くて得た珪素は褐色の粉末で、空气中で熱すると、無水珪酸となる。

ケイツウ(敬相) 【文】文典上の用語。尊敬を表はす語。即ち「行幸あらせらるる」太刀を佩かしめ給ふの「せらるる」しめは、この助動詞である。

ケイツウ(珪藻) 【植】簡單微小な植物で、その形似箱の殻である。淡水・海水共にこれを産する。

ケイターケイソ 七六五